種別	番号	図面名称	縮尺	
			A1	A3
庁舎工事				
SA	－ 000	各棟共通　図面リスト	－	－
SA	－ 001	各棟共通　構造特記仕様書(1)	－	－
SA	－ 002	各棟共通　構造特記仕様書(2)	－	－
SA	－ 003	各棟共通　構造関係共通事項(1)(配筋標準図)	－	－
SA	－ 004	各棟共通　構造関係共通事項(2)(配筋標準図)	－	－
SA	－ 005	各棟共通　構造関係共通事項(3)(配筋標準図)	－	－
SA	－ 006	各棟共通　構造関係共通事項(4)	－	－
SA	－ 007	各棟共通　構造関係共通事項(5)	－	－
SA	－ 008	各棟共通　構造関係共通事項(6)	－	－
SA	－ 009	各棟共通　構造関係共通事項(7)	－	－
SA	－ 010	各棟共通　深層混合処理地業特記仕様書	－	－
SA	－ 011	各棟共通　MAXリンブレンK型　設計・施工標準仕様書(1)	－	－
SA	－ 012	各棟共通　MAXリンブレンK型　設計・施工標準仕様書(2)	－	－
SA	－ 012A	各棟共通　鉄骨ばり貫通孔補強　ハイリングⅢ工法設計施工標準図	－	－
SA	－ 013	各棟共通　ハイベースNEO工法設計施工標準	－	－
SA	－ 014	各棟共通　ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例(1)	－	－
SA	－ 015	各棟共通　ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例(2)	－	－
SA	－ 016	各棟共通　ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例(3)	－	－
SA	－ 017	各棟共通　ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例(4)	－	－
SA	－ 018	各棟共通　ニューフェローデッキ設計標準仕様書	－	－
SA	－ 019	庁舎棟　ボーリング柱状図(1)	－	－
SA	－ 020	庁舎棟　ボーリング柱状図(2)	－	－
SA	－ 021	庁舎棟　ボーリング柱状図(3)	－	－
SA	－ 022	博物館別館　ボーリング柱状図(4)	－	－
SA	－ 023	博物館別館　ボーリング柱状図(5)	－	－
SA	－ 024	車庫棟　ボーリング柱状図(6)	－	－
SA	－ 025	庁舎棟　コラム・ピット・基礎伏図	1/200	1/400
SA	－ 026	庁舎棟　1階・2階伏図	1/200	1/400
SA	－ 027	庁舎棟　3階・R階伏図	1/200	1/400
SA	－ 028	庁舎棟　軸組図(1)	1/200	1/400
SA	－ 029	庁舎棟　軸組図(2)	1/200	1/400
SA	－ 030	庁舎棟　軸組図(3)	1/200	1/400
SA	－ 031	庁舎棟　基礎リスト	1/50	1/100
SA	－ 032	庁舎棟　基礎梁リスト	1/50	1/100
SA	－ 033	庁舎棟　基礎小梁・小梁リスト	1/50	1/100
SA	－ 034	庁舎棟　鉄骨柱リスト	1/30	1/60
SA	－ 035	庁舎棟　鉄骨大梁リスト・大梁継手表	1/30	1/60
SA	－ 036	庁舎棟　座屈拘束ブレースリスト	－	－
SA	－ 037	庁舎棟　鉄骨部材リスト	1/20,30	1/40,60
SA	－ 038	庁舎棟　F通り鉄骨架構詳細図	1/50	1/100
SA	－ 039	庁舎棟　4通り鉄骨架構詳細図	1/50	1/100
SA	－ 040	庁舎棟　トラス架構詳細図	1/30	1/60
SA	－ 041	庁舎棟　鉄骨階段詳細図	1/30,100	1/60,200
SA	－ 042	庁舎棟　雑配筋図(1)	1/30	1/60
SA	－ 043	庁舎棟　雑配筋図(2)	1/30	1/60
SA	－ 044	庁舎棟　設備架台詳細図	1/20,200	1/40,400
SA	－ 045	庁舎棟　外壁受け伏図(1)	1/200	1/400
SA	－ 046	庁舎棟　外壁受け伏図(2)	1/200	1/400
SA	－ 047	庁舎棟　外壁受け伏図(3)	1/200	1/400
SA	－ 048	庁舎棟　外壁受け軸組図	1/200	1/400
SA	－ 049	庁舎棟　外壁受け軸組図(2)	1/200	1/400
SA	－ 050	庁舎棟　外壁受け取合い要領図	1/20	1/40
SA	－ 051	庁舎棟　C1O仕口詳細図	1/20	1/40
SA	－ 052	庁舎棟　C11仕口詳細図	1/15	1/30
SA	－ 053	庁舎棟　A通り・F通り仕口詳細図(1)	1/30	1/60
SA	－ 054	庁舎棟　A通り・F通り仕口詳細図(2)	1/15	1/30
SA	－ 101	庁舎棟　擁壁詳細図	1/50,100	1/100,200
SA	－ 102	庁舎棟　オイルタンク配筋図	1/30	1/60
SA	－ 201	庁舎棟　スリーブ図(1)	1/200	1/400
SA	－ 202	庁舎棟　スリーブ図(2)	1/200	1/400

種別	番号	図面名称	縮尺	
			A1	A3
博物館別館				
SB	001	博物館別館　地盤改良・1階伏図	1/100	1/200
SB	－ 002	博物館別館　2階・すのこ・R階伏図	1/100	1/200
SB	－ 003	博物館別館　軸組図	1/100	1/200
SB	－ 004	博物館別館　基礎・基礎梁リスト	1/50	1/100
SB	－ 005	博物館別館　鉄骨部材リスト	1/30	1/60
SB	－ 006	博物館別館　1通り鉄骨架構詳細図	1/30	1/60
SB	－ 007	博物館別館　目隠し壁詳細図	1/50	1/100
SB	－ 008	博物館別館　既存RC壁改修図	1/30,200	1/60,400
車庫棟				
SC	001	車庫棟　伏図	1/100	1/200
SC	－ 002	車庫棟　軸組図	1/100	1/200
SC	－ 003	車庫棟　基礎・基礎梁リスト	1/50	1/100
SC	－ 004	車庫棟　鉄骨部材リスト	1/30	1/60
SC	－ 005	車庫棟　4通り鉄骨架構詳細図	1/30	1/60
SC	－ 006	車庫棟　鉄骨階段詳細図	1/30	1/60

種別	番号	図面名称	縮尺	
			A1	A3

株式会社 佐藤総合計画

一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号
建設コンサルタント　登録番号　建01第843号
総括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹
担当

法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した
構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司

法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した
設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅

工事名称　鞍手町新庁舎等建設工事
図面名　図面リスト
設計番号　04453-010
作成日　2022.3
縮尺　A1:1/ A3:1/

種別　SA
通し番号　000

特記仕様書(構造関係)

Ⅰ 建物構造概要等

1. 建物概要

工事名称		鞍手町庁舎等建設工事				
工事場所		地名地番　福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2				
主要用途		庁舎		延べ面積		意匠図による
階数	庁舎棟	地上　3　階　地下　-　階　塔屋　-　階				
	博物館別館	地上　2　階　地下　-　階　塔屋　-　階				
	車庫棟	地上　2　階　地下　-　階　塔屋　-　階				
建物高さ		意匠図による		軒高		意匠図による
工事種別		⊙ 新築　・ 増築　・ 改築　・ 移転				
増築計画		・ 有り　⊙ 無し				
庁舎棟	構造種別		S造			
	架構形式	X方向	ブレース付きラーメン構造			
		Y方向	ブレース付きラーメン構造			
	耐震構造方式		⊙ 耐震構造　・ 免震構造　・ 制振構造			
	耐震安全性の分類		⊙ Ⅰ類（I=1.50）　・ Ⅱ類（I=1.25）　・ Ⅲ類（I=1.00）			
博物館別館	構造種別		S造			
	架構形式	X方向	純ラーメン構造			
		Y方向	純ラーメン構造			
	耐震構造方式		⊙ 耐震構造　・ 免震構造　・ 制振構造			
	耐震安全性の分類		・ Ⅰ類（I=1.50）　⊙ Ⅱ類（I=1.25）　・ Ⅲ類（I=1.00）			
車庫棟	構造種別		S造			
	架構形式	X方向	純ラーメン構造			
		Y方向	純ラーメン構造			
	耐震構造方式		⊙ 耐震構造　・ 免震構造　・ 制振構造			
	耐震安全性の分類		⊙ Ⅰ類（I=1.50）　・ Ⅱ類（I=1.25）　・ Ⅲ類（I=1.00）			

2. 構造計算条件

a 耐震設計条件

			庁舎棟	博物館別館	車庫棟
地震荷重	建物一次固有周期		(0.42)秒	(0.19)秒	(0.19)秒
	地盤種別		第(2)種地盤	第(2)種地盤	第(2)種地盤
	地域係数		Z= 1.0	Z= 1.0	Z= 1.0
計算ルート	X方向		・ルート3	・ルート2	・ルート3
	Y方向		・ルート3	・ルート2	・ルート3
設計層間変形角	X方向	一次設計	1/ 200	1/ 200	1/ 200
		二次設計	1/ 100	1/ -	1/ 100
	Y方向	一次設計	1/ 200	1/ 200	1/ 200
		二次設計	1/ 100	1/ -	1/ 100
重要度係数			1.5	1.25	1.50

b 耐風設計条件

基準風速　(V_0)	（ 34 ）m/秒
地表面粗度区分	・ Ⅰ　・ Ⅱ　⊙ Ⅲ　・ Ⅳ

c 耐積雪設計条件

建設地の標高	（庁舎棟　TP+8.4 ）m　（博物館別館　TP+11.95 ）m　（車庫棟　TP+7.9 ）m
多雪区域の指定	・ 有り　⊙ 無し
設計垂直積雪量	（ 25 ）cm　積雪後の降雨による割増考慮

（1）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成 31 年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。

（2）本特記仕様書の表記

1）項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。

2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。

⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

⊙ 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。

3）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

4）Ⓖ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成28年2月2日閣議決定）」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

適用範囲

特記仕様(構造関係)の適用範囲は下記の工事種目とする。

・建築工事特記仕様書の第4章～第7章までの工事科目

4 地業工事

① 支持力又は支持地盤の確認

支持地盤の位置及び種類　(4.3.4)(4.3.5)(4.5.4)

・杭基礎（基礎ぐいの先端の位置含む）

・図示　・

⊙直接基礎(基礎底部の位置含む)

⊙ 図示　・

長期設計支持力度

⊙ 500kN/㎡（庁舎棟岩着部）　⊙ 200kN/㎡（庁舎棟地盤改良部、博物館別館、車庫棟）

試験

試験掘り　(4.2.1)(4.2.3)(4.2.5)

・ 行わない

※ 行う

⊙ 図示　・

地盤の載荷試験(平板載荷試験)　(4.2.4)(4.2.5)

・ 行わない

⊙ 行う

試験位置及び載荷荷重

⊙図示　・

2 液状化対策

・ 行う　(工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等は図示による。)

・ 行わない

3 既製コンクリート杭地業

種類等　(4.3.2)

・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)

・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)

SC杭の鋼管材料

・SKK400　・SKK490　・

・

材料

寸法、継手、性能等　(4.3.2)

	杭径	杭長(m)及び種類等			セット数	コンクリート強度(N/㎟)	長期設計支持力(kN/本)	備考
	(mm)	種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)				
試験杭		上杭 中杭 下杭						
本杭		上杭 中杭 下杭						

試験杭　(4.2.2)(4.3.3～4.3.5)

杭の位置、本数及び寸法

・図示　・

杭先端部形状　(4.3.2)

・開放形　・半開放形　・閉そく形　・

施工方法　(4.3.3～4.3.5)

・セメントミルク工法　(4.3.4)

アースオーガーの支持地盤への掘削深さ

・1.5m程度　・

杭の支持地盤への根入れ深さ

・1.0m以上　・

杭の精度

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100㎜以下　・

・杭の傾斜

・1/100以内　・

・特定埋込杭工法　(4.3.5)

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内

α、β、γが下記の値を採用できる工法

α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)

工法

・プレボーリング拡大根固め工法

・中堀り拡大根固め工法

杭周固定液

・使用する　・使用しない

スラリー比重の確認　※行う　・行わない

杭の精度　(4.3.5)

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100㎜以下　・

・杭の傾斜

・1/100以内　※評定条件又は認定条件による　・

・

杭継手工法　(4.3.6)

・アーク溶接継手

・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法

※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法　・

検査

※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目　・

施工

※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による　・

・

杭頭の処理(切断方法)　(4.3.7)

※処理しない

・処理する

切断方法

・図示　・

杭頭の中詰め材料

※基礎のコンクリートと同調合のもの　・

4 鋼杭地業

材料

寸法、継手、性能等　(4.4.2)(表4.4.1)

	杭径	杭長(m)及び種類等			セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
	(mm)	種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)			
試験杭		上杭 中杭 下杭					
本杭		上杭 中杭 下杭					

試験杭　(4.2.2)(4.4.3)(4.4.4)

試験杭の位置、本数及び寸法

・図示　・

杭先端部形状　(4.4.2)

・開放形　・

施工方法

・特定埋込杭工法　(4.4.4)

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内

α、β、γが下記の値を採用できる工法

α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)

工法

・中堀り拡大根固め工法

スラリー比重の確認　※行う　・行わない

5 場所打ち コンクリート杭地業

杭の精度　(4.3.5)

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100㎜以下　・

・杭の傾斜

・1/100以内　・評定条件又は認定条件による　・

・

杭の現場継手　(4.4.5)

・アーク溶接継手

・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法

※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法　・

検査

※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目　・

施工

※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による　・

・

杭頭の処理(切断方法)　(4.4.6)

※切断しない

・切断する

切断方法

・図示　・

杭頭の中詰め材料

※基礎のコンクリートと同調合のもの　・

セメントの種類　(4.5.3)

※高炉セメントB種 Ⓖ　・

コンクリートの種別　(4.5.3)(表4.5.1)

・A種　・B種

コンクリートの設計基準強度　(　　)N/㎟　(4.5.3)

構造体強度補正　(4.5.3)

・3N/㎟　・

・評定条件又は認定条件による

杭断面・長期許容支持力等

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭　(4.2.2)(4.5.4)(4.5.5)

試験杭の位置、本数及び寸法

・図示　・

掘削工法　(4.5.1)(4.5.4)(4.5.5)

・アースドリル工法（安定液　・使用する　・使用しない）

・リバース工法

・オールケーシング工法(・揺動式　・全周回転式)（孔内の水張り　・行う　・行わない）

併用する工法　(4.5.1)(4.5.5)

・場所打ち鋼管コンクリート杭工法

鋼管巻き材料

・SKK400　・SKK490　・

鋼管径、板厚、長さ等

・図示　・

・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）

・

帯筋　(4.5.3)

・構造関係共通図(配筋標準図)6.2帯筋(a)④丸形(ロ)による

・図示　・

鉄筋かごの補強　(4.5.3)

・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(㎜)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(㎜)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと組立用の鉄筋との接触部を溶接する。

・

鉄筋の最小かぶり厚さ　(4.5.3)

・100㎜　・

鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ　(4.5.3)

・図示　・

孔壁測定　(4.5.4)(4.5.5)

・行わない

・行う

測定方法

・超音波測定器　・

測定箇所数及び測定位置

・試験杭(　　)箇所及び本杭(　　)箇所とし、位置は構造図(　　)による

・

杭の精度　(4.5.4)(4.5.5)

水平方向の位置ずれ

・100㎜以下　・

杭の傾斜

・1/100以内　・評定条件又は認定条件による　・

⑥ 直接基礎

⑦ 砂利地業

支持地盤　※構造図による

材料　(4.6.3)

※ 再生クラッシャラン Ⓖ　・ 切込み砂利及び切込み砕石

厚さ及び適用範囲

厚さ	適用箇所
⊙ 60	・基礎スラブ下　・基礎梁下　・土間コンクリート下　・土に接するスラブ下
⊙ 150	・庁舎棟岩着部

⑧ 捨コンクリート地業

厚さ及び適用範囲　(4.6.4)

厚さ	適用箇所
⊙ 50	・基礎スラブ下　・基礎梁下　・土に接するスラブ下　・基礎下
・	

⑨ 床下防湿層

施工範囲　(4.6.5)

⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)　・

防湿工法　(4.6.5)

⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15㎜以上　・

防湿層の位置　(4.6.5)

・図示　⊙建築図による

⑩ 地盤改良(セメント系固化材を用いた工法による改良)

工法

・浅層混合処理工法

改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は図示による。

⊙深層混合処理工法

改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は図示による。

⑪ 置換コンクリート地業(ラップルコンクリート地業)

形状等

⊙図示　・

支持地盤の長期設計支持力

⊙ 500kN/㎡

支持地盤

⊙図示　・

型枠使用の有無

⊙ 無し

・ 有り

型枠の使用箇所等は図示による

⑫ 建設発生土の処理

※構外指示の場所に処分　・構内指示の場所に敷均し

・構内指示の場所にたい積　・構外指示の場所にたい積

※建築工事特記仕様書(1)による

受入れ施設名

受入れ場所

土質試験　・ 有（仕様は図示）　・ 無

仮置場所

（注） 搬出調書等を提出する。

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類　(5.2.1)(表5.2.1)

規格の名称	種類の記号	呼び径(mm)	適用箇所
鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	⊙ SD295A	※ D16以下	図示
	⊙ SD345	※ D19以上	図示
	⊙ SD390	※ D29以上	図示
	・ SD490	※ D35以上	図示

② 溶接金網

形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	適用箇所
⊙ 溶接金網	WFP	3.2Φ－50x50	嵩上げコンクリート、鉄骨階段踏み面押えコンクリート
・ 鉄筋格子			

③ 圧接完了後の試験

外観試験　(5.4.9)

※行う(全数)

抜取試験　(5.4.9)

⊙超音波探傷試験

試験の箇所数等

試験の箇所数は、１ロットに対して３０箇所とする。

試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とし、無作為に抜き取る。

・引張試験

試験片の採取数は、１ロットに対して(※３本・５本)とする

試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとをとする

試験片を採取した箇所の処置：標準仕様書5.4.9による

④ 鉄筋の継手

継手方法　(5.3.4)(5.5.2)

適用箇所	継手方法と適用径の範囲
⊙ 柱主筋	⊙ ガス圧接継手(D19以上)　・ 溶接継手(D19以上)
⊙ 梁主筋	⊙ ガス圧接継手(D19以上)　・ 溶接継手(D19以上)
⊙ 耐力壁	⊙ 重ね継手　・
⊙ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ ガス圧接継手(　　)
	⊙ 重ね継手(　　)
・ 杭主筋	・ 重ね継手　・

⑤ 主筋の継手位置等

カットオフ鉄筋の長さ　(5.3.4)

⊙構造関係共通図(配筋基準図)2.1.2、2.3.1、2.3.3による(　・全て　⊙ 下記以外全て)

⊙上記以外の位置

⊙ 図示　・

基礎梁主筋の継手

・構造関係共通図(配筋基準図)図2.1.2（b）による(　・全て　・図示　・　　)

⊙構造関係共通図(配筋基準図)図2.1.2（c）による(⊙全て　・図示　・　　)

・図示

⑥ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)　(5.3.5)

⊙構造関係共通図(配筋基準図)表5.3.6による

・図示　・

・

柱及び梁の主筋に D29以上の使用の有無

・無し

⊙有り　適用箇所(　基礎梁　)

主筋のかぶり厚さ

・最小かぶり厚さ(　44　)㎜

・

特殊な要求性能におけるコンクリートの部分(耐久性上不利な部分)

⊙無し

・ 有り　適用箇所(　　)

・ 構造関係共通図(配筋基準図)表5.3.6に加える厚さ　(　　)㎜

・

7 機械式継手

適用箇所　(5.5.2)

・図示　・

性能(H12建告第1463号に適合するもの)　(5.5.2)

・A級　・

種類(　　)　(5.5.2)

カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ　(5.3.5)

・図示　・

品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　(5.5.2)

・図示　・

⑧ 各部配筋　⊙構造関係共通図(配筋基準図)による。　(5.3.7)

⑨ 帯筋

⊙図示　・

組立の形の種別

⊙構造関係共通図(配筋基準図)2.3.2(　H　形　)による

・図示　・

⑩ 壁開口部の補強

一般壁

・構造関係共通図（配筋基準図）2.4.3(　　形　)による

⊙図示　・

耐震壁

・図示　・

⑪ 梁貫通孔の補強

補強形式

・ 構造関係共通図(配筋基準図)2.7.2(　H形　)による

⊙図示　・

梁貫通孔径(部材記号含む)及び配筋種別リスト

⊙図示　・

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称	鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名	各棟共通　構造特記仕様書 (1)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 001
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類及び品質

※ 普通コンクリート (6.2.1〜4)

設計基準強度 Fc (N/mm²)	気乾単位容積質量(t/m³)	スランプ (cm)	適用箇所
※ 24	2.3程度	18	
⊙ 30	2.3程度	15	・基礎、基礎梁（各棟共通）
⊙ 24	2.3程度	15	・庁舎棟地上躯体
⊙ 18	2.3程度	15	・庁舎棟ラップルコンクリート
⊙ 21	2.3程度	18	・外構、土間コンクリート、設備基礎

② コンクリート

類別 (6.2.1)(表6.2.1)
※ Ⅰ類 ・ Ⅱ類

③ セメントの種類 (6.3.1)(表6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て
・ 高炉セメントB種 G	・
・ フライアッシュセメントB種 G	・

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7日	352J/g以下
	28日	402J/g以下

④ 骨材の種類

使用骨材のアルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※A
・B（コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m³以下）

⑤ 混和材料

⊙混和剤の種類（JIS A 6204によるＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。
また、防錆材を併用する場合はJIS A 6205による防錆材とする。） (6.3.1)
・混和材の種類（JIS A 6201によるフライアッシュのⅠ種、Ⅱ種若しくはⅣ種、JIS A 6206による高炉スラグ微粉末、
JIS A 6207によるシリカフューム又はJIS A 6202による膨張剤とする。）

⑥ 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート ・ (6.14.1)〜(6.14.3)

設計基準強度 Fc (N/mm²)	スランプ (cm)	セメントの種類	適用箇所
※18 ・	※15	⊙普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	・嵩上げｺﾝｸﾘｰﾄ,捨てｺﾝｸﾘｰﾄ ・保護ｺﾝｸﾘｰﾄ,押えｺﾝｸﾘｰﾄ
	・	・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種	

⑦ 打継ぎ目地の寸法、位置及び形状

目地寸法 (6.6.3)(6.8.2)(9.7.3)
⊙標準仕様書 9.7.3による
位置及び間隔 (6.8.2)
・図示 ⊙ 意匠図による
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側及び内側の打ち増し厚さ部で処理する

⑧ コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.6.6)(6.8.3)(表6.2.4)

種別	適用箇所
⊙ A種	意匠図による
⊙ B種	意匠図による
・ C種	

⑨ 打増し厚さ

打増し厚さ (6.8.2)
⊙打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
⊙20mm
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm ・20mm ・
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm ・
・床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・10mm ・20mm
打増し範囲
・図示
・

⑩ 型枠

せき板の材料 (6.8.3)
⊙合板
コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督職員と協議すること
⊙床型枠用鋼製デッキプレート
使用箇所等 ※図示 ・
・
スリーブの材種 (6.8.3)（表6.8.1）
⊙標準仕様書 6.8.3(ｉ)(2)及び標準仕様書 表6.8.1による

⑪ 型枠の存置期間及び取外し

標準仕様書6.8.5による。 (6.8.5)

⑫ コンクリートの養生方法

標準仕様書第6章第7節による。 (6.7.1〜3)
凍害対策、高強度コンクリートの養生方法について施工計画書に記載する。

⑬ 圧縮強度及び試験方法

標準仕様書6.5.5、6.9.2、6.9.3、6.9.4による。 (6.5.5)(6.9.2〜4)

⑭ 構造体コンクリートの仕上り及びかぶり厚さの確認

外観の確認は全数行う。寸法確認は抽出とし、監督員と協議を行う。 (6.9.6)

⑮ コンクリートの単位水量測定

・ 行わない
⊙ 行う
実施要領
(1)単位水量の測定は、150㎥ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(2)(ⅲⅰ) による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/㎥ の範囲にある場合はそのまま施工する。
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/㎥ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/㎥ 以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
3)設計値±20kg/㎥ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力 (7.1.3)
⊙建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構（旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(Ｍ)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する製作工場

② 施工管理技術者

※適用する (7.1.3) (7.1.4)(7.6.2)(7.12.2)
・適用しない

③ 製作精度

※(一社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」 付則6［鉄骨精度検査基準］による。 (7.3.3)
※通しダイアフラムの許容誤差
⊙全てのダイアフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること
・ダイアフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・

④ 建方精度

※(一社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」 付則6［鉄骨精度検査基準］ (7.10.2)
付表5 ［工事現場］ による。

⑤ 鋼材

鋼材の材質 (7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格等
構造図面による	構造図面による	※ JIS規格による

⑥ 高力ボルト

区分 (7.2.2)(7.3.2)
⊙トルシア形高力ボルト 2種(S10T)
・JIS形高力ボルト 2種(F10T)
高力ボルトの径
※図示 ・
すべり係数試験 (7.4.2)
※行わない ・ 行う

⑦ 縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 (7.2.2)(7.3.2)
※構造関係共通図(鉄骨標準図) 1 縁端距離及びボルト間隔による ・

⑧ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類 (7.2.2)
⊙1種(F8T相当) ・
摩擦面の処理 (7.12.4)
※ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
摩擦面の確認方法
・図示
⊙試験片によるすべり耐力試験

⑨ アンカーボルト

適用 (7.2.4)(表7.2.3)(7.10.3)
⊙構造用アンカーボルト
・JIS B 1220 又は JSS Ⅱ 13-2004 ABR400
・JIS B 1220 又は JSS Ⅱ 13-2004 ABR490
⊙図示
⊙建方用アンカーボルト
材質
⊙SS400 ・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度
・標準仕様書 表7.2.3による
・
保持及び埋込み工法 (7.10.3)(表7.10.1)
⊙構造用
※図示 ・
⊙建方用
・標準仕様書 表7.10.1 （ ・A種 ⊙B種 ・C種 ）による ・

⑩ 柱底均しモルタル

モルタルの種別 (7.2.9)
⊙無収縮モルタル ・
無収縮モルタルの材料及び調合
材料、調合等
⊙標準仕様書 7.2.9による ・
品質及び試験方法
⊙標準仕様書 表7.2.6による ・
工法の種別
⊙標準仕様書 表7.10.2
⊙A種［モルタル厚さ50］ ・B種［モルタル厚さ30］
・

⑪ ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル胴
⊙割枠式 ・
建築用ターンバックルボルト
⊙羽子板ボルト ・
ねじの呼び (7.2.6)
⊙図示 ・

⑫ デッキプレート

工法の種別 (7.2.7)(6.8.3)
・合成スラブ
⊙床型枠用
⊙鉄筋トラス付き捨て型枠
材質、形状及び寸法
⊙図示 ・
鉄骨部材への溶接方法
⊙図示 ・
耐火認定
⊙あり(CD管等打ち込み時の耐火被覆吹付 ※要 ・不要)
・なし

⑬ スタッドボルト (7.2.5)

径(呼び名)	長さ(呼び長さ) mm	適用箇所
16φ	⊙ 80 ⊙ 100 ・ 120	庁舎棟小梁、車庫棟柱脚
19φ	・ 80 ⊙ 100 ・ 130 ・ 150	庁舎棟大梁
22φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150	

⑭ 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
・図示 ・
⊙構造関係共通図(鉄骨標準図)(5(7)鋼材と溶接材料の組合わせと溶接条件)による
・
適用箇所
・図示 ・
⊙柱、梁のフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⑮ 溶接接合

スカラップの形状 (7.6.7)
⊙改良型 ・
エンドタブの切除
⊙行う
適用箇所
・全て ・図示 ⊙ 見え掛かり部分
・行わない

⑯ 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11)
・行わない
※行う
⊙工場溶接の場合
AOQL(%)
⊙4.0 ・2.5

節	⊙全て	・	・	・
検査水準	⊙第６水準	・	・	・

⊙工事現場溶接の場合
・AOQL(%)
・4.0 ・2.5
⊙全て
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
独立行政法人建築研究所監修
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・ 抜き取り検査①
※ 抜き取り検査②

⑰ 錆止め塗装

塗料の種別
鉄鋼面 (7.8.3)(18.3.2)

種別	適用箇所
⊙ 標準仕様書 表18.3.1 Ａ種	⊙ 屋外 (標準仕様書7.8.2の範囲以外) ・
⊙ 標準仕様書 表18.3.1 Ｂ種	⊙ 屋内 (標準仕様書7.8.2の範囲以外) ・
・	・

亜鉛めっき面

種 別	適用箇所
⊙ 標準仕様書 表18.3.2 Ａ種	⊙屋外，屋内 ・
・	・

鋼製スリーブの内側(鉄骨に溶接されたもの)

種 別	適用箇所
⊙ 標準仕様書 表18.3.1 Ｂ種	⊙ スリーブ全て
・	・

⑱ 耐火被覆

建築図仕様書による

⑲ 溶融亜鉛めっき

種別等 (7.12.3)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材 料	適用箇所
A種(HDZ55)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※図示 ・
B種(HDZ45)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	
C種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	

外観検査 ⊙行う ・行わない
めっき付着量の検査 ⊙行う ・行わない

⑳ 梁貫通孔の補強

補強方法
※図示
・
・
適用箇所
※図示

その他

① 軽微な変更の対応（あらかじめ検討）

施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめの検討を行っている部分
本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない。

・ 杭の芯ずれを考慮した検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示

・ 杭の長さの変更を見込んだ検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示

⊙ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示

・

② 構築された躯体の改変

既に構築されている躯体部分（RC・S・SRC）に、新たに埋設物・開口等を設ける場合には、それらの大小、設置位置等に拘わらず、すべて工事監理者との協議を行う。

③ 建築設備の構造耐力上の安全性の確認

今第129条の2の3の事項
（※ 設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。）

・ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

☑屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

☑風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

☑建築物の部分を貫通して配管する場合においては、

当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☑管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☑管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☑法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☑給湯設備は、支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 各棟共通 構造特記仕様書 (2)		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 002
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

配 筋 基 準 図

１．公共建築工事標準仕様書（建築工事編）５章鉄筋工事部分において特記することとしている各部配筋については、構造計算等に基づき適切に特記する必要がある。
　このため、設計の質の確保、能率の向上及び寸法の統一を図り、あわせて積算、施工における業務の簡素化を図ることから、各部配筋を図面特記する際に必要な事項を参考図としてこの基準を示すものである。
２．図面、特記仕様書及び配筋基準図に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（平成31 年度版）」による。
３．配筋基準図に記載の項目、表、図の表示番号は建築工事標準仕様書の当該項目、当該表又は当該図を示す。
　　建築工事標準仕様書：（ ）　建築工事監理指針：〔 〕
４．形状寸法の単位は特記なき限りミリメートルとする。

§ １　鉄 筋 工 事

１節　加 工 及 び 組 立

１．１．１　加工（５．３．２）

異形鉄筋の末端部には、下記によりフックをつける。
（１）　柱の四隅にある主筋（図１．１．１の●）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
（２）　梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の周端（図１．１．１の●）にある場合。
　ただし、基礎梁を除く。

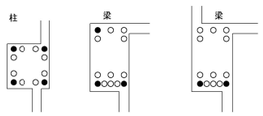


図１．１．１

（３）　煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
（４）　杭基礎のベース筋。
（５）　帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

１．１．２　継手及び定着（５．３．４）

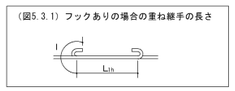
（ａ）重ね継手は下記による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（１）主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表5.3.2の重ね継手長さのうち大きい値とする。
（２）（１）以外の鉄筋の重ね継手の長さは表5.3.2による。

（表5.3.2）　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	L₁（フックなし）	L₁h（フックあり）
SD295A SD295B	18	４５ｄ	３５ｄ
	21	４０ｄ	３０ｄ
	24，27	３５ｄ	２５ｄ
	30,33,36	３５ｄ	２５ｄ
SD345	18	５０ｄ	３５ｄ
	21	４５ｄ	３０ｄ
	24，27	４０ｄ	３０ｄ
	30,33,36	３５ｄ	２５ｄ
SD390	21	５０ｄ	３５ｄ
	24，27	４５ｄ	３５ｄ
	30，33，36	４０ｄ	３０ｄ

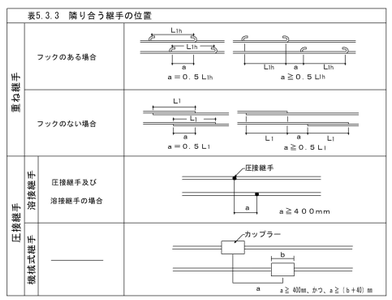
（注）１．　L₁，L₁h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手長さ
　２．フックありの場合のL₁hは、図5.3.1に示すようにフック部ｌを含まない。
　３．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする

（図5.3.1）フックありの場合の重ね継手の長さ



（３）隣り合う継手の位置は、表5.3.3による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。
　なお、先組み工法等で、柱・梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は図面図示による。

表5.3.3　隣り合う継手の位置



（ｂ）鉄筋の定着は下記による。
（１）柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、４０ｄ（軽量コンクリートの場合は５０ｄ）と表5.3.4の定着長さのうち大きい値とする。
（２）（１）以外の鉄筋の定着の長さは、表5.3.4による。

（表5.3.4）　鉄筋の定着長さ

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	フックなし L₁	フックなし L₂	フックなし L₃ 小梁	フックなし L₃ スラブ	フックあり L₁h	フックあり L₂h	フックあり L₃h 小梁	フックあり L₃h スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10dかつ150mm以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30,33,36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

（注）１．L₁，L₁h：２．以外の直線定着の長さ及びフックありの定着長さ
　２．L₂，L₂h：耐震破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
　３．L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。なお、片持小梁及び片持ちスラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
　４．L₃h：小梁の下端筋のフックあり定着長さ
　５．フックあり定着の場合は、図5.3.2に示すようにフック部分ｌを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
　６．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（３）定着の方法は図5.3.2による。
　なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さしが、表5.3.4のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を表5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上）を飲み込ませる。

（図5.3.2）　定着の方法

（イ）直線定着	（ロ）折曲げ定着
フックなし	梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
フックあり	小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

（表5.3.5）　投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	Lₐ	Lb
SD295A SD295B	18	２０ｄ	１５ｄ
	21	１５ｄ	１５ｄ
	24，27	１５ｄ	１５ｄ
	30,33,36	１５ｄ	１５ｄ
SD345	18	２０ｄ	２０ｄ
	21	２０ｄ	２０ｄ
	24,27	２０ｄ	１５ｄ
	30,33,36	１５ｄ	１５ｄ
SD390	21	２０ｄ	２０ｄ
	24,27	２０ｄ	２０ｄ
	30，33，36	２０ｄ	１５ｄ

１．Lₐ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
　（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
２．Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
　（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
３．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（ｃ）　溶接金網の継手及び定着は、図5.3.3による。
　なお、L₁は表5.3.2に、L₂及びL₃は表5.3.4による。

（図5.3.3）　溶接金網の継手及び定着

重ね継手	定着（スラブの場合）	定着（壁の場合）
１節半以上、かつ、１５０ｍｍ以上	１節半以上、かつ、１５０ｍｍ以上	

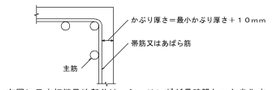
１．１．３　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

（ａ）　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは表5.3.6による。ただし、柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。
（ｂ）　柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに１０ｍｍを加えた数値を標準とする。

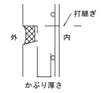
表5.3.6　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱 梁 耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			＊40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			＊60
煙突など高熱を受ける部分				60

（注）１．　＊印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は図面図示による。
　２．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
　３．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
　４．杭基礎の場合かぶり厚さは、杭天端からとする。
　５．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、図面図示による。
　６．柱、梁筋のかぶりは、下図のように主筋の外回りを包んでいる帯筋、あばら筋の一番外側から測定する。

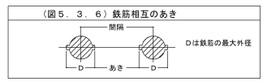


７．　右図に示す打継目地部分は、シーリングが長時間たつと劣化することやこの部分には温度変化や乾燥収縮が起こりやすいことから仕上げなしとみなして、目地底よりかぶりを確保する。



（ｃ）　鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（ｄ）　鉄筋相互のあきは図5.3.6により、次の値のうち最大のもの以上とする。
　ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、図面図示による。
　（１）　粗骨材の最大寸法の１．２５倍
　（２）　２５ｍｍ
　（３）　隣り合う鉄筋の平均径（5.3.1(a)によるｄ）の１．５倍

（図５．３．６）鉄筋相互のあき



（ｅ）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と並行する鉄骨とのあきは（ｄ）による。
（ｆ）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは（ｃ）による。
（ｇ）　スペーサーの個数は、下表を標準とする。また、スラブ下端筋の梁際はかぶり厚さが足りなくなることが多いので注意する。

（表５．３．４）　スペーサーの個数の標準

部位	スラブ	壁	はり	柱
個数	上端：１．２個/㎡程度 下端：１．２個/㎡程度	通常の階高では高さ方向２段、横１．５ｍ以内ごと	側面、底面とも２ｍに１箇所	通常の階高では高さ方向２段、１辺あたり２箇所

（ｈ）　スラブのスペーサーは原則として鋼製とする。
（ｉ）　鉄筋継手部分及び交差部の要所を0.8mm以上の鉄線で結束する。交差する鉄筋相互の結束は帯筋、あばら筋では四隅の交点で全数、その他の交点で半数以上、スラブ、壁では交点の半数以上を標準とする。
　半数とする箇所で、鉄筋の間隔が狭い場合には400mmを超えない範囲で結束すればよい。
（ｊ）　鉄筋径別、継手、定着長さは下表による。

定着長さ早見表

径	5d	15d	25d	30d	35d	40d	45d
D10	50	150	250	300	350	400	450
D13	65	195	325	390	455	520	585
D16	80	240	400	480	560	640	720
D19	95	285	475	570	665	760	855
D22	110	330	550	660	770	880	990
D25	125	375	625	750	875	1,000	1,125
D29	145	435	725	870	1,015	1,160	1,305
D32	160	480	800	960	1,120	1,280	1,440

§ ２各 部 配 筋

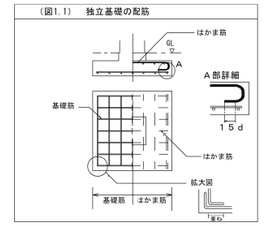
１節　基礎及び基礎梁の配筋

【 直接基礎の配筋　・ 下記による ⊙別途図示 】

２．１．１　杭基礎（１．１）

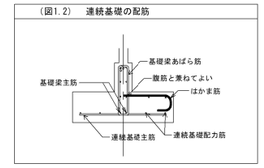
（ａ）独立基礎

（図1.1）　独立基礎の配筋



（ｂ）連続基礎

（図1.2）　連続基礎の配筋

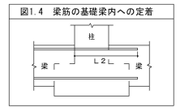


２．１．２　基礎梁

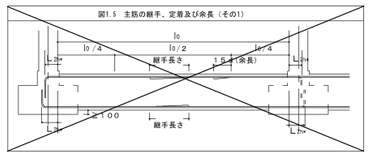
（ａ）　一般事項

（１）　梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図１．４による。
（２）　梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a)(2)による。

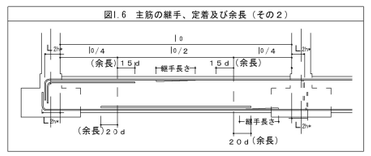
図1.4　梁筋の基礎梁内への定着



（ｂ）　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



（ｃ）　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継ぎ手、定着及び余長
（ただし、耐圧スラブが付く場合は、標仕図1.7(ｄ)による。）



１．図示のない事項は3.1による。
２．═══　印は、継手及び余長を示す。
３．破線は柱内定着を示す。
※L ≫を確保できない場合は、全長を表5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上）をのみ込ませる。

株式会社 佐藤総合計画

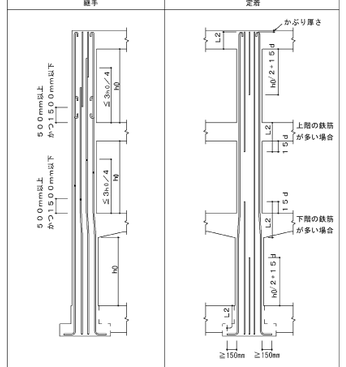
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名	各棟共通　構造関係共通事項 (1) (配筋標準図)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典		番号 003
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

2節　柱の配筋

2．2．1　柱

【　柱主筋の継手、定着及び余長 ⊙ 下記による　・　図示　】

（図2.1）　柱主筋の継手、定着及び余長

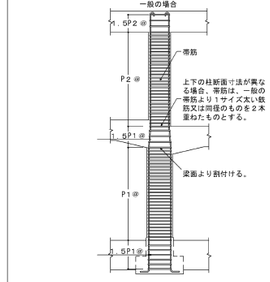


1．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックをつける。
2．隣り合う継手の位置は、（表5.3.3）による。

2．2．2　帯筋

【帯筋の割付け ⊙ 下記による　・　図示　】

図2.3　帯筋の割付



柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を１．５P1＠又は１．５P2＠とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1＠、P2＠は、特記された帯筋の間隔を示す。

3節　梁の配筋

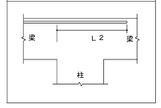
2．3．1　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

【大梁主筋の継手、定着及び余長 ⊙ 各部配筋参考図3.1による　・　図示　】

(a)大梁主筋の継手及び定着の一般事項

（１）梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、（２）により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、（図3.1）による。

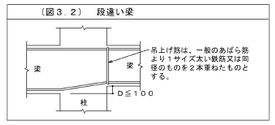
（図3.1）梁主筋の梁内定着



（２）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、標仕（5.3.4(e)(3)）による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

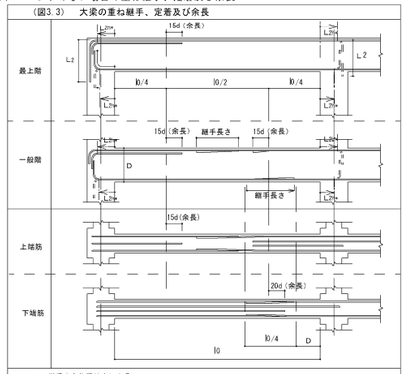
（３）　段違い梁は、（図3.2）による。

（図３．２）　段違い梁



（ｂ）　ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長

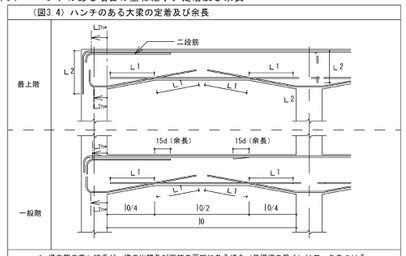
（図3.3）　大梁の重ね継手、定着及び余長



1．継手中心位置は次による。
上端筋：中央 l0／2以内
下端筋：柱面から梁せい（D）以上離し、l0／4を加えた範囲以内
2．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）はフックをつける。
3．　　印は、継手及び余長を示す。
4．破線は柱内定着を示す。
※ L_{2h} を確保できない場合は、全長を表5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上）をのみ込ませる。

（ｃ）　ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長

（図3.4）ハンチのある大梁の定着及び余長

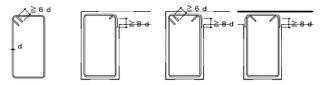


1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）はフックをつける。
2．　　は、継手及び余長を示す。
3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝　＝ のように引通すことができる。
4．破線は柱内定着を示す。
※ L_{2h} を確保できない場合は、全長を表5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上）をのみ込ませる。

2．3．2　あばら筋等

【あばら筋の組立の形及び割付け等 ⊙ 下記による　・　図示　】

（ａ）　あばら筋組立ての形及びフックの位置

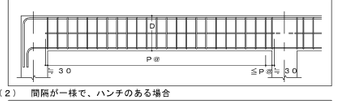


1　（イ）の形を標準とする。ただし、Ｌ形梁の場合は（ロ）又は（ハ）、Ｔ形梁の場合は、（ロ）～（ニ）とすることができる。
2　フックの位置は、（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合は、Ｌ形ではスラブの付く側、Ｔ形では交互とする。
なお（ハ）の場合は床版の付く側を９０°折曲げとする。

（ｂ）　あばら筋の割付け

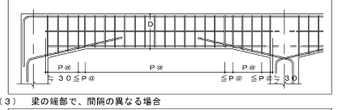
（１）　間隔が一様で、ハンチのない場合

図3.6　あばら筋の割付け（その１）



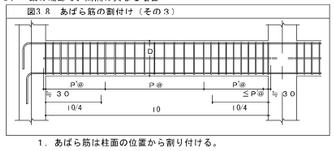
（２）　間隔が一様で、ハンチのある場合

図3.7　あばら筋の割付け（その２）



（３）　梁の端部で、間隔の異なる場合

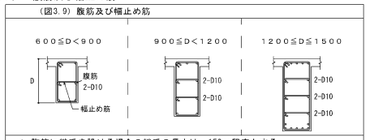
図3.8　あばら筋の割付け（その３）



1．あばら筋は柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP＠、P'＠は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

（ｄ）　腹筋及び幅止め筋

（図3.9）腹筋及び幅止め筋



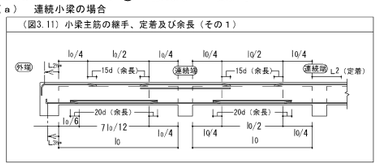
1．腹筋に継手を設ける場合の継手の長さは、150mm程度とする。
2．幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10－1,000＠程度とする。

2．3．3　小梁

【小梁主筋の継手、定着及び余長 ⊙ 下記による　・　図示　】

（ａ）　連続小梁の場合

（図3.11）小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

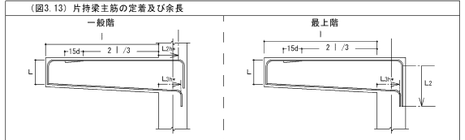


2．3．4　片持梁

【片持梁主筋の定着及び余長 ⊙ 下記による　・　図示　】

（ａ）　先端に小梁のない場合

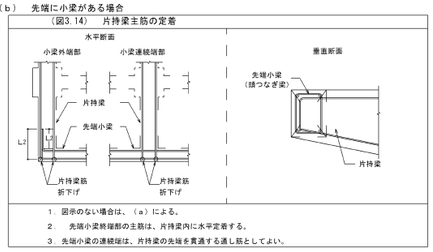
（図3.13）片持梁主筋の定着及び余長



1．　　印は、余長を示す。
2．先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3．図示のない事項は、3.1による。
※　L_{2h}、L_{3h}を確保できない場合は、全長を表5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上）をのみ込ませる。

（ｂ）　先端に小梁がある場合

（図3.14）　片持梁主筋の定着



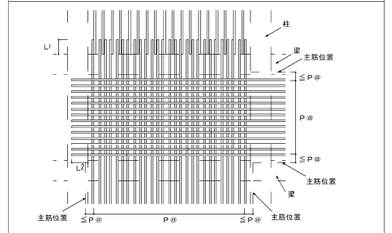
1．図示のない場合は、（ａ）による。
2．　先端小梁鉄端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

4節　壁、その他の配筋

2．4．1　壁の継手及び定着

【壁の継手及び定着 ⊙ 下記による　・　図示　】

図4.2　壁の配筋

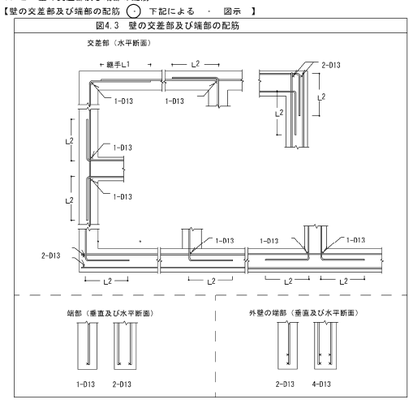


1．図中のP＠は、図示された壁筋の間隔を示す。
2．壁配筋の重ね継手はＬ　、定着長さはＬ　とする。
3．幅止め筋は、縦横ともD10－1,000＠程度とする。

2．4．2　壁の交差部及び端部の配筋

【壁の交差部及び端部の配筋 ⊙ 下記による　・　図示　】

図4.3　壁の交差部及び端部の配筋



2．4．3　壁の補強

【壁の開口部補強　・　下記による ⊙ 図示　】

（ａ）　耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、Ａ形は表4.3、Ｂ形は表4.4とする。

（表4.3）　壁開口部補強筋（Ａ形）

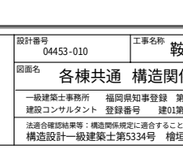
壁の種別	補強筋	
	横・縦	斜め
W12,W15	1-D13	1-D13
W18,W20	2-D13	2-D13

（表4.4）　壁開口部（B形）

壁の種別	補強筋	
	横・縦	斜め
W12,W15	2-D13	1-D13
W18,W20	4-D13	2-D13

（ｂ）　壁開口部補強筋の定着長さは、図4.3による。

（図4.3）壁開口部補強筋の定着長さ

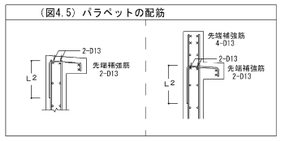


（ｃ）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

2．4．4　パラペット

【パラペットの配筋 ⊙ 下記による　・　図示　】

（図4.5）パラペットの配筋



株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名	各棟共通　構造関係共通事項 (2) (配筋標準図)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当	番号 004
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

5節　スラブの配筋

2．5．1　スラブの基準配筋

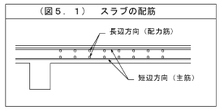
【　スラブの基準配筋　・　下記による　⊙　図示　】

（表5．1）　スラブの基準配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域	配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S1	D13-100@	D13-100@	S8	D10、D13-150@	D10-150@
S2	同　上	D13-150@	S9	同　上	D10-200@
S3	同　上	D10、D13-150@	S10	D10、D13-200@	D10・D13-200@
S4	D13-150@	D13-150@	S11	同　上	D10-200@
S5	同　上	D10、D13-150@	S12	同　上	D10-250@
S6	同　上	D10-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S7	D10、D13-150@	D10、D13-150@	S14	同　上	D10-250@

（注）上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

（図５．１）　スラブの配筋

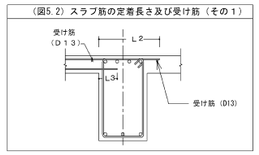


（１）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
（２）鉄筋の重ね継手長さは、L_1とする。

2．5．2　スラブ筋の定着及び受け筋

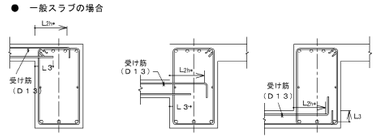
【　スラブの筋の定着及び受け筋　⊙　下記による　・　図示　】

（図5.2）スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）

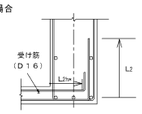


（図5.3）スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

● 一般スラブの場合



● 耐圧スラブの場合

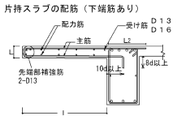


※　L_{2w}を確保できない場合は、全長を表5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上）をのみ込ませる。

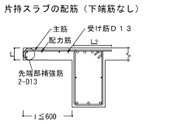
2．5．3　片持スラブの配筋

【片持スラブの基準配筋　・　下記による　⊙　図示　】

（図5.4）片持スラブの配筋（下端筋あり）



（図5.5）片持スラブの配筋（下端筋なし）

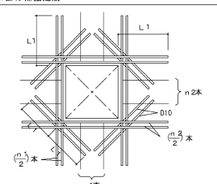


（注）１．　先端の折曲げ長さL_1は、スラブ厚さより小さり厚さを取いた長さとする。
２．　スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

2．5．4　スラブの開口部

【スラブ開口部補強　⊙　下記による　・　図示　】

（図5.7）　スラブ開口部の補強配筋



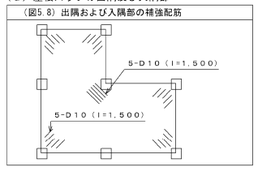
１．スラブ開口によってきられる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（$l=2L_1$）シングルを上下筋の内側に配筋する。
２．スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

2．5．5　出隅部及び入隅部の補強

【出隅及び入隅部の補強配筋　⊙　下記による　・　図示　】

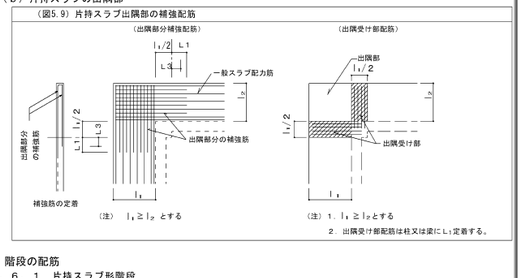
（ａ）屋根スラブの出隅及び入隅部

（図5.8）出隅および入隅部の補強配筋



（ｂ）片持スラブの出隅部

（図5.9）片持スラブ出隅部の補強配筋

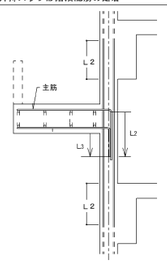


6節　階段の配筋

2．6．1　片持スラブ形階段

【片持スラブ形階段の配筋基準　⊙　下記による　・　図示　】

（図6.1）片持スラブ形階段配筋の定着

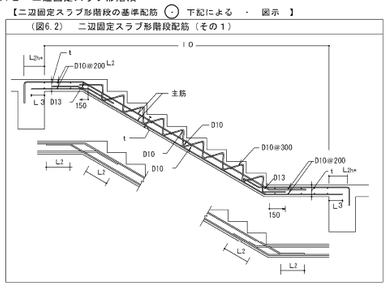


（注）１．壁配筋は４．１（ｂ）による。
２．階段主筋は壁の中心線を超えてから縦におろす。
３．スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、構仕（表5.3.4）のL_{2w}とする。

2．6．2　ニ辺固定スラブ形階段

【ニ辺固定スラブ形階段の基準配筋　⊙　下記による　・　図示　】

（図6.2）　ニ辺固定スラブ形階段配筋（その１）



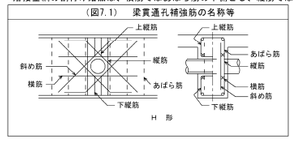
7節　梁貫通孔その他の配筋

2．7．1　梁貫通孔の配筋

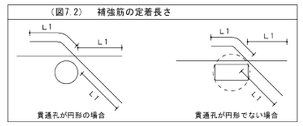
【　梁貫通孔の配筋　⊙　下記による　・　図示　】

（１）　梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
（２）　孔の径は、梁せいの１／３以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
（３）　孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端より1/3Dの範囲に設けてはならない。
（４）　孔は柱面から、原則として1.5D（Dは梁せい）以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
（５）　孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。
（６）　縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
（７）　補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
（８）　孔の径が1/10以下、かつ、150mm未満のものは鉄筋を縫やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
（９）　溶接金網の余長は１格子以上とし、突き出しは１０mm以上とする。
（10）　溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋１－１３φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。
（11）　溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

（図7.1）　梁貫通孔補強筋の名称等



（図7.2）　補強筋の定着長さ



2．7．2　梁貫通孔の補強形式

【梁貫通孔の補強形式　・　下記による　⊙　図示　】

（表7.1）　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上下縦筋	配　筋　図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注）- - - は一般部分のあばら筋を示す。

配筋の表示

凡　例	配　筋
斜め筋　4-2-D22	4本のＤ２２が２面はいることを示す。
縦　筋　4-2-D13	4本のＤ１３があばら筋状にはいることを示す。
上下縦筋　3-2-D13	上下の部分には各々Ｄ１３のあばら筋が３本はいることを示す。

【鉄筋コンクリート構造配筋要領】

配筋種別選定表用せん断補強量

A	D10－200@	E	D10－100@
B	D13－250@　or D10－150@　or D10・D13－200@	F	D13－150@　or D10・D13－125@
C	D10－125@	G	D13－125@　or D10・D13－100@
D	D13－200@　or D10・D13－150@	H	D13－100@

貫通孔補強Ｈ形　（Ｆ＝２４０ｋｇ／ｃｍ^2［２４Ｎ／ｍｍ^2］以下）

はりせい（cm）	はり幅（cm）	30							35							40							45						
		A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H
50 55	10	1	1	1						1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2	
	15	1	1	2	1	2	2	3		1	1	2	1	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
60 65 70	10	1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2	
	15	1	1	1	1	2	2	2	3	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
75 80 85	10	1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2	
	15	1	1	2	2	2	2	3		1	2	2	2	2	2	3		1	2	2	2	2	2	3		1	2	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	2	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
90 95 100	10	①	①	①	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①	
	15	1	1	1	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	1	1	2	2	2	3	3		1	2	3	3	3	3	3		1	2	2	3	3	3	3		1	2	2	3	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	4	4	
105 110 115	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	4	4	
	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	4	4	
120	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	1	2	2	2	2	2	3		1	2	2	2	3	3	3		1	2	2	3	3	3	3		1	2	2	3	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	2	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	4	4	
	35	3	3	3	3	3	4	4		3	3	3	4	4	4	4		3	3	3	4	4	4	4		3	3	3	4	4	4	4	
	40	3	3	3	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4	

はりせい（cm）	はり幅（cm）	50							55							60						
		A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H
50 55	10	1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2	
	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
60 65 70	10	1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	2	
	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
75 80 85	10	1	1	1	1	2	2	2		1	1	1	1	2	2	2		1	1	1	1	2	2	2	
	15	1	2	2	2	2	2	3		1	2	2	2	2	2	3		1	2	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
90 95 100	10	①	①	①	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①	
	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	1	2	2	2	3	3	3		1	2	2	2	3	3	3		1	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	4	4		2	3	3	3	3	4	4	
105 110 115	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	2	3	3		2	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	2	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	3	4	
	35	3	3	3	3	3	4	4		3	3	3	3	4	4	4		3	3	3	3	4	4	4	
	40	3	3	3	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4	
120	15	1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3		1	1	2	2	2	2	3	
	20	1	2	2	2	2	3	3		1	2	2	2	3	3	3		1	2	2	2	3	3	3	
	25	2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3		2	2	3	3	3	3	3	
	30	2	2	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	3	4		2	3	3	3	3	3	4	
	35	3	3	3	3	3	4	4		3	3	3	3	4	4	4		3	3	3	3	4	4	4	
	40	3	3	3	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4		3	3	4	4	4	4	4	

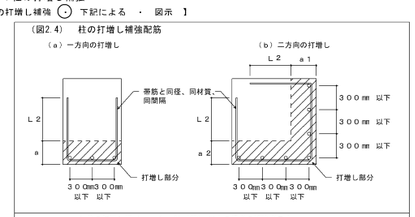
（注）　・○印のものは、はりせい１００ｃｍ以上の場合補強なしとする。
・はりせいなどが上表の中間にある場合は、補強量の多いほうを使用する。

8節　打増し補強等

2．8．1柱の打増し補強

【柱の打増し補強　⊙　下記による　・　図示　】

（図2.4）　柱の打増し補強配筋

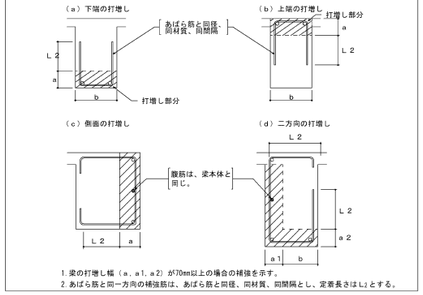


1.柱の打増し幅（a，a1，a2）が70mm以上の場合の補強を示す。
2.帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同材質、同間隔とし定着長さはL_1とする。
3.軸方向の補強筋間隔は300mm以下とする。

2．8．2　梁の打増し補強

【梁の打増し補強　⊙　下記による　・　図示　】

（図3.10）　梁の打増し補強配筋

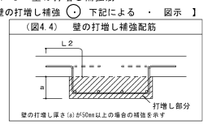


1.梁の打増し幅（a，a1，a2）が70mm以上の場合の補強を示す。
2.あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とし、定着長さはL_2とする。

2．8．3　壁の打増し補強筋

【壁の打増し補強　⊙　下記による　・　図示　】

（図4.4）　壁の打増し補強配筋

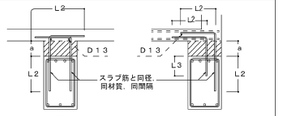


2．8．4　スラブ打継ぎ補強筋

【スラブの打継ぎ補強配筋等　・　下記による　⊙　図示　】

(a)　土間スラブの打継ぎ補強

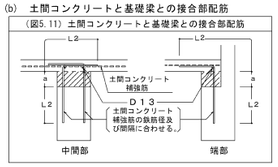
（図5.10）打継ぎ補強配筋



基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

(b)　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

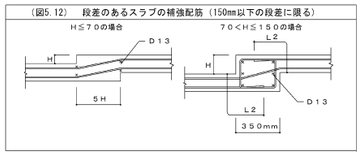
（図5.11）土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



2．8．5　段差のあるスラブの補強

【段差のあるスラブの補強配筋　⊙　下記による　・　図示　】

（図5.12）　段差のあるスラブの補強配筋（150mm以下の段差に限る）



株式会社 佐藤総合計画

設計番号	04453-010	工事名称	鞍手町庁舎等建設工事
図面名	各棟共通　構造関係共通事項 (3) (配筋標準図)	縮尺	A1 1: - A3 1: -
種別	SA	番号	005
担当		作成日	2022.3

一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号
建設コンサルタント　登録番号　建01第843号
総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹
構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した
構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司
法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した
設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅

構造関係共通図(鉄骨標準図)

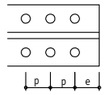
1 縁端距離及びボルト間隔等

（1）縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位：mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

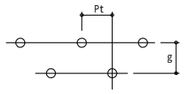


（2）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2　千鳥のゲージ及びボルト間隔　（単位：mm）

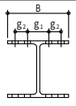
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
	M12,M16,M20,M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40



（3）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位：mm）



A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_3	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

（4）ボルト記号

表1.4　高力ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	／	|	┼	✳	✳

表1.5　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	⊕	⊕	✳	✳

2 溶接記号

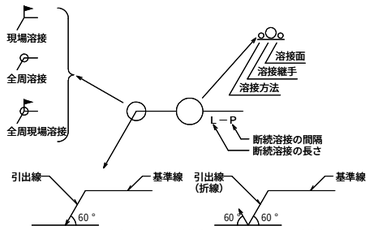
設計図中で使用する記号は、表2.1、表2.2、図2.1を標準とする。

表2.1　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表2.2　溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L－P

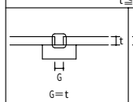
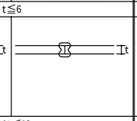
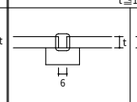
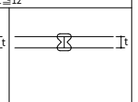
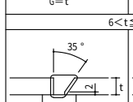
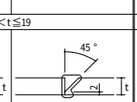
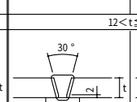
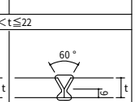
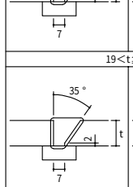
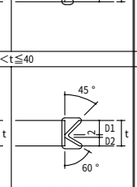
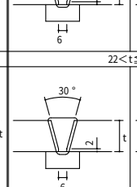
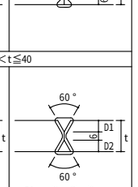


※特記なき限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。
図2.1　溶接記号の記載例

3 溶接継手の種類別開先標準

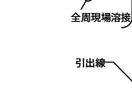
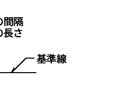
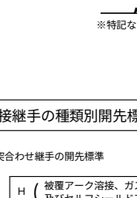
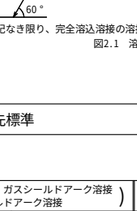
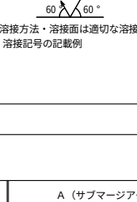
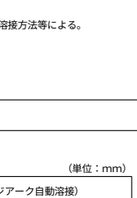
突合わせ継手の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
			
6<t≦19		12<t≦22	
			
19<t≦40		22<t≦40	
			

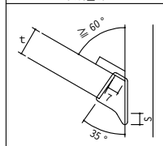
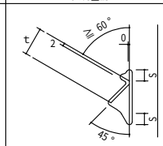
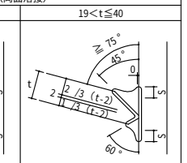
T型継手の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
1/4 t≦S≦10		1/4 t≦S≦10	
6<t≦19		12<t≦22	
			
1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10
19<t≦40		22<t≦40	
			
1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10

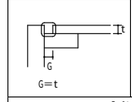
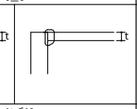
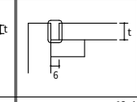
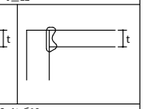
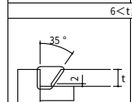
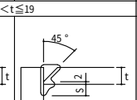
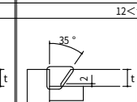
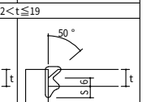
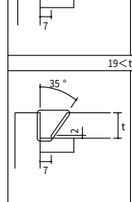
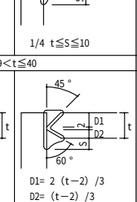
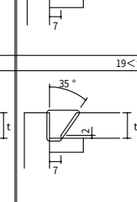
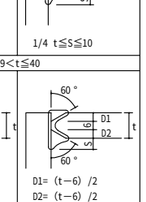
部材が直交しない場合の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
6<t≦40	6<t≦19	19<t≦40
		
1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10	1/4 t≦S≦10

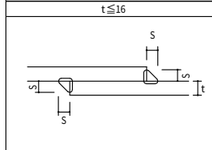
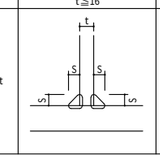
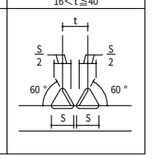
かど継手の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
			
6<t≦19		12<t≦19	
			
1/4 t≦S≦10		1/4 t≦S≦10	
19<t≦40		19<t≦40	
			

隅肉溶接の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
t≦16	t≦16	16<t≦40
		

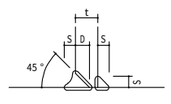
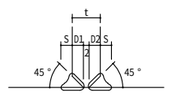
隅肉溶接のサイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	12	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）
12≦t≦40	16≦t≦40
	

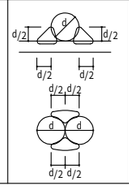
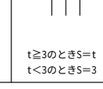
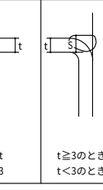
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

1/4 t≦S≦10

D1=（t−2）/2
D2=（t−2）/2
1/4 t≦S≦10

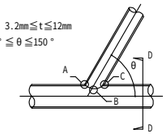
フレア溶接の開先標準

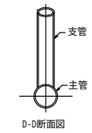
（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）			
1（丸鋼等片面溶接）	2（丸鋼等両面溶接）	3（軽量形鋼V形溶接）	4（軽量形鋼レ形溶接）
			

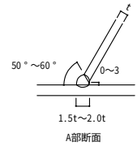
4 鋼管分岐継手

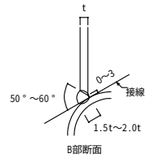
自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。　（単位：mm）

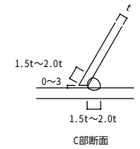




主管の管軸と支管の管軸とは一致させること



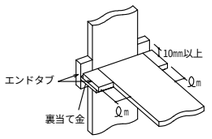




5 鉄骨溶接施工

（1）エンドタブ等

①エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



エンドタブの長さ　（単位：mm）

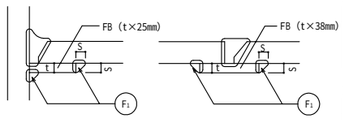
溶接方法	0m
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

②エンドタブの鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
③スプライスプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
④フィラープレートの材質は、SS400とする。

（2）裏当て金

裏当て金の溶接

①裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
②完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内部に設置する。
裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



裏当て金の厚さ　（単位：mm）

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t>9	9

株式会社 佐藤総合計画

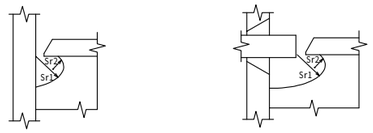
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 各棟共通　構造関係共通事項 (4)		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 006
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

（3）スカラップ

改良型スカラップ

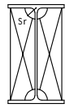
①スカラップ半径Sr1は35㎜とする。Sr2は10㎜とする。

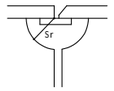
②スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スカラップ

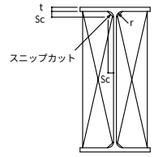
①スカラップ半径Srは35㎜とする。





（4）スニップカット

①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



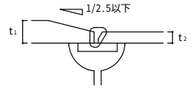
スニップカットの寸法　（単位：mm）

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

※ ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r＋2により求めるものとする。

（5）溶接部分の段差

①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10㎜を超える場合



（6）鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱（KJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11,15	40以下	350以下
		YGW-18,19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm²以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50Ⅱ,50P		
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11,15	30以下	250以下
		YGW-18,19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm²以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50Ⅱ,50P		
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW-18,19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級STKR、BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-11,15	30以下	250以下
		YGW-18,19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
490N級STKR、及びBCP	JIS Z 3312	YGW-18,19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

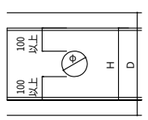
6　梁貫通孔補強

（1）鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。

（2）貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。

（3）貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で２倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で３倍以上確保する。

（4）梁貫通孔位置の限度は以下による。



梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）

H：鉄骨せい

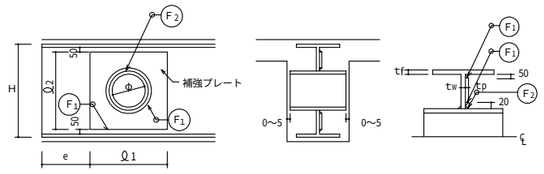
D：はりせい

φ：貫通孔内径寸法

（φ≦H/2かつφ≦D/3）

※ 梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端から貫通孔の中心まで1.2D以上離し、梁継手位置等にも留意する。

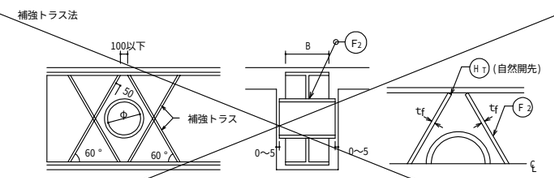
補強プレート法



Q1は3φまたはQ 2のうち小さい方とする。

e：材端と補強プレートとの間隔　（e≧Hとする）

補強トラス法



7　広幅平鋼の取り扱い

（1）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であっても FB又はPLとする。

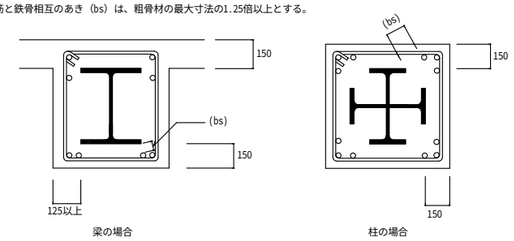
（2）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
	500					○	○	○	○	○	○	○

8　鉄骨と鉄筋コンクリート部分の取合い

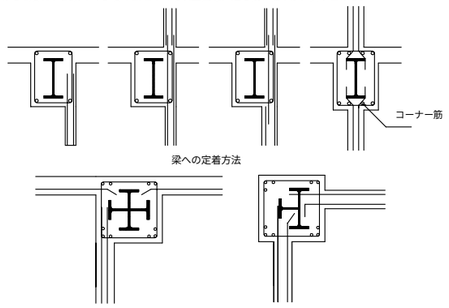
（1）鉄骨のかぶり厚さ

鉄筋と鉄骨相互のあき（bs）は、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。



（2）壁筋の周辺部材への定着

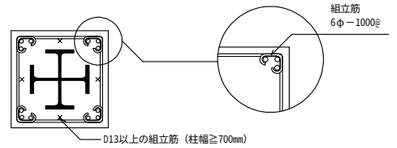
鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。



梁への定着方法

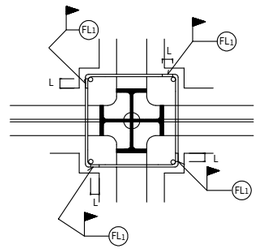
柱への定着方法

（3）柱組立筋



（4）仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



（5）鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋貫通孔の径

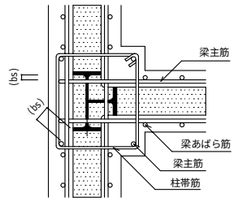
①主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。

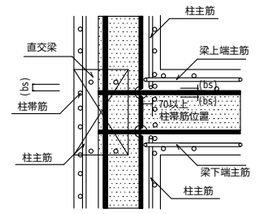
②鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

（単位：mm）

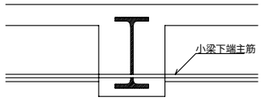
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄筋貫通孔の位置（単位：mm）

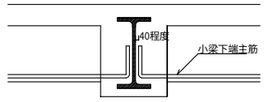




小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



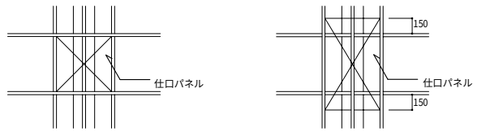
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 各棟共通　構造関係共通事項 (5)		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 007
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 達司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

1.仕口部詳細

(1)仕口パネル

仕口パネルの範囲は、図1を標準とし、材質は、取付くはり及び柱のウエブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同一のものを用い、板厚は、いずれか厚いものの1サイズUP以上かつ9㎜以上とする。

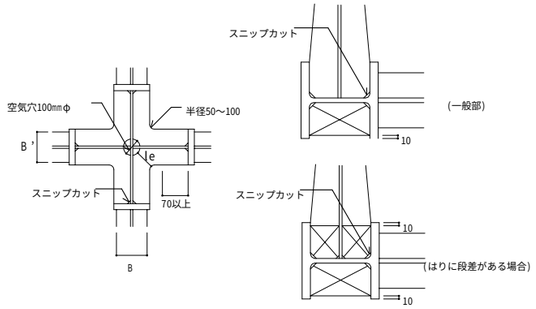


(はり通し)　(柱通し)

図1　仕口パネル(単位:㎜)

(2)水平スチフナ

十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける水平スチフナの形状及び大きさは、図2を標準とし、材質は、はりフランジ材と同一のものを用い、板厚は、はりフランジ厚以上かつ9㎜以上とする。なお、はり幅が300㎜以上の場合は、スニップカットの代わりにスカラップとすることができる。



(a)　十字形柱　(b)　H形柱

(注)　e≧max(,)

図2　水平スチフナ(単位:㎜)

(3)縦スチフナ

十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける縦スチフナは、図3を標準とし、縦スチフナの幅は、取付くはりフランジと同一とし、材質は、上下柱フランジのうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同一のものを用い、板厚は、いずれか最厚もの以上とする。

(a)　十字形柱　(b)　H形柱

図3　縦スチフナ

2.各部詳細

(1)はり及び柱のしぼり

a.はり通し及び柱通しのしぼりの限度及び位置の標準は、図4による。

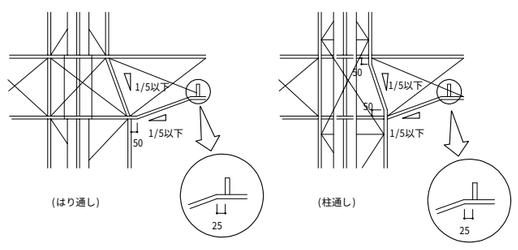


図4　はり及び柱のしぼり(単位:㎜)

b.柱のフランジ幅、フランジ板厚及びウェブ板厚の異なる場合のしぼりの限度及び位置の標準は、図5による。

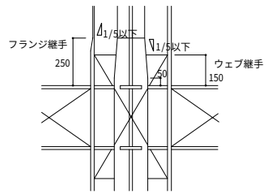


図5　柱のフランジ及び板厚の異なる場合のしぼり(単位:㎜)

c.柱脚部のしぼりの限度及び位置の標準は、図6による。

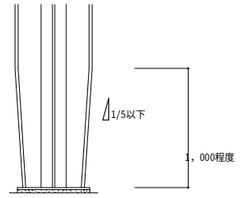
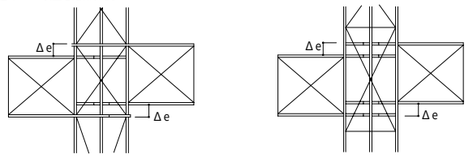


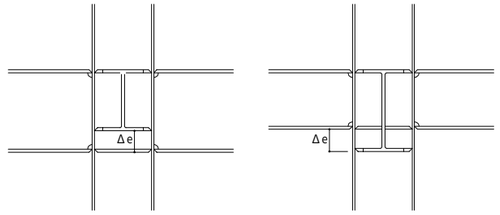
図6　柱脚部のしぼり(単位:㎜)

(2)はりの段差

柱に取付くはりに段差を設ける場合の寸法(Δe)は、溶接性を考慮して、十字形柱及びH形柱で150㎜以上を確保する。



(a)　十字柱



(b)　H形柱

図7　はりの段差

(3)バンドプレート

注)　バンドプレートはFB-50×6(SS400)とする。

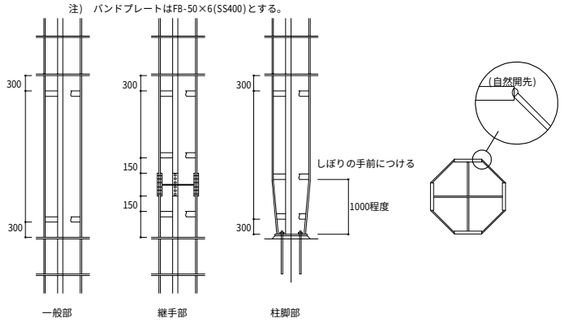


図8　バンドプレートの位置及び大きさ(単位:㎜)

(4)リブプレート

はりにハンチを設ける場合は、図9に示すようなリブプレートを付けるものとし、板厚はウエブと同厚とする。ただし、リブプレートの大きさはスリーブ等の納りを考慮して小さくすることができる。

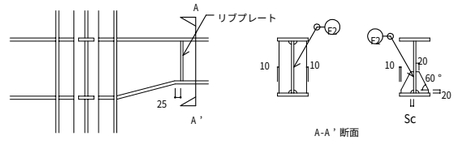


図9　リブプレート(単位:㎜)

(5)ウェブ継手現場溶接用隔板

現場で柱ウェブ材を溶接する場合の隔板の標準は、図10により、材質は、上下柱ウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものを用いるものとし、板厚は、9㎜以上とする。

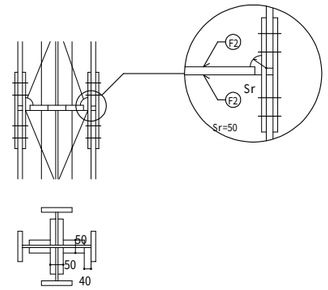


図10　ウェブ継手現場溶接用隔板(単位:㎜)

3.アンカーボルト取付要領

3.アンカーボルト取付要領

(1)アンカーボルトの保持及び埋込み工法

a.A種:鋼製フレームを用いてアンカーボルトを保持する方法。

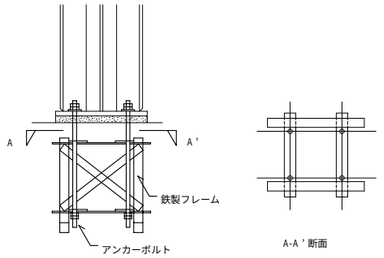


図11　アンカーボルトの保持(A種)

b.B種:周囲の鉄筋に補強材等を用いてアンカーボルトを保持する方法。

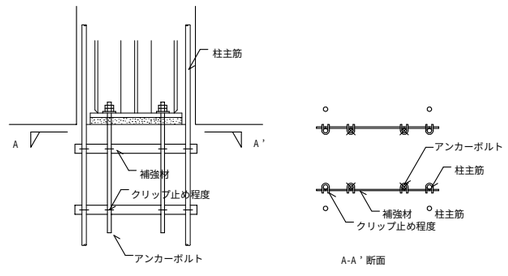


図12　アンカーボルトの保持(B種)

c.C種:頭部を漏斗状にあけた可動埋込み式の方法。

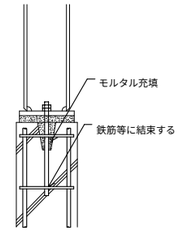
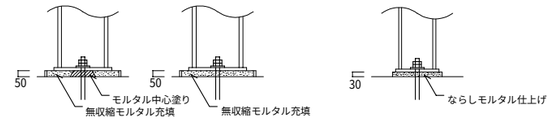


図13　アンカーボルトの保持(C種)

(2)柱底ならしモルタルの工法

a.A種:あと詰め中心塗り又は全面あと詰め工法として、無収縮モルタル材を充填する工法。

b.B種:全面塗り仕上げをならしモルタル等で仕上げる工法。

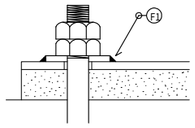


(あと詰め中心塗り工法)　(全面詰め工法)　(全面塗り仕上げ工法)

図14　柱底ならしモルタル工法

(3)座金の溶接

アンカーボルトはコンクリートに埋込まれる場合を除きダブルナット締めとする。



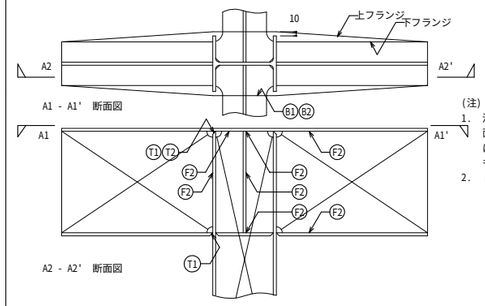
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 各棟共通　構造関係共通事項 (6)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道真	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 008

※.一般事項　標準詳細図及び設計図に記載なき事項は、国土交通省公共建築工事標準仕様書(H28年版)、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準及び同解説」(最新版)による。
さらに、記載のない場合は、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS6鉄骨工事」(最新版)による。

仕口部詳細(S造)

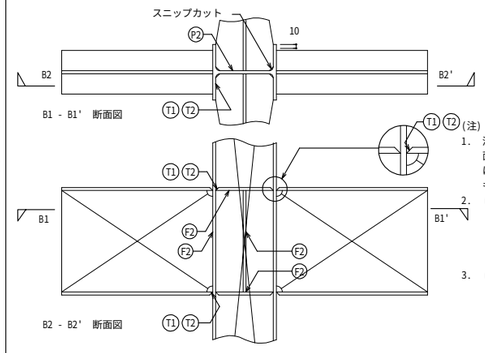
H 型 柱

柱頭部



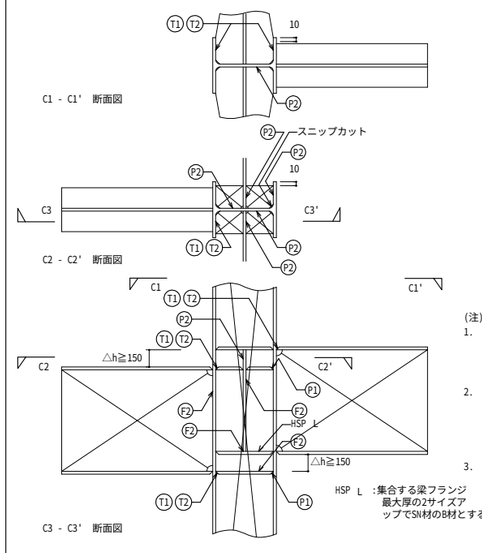
(注)
1. 溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2. (F2):ウェブ厚が16 ㎜ 以上のものについては (P2)とする。

一般部



(注)
1. 溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2. (F2):ウェブ厚が16 ㎜ 以上のものについては (P2)とする。
3. (P2):水平スチフナ厚が12 ㎜ 以下の場合は (F2) とする。

段差部

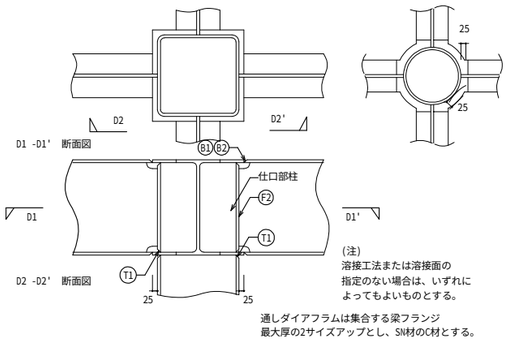


(注)
1. 溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2. (F2):ウェブ厚が16 ㎜ 以上のものについては (P2)とする。
3. (P2):水平スチフナ厚が12 ㎜ 以下の場合は (F2) とする。

HSP L :集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップでSN材のB材とする。

鋼 管 柱

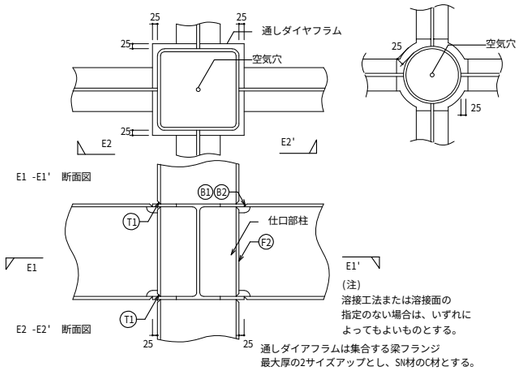
柱頭部



(注)
溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。

通しダイアフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、SN材のC材とする。

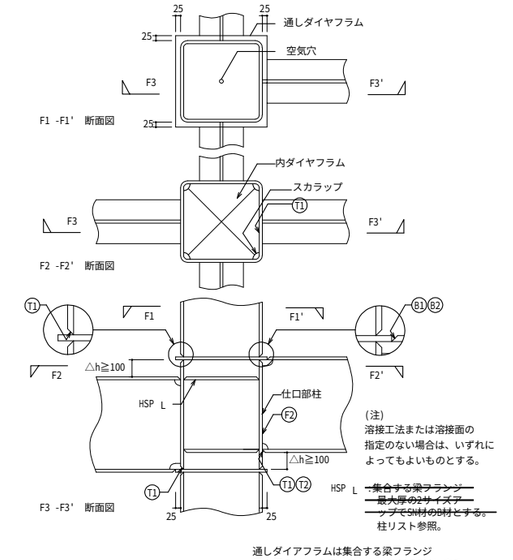
一般部



(注)
溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。

通しダイアフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、SN材のC材とする。

段差部



(注)
溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。

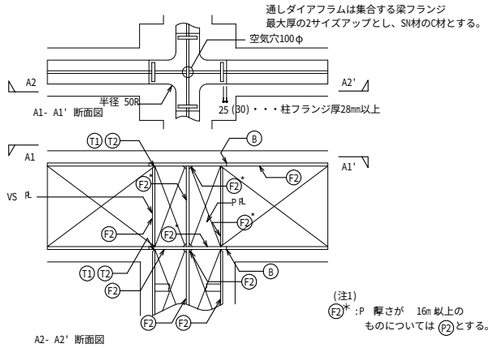
HSP L ~~集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップでSN材のB材とする。~~ 柱リスト参照。

通しダイアフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、SN材のC材とする。

仕口部詳細(SRC造)

十 字 形 は り 通 し

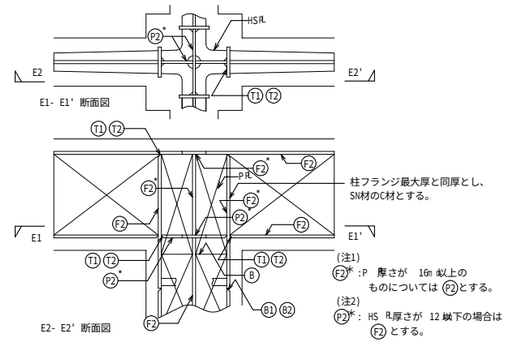
柱頭部



(注1)
F2*:P 厚さが 16m 以上のものについては (P2)とする。

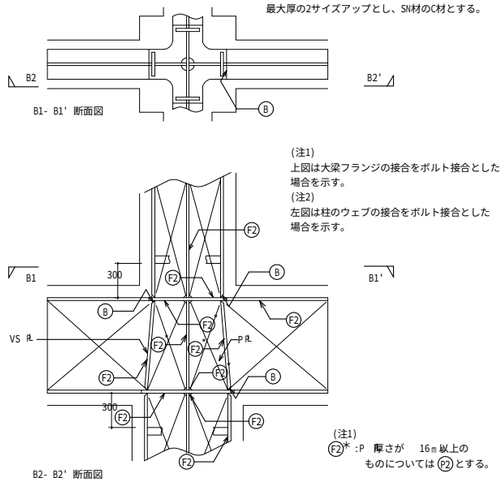
十 字 形 柱 通 し

柱頭部

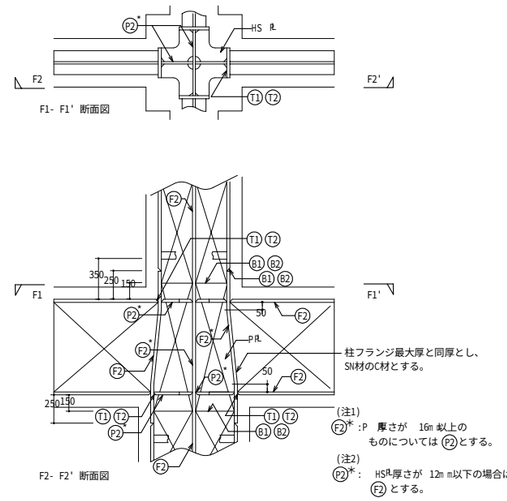


(注1)
F2*:P 厚さが 16m 以上のものについては (P2)とする。
(注2)
P2*: HSPL厚さが 12m 以下の場合は (F2) とする。

一般部

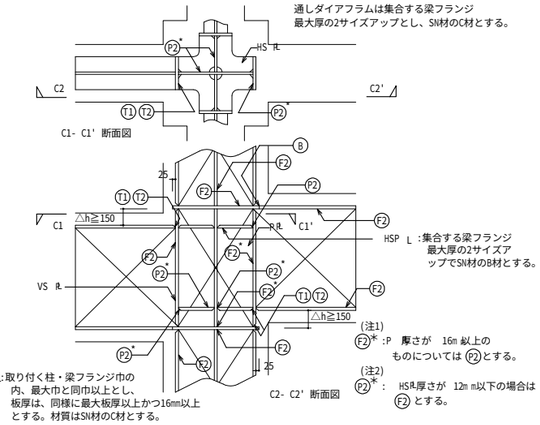


(注1)
F2*:P 厚さが 16m 以上のものについては (P2)とする。



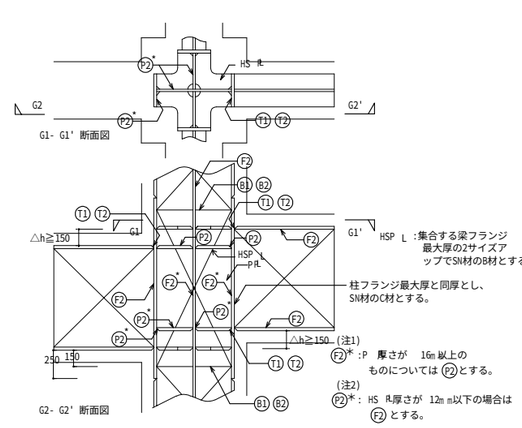
(注1)
F2*:P 厚さが 16m 以上のものについては (P2)とする。
(注2)
P2*: HSPL厚さが 12m 以下の場合は (F2) とする。

段差部



(注1)
F2*:P 厚さが 16m 以上のものについては (P2)とする。
(注2)
P2*: HSPL厚さが 12m 以下の場合は (F2) とする。

VSPL:取り付く柱・梁フランジ巾の内、最大巾と同巾以上とし、板厚は、同様に最大板厚以上かつ16㎜以上とする。材質はSN材のC材とする。



(注1)
F2*:P 厚さが 16m 以上のものについては (P2)とする。
(注2)
P2*: HSPL厚さが 12m 以下の場合は (F2) とする。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 各棟共通　構造関係共通事項 (7)		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 009
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

深層混合処理地業特記仕様書

1．工事概要

本地業は、深層混合処理工法による地盤改良地業である。深層混合処理工法は、スラリー状のセメント系固化材(以下、固化材液と称す)を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した撹拌装置を用いて、原地盤土と機械的に撹拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体(以下、コラムと称す)を築造するものである(テノコラム同等品)。

2．一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(日本建築センター)による。

3．特記事項

(1) コラムの径、掘削深度(設計コラム長+空掘長)、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
(2) コラムの設計基準強度はFc= 800 kN/m²とする。
(3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
(4) 本工事工法は、改良体強度の品質が変動係数25%以下であることを「建設技術審査証明協議会(平成13年1月10日設立)」に属する機関で証明された技術審査証明取得工法とし、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。
又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

4．施工計画

(1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとする。
(2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- 工事件名及び工事場所
- コラム仕様及び数量
〔コラム径、掘削深度(設計コラム長+空掘長)、本数、
設計基準強度 〕
- 工事期間及び工程
- 工事の組織(建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者)
- 施工手順
- 施工管理項目
- 固化材配合条件
- 施工機器
- 品質検査
- 安全衛生対策
- 土質柱状図
- コラム伏図
- 技術審査証明書(写)

5．施工

(1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
(2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
a.撹拌混合装置をコラム心に合わせる。
b.固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
c.固化材液を吐出しながら掘進・撹拌混合する。
d.注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
e.先端練り返し工程が終了したら、撹拌軸を逆回転し引上げ撹拌混合する。
(3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
(4) 本工事により排出される発生残土は場内処分を原則とする。
(5) 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6．施工機械

(1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に撹拌混合できる撹拌装置を用いること。
(2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
(3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
(4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7．配合管理

(1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
(2) 配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

Xf=α×Fc ［α:割り増し係数、Xf:配合強度］

(3) 室内配合試験
固化材液の配合(W/C)と使用量(添加量)は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。
設計段階で想定する添加量 【 400 kg/m³ 】

8．施工管理

(1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

① 形状・寸法	:鉛直性	改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する
	コラム芯	事前にコラム芯にマークを設ける
	掘削深度	深度計で計測し記録する
	コラム径	撹拌装置の形状・寸法を記録する
② 固化材	:材料計量	水、固化材の重量
	固化材液の密度	マッドバランス等
	固化材液の添加量又はスラリーの吐出量	リアルタイム型施工管理装置による施工管理又は流量計で計測し、記録する
③ 撹拌混合度	:撹拌混合回数又は掘進・引上げ速度	リアルタイム型施工管理装置による施工管理又は速度計で計測し、記録する
④ 支持地盤	:仕事量又は掘進速度・オーガー電流値(又はトルク値)	
		リアルタイム型施工管理装置による施工管理又は速度計・電流計(又はトルク計)で計測し、記録する
	(着底判定(仕事量・電流値・トルク値)は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する)	

(2) コラムの芯ズレ
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員(監理者)と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
(3) 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者(請負業者の中から選定)及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9．品質検査

(1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数
① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
② 検査対象層は 庁舎棟で 「盛土」「礫混り砂質粘土」「粘土」「強風化頁岩」
博物館棟で「盛土」「強風化頁岩」
車庫棟で 「盛土」「強風化砂岩」であり、
設計対象層を庁舎棟「粘土」博物館棟、車庫棟は「盛土」とする。

ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、
最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。
③ 調査箇所数(1検査対象群に対して)
頭部コア 100コラムに1ヶ所
深度コア 100コラムに1ヶ所
深度コアについては、内1ヶ所については、コアボーリングによるコア採取率を調査し、他の箇所については、モールドコアによってもよい。
(2) コア採取率による調査
コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。
(3) 合否の判定
① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。
④ 検査手法Aによる品質検査
合否の判定は検査対象層におけるN ヶ所(抜取箇所数)の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$\overline{XN} \geqq XL = Fc + ka \cdot \sigma$

$\overline{XN}$: N ヶ所の一軸圧縮強度の平均値(kN/m2)
XL: 合格判定値(kN/m2)
Fc: 設計基準強度(kN/m2)
ka: 合格判定係数
σ : 標準偏差(kN/m2) = v・$\bar{q}ud$ v :変動係数、品質確認書により想定する
$\bar{q}ud$:想定した平均一軸圧縮強さ(kN/m2)

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4～6	7～8	9
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10．報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

① コラムの伏図及び番号
② コラムの施工日
③ コラムの径及び実施コラム長
④ 掘削深度
⑤ 撹拌混合回数又は、掘進速度及び引き上げ速度
⑥ 仕事量又は、掘進速度及び電流値(又はトルク値)
⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量
⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いたコア採取率
⑨ 合否判定結果

11．六価クロム溶出試験

本工事は、施工前において六価クロム溶出試験を行い、その結果が満足することを確認する。

12．現地試験

各棟の改良体群の中央付近で1ヶ所 載荷試験を行う。（極限支持力700kN/m²以上を確認する）

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 各棟共通 深層混合処理地業特記仕様書		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当	番号 010
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

梁貫通孔補強材　**ＭＡＸリンブレンＫ型　設計・施工標準仕様書　(1/2)**　　ＢＣＪ評定－ＲＣ０１８４－０６　㈱ 丸井産業株式会社

◎適用範囲

1、一般事項

1）本仕様書は、MAXリンブレンK型の標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

2）本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2018年版、「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2014年改定、「建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）」2018年改定、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2010年改定、「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2005年改定、日本建築センター「建築物の構造関係技術基準解説書」2015年版、公共建築協会「建築構造設計基準」平成30年版及び、「公共建築工事標準仕様書」平成28年版による。

2、適用範囲

1）適用対応梁の構造

・梁の構造種別　：　鉄筋コンクリート造及び、鉄骨鉄筋コンクリート造　・梁せい（D）　：　D≧450（mm）

・コンクリートの設計基準強度（F_c）

a）　あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　　$18 \leqq F_c \leqq 60 N/mm^2$　　b）　あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　　$21 \leqq F_c \leqq 100 N/mm^2$

ただし、コンクリートの設計基準強度が$60N/mm^2$を超えた場合は、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している高強度コンクリートとする。

・鉄筋

a）　主筋　　JIS・G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している 590・685N/mm²級鋼の高強度鉄筋

ただし、主筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。

b）　あばら筋　　JIS・G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している 685・785・1275N/mm²級鋼の高強度鉄筋

ただし、開孔上下部補強筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。

・引張鉄筋比（p_t）　：　$p_t \leqq 2.5$（%）　ただし、下限値は0.4%または、存在応力（長期荷重による応力）による必要量の4/3倍のうち小さい方の数値以上とする。

SRC造の場合の下限値は、「SRC規準」に準拠する。

・あばら筋比（p_w）　：　$0.2 \leqq p_w \leqq 1.2$（%）　ただし、SRC造の場合は0.1%以上とする。（非充複型鉄骨を用いた場合は0.2%以上）

2）開孔径及び、開孔位置

・開孔径（H）　：　H≦D／3　ただし、H≦750（mm）

・開孔の水平方向中心間距離（A）　：　A≧3H（隣り合う開孔径の平均値の3倍以上）

・開孔の垂直方向中心間距離（G）　：　G≧3H　ただし、ΣH≦D/3　且つ、基礎梁に2開孔までとする。

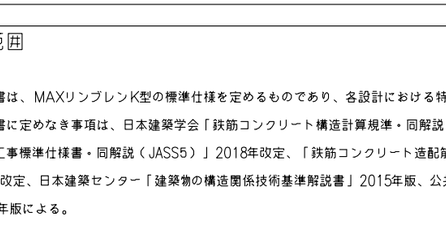
・柱際から開孔中心までの距離（B）：　B≧D　（mm）

ただし、あばら筋に普通鉄筋を使用した梁端の曲げ降伏型ではない基礎梁で、$18 \leqq F_c \leqq 51 N/mm^2$であり、

$1.00 \leqq M/Qd \leqq 1.55$　且つ、$H/D \leqq 0.25$の場合　　B≧max（0.4D，C/2）　（mm）

・梁上下端からのへりあき距離（Hc）　：　開孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とする。

ただし、梁上下端からのへりあき距離については、MAXリンブレンK型があばら筋の内側に納まる距離を確保する。



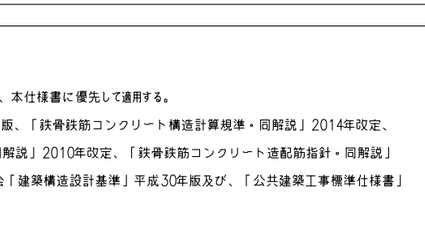


図1　貫通孔の適用開孔位置

3）補強量の範囲

・MAXリンブレンK型の補強筋比（p_r）

あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　　$p_r \leqq 1.0$　（%）

あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　　$p_r \leqq 1.2$　（%）

基礎梁で開孔位置Bをmax（0.4D，C/2）≦B＜Dとした梁　　$p_r \leqq 0.38$　（%）

・有効補強範囲内のあばら筋比（p_s）

あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　　$p_s \leqq 1.2$　（%）

あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　　$p_s \leqq 1.0$　（%）

・有効補強範囲内のせん断補強筋比（$\Sigma p_{wo} = p_r + p_s$）

あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　　$0.2 \leqq \Sigma p_{wo} \leqq 1.8$　（%）

あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　　$0.2 \leqq \Sigma p_{wo} \leqq 2.2$　（%）

3、補強筋比の算定方法

開孔周囲補強に有効な有効補強範囲（C）は開孔中心部より45度方向に発生するせん断ひび割れを想定して、図2に示す様に開孔中心部から45度に引いた線と上下の主筋重心位置の交点の水平距離とし、$C = C_1 + C_2$ とする。

また、基礎梁の梁端部に開孔を設け、有効補強範囲（C）が梁内に確保できない開孔位置の場合の有効補強範囲内のあばら筋比（p_s）は、図3に示す様に、梁内の有効補強範囲内に配置される開孔際補強あばら筋と一般部あばら筋の補強筋比とする。

MAXリンブレンK型の有効断面積（a_r）の算定については、MAXリンブレンK型の開孔中心部から45度方向に対して所在する鉄筋が、せん断抵抗するものを仮定する。

また、広沢式の扱いによって有効断面積は公称断面積の$\sqrt{2}$倍とする。

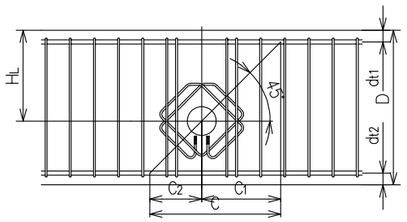


図2　有効補強範囲

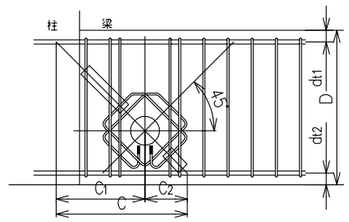


図3　（C）が梁内に確保できない開孔位置とした場合

◎補強算定式

MAXリンブレンK型補強有孔梁のせん断終局強度式（修正広沢式）

$$Q_{su1} = \alpha \left\{ \frac{0.053 p_t^{0.23} (18 + F_c)}{M/Qd + 0.12} \left(1 - 1.61 \frac{H}{D}\right) + 0.85 \sqrt{p_r \cdot {}_r\sigma_y + p_s \cdot {}_s\sigma_y} \right\} bj$$

α：低減係数　$\alpha = 1.00$　p_t：引張鉄筋比　F_c：コンクリートの設計基準強度（N/mm^2）　M/Qd：せん断スパン比で、3以上のときは3とする。　H：開孔径（mm）

D：梁せい（mm）　p_r：MAXリンブレンK型の補強筋比　${}_r\sigma_y$：MAXリンブレンK型の規格降伏点（785N/mm²）ただし ${}_r\sigma_y = \min(785, 25F_c)$　p_s：有効補強範囲内のあばら筋比

${}_s\sigma_y$：有効補強範囲内のあばら筋の規格降伏点（N/mm^2）　ただし ${}_s\sigma_y = \min({}_w\sigma_y, 25F_c)$　b：梁幅（mm）　j：応力中心間距離で、$j = 7d/8$（mm）とする。　d：梁の有効せい（mm）

◎施工管理要領

1、施工に先立ち、設計図書又は、配筋図に基づき有孔梁の補強計算を行ない、補強筋量及び開孔位置を確認する。次にMAXリンブレンK型の枚数及び、必要あばら筋組数を確認する。

2、MAXリンブレンK型には製品の型式が記載されたラベルが取付けてあるので、適当な製品であるか又、変形や傷がないか、スペーサー部にキャップが付いているか必ず確認する。

キャップは使用鉄筋径別に色分けし、適用開孔径を表示している。

3、MAXリンブレンK型を直接地面に置くことは避け、各サイズ毎に整理し、雨・泥・油等で汚さないように保管する。

◎標準配筋図

1、MAXリンブレンK型の取付け

1）MAXリンブレンK型の取付けは、開孔部1ヶ所に対して2枚以上用いて必ずあばら筋の内側へ取り付ける。MAXリンブレンK型を3枚以上必要とする場合は、図4に示すように、捨て筋を取付け、MAXリンブレンK型を捨て筋に結束線等で取付け保持する。MAXリンブレンK型の配置は、コンクリートが十分に回る空きを確保することとし、バランスよく配置する。

2、MAXリンブレンK型の取付け向き

1）MAXリンブレンK型は、必ずつめ部が上下方向になるように取り付ける。（図5）

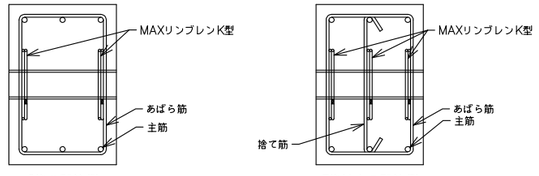
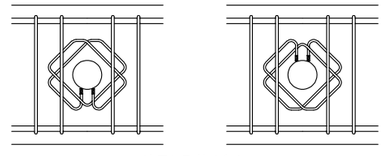


図4　MAXリンブレンK型の取付け



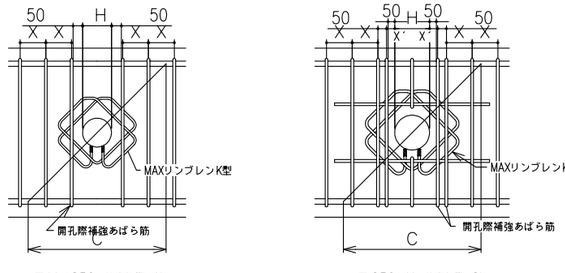
適正な取付け向き

図5　MAXリンブレンK型の取付け向き

3、開孔際補強あばら筋の基本配筋（図6参照）

1）開孔際補強あばら筋は、一般部あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、H＜250のとき開孔際に1組、250≦Hのとき開孔際に2組とする。

2）開孔際補強あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚さとし、2組目以降は50mmピッチとする。



■H＜250　基本組数 1組　　■250≦H　基本組数 2組

図6　開孔径別のあばら筋基本配筋図

K-06-20210902-A

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010 / 工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
	図面名 各棟共通　ＭＡＸリンブレンＫ型　設計･施工標準仕様書 (1)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 / 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 / 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3 / 番号 011

◎標準配筋図

3) 垂直方向に並列する2開孔が異径の場合、図7に示す様に、小開孔の開孔縁から開孔際補強あばら筋までの距離が100mmを超える場合は、大開孔の小開孔側となる直上または直下に横筋を配置し、小開孔の開孔際から50mmのかぶり厚さを確保した位置に開孔際補強筋を配筋する。開孔際補強筋は大開孔の開孔縁から50mm以上のかぶり厚さを確保することとし、形状は図9を参考に決定する。開孔際補強筋は一般部あばら筋と同径とする。ただし、開孔際補強筋に丸鋼およびインデントの鉄筋は用いないこととする。横筋は一般部あばら筋と同径以上とし、定着長さは大開孔の開孔際から40d以上または、開孔中心から45度の線との交点から「RC配筋指針」6章に規定されるL2又はL2h以上とする。

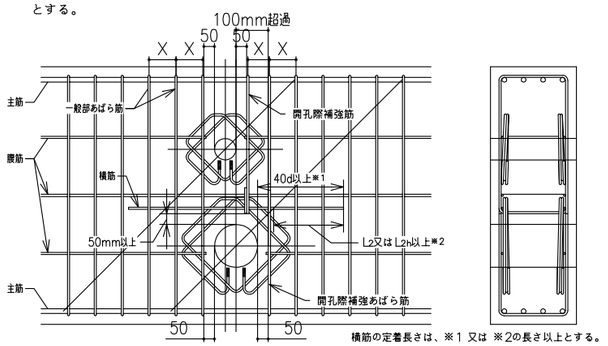


図7　開孔際補強筋の配筋例

4、開孔上下部の補強（図8、9参照）

1) 開孔径が250≦Hのときは開孔上下部補強を設計ピッチ以内（X´）で設ける。

2) 開孔上下部補強筋は一般部あばら筋と同径とする。ただし、丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。横筋は一般部あばら筋径と同径以上とし、定着長さは開孔際から40d以上または、開孔中心から45度の線との交点から「RC配筋指針」6章に規定されるL2又はL2h以上とする。

3) 開孔上下部補強筋は開孔の上下縁から50mm以上のかぶりを確保し、形状は図9を参考に決定する。Hcが300mm未満の場合、(d)の形状としてもよい。また、(c)のように梁の両側からコの字形状の補強筋を配筋する場合の重ね長さは、「JASS5」の直線重ね継手長さ以上を確保することとする。

4) 垂直方向に開孔径が250mm以上の同径の2開孔が並列する場合、開孔間についても広範囲にわたって無筋状態となることを避けるため、開孔上下補強筋と同様の配筋を行うこととする。

5) 垂直方向に並列する2開孔が異径で大開孔の開孔径が250mm以上の場合、小開孔の開孔径にかかわらず小開孔の上下部に開孔上下部補強筋を配筋することとし、小開孔の開孔際から開孔際補強あばら筋までの距離が100mmを超える場合は開孔際補強筋を配筋することとする。

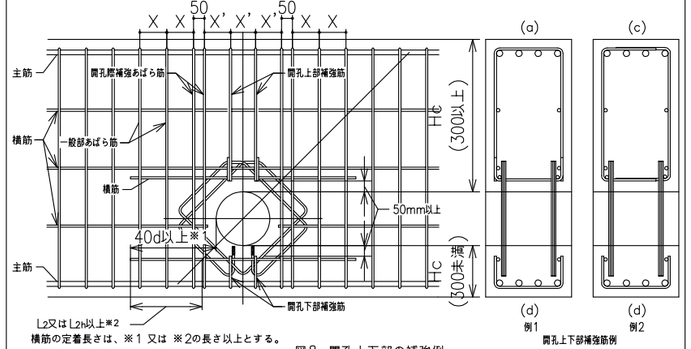


図8　開孔上下部の補強例

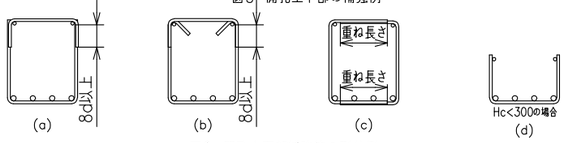


図9　開孔上下部補強筋の形状例

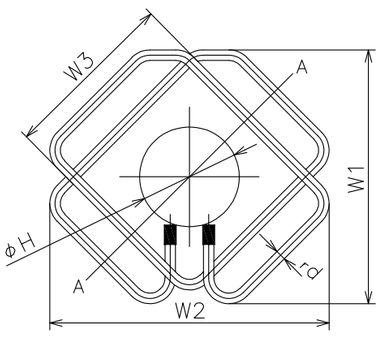
◎仕様

<K4シリーズ>

型式	呼び径	適用開孔径 H	寸法 W1	寸法 W2	寸法 W3	使用鉄筋 rd	かぶり厚さ (mm)	有効断面積 αr(mm²)	重量 (kg)	キャップ色別
K4-0806			251	290	182	S6		179.2	0.41	黒
K4-0808	80	≦ 90	257	296	186	S8	40	280.1	0.66	赤
K4-0810			285	315	190	S10		403.5	1.01	緑
K4-0813			311	337	196	S13		716.7	1.93	黄
K4-1006			282	325	207	S6		179.2	0.46	黒
K4-1008	100	≦ 115	287	332	211	S8	40	280.1	0.73	赤
K4-1010			316	350	215	S10		403.5	1.12	緑
K4-1013			341	372	221	S13		716.7	2.12	黄
K4-1016			367	394	227	S16		1123.5	3.52	白
K4-1206			312	360	232	S6		179.2	0.51	黒
K4-1208	125	≦ 140	318	367	236	S8	40	280.1	0.81	赤
K4-1210			346	385	240	S10		403.5	1.23	緑
K4-1213			371	408	246	S13		716.7	2.31	黄
K4-1216			397	430	252	S16		1123.5	3.82	白
K4-1506			344	397	258	S6		179.2	0.56	黒
K4-1508	150	≦ 166	349	404	262	S8	40	280.1	0.89	赤
K4-1510			378	422	266	S10		403.5	1.34	緑
K4-1513			403	444	272	S13		716.7	2.51	黄
K4-1516			429	467	278	S16		1123.5	4.14	白
K4-1706			374	432	283	S6		179.2	0.61	黒
K4-1708	175	≦ 191	380	439	287	S8	40	280.1	0.96	赤
K4-1710			408	457	291	S10		403.5	1.45	緑
K4-1713			434	480	297	S13		716.7	2.71	黄
K4-1716			459	502	303	S16		1123.5	4.44	白
K4-2006			406	469	309	S6		179.2	0.66	黒
K4-2008	200	≦ 217	412	476	313	S8	40	280.1	1.04	赤
K4-2010			440	494	317	S10		403.5	1.57	緑
K4-2013			465	516	323	S13		716.7	2.91	黄
K4-2016			491	539	329	S16		1123.5	4.76	白
K4-2506			463	541	360	S6		179.2	0.75	黒
K4-2508	250	≦ 268	469	548	364	S8	40	280.1	1.19	赤
K4-2510			497	566	368	S10		403.5	1.78	緑
K4-2513			522	589	374	S13		716.7	3.29	黄
K4-2516			548	611	380	S16		1123.5	5.36	白
K4-3006			525	613	411	S6		179.2	0.85	黒
K4-3008	300	≦ 319	531	620	415	S8	40	280.1	1.34	赤
K4-3010			559	638	419	S10		403.5	2.00	緑
K4-3013			585	661	425	S13		716.7	3.69	黄
K4-3016			610	683	431	S16		1123.5	5.98	白
K4-3508			588	692	466	S8		280.1	1.49	赤
K4-3510	350	≦ 370	616	711	470	S10	40	403.5	2.21	緑
K4-3513			642	733	476	S13		716.7	4.07	黄
K4-3516			667	755	482	S16		1123.5	6.57	白

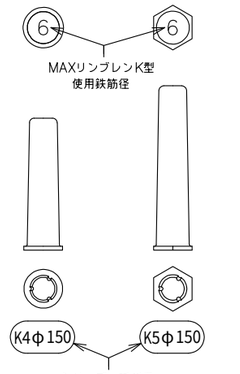
<K5シリーズ>

型式	呼び径	適用開孔径 H	寸法 W1	寸法 W2	寸法 W3	使用鉄筋 rd	かぶり厚さ (mm)	有効断面積 αr(mm²)	重量 (kg)	キャップ色別
K5-0806			280	318	202	S6		179.2	0.46	黒
K5-0808	80	≦ 90	285	325	202	S8	50	280.1	0.73	赤
K5-0810			314	343	210	S10		403.5	1.12	緑
K5-0813			339	365	216	S13		716.7	2.11	黄
K5-1006			310	353	227	S6		179.2	0.51	黒
K5-1008			316	360	231	S8		280.1	0.80	赤
K5-1010	100	≦ 115	344	378	235	S10	50	403.5	1.23	緑
K5-1013			369	400	241	S13		716.7	2.31	黄
K5-1016			395	423	247	S16		1123.5	3.81	白
K5-1206			340	389	252	S6		179.2	0.56	黒
K5-1208			346	395	256	S8		280.1	0.88	赤
K5-1210	125	≦ 140	374	414	260	S10	50	403.5	1.34	緑
K5-1213			400	436	266	S13		716.7	2.50	黄
K5-1216			425	458	272	S16		1123.5	4.12	白
K5-1506			372	425	278	S6		179.2	0.61	黒
K5-1508			378	432	282	S8		280.1	0.96	赤
K5-1510	150	≦ 166	406	450	286	S10	50	403.5	1.45	緑
K5-1513			431	473	292	S13		716.7	2.70	黄
K5-1516			457	495	298	S16		1123.5	4.43	白
K5-1706			402	461	303	S6		179.2	0.66	黒
K5-1708			408	468	307	S8		280.1	1.03	赤
K5-1710	175	≦ 191	436	486	311	S10	50	403.5	1.56	緑
K5-1713			462	508	317	S13		716.7	2.90	黄
K5-1716			487	530	323	S16		1123.5	4.74	白
K5-2006			434	497	329	S6		179.2	0.71	黒
K5-2008			440	504	333	S8		280.1	1.11	赤
K5-2010	200	≦ 217	468	522	337	S10	50	403.5	1.67	緑
K5-2013			494	545	343	S13		716.7	3.10	黄
K5-2016			519	567	349	S16		1123.5	5.05	白
K5-2506			491	570	380	S6		179.2	0.80	黒
K5-2508			497	576	384	S8		280.1	1.26	赤
K5-2510	250	≦ 268	525	595	388	S10	50	403.5	1.89	緑
K5-2513			551	617	394	S13		716.7	3.48	黄
K5-2516			576	639	400	S16		1123.5	5.65	白
K5-3006			553	642	431	S6		179.2	0.90	黒
K5-3008			559	649	435	S8		280.1	1.41	赤
K5-3010	300	≦ 319	587	667	439	S10	50	403.5	2.11	緑
K5-3013			613	689	445	S13		716.7	3.87	黄
K5-3016			638	711	451	S16		1123.5	6.27	白
K5-3508			616	721	486	S8		280.1	1.56	赤
K5-3510	350	≦ 370	645	739	490	S10	50	403.5	2.32	緑
K5-3513			670	761	496	S13		716.7	4.25	黄
K5-3516			695	783	502	S16		1123.5	6.87	白
K5-4010			705	810	540	S10		403.5	2.53	緑
K5-4013	400	≦ 420	731	832	546	S13	50	716.7	4.64	黄
K5-4016			756	854	552	S16		1123.5	7.47	白
K5-4510			766	880	590	S10		403.5	2.75	緑
K5-4513	450	≦ 470	791	902	596	S13	50	716.7	5.03	黄
K5-4516			817	925	602	S16		1123.5	8.08	白
K5-5010			827	951	640	S10		403.5	2.96	緑
K5-5013	500	≦ 520	852	973	646	S13	50	716.7	5.40	黄
K5-5016			878	995	652	S16		1123.5	8.69	白
K5-5510			882	1,022	690	S10		403.5	3.17	緑
K5-5513	550	≦ 570	908	1,044	696	S13	50	716.7	5.77	黄
K5-5516			933	1,066	702	S16		1123.5	9.27	白
K5-6010			957	1,107	750	S10		403.5	3.43	緑
K5-6013	600	≦ 630	983	1,129	756	S13	50	716.7	6.24	黄
K5-6016			1,008	1,151	762	S16		1123.5	9.99	白
K5-6510			1,004	1,163	790	S10		403.5	3.60	緑
K5-6513	650	≦ 670	1,029	1,185	796	S13	50	716.7	6.54	黄
K5-6516			1,055	1,208	802	S16		1123.5	10.46	白
K5-7010			1,065	1,234	840	S10		403.5	3.82	緑
K5-7013	700	≦ 720	1,090	1,256	846	S13	50	716.7	6.92	黄
K5-7016			1,115	1,278	852	S16		1123.5	11.06	白
K5-7510			1,097	1,276	870	S10		403.5	3.94	緑
K5-7513	750	≦ 750	1,122	1,298	876	S13	50	716.7	7.14	黄
K5-7516			1,148	1,321	882	S16		1123.5	11.40	白



・鉄筋の材質　KSS785－K
（認定番号　KMSRB－0004）

・有効断面積（αr）はA－A部の断面×√2



<K4シリーズ>　<K5シリーズ>

キャップ

※MAXリンブレンK型の採用。施工における注意点

- MAXリンブレンK型の補強計算内容および結果は設計者、工事監理者、元請施工管理者が必ず確認して下さい。
- MAXリンブレンK型の採用に関しては、設計者および工事監理者の承認を得て下さい。
- MAXリンブレンK型の施工に際しては、元請施工管理者の管理の下に行って下さい。

K－06－20210902－A

株式会社 佐藤総合計画
設計番号 04453-010　工事名称 鞍手町庁舎等建設工事
図面名 各棟共通　ＭＡＸリンブレンＫ型　設計･施工標準仕様書 (2)
縮尺 A1 1: -　A3 1: -
種別 SA
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号
建設コンサルタント　登録番号　建01第843号
総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹
構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典
担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した
構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司
法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した
設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅
作成日 2022.3
番号 012

鉄骨ばり貫通孔補強　ハイリングⅢ工法設計施工標準

国土交通大臣認定：ハイリング　MSTL-0234,0515,0544,0548
国土交通大臣認定：ＳＰスティック　MSTL-0451
日本建築センター評定：BCJ評定－ST0095

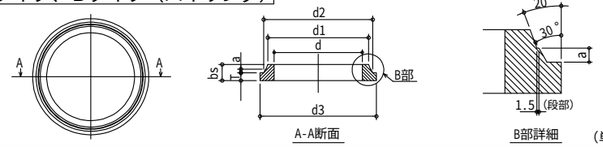
2021年4月

１．材質

ハイリング：HFW490,HR490※1（SN490B同等）またはSN490B規格
ＳＰスティック：HFW490rm※2(SN490B同等)
※1：国土交通大臣認定取得材（MSTL－0234,0515,0544,0548）　※2：国土交通大臣認定取得材（MSTL－0451）

２．型式・形状・寸法

Ｒタイプ、Ｂタイプ（ハイリング）

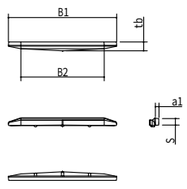


（単位：mm）

貫通孔径	型式※1	適用ウェブ厚範囲	鉄骨ウェブ下孔径	内径 d ※2	幅 bs	フランジ厚 T	d1	d2	外径 d3	a	質量 (kg)	採用
φ100	100R	5.5-19	φ140	100	22	8.5	115	130	150	5.5	1.1	
	100B	8.5-29	φ145		32	12	114	135	155	8.5	1.7	
φ125	125R	5.5-19	φ165	125	25	10	139	155	175	5.5	1.4	
	125B	8.5-29	φ175		32	14	145	165	185	8.5	2.5	
φ150	150R	5.5-19	φ195	150	25	10	169	185	205	5.5	2.0	
	150B	9-31	φ205		36	14	172	195	215	9	3.5	
φ175	175R	5.5-19	φ225	175	25	10	199	215	235	5.5	2.6	
	175B	9-31	φ230		36	18	200	220	240	9	4.5	
φ200	200R	6-21	φ250	200	25	12	225	240	260	6	3.1	
	200B	9-31	φ260		40	18	227	250	270	9	5.9	
φ225	225R	6-21	φ275	225	25	12	250	265	285	6	3.5	
	225B	9-31	φ290		40	20	259	280	300	9	7.5	
φ250	250R	7.5-26	φ300	250	28	12	272	290	310	7.5	4.1	
	250B	10-32	φ320		45	22	286	310	330	10	9.9	
φ275	275R	7.5-26	φ325	275	28	12	297	315	335	7.5	4.4	
	275B	10-32	φ340		50	24	304	330	350	10	11	
φ300	300R	8-28	φ350	300	28	12	322	340	360	8	4.8	
	300B	11-32	φ370		55	26	331	360	380	11	14	
φ350	350R	8-28	φ400	350	32	14	370	390	410	8	6.3	
	350B	11-32	φ425		60	28	384	415	435	11	19	
φ400	400R	8-28	φ455	400	32	14	425	445	465	8	8.0	
	400B	11-32	φ480		62	30	439	470	490	11	24	
φ450	450R	10-32	φ525	450	50	22	487	515	535	10	19	
	450B	14-32	φ550		74	38	505	540	560	14	41	
φ500	500R	10-32	φ575	500	50	22	537	565	585	10	21	
	500B	15-32	φ610		75	40	565	600	620	15	52	
φ550	550R	10-32	φ630	550	55	22	589	620	640	10	27	
	550B	15-32	φ655		75	40	610	645	665	15	54	
φ600	600R	10-32	φ680	600	55	22	639	670	690	10	29	
	600B	15-32	φ700		80	40	650	690	710	15	57	

※1：応力検討等にて上記型式で対応できない場合は、別途お問い合わせください。
※2：内径dが600を超える場合は、別途お問い合わせください。

Sタイプ（SPスティック）



（単位：mm）

標準孔径 d	型式	適用ウェブ厚範囲	適用可能貫通孔径	B1	B2	S	tb	a1	質量 (kg)※1	採用
φ100	100S	32以下	φ50-100	150	100	12	14	8	0.32	
φ125	125S		φ101-125	175	125	12	15	7	0.40	
φ150	150S		φ126-150	205	150	14	15	7	0.54	
φ175	175S		φ151-175	235	175	14	16	7	0.68	
φ200	200S		φ176-200	260	200	16	21	8	1.0	
φ225	225S		φ201-225	285	225	16	21	8	1.2	
φ250	250S		φ226-250	310	250	20	23	9	1.8	
φ275	275S		φ251-275	335	275	20	23	9	1.9	
φ300	300S		φ276-300	360	300	23	27	10	2.6	
φ350	350S		φ326-350	410	350	25	30	10	3.6	
φ400	400S		φ376-400	465	400	28	30	10	4.6	
φ450	450S		φ426-450	535	450	30	35	11	6.4	

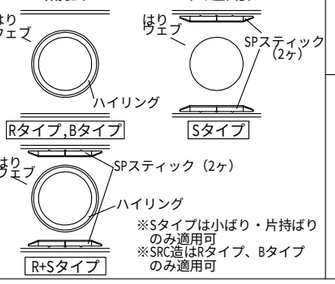
※1：2ヶ分の質量

R+Sタイプ（ハイリング+SPスティック）

（単位：mm）

貫通孔径	型式	適用ウェブ厚範囲	鉄骨ウェブ下孔径	使用金物 ハイリング	使用金物 SPスティック
φ100	100R+S	5.5~19	φ140	100R	100S
φ125	125R+S	5.5~19	φ165	125R	125S
φ150	150R+S	5.5~19	φ195	150R	150S
φ175	175R+S	5.5~19	φ225	175R	175S
φ200	200R+S	6~21	φ250	200R	200S
φ225	225R+S	6~21	φ275	225R	225S
φ250	250R+S	7.5~26	φ300	250R	250S
φ275	275R+S	7.5~26	φ325	275R	275S
φ300	300R+S	8~28	φ350	300R	300S
φ350	350R+S	8~28	φ400	350R	350S
φ400	400R+S	8~28	φ455	400R	400S
φ450	450R+S	10~32	φ525	450R	450S

３．補強パターン（S造用）



※Sタイプは小ばり・片持ばりのみ適用可
※SRC造はRタイプ、Bタイプのみ適用可

４．設計

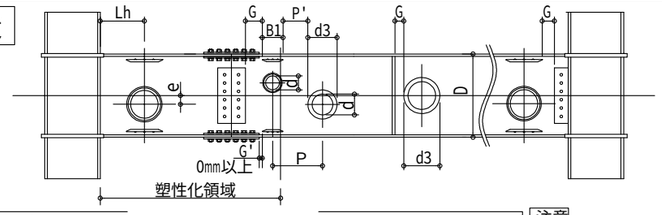
ハイリング,SPスティックを用いて補強した有孔部の耐力が、孔位置に生じる応力を上回ることの確認が必要。

５．適用範囲及び適用規定

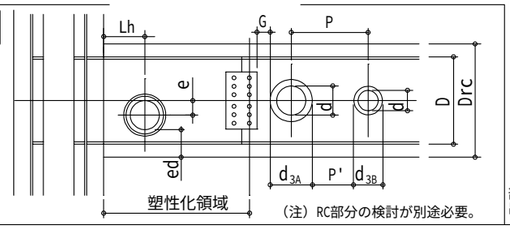
項　目		規　定	
構造種別		S造	SRC造
はりの鉄骨断面		H形断面	H形断面
補強タイプ		Rタイプ、Bタイプ、R+Sタイプ、Sタイプ	Rタイプ、Bタイプ
貫通孔径（d）		φ100～φ600	φ100～φ600
はり材質		**400N/mm²級　490N/mm²級　520N/mm²級 550N/mm²級　590N/mm²級**	400Ｎ/mm²級　490Ｎ/mm²級
鉄骨のはり成（D）		2400mm以下	1200mm以下
塑性化領域※1 への貫通孔		**2ヶ所まで（ただし、貫通孔径の合計は2/3D以下）**	1ヶ所まで
鉄骨はりウェブの幅厚比		**95以下（塑性化領域※1では部材種別FA・FBのみ）**	95以下
鉄骨のウェブ厚（tw）		32mm以下	32mm以下
鉄骨はり成(D)とフランジ幅(B)の比		D/B≦8	D/B≦8
鉄骨はり成(D)とRCはり成(Drc)の比		—	D/Drc≧0.37
孔径比（d/D）		2/3以下	0.7以下かつRCはり成の0.4以下（塑性化領域※1　ではRCはり成の0.28以下とする）
梁端～孔中心距離（Lh）※2		Lh≧max$\left(\frac{D}{12},100\right)+\frac{1}{2}$d	RCはり成(Drc)の0.4倍以上
偏心量（e）	Rタイプ Bタイプ	大ばりの塑性化領域の場合： e≦$\frac{1}{2}\left(\frac{2}{3}D-d\right)$　かつ　e≦$\frac{D}{2}-(tf+rf+5)-\frac{d_3}{2}$ それ以外：e≦$\frac{1}{2}$ (D-2(tf+rf+5)-d_3)	e≦$\frac{1}{2}\left(\frac{2}{3}D-d\right)$　かつ　e≦ $\frac{D}{2}-(tf+rf+5)-\frac{d_3}{2}$ ※3 ただしd≧$\frac{2}{3}$ Dではe=0
	R+Sタイプ	大ばりの塑性化領域の場合： e≦$\frac{1}{2}\left(\frac{2}{3}D-d\right)$　かつ　e≦$\frac{D}{2}-(tf+2a1+5)-\frac{d_3}{2}$ -S それ以外 :e≦$\frac{D}{2}-(tf+2a1+5)-\frac{d_3}{2}$ -S	—
tf:はりフランジ厚 rf:フィレット部半径 (ビルドHの場合は脚長)	Sタイプ	e≦$\frac{D}{2}-(tf+2a1+5)-\frac{d}{2}$ -S	—
隣接する孔の最小ピッチ		P≧1.5dかつP'≧20mm ただし連続する孔の径が異なる場合は径の平均のdをとる。 またP'とは隣接するハイリングまたはＳＰスティックのあきの寸法を示す。 （例）ハイリング同士の場合 P'= P- $\frac{d_{3A}}{2}-\frac{d_{3B}}{2}$	P≧3.0dかつP'≧20mm ただし連続する孔の径が異なる場合は径の平均のdをとる。 またP'とは隣接するハイリングの最大外径のあきの寸法で次式にて示す。 P'= P- $\frac{d_{3A}}{2}-\frac{d_{3B}}{2}$
ハイリング(またはSPスティック)端～ガセットプレートなどの端までの距離(G)		20mm以上	20mm以上
梁に設計用軸力が作用する場合 ※4 補強パターン1：ハイリングのみ 補強パターン2：ハイリング+孔補強		軸力範囲：-0.25Ny～+0.25Ny（Ny：はりの軸耐力） 補強タイプ：Rタイプ、Bタイプ　孔径比(d/D)：1/2以下 塑性化領域：適用不可　部材種別：FA・FBのみ	適用不可
SPスティック端～フランジスプライスプレートの距離(G')		0mm以上	—

※1 塑性化領域：梁端部から0.1L以内または鉄骨はり成（SRC造の場合はＲＣはり成）の2倍以内の範囲（大きい方、L=はり内法長）
ただし、シアスパン比（L/D）が6以下の場合は梁端部から0.1L以内または鉄骨はり成の1倍以内の範囲（大きい方）
※2 耐力確認により本規定以上の寸法が必要な場合がある。
※3 SRC造では貫通孔の縁あきedを180mm以上確保し、貫通孔縁における梁主筋の適切なかぶり厚さを確保する。
※4 補強パターンは設計者にてご確認の上、選択ください。補強パターン１の場合は軸力負担を考慮した有孔部断面で検討する。
補強パターン2の場合は軸力負担可能な断面を有するプレートにて貫通孔部を補強するものとし、補強プレートの貫通孔中央部断面が軸力負担可能な断面積を有するよう設計者にて検討するものとする（センクシアでは補強プレートの設計、手配は行わない）。

S 造

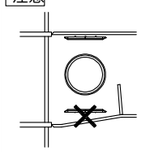


SRC造



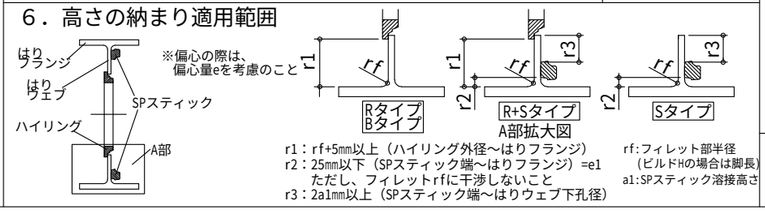
（注）RC部分の検討が別途必要。

注意



ＳＰスティックはハンチ部分に取り付けることは出来ません。

６．高さの納まり適用範囲



r1：rf+5mm以上（ハイリング外径～はりフランジ）
r2：25mm以下（SPスティック端～はりフランジ）=e1
ただし、フィレットrfに干渉しないこと
r3：2a1mm以上（SPスティック端～はりウェブ下孔径）

rf:フィレット部半径
（ビルドHの場合は脚長）
a1:SPスティック溶接高さ

７．工場加工

７－１．施工指針

ハイリングの施工に関する指針は以下の通りとする。
本標準図に規定される以外の事項は、『鉄骨工事技術指針』、『建築工事標準仕様書（JASS6）』、『建築構造用高性能590N/mm² 鋼材(SA440)設計・溶接施工指針』等、関係基準・指針による。

７－２．溶接材料

「鉄骨工事技術指針・工場製作編(2007改訂)」（日本建築学会）等の指針に規定されるはり材とハイリング・SPスティック（490N/mm²級）で強度ランクの高い方の材料に適した溶接材料を使用する。

７－３．予熱

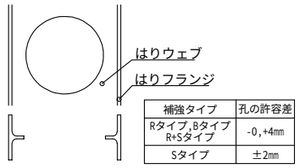
鋼材の種類や板厚により、必要に応じて適切な条件を選定する。
ただし、はりウェブ鋼種がSA440の場合の予熱は右表を目安とする。
予熱の範囲は、溶接線の両側100mmの範囲とする。

溶接方法	SA440
被覆アーク溶接	100℃以上
ガスシールドアーク溶接	60℃以上

気温が5℃以下の場合は、上記+25℃の予熱温度とする

７－４．ハイリング・SPスティックの鉄骨ばりへの取付け

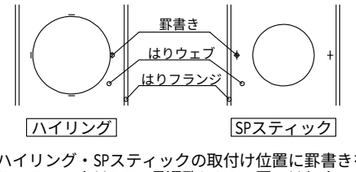
（１）はりウェブの孔あけ



補強タイプ	孔の許容差
Rタイプ,Bタイプ R+Sタイプ	-0,+4mm
Sタイプ	±2mm

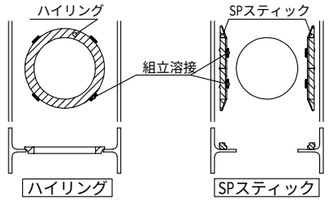
ハイリング・SPスティックの取付け位置を確認し、はりウェブに孔をあける。
ハイリングを取付ける下孔まわりのバリ、溶接面の水分、ゴミ等は適切な方法で除去する。

（２）位置決め



ハイリング・SPスティックの取付け位置に罫書きを入れる。
SPスティックは1つの貫通孔に2つ、同一はりウェブ面に取付ける。取付け時はSPスティックの取付目印（突起）がはりフランジ側になるように取付ける。
SPスティックの設置許容差は（7）参照。

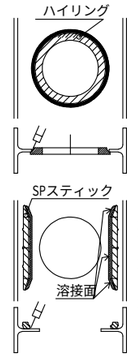
（３）組立溶接



組立溶接は、1パスとし下表による。
はりウェブ鋼種がSA440の場合は、サイズは6mm以上で長さ50mm以上とする。

組立溶接	ハイリング	SPスティック
箇所数	2~4ヶ	2ヶ
脚長	4~6mm程度	4mm程度
ビード長さ	40mm以上	40mm以上

（4）本溶接　溶接姿勢は下向きとする。



ハイリング

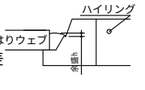
組立溶接完了後、はりを反転し、はりウェブとハイリングの本溶接を行う。
本溶接は、a以上ウェブ厚tw以下とする。
溶接は、段部が隠れるまで溶接する。
（6）検査参照。

SPスティック

SPスティックのはりフランジ側以外の面をはりウェブと隅肉溶接する。
溶接端部はSPスティックのR部付け根以上まで溶接する。
溶接サイズは、a1以上かつa1の1.5倍以下とし、溶接目安が隠れるまで溶接する。
（6）検査参照。

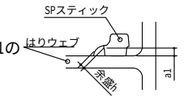
（5）余盛

ハイリング



余盛高さhは、段部が隠れた状態で3mmを標準とし、許容差±3mmとする。

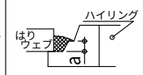
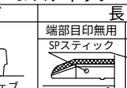
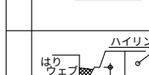
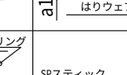
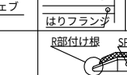
SPスティック



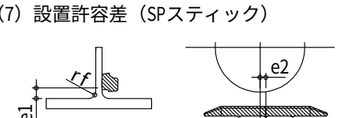
余盛高さhは、隅肉サイズa1の0.6倍以下とする。

（6）検査

溶接部の検査は、目視による外観検査とする。

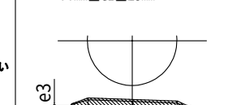
	ハイリング	SPスティック サイズ	SPスティック 長さ※1 端部目印無用	SPスティック 長さ※1 端部目印有用
可				
不可	 必要溶接サイズaを確保できていない 段部が隠れるまで溶接されていない	 必要溶接サイズa1を確保できていない	 R部付け根まで溶接されていない 端部目印まで溶接されていない	

（7）設置許容差（SPスティック）



（a）はりフランジとの隙間e1
rfmm≦e1≦25mm

（b）中心のズレe2
e2≦10mm



（c）傾きe3
e3≦3mm

（d）はりウェブとの隙間e4
e4≦3mm

※1　ＳＰスティックは納入時期により端部目印が無い場合があります。
注意：連続孔の場合は、ハイリングを同じ向きで溶接するとはりが歪む場合があります。

センクシア株式会社
東京：TEL,03-4214-1928　関東：TEL,027-322-9411　関西：TEL,06-6395-2133
札幌：TEL,011-708-1177　中部：TEL,052-582-3356　中四国：TEL,082-240-1630
東北：TEL,022-213-5595　北陸：TEL,076-233-5260　九州：TEL,092-452-0341

株式会社 佐藤総合計画
設計番号 04453-010　工事名称 鞍手町庁舎等建設工事
図面名 各棟共通 鉄骨ばり貫通孔補強 ハイリングⅢ工法設計施工標準図
縮尺 A1 1: -　A3 1: -
種別 SA
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号　建設コンサルタント 登録番号 建01第843号
総括 統括 一級建築士 第336340号 福原 正樹　構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司
法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅
担当
作成日 2022.3
番号 012A

ハイベースNEO工法設計施工標準（ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用）

2018/7

大臣認定 MSTL-0404,0180（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0046（アンカー用ボルトセット）
BCJ評定 BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設 計

1. 材質

（1） ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（EB型式、EM型式、EH型式）

	ベースプレート		アンカーボルト※2	エコナット※2	ナット※2	座 金※2	定着板
規 格	JIS G3136	TMCP鋼※4	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備 考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	-	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ（GB型式、GM型式、GH型式）

	ベースプレート※1	アンカーボルト※2	ナット※2	座 金※2	定着板
規 格	HCW490b HCW490st（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	メートル並目※3	メートル並目※3	—	—
備 考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5（二重ナット時） 強度区分8（一重ナット時）	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定（MSTL-0404、0180） ※2 国土交通大臣認定（MBLT-0042～0046）
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

（2）ベースプレート下面のモルタル

後詰め モルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
中心塗 部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル （NX2000及びクイック3は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（3）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Fc=18～36N/ mm²
鉄 筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱 形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0。1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品

（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径 φd	ねじ ピッチ P	ねじ 長さ S	余長※2 a	定着長さ L	全長 L0	アンボンドスリーブ 外径 E	エコナット 高さ H0	エコナット 二面幅 B0	エコナット 対角距離 C0	ナット 高さ H	ナット 二面幅 B	ナット 対角距離 C	座金 厚さ tw	座金 内径 φd1	座金 外径 φD1
M24	24	3	95/105	10	400/480	550/645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	110/130	13	400/600	580/800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130	16	480/720	690/925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3 上段はEB型式及びEM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

⚠注意
・エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品

（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径 φd	ねじ ピッチ P	ねじ 長さ S	余長※2 a	定着長さ L	全長 L0	アンボンドスリーブ 外径 E	ナット 高さ H	ナット 二面幅 B	ナット 対角距離 C	座金 厚さ tw	座金 内径 φd1	座金 外径 φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130/150	16	720	925/955	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155/165	18	840	1080/1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175/190	22	960	1235/1270	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	185/210	24	1120	1420/1470	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	200/230	28	1280	1610/1660	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※1
t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。

※2
a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。

※3
上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

⚠注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87

定着板（エコタイプ、Gタイプ共通） (mm)

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ ts	外径 Ds	内径 ds	8本タイプ用 厚さ td	長さ ad	幅 bd	内径 dd	12本タイプ用 厚さ tt	長さ at	幅 bt	内径 dt
M24	16	70	27	-	-	-	-	-	-	-	-
M30	16	90	33	9	180	65	33	-	-	-	-
M36	19	100	39	9	215	75	39	-	-	-	-
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	-	-	-	16	380	145	76	16	375	145	76

ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

各 部 名 称	寸 法	備 考
中心塗り部分モルタルの厚さ（tm）	標準寸法 tm=50mm	許容範囲 30≦tm≦70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（em）	em≧30mm	許容範囲 em≧25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）

基礎柱形主筋の定着長さ（Lt）は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

1. 溶 接 材 料

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm²級高張力鋼用（JIS Z3211、旧JIS Z3212）相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm² 級高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ（JIS Z3312）相当以上

※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる
※開先形状は参考

⚠注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

3. 組立溶接

4. 本溶接の手順

角形鋼管：対辺ごとに溶接を行う。（自動ロボット溶接の場合はこれによらない）
円形鋼管：1パスごとに全周溶接を行う。

5. 溶 接 施 工 一 般

予 熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余 盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する（Gタイプ）。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

⚠注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がることがあります。

6. 検 査

方 法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（1） 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （2） 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

現 場 施 工

（#）：センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

2. 墨出し

3. アンカーボルト搬入（#）

4. アンカーボルト据付（#）

アンカーボルト設置：アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値

平 面	レ ベ ル
e≦3mm（形板芯にて検査）	基準高さよりの誤差eh -3mm≦eh≦10mm

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

7. 中心塗り部分モルタル施工

中心塗部分モルタル
NX2000、クイック3は使用不可。

後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
注入方法はヘッド圧工法による。

（イ） □250以下、φ267。4以下、H250以下の場合
100mm ≦ a ≦200mm かつ柱寸法 D以下
（ロ） □300以上□700以下、φ300以上φ711。2以下、および H250以上の場合
150mm ≦ a ≦300mm かつ柱寸法 D以下
（ロ） □750～□1200、φ750～φ1016の場合
300mm ≦ a ≦500mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH型式	GH型式
8。鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	8。鉄骨建方 9。モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充塡（#）
9～10。モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充塡（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	10。アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30°回転、許容差：+10° -0）

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社　URL https://www.senqcia.co.jp/

本社 TEL 03-3615-5432　関東 TEL 027-322-9411　北陸 TEL 076-233-5260　九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177　横浜 TEL 045-548-9881　関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595　中部 TEL 052-582-3356　中四国 TEL 082-240-1630

⚠注意
1。アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充塡、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2。アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3。設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4。建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5。本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 各棟共通 ハイベースNEO工法設計施工標準	縮尺 A1 1: - A3 1: -	番号 013
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3

ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc24の場合）〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

（ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用）
（ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用）

大臣認定 MSTL-0404,0180（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0046（アンカーボルト）

BCJ評定 BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ６鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2019/6

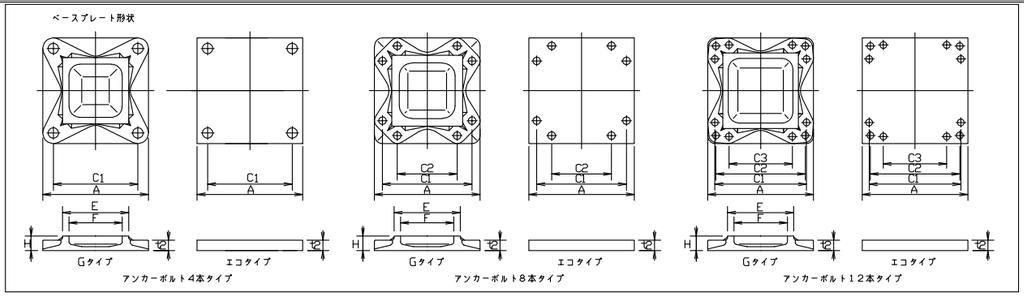
型式表示例

エコタイプ：　EB350-8-36

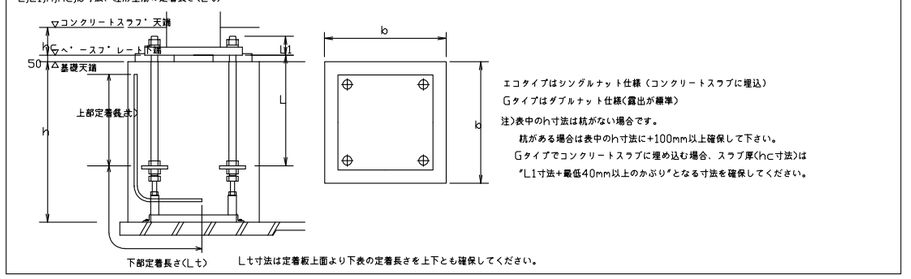
Gタイプ　：　GB500-8-42
- 42：アンカーボルト径
- 8：アンカーボルト本数
- 500：柱外形寸法
- GB：角形鋼管柱用

・ハイベースNEO工法
（角形鋼管柱用□150～□550）

ベースプレート形状



L,L1,h,hc,b寸法、柱脚主筋の定着長さ（Lt）



エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様（露出が標準）
注）表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚（hc寸法）は
"L1寸法＋最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

Lt寸法は定着板上面より下表の定着長さを上下とも確保してください。

採用		適用柱		ハイベースNEO型式		アンカーボルト	回転バネ定数 X10 kN・m/rad	寸法（mm）							質量（kg）			L（mm）	L1（mm）	基礎天端～ベースプレート下端～捨てコン天端クリートスラブ天端 基礎柱形の設計例(Fc24) ＜ 側・隅柱用 ＞								基礎柱形の設計例(Fc24) ＜ 中柱用（4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。）＞							
																				h(mm)	hc(mm)	Ⅰゾーン 柱形 b(mm)	Ⅰゾーン 主筋量	Ⅰゾーン 帯筋	Ⅱゾーン 柱形 b(mm)	Ⅱゾーン 主筋量	Ⅱゾーン 帯筋	鉄筋の定着長さ Lt（mm）	Ⅰゾーン 柱形 b(mm)	Ⅰゾーン 主筋量	Ⅰゾーン 帯筋	Ⅱゾーン 柱形 b(mm)	Ⅱゾーン 主筋量	Ⅱゾーン 帯筋	鉄筋の定着長さ Lt（mm）
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t2	ベースプレート	部品	セット質量																
		□150	4.5～12	EB150-4-24		4-M24	14.0	290	210	-	-	-	-	-	25	17	14	31	400	80	550以上	120	500	8-D16	D13@150	500	16-D16	D13@150	210	500	8-D16	D13@150	500	16-D16	D13@150	210
		□175	4.5～12	EB175-4-24		4-M24	17.9	310	230	-	-	-	-	-	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	200	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	200
		□200	6～12	EB200-4 -24		4-M24	21.9	340	260	-	-	-	-	-	25	23	14	37	400	80	600以上	120	550	8-D16	D13@150	550	16-D16	D13@150	190	550	8-D16	D13@150	550	16-D16	D13@150	190
				-30		4-M30	35.4	360	270						32	33	23	56	400	102	600以上	150	570	8-D19	D13@150	570	16-D19	D13@150	300	570	8-D19	D13@150	570	16-D19	D13@150	300
				-36		4-M36	41.4	360	270						40	41	36	77	480	117	700以上	160	580	12-D19	D13@150	580	20-D19	D13@100	340	580	12-D19	D13@150	580	20-D19	D13@100	340
		□250	6～16	EB250-4 -24		4-M24	32.2	390	310	-	-	-	-	-	25	30	15	45	400	80	600以上	120	600	8-D19	D13@150	600	12-D19	D13@150	190	600	8-D19	D13@150	600	12-D19	D13@150	190
				-30		4-M30	51.3	410	320						32	43	23	66	400	102	600以上	150	610	8-D19	D13@150	610	16-D19	D13@150	280	610	8-D19	D13@150	610	16-D19	D13@150	280
				-36		4-M36	59.7	410	320						40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13@150	610	20-D19	D13@100	330	610	12-D19	D13@150	610	20-D19	D13@100	330
				EB250-8-30		8-M30	51.1	450	360	190					40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13@150	640	20-D22	D13@100	450	640	12-D22	D13@150	640	20-D22	D13@100	450
bC1,2				EB300-4 -30		4-M30	70.1	460	370	-					32	54	24	78	400	102	600以上	150	660	8-D19	D13@150	660	16-D19	D13@150	270	660	8-D19	D13@150	660	16-D19	D13@150	270
				-36		4-M36	82.9	460	370						40	67	37	104	480	117	700以上	160	660	12-D19	D13@100	660	20-D19	D13@100	330	660	12-D19	D13@100	660	20-D19	D13@100	330
		□300	6～19	EB300-8 -30		8-M30	69.4	500	410	240					36	71	51	122	600	106	800以上	150	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	430	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	430
				-36		8-M36	84.0	510	420	220					44	90	82	172	720	121	900以上	170	720	16-D25	D13@150	720	24-D25	D13@100	590	720	16-D25	D13@150	720	24-D25	D13@100	590
				EB350-4-30		4-M30	93.1	510	420	-					32	66	24	90	400	102	600以上	150	710	8-D19	D13@100	710	16-D19	D13@100	240	710	8-D19	D13@100	710	16-D19	D13@100	240
				-30		8-M30	89.5	550	460	290					36	86	52	138	600	106	800以上	150	750	16-D22	D13@150	750	20-D22	D13@150	470	750	16-D22	D13@150	750	20-D22	D13@150	470
			9～22	EB350-8 -36		8-M36	105	560	470	270					40	99	83	182	720	117	900以上	160	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	560	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	560
				-42		8-M42	133	590	480	260					48	132	131	263	840	138	1100以上	180	790	20-D25	D13@150	790	32-D25	D13@100	700	790	20-D25	D13@150	790	32-D25	D13@100	700
		□350			GB350-4 -42	4-M42	128	550	440	-				75	50	107	72	179	840	145	1100以上	-	750	12-D25	D13@150	750	16-D25	D13@150	480	750	12-D25	D13@150	750	16-D25	D13@150	480
					-48	4-M48	156	590	460					90	61	142	113	255	960	168	1200以上	-	790	12-D25	D13@150	790	20-D25	D13@150	580	790	12-D25	D13@150	790	20-D25	D13@150	580
			9～25		-30	8-M30	150	540	450	280	-	356	280	55	28	77	52	129	600	95	800以上	-	740	16-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	470	740	16-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	470
				GB350-8	-36	8-M36	188	560	470	270				65	36	95	83	178	720	116	900以上	-	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	560	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	560
					-42	8-M42	216	590	480	260				70	45	118	131	249	840	140	1100以上	-	790	20-D25	D13@100	800	32-D25	D16@100	610	790	20-D25	D13@100	800	32-D25	D16@100	610
				-30		8-M30	111	600	510	340					36	102	52	154	600	106	800以上	150	800	16-D22	D13@150	800	20-D22	D13@150	450	800	12-D22	D13@150	800	20-D22	D13@150	450
			9～25	EB400-8 -36		8-M36	127	610	520	320	-	-	-	-	40	117	83	200	720	117	900以上	160	820	16-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	540	820	12-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	540
				-42		8-M42	175	640	530	310					48	155	131	286	840	138	1100以上	180	840	20-D25	D13@100	840	32-D25	D13@100	700	840	20-D25	D13@100	840	32-D25	D13@100	700
		□400			GB400-4 -42	4-M42	163	600	490	-				75	49	129	73	202	840	144	1100以上	-	810	12-D25	D13@100	810	16-D25	D13@100	400	810	12-D25	D13@100	810	16-D25	D13@100	400
					-48	4-M48	194	640	510					85	59	165	114	279	960	166	1200以上	-	840	12-D25	D13@100	840	20-D25	D13@100	500	840	12-D25	D13@100	840	20-D25	D13@100	500
			9～32		-36	8-M36	234	610	520	320	-	408	320	60	34	110	83	193	720	114	900以上	-	820	16-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	540	820	16-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	540
				GB400-8	-42	8-M42	282	640	530	310				70	42	136	131	267	840	137	1100以上	-	840	20-D25	D13@100	850	32-D25	D16@100	600	840	20-D25	D13@100	850	32-D25	D16@100	600
					-48	8-M48	321	680	550	300				80	52	176	211	387	960	159	1300以上	-	880	20-D29	D13@100	890	28-D29	D16@100	790	880	20-D29	D13@100	890	28-D29	D16@100	790
			9～25	EB450-8 -36		8-M36	169	660	570	370	-	-	-	-	44	150	84	234	720	121	900以上	170	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	520	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	520
				-42		8-M42	199	690	580	360					48	180	132	312	840	138	1100以上	180	890	24-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	680	890	20-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	680
		□450			GB450-4 -42	4-M42	199	650	540	-				75	48	153	73	226	840	143	1100以上	-	860	12-D25	D13@100	860	16-D25	D13@100	390	860	12-D25	D13@100	860	16-D25	D13@100	390
					-48	4-M48	236	690	560					85	58	192	116	308	960	165	1200以上	-	890	12-D25	D13@100	890	20-D25	D13@100	480	890	12-D25	D13@100	890	20-D25	D13@100	480
			9～36		-36	8-M36	296	660	570	370	-	458	360	60	32	130	84	214	720	112	900以上	-	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	520	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	520
				GB450-8	-42	8-M42	348	690	580	360				65	40	158	132	290	840	135	1100以上	-	890	24-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	680	890	20-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	680
					-48	8-M48	413	730	600	350				75	49	196	213	409	960	156	1300以上	-	930	20-D29	D13@100	940	28-D29	D16@100	770	930	20-D29	D13@100	940	28-D29	D16@100	770
				EB500-8 -36		8-M36	210	710	620	420	-				44	173	89	262	720	121	900以上	170	950	16-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	510	950	12-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	510
			9～28	-42		8-M42	238	740	630	410		-	-	-	48	207	133	340	840	138	1100以上	180	950	24-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	660	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	660
				EB500-12-42		12-M42	396	740	630	600	350				60	258	197	455	840	150	1100以上	190	950	28-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	600	950	20-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	600
					-42	4-M42	244	700	590	-				80	47	183	74	257	840	142	1100以上	-	910	12-D25	D13@100	910	16-D25	D13@100	390	910	12-D25	D13@100	910	16-D25	D13@100	390
				GB500-4	-48	4-M48	290	740	610					90	57	226	127	353	960	164	1200以上	-	950	12-D25	D13@100	950	20-D25	D13@100	470	950	12-D25	D13@100	950	20-D25	D13@100	470
		□500			-36	8-M36	354	710	620	420				65	30	154	89	243	720	110	900以上	-	950	16-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	510	950	16-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	510
			9～40		-42	8-M42	421	740	630	410				70	37	181	133	314	840	132	1100以上	-	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	660	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	660
				GB500-8	-48	8-M48	489	780	650	400				80	46	225	215	440	960	153	1300以上	-	1000	20-D29	D13@100	1000	28-D29	D16@100	740	1000	20-D29	D13@100	1000	28-D29	D16@100	740
					-64	8-M64	659	850	690	390				105	68	346	464	810	1280	210	1600以上	-	1100	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1100	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1100
					-48	12-M48	695	780	650	610	320			90	57	265	304	569	960	164	1300以上	-	1000	24-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	760	1000	16-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	760
				GB500-12	-56	12-M56	771	810	670	630	300			105	72	342	455	797	1120	195	1450以上	-	1050	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1050	24-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980
C1～4				EB550-8-42		8-M42	317	800	690	470	-				48	242	133	375	840	138	1100以上	180	1000	24-D25	D13@100	1000	32-D25	D13@100	1000	32-D25	D13@100	650
			9～28	EB550-12-42		12-M42	475	790	680	650	400				60	294	198	492	840	150	1100以上	190	1000	28-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	600	1000	20-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	600
					-48	4-M48	339	790	660	-				90	56	257	129	386	960	163	1200以上	-	1000	12-D25	D16@150	1000	20-D25	D16@150	460	1000	12-D25	D16@150	1000	20-D25	D16@150	460
				GB550-4	-56	4-M56	408	820	680					100	69	308	187	495	1120	192	1350以上	-	1050	16-D25	D16@150	1050	28-D25	D16@150	580	1050	16-D25	D16@150	1050	28-D25	D16@150	580
					-36	8-M36	419	760	670	470				65	29	180	90	270	720	109	900以上	-	1000	16-D25	D13@100	1000	24-D25	D13@100	500	1000	16-D25	D13@100	1000	24-D25	D13@100	500
		□550	9～40		-42	8-M42	498	790	680	460	-			70	36	207	133	340	840	131	1100以上	-	1000	24-D25	D13@100	1000	32-D25	D13@100	650	1000	20-D25	D13@100	1000	32-D25	D13@100	650
				GB550-8	-48	8-M48	580	830	700	450				75	45	250	217	467	960	152	1300以上	-	1050	20-D29	D16@150	1050	28-D29	D16@150	820	1050	20-D29	D16@150	1050	28-D29	D16@150	820
					-64	8-M64	806	900	740	440				95	65	367	467	834	1280	207	1600以上	-	1150	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1100	1150	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1100
					-48	12-M48	817	830	700	660	370			85	55	288	306	594	960	162	1300以上	-	1050	24-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	760	1050	20-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	760
				GB550-12	-56	12-M56	923	860	720	680	350			100	69	366	458	824	1120	192	1450以上	-	1100	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1100	24-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。　表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

注 1）Ⅰ,Ⅱゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2）上記表内の〈中柱用〉とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、〈側・隅柱用〉を御採用下さい。
注 3）表中の鉄筋量は基礎立上がりのない場合（基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4）〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD450以下はD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
注 5）部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
URL　https://www.senqcia.co.jp/
本社　TEL 03-4214-1932
札幌　TEL 011-708-1177
東北　TEL 022-213-5595
関東　TEL 027-322-9411
横浜　TEL 03-4214-1945
中部　TEL 052-582-3356
北陸　TEL 076-233-5260
関西　TEL 06-6395-2133
中四国TEL 082-240-1630
九州　TEL 092-452-0341

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名	各棟共通　ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（1）	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 014
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc24の場合）〈円形鋼管柱用 φ190.7～φ1016〉

（ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用）
（ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用）

大臣認定　MSTL-0404,0180〈Gタイプ用ベースプレート〉
MBLT-0042～0046〈アンカーボルト〉

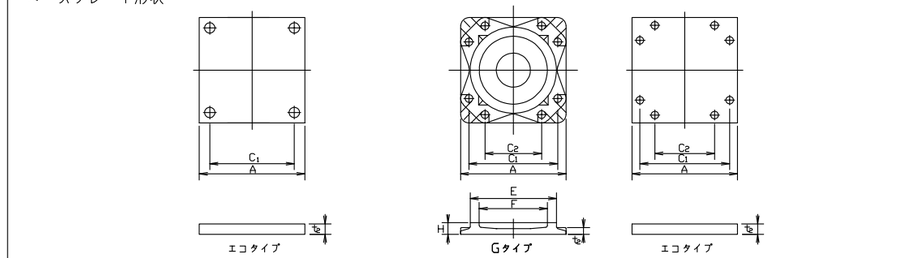
BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）　本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ６鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059（エコタイプ）　同解説ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2019/6

型式表示例

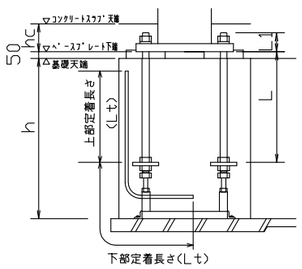
エコタイプ：EM350-8-36
Gタイプ　：GM500-8-48
- アンカーボルト径
- アンカーボルト本数
- 柱外径寸法
- 円形鋼管柱用

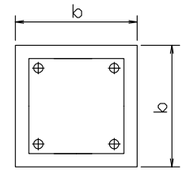
ベースプレート形状



アンカーボルト4本タイプ　アンカーボルト8本タイプ

L,L1,h,hc,b寸法、柱形主筋の定着長さ〈Lt〉





エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様（露出が標準）
注）表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は
"L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。
Lt寸法は定着板上面より下表の定着長さを上下とも確保してください。

・ハイベースNEO工法（円形鋼管柱用φ190.7～φ1016）

採用		適用柱		ハイベースNEO型式		アンカーボルト	回転バネ定数 X10⁶kN-m/rad	寸法（mm）							質量（kg）			L（mm）	L1（mm）	基礎天端～鉄骨コン天端	ベースプレート下端～コンクリートスラブ天端	基礎柱形の設計例(Fc24) ＜ 側・隅柱用 ＞						基礎柱形の設計例(Fc24) ＜ 中柱用（4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。）＞						
																						Iゾーン				Iゾーン			鉄筋の定着長さ	Iゾーン			Iゾーン			鉄筋の定着長さ
柱符号	数量	柱サイズ	最大板厚	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	E	F	H	te	ベースプレート	部品	ヒット質量			h(mm)	hc(mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Lt(mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Lt(mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Lt(mm)
		φ190.7	8.2	EM190-4-24		4-M24	13.8	290	210	–	–	–	–	32	22	14	36	400	87	600以上	130	500	8-D16	D13@150	500	8-D16	D13@150	210	500	8-D16	D13@150	210	500	8-D16	D13@150	210
		φ216.3	12.7	EM216-4-24		4-M24	19.9	310	230	–	–	–	–	32	25	14	39	400	87	600以上	130	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	200	520	8-D16	D13@150	200	520	16-D16	D13@150	200
		φ267.4	16	EM250-4-24		4-M24	28.4	370	290	–	–	–	–	32	35	14	49	400	87	600以上	130	570	8-D16	D13@150	570	16-D16	D13@150	190	570	8-D16	D13@150	190	570	16-D16	D13@150	190
C5		φ300	16	EM300-4 -24		4-M24	38.3	420	340	–	–	–	–	32	45	15	60	400	87	600以上	130	620	8-D19	D13@150	620	12-D19	D13@150	190	620	8-D19	D13@150	190	620	12-D19	D13@150	190
		φ318.5		-30		4-M30	61.0	430	340					40	59	23	82	400	110	600以上	150	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	280	620	12-D19	D13@150	280	620	16-D19	D13@150	280
		φ350	19	EM350-4-30		4-M30	65.1	420	330	–	–	–	–	32	45	23	68	400	102	600以上	150	620	12-D19	D13@150	620	16-D19	D13@150	280	620	12-D19	D13@150	280	620	16-D19	D13@150	280
		φ355.6		EM350-8-30		8-M30	86.3	500	410	240				40	79	50	129	600	110	800以上	150	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@150	490	700	16-D22	D13@150	490	700	20-D22	D13@150	490
					-30	8-M30	119	540	450	280				40	92	51	143	600	110	800以上	150	740	16-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	470	740	12-D22	D13@150	470	740	20-D22	D13@150	470
		φ400	22	EM400-8	-36	8-M36	148	560	470	270	–	–	–	48	119	81	200	720	125	900以上	170	770	16-D25	D13@150	800	24-D25	D13@100	550	770	12-D25	D13@150	550	800	24-D25	D13@100	550
		φ406.4			-42	8-M42	194	610	500	280				60	176	127	303	840	150	1100以上	190	810	20-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	700	810	20-D25	D13@100	700	850	32-D25	D13@100	700
					-30	8-M30	146	580	490	320				40	106	51	157	600	110	800以上	150	780	16-D22	D13@150	780	20-D22	D13@150	450	780	12-D22	D13@150	450	780	20-D22	D13@150	450
		φ450	22	EM450-8	-36	8-M36	182	600	510	310	–	–	–	48	136	81	217	720	125	900以上	170	810	16-D25	D13@100	810	24-D25	D13@100	550	810	12-D25	D13@100	550	810	24-D25	D13@100	550
		φ457.2			-42	8-M42	249	650	540	320				60	199	127	326	840	150	1100以上	190	850	20-D25	D13@100	850	32-D25	D13@100	700	850	16-D25	D13@100	700	850	32-D25	D13@100	700
					-36	8-M36	231	640	550	350	–	–	–	48	155	82	237	720	125	900以上	170	850	16-D25	D13@100	850	24-D25	D13@100	530	850	12-D25	D13@100	530	850	24-D25	D13@100	530
		φ500	25	EM500-8	-42	8-M42	301	700	590	370				60	231	128	359	840	150	1100以上	190	900	20-D25	D13@100	900	32-D25	D13@100	670	900	20-D25	D13@100	670	900	32-D25	D13@100	670
		φ508	40		GM500-8 -48	8-M48	405	710	580	330	518	390	90	57	229	207	436	960	164	1200以上	–	950	24-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	730	950	20-D25	D16@100	730	950	40-D25	D16@100	730
					-56	8-M56	470	740	600	320			100	69	282	308	590	1120	192	1350以上	–	950	32-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	940	950	28-D25	D16@100	940	1100	52-D25	D16@100	940
					-36	8-M36	269	680	590	390	–	–	–	48	175	82	257	720	125	900以上	170	900	20-D25	D13@100	900	24-D25	D13@100	520	900	16-D25	D13@100	520	900	24-D25	D13@100	520
		φ550	25	EM550-8	-42	8-M42	350	740	630	410				60	258	128	386	840	150	1100以上	190	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	660	950	20-D25	D13@100	660	950	32-D25	D13@100	660
		φ558.8	40		GM550-8 -48	8-M48	468	740	610	360	568	430	85	54	244	208	452	960	161	1200以上	–	950	28-D25	D16@100	950	40-D25	D16@100	730	950	24-D25	D16@100	730	950	40-D25	D16@100	730
					-56	8-M56	543	770	630	350			100	65	301	310	611	1120	188	1350以上	–	1000	32-D25	D16@100	1100	52-D25	D16@100	940	1000	28-D25	D16@100	940	1100	52-D25	D16@100	940
					-36	8-M36	421	700	610	410			70	36	192	85	277	720	116	900以上	–	950	20-D25	D16@100	950	24-D25	D16@100	450	950	16-D25	D16@100	450	950	24-D25	D16@100	450
		φ600	40		GM600-8 -48	8-M48	563	780	650	400	620	480	85	52	273	210	483	960	159	1200以上	–	1000	28-D25	D16@100	1000	40-D25	D16@100	720	1000	24-D25	D16@100	720	1000	40-D25	D16@100	720
		φ609.6			-64	8-M64	747	850	690	390			110	75	408	449	857	1280	217	1600以上	–	1100	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1120	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1120
					-48	8-M48	661	820	690	440			90	52	316	211	527	960	159	1200以上	–	1050	28-D25	D16@100	1050	40-D25	D16@100	720	1050	24-D25	D16@100	720	1050	40-D25	D16@100	720
		φ650	40		GM650-8						670	530																						
		φ660.4			-64	8-M64	846	880	720	420			110	71	432	451	883	1280	213	1600以上	–	1100	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1120	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1120
					-48	8-M48	750	850	720	470			80	48	330	212	542	960	155	1200以上	–	1050	32-D25	D16@100	1050	40-D25	D16@100	720	1050	28-D25	D16@100	720	1050	40-D25	D16@100	720
		φ700	40		GM700-8						720	570																						
		φ711.2			-64	8-M64	958	920	760	460			105	70	471	453	924	1280	212	1600以上	–	1150	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1120	1150	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@80	1120
					-48	8-M48	865	890	760	510			85	48	381	214	595	960	155	1300以上	–	1100	24-D29	D16@100	1100	28-D29	D16@100	730	1100	20-D29	D16@100	730	1100	28-D29	D16@100	730
		φ750	40		GM750-8						770	620																						
		φ762			-64	8-M64	1100	960	800	500			110	69	527	455	982	1280	211	1600以上	–	1200	32-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@80	1110	1200	28-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@80	1110
					-48	8-M48	961	920	790	540			90	45	426	215	641	960	152	1300以上	–	1150	24-D29	D16@100	1150	28-D29	D16@100	720	1150	20-D29	D16@100	720	1150	28-D29	D16@100	720
		φ800	40		GM800-8						820	660																						
		φ812.8			-64	8-M64	1240	990	830	530			100	66	550	456	1006	1280	208	1600以上	–	1200	32-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@80	1110	1200	28-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@80	1110
		φ850	40		GM850-8-64	8-M64	1410	1030	870	570	870	710	105	65	616	459	1075	1280	207	1600以上	–													
		φ900 φ914.4	40		GM900-8-64	8-M64	1660	1100	940	640	920	760	105	70	734	462	1196	1280	212	1600以上	–													
		φ950	40		GM950-8-64	8-M64	1750	1100	940	640	970	810	105	61	735	462	1197	1280	203	1600以上	–													
		φ1000 φ1016	40		GM1000-8-64	8-M64	1970	1140	980	680	1030	870	110	59	827	465	1292	1280	201	1600以上	–													

柱サイズφ850～φ1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。　表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

注 1）Ⅰ,Ⅱゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2）上記表内の〈中柱用〉とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、〈側・隅柱用〉を御採用下さい。
注 3）表中の鉄筋量は基礎立上がりのない場合（基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4）〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
注 5）部品の質量はアンカーボルト部品と形板を含わせた質量です。

センクシア株式会社
本社　TEL　03-4214-1932　　関東　TEL　027-322-9411　　URL　https://www.senqcia.co.jp/
札幌　TEL　011-708-1177　　横浜　TEL　03-4214-1945　　北陸　TEL　076-233-5260　　九州　TEL　092-452-0341
東北　TEL　022-213-5595　　中部　TEL　052-582-3356　　関西　TEL　06-6395-2133
中四国TEL　082-240-1630

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名	各棟共通　ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例 (2)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 015
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc24の場合）〈角形鋼管柱用 □600～□1200〉

（ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用）

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042～0046(アンカーボルト)

BCJ評定 BCJ評定-ST0058（Gタイプ）

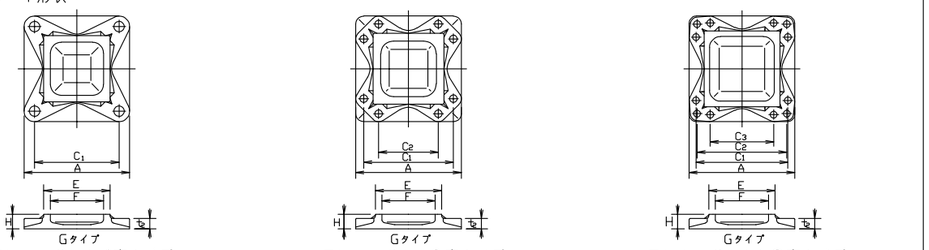
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ６鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2019/6

型式表示例

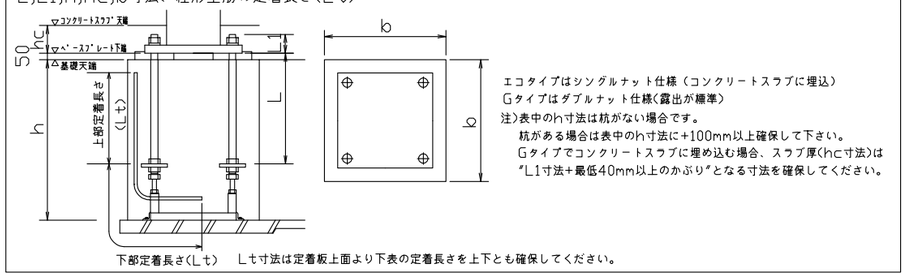
Gタイプ ：GB600-8-42
- 42：アンカーボルト径
- 8：アンカーボルト本数
- 600：柱外形寸法
- GB：角形鋼管柱用

ベースプレート形状



アンカーボルト4本タイプ　アンカーボルト8本タイプ　アンカーボルト12本タイプ

L,L1,h,hc,b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は"L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

下部定着長さ(Lt)　Lt寸法は定着板上面より下表の定着長さを上下とも確保してください。

◦ ハイベースNEO工法
（角形鋼管柱用□600～□1200）

採用		適用柱		ハイベースNEO型式			アンカーボルト	回転バネ定数	寸法（mm）						質量(kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎天端～溶てコン天端	ベースプレート下端～コンクリートスラブ天端	基礎柱形の設計例(Fc24) ＜ 側・隅柱用 ＞								基礎柱形の設計例(Fc24) ＜ 中柱用（4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。）＞							
																						Iゾーン				Iゾーン			鉄筋の定着長さ	Iゾーン				Iゾーン			鉄筋の定着長さ
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			X10³kN・m/rad	A	C1	C2	C3	E	F	H	t2	ベースプレート	部品	セット質量			h(mm)	hc(mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Lt (mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Lt (mm)
		□600	9～40		GB600-8	-42	8-M42	598	840	730	510	-	610	500	70	35	238	134	372	840	130	1100以上	-	1050	24-D25	D13@100	1050	32-D25	D13@100	630	1050	20-D25	D13@100	1050	32-D25	D13@100	630
						-48	8-M48	682	880	750	500				75	43	284	219	503	960	150	1300以上	-	1100	20-D29	D16@150	1100	28-D29	D16@150	810	1100	20-D29	D16@150	1100	28-D29	D16@150	810
						-64	8-M64	987	960	800	500				95	64	417	470	887	1280	206	1600以上	-	1200	32-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@75	1090	1200	28-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@75	1090
					GB600-12	-48	8-M48	953	880	750	710	420			85	52	318	309	627	960	159	1300以上	-	1100	24-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	760	1100	20-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	760
						-56	12-M56	1140	910	770	730	400			100	66	408	460	868	1120	189	1450以上	-	1150	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1150	28-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980
						-64	12-M64	1240	950	790	740	370			110	80	499	667	1166	1280	222	1600以上	-	1150	44-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130	1150	32-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130
		□650	12～40		GB650-8	-42	8-M42	680	890	780	560	-	660	550	75	34	277	139	416	840	129	1100以上	-	1100	24-D25	D13@100	1100	32-D25	D13@100	620	1100	20-D25	D13@100	1100	32-D25	D13@100	620
						-48	8-M48	782	930	800	550				75	42	316	221	537	960	149	1300以上	-	1150	20-D29	D16@150	1150	28-D29	D16@150	790	1150	20-D29	D16@150	1150	28-D29	D16@150	790
						-56	8-M56	939	960	820	540				85	51	370	328	698	1120	174	1450以上	-	1200	28-D29	D13@100	1200	36-D29	D16@100	940	1200	24-D29	D13@100	1200	36-D29	D16@100	940
						-64	8-M64	1080	990	830	530				95	58	428	472	900	1280	200	1600以上	-	1200	32-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@75	1090	1200	28-D29	D16@100	1200	48-D29	D16@75	1090
						-72	8-M72	1220	1020	850	520				105	69	498	698	1196	1440	227	1800以上	-	1300	40-D29	D16@100	1500	60-D29	D16@75	1270	1300	36-D29	D16@100	1500	60-D29	D16@75	1270
					GB650-12	-56	12-M56	1320	960	820	780	450			95	64	439	463	902	1120	187	1450以上	-	1200	36-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1200	28-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980
						-64	12-M64	1460	1000	840	790	420			110	77	536	670	1206	1280	219	1600以上	-	1200	44-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130	1200	36-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130
		□700	12～40		GB700-8	-42	8-M42	782	940	830	610	-	710	600	70	32	316	139	455	840	127	1100以上	-	1150	24-D25	D13@100	1150	32-D25	D13@100	610	1150	20-D25	D13@100	1150	32-D25	D13@100	610
						-48	8-M48	899	980	850	600				75	41	363	223	586	960	148	1300以上	-	1200	20-D29	D13@100	1200	28-D29	D13@100	780	1200	20-D29	D13@100	1200	28-D29	D13@100	780
						-56	8-M56	1070	1010	870	590				80	50	414	330	744	1120	173	1450以上	-	1250	28-D29	D16@150	1250	36-D29	D16@100	920	1250	24-D29	D16@150	1250	36-D29	D16@100	920
						-64	8-M64	1280	1050	890	590				95	58	489	475	964	1280	200	1600以上	-	1300	32-D29	D16@100	1300	48-D29	D16@75	1070	1300	32-D29	D16@100	1300	48-D29	D16@75	1070
						-72	8-M72	1430	1070	900	570				105	67	552	703	1255	1440	225	1800以上	-	1350	40-D29	D16@100	1500	60-D29	D16@75	1270	1350	36-D29	D16@100	1500	60-D29	D16@75	1270
					GB700-12	-56	12-M56	1490	1010	870	830	500			95	62	482	465	947	1120	185	1450以上	-	1250	36-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1250	28-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980
						-64	12-M64	1710	1050	890	840	470			105	74	572	673	1245	1280	216	1600以上	-	1300	44-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130	1300	36-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130
		□750	16～40		GB750-8-48		8-M48	1010	1030	900	650	-	760	650	85	39	415	225	640	960	146	1300以上	-	1250	20-D29	D16@150	1250	28-D29	D16@150	760	1250	20-D29	D16@150	1250	28-D29	D16@150	760
					GB750-12	-48	12-M48	1460	1030	900	860	570			85	47	437	316	753	960	154	1300以上	-	1250	28-D29	4-D16@100	1250	40-D29	4-D16@100	760	1250	20-D29	4-D16@100	1250	40-D29	4-D16@100	760
						-56	12-M56	1700	1060	920	880	550			90	60	510	468	978	1120	183	1450以上	-	1300	36-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1300	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980
						-64	12-M64	1980	1100	940	890	520			105	72	620	676	1296	1280	214	1600以上	-	1400	44-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130	1400	36-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130
						-72	12-M72	2110	1120	950	900	490			115	84	713	982	1695	1440	242	1800以上	-	1500	56-D29	4-D16@100	2400	88-D29	4-D16@80	1260	1500	48-D29	4-D16@100	2400	88-D29	4-D16@80	1260
C10					GB800-8-56		8-M56	1380	1110	970	690	-	810	700	90	47	522	335	857	1120	170	1450以上	-	1350	28-D29	D16@100	1350	36-D29	D16@100	900	1350	24-D29	D16@100	1350	36-D29	D16@100	900
		□800	16～40		GB800-12	-56	12-M56	1930	1110	970	930	600			90	58	556	471	1027	1120	181	1450以上	-	1350	36-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980	1350	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@100	980
						-64	12-M64	2210	1150	990	940	570			100	70	662	679	1341	1280	212	1600以上	-	1500	44-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130	1500	36-D29	4-D16@100	1800	72-D29	4-D16@80	1130
						-72	12-M72	2410	1170	1000	950	540			115	81	761	987	1748	1440	239	1800以上	-	1600	56-D29	4-D16@100	2400	88-D29	4-D16@80	1260	1600	48-D29	4-D16@100	2400	88-D29	4-D16@80	1260
		□850	16～40		GB850-12	-56	12-M56	2160	1160	1020	980	650	860	750	100	56	646	473	1119	1120	179	1450以上	-														
						-64	12-M64	2480	1200	1040	990	620			100	68	739	682	1421	1280	210	1600以上	-														
						-72	12-M72	2740	1220	1050	1000	590			110	79	833	992	1825	1440	237	1800以上	-														
		□900	16～40		GB900-12	-56	12-M56	2430	1210	1070	1030	700	910	800	105	55	719	476	1195	1120	178	1450以上	-														
						-64	12-M64	2770	1250	1090	1040	670			105	66	810	685	1495	1280	208	1600以上	-														
						-72	12-M72	3100	1270	1100	1050	640			110	77	898	996	1894	1440	235	1800以上	-														
		□950	16～40		GB950-12	-56	12-M56	2700	1260	1120	1080	750	960	850	110	54	796	479	1275	1120	177	1450以上	-														
						-64	12-M64	3000	1300	1140	1090	720			110	61	870	688	1558	1280	203	1600以上	-														
						-72	12-M72	3430	1320	1150	1100	690			110	75	967	1001	1968	1440	233	1800以上	-														
		□1000	16～40		GB1000-12	-56	12-M56	3020	1310	1170	1130	800	1010	900	115	52	888	481	1369	1120	175	1450以上	-														
						-64	12-M64	3390	1340	1180	1130	760			110	59	943	691	1634	1280	201	1600以上	-														
						-72	12-M72	3770	1340	1180	1130	720			115	66	985	1006	1991	1440	224	1800以上	-														
		□1050	16～40		GB1050-12	-64	12-M64	3730	1400	1240	1190	820	1060	950	120	62	1083	694	1777	1280	204	1600以上	-														
						-72	12-M72	4120	1420	1250	1200	790			120	71	1158	1011	2169	1440	229	1800以上	-														
		□1100	16～40		GB1100-12	-64	12-M64	4110	1450	1290	1240	870	1110	1000	125	60	1184	697	1881	1280	202	1600以上	-														
						-72	12-M72	4550	1470	1300	1250	840			125	70	1266	1016	2282	1440	228	1800以上	-														
		□1150	16～40		GB1150-12	-64	12-M64	4490	1500	1340	1290	920	1160	1050	130	59	1300	700	2000	1280	201	1600以上	-														
						-72	12-M72	5000	1520	1350	1300	890			130	68	1378	1020	2398	1440	226	1800以上	-														
		□1200	16～40		GB1200-12	-64	12-M64	4910	1550	1390	1340	970	1210	1100	135	58	1437	703	2140	1280	200	1600以上	-														
						-72	12-M72	5480	1570	1400	1350	940			135	67	1518	1025	2543	1440	225	1800以上	-														

柱サイズ□850～□1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。
柱サイズ□1050～□1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。
注 1）Ⅰ、Ⅱゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2）上記表内の〈中柱用〉とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、〈側・隅柱用〉を御採用下さい。
注 3）表中の鉄筋量は基礎立上がりのない場合（基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4)〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をロ450以下はD10@250、ロ500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合はく側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
注 5）部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932　関東 TEL 027-322-9411　北陸 TEL 076-233-5260　九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177　横浜 TEL 03-4214-1945　関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595　中部 TEL 052-582-3356　中四国TEL 082-240-1630
URL https://www.senqcia.co.jp/

株式会社 佐藤総合計画
設計番号 04453-010　工事名称 鞍手町庁舎等建設工事　種別 SA
図面名 各棟共通 ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (3)　縮尺 A1 1: - A3 1: -
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号　建設コンサルタント 登録番号 建01第843号
総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹　構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司
法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅
担当　作成日 2022.3　番号 016

ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc24の場合）　（H形柱用は全てS造に適用）
〈H形柱用 H150×150～H900×400

大臣認定 MSTL-0404,0180（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0046（アンカーボルト）
BCJ評定 BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ６鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2019/6

型式表示例

エコタイプ：EH150×150－4－24
Gタイプ　：GH400×400－4－56

- GH：H形柱用
- 400×400：適用柱シリーズ
- 4：アンカーボルト本数
- 56：アンカーボルト径

ベースプレート形状

エコタイプ　　Gタイプ

L,L1,h,hc,b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)

下部定着長さ(Lt)

Lt寸法は定着板上面より下表の定着長さを上下とも確保してください。

エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
　杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
　Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は
　"L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法（H形柱用H150×150～H900×400）

採用 柱符号	採用 数量	適用柱シリーズ	ハイベースNEO型式 エコタイプ	ハイベースNEO型式 Gタイプ	アンカーボルト	回転バネ定数 X10³kN·m/rad 強軸	回転バネ定数 弱軸	寸法(mm) A	B	C1	D1	E	F	G	tw	H	t2	質量(kg) ベースプレート	部品	セット質量	L (mm)	L1 (mm)	基礎天端～捨てコン天端 h(mm)	ベースプレート下端～コンクリートスラブ天端 hc(mm)	側・隅柱用 Iゾーン 柱形a×b (mm)	主筋量(長辺×短辺)	帯筋	側・隅柱用 IIゾーン 柱形a×b (mm)	主筋量(長辺×短辺)	帯筋	鉄筋の定着長さ Lt(mm)	中柱用 Iゾーン 柱形a×b (mm)	主筋量(長辺×短辺)	帯筋	中柱用 IIゾーン 柱形a×b (mm)	主筋量(長辺×短辺)	帯筋	鉄筋の定着長さ Lt(mm)
		H150×150	EH150×150-4-24		4-M24	14.0	6.0	330	230	250	150	－	－	－	－	－	44	27	16	43	480	99	700以上	150	550×450	D16(3×3)	D13@150	550×450	D16(5×4)	D13@150	220	550×450	D16(3×3)	D13@150	550×450	D16(5×4)	D13@150	220
		H175×175	EH175×175-4-24		4-M24	18.0	7.9	360	250	280	170	－	－	－	－	－	44	32	16	48	480	99	700以上	150	600×500	D16(3×3)	D13@150	600×500	D16(5×4)	D13@150	220	600×500	D16(3×3)	D13@150	600×500	D16(5×4)	D13@150	220
		H200×150 H200×200	EH200×200-4-24		4-M24	22.7	11.1	390	280	310	200	－	－	－	－	－	48	42	17	59	480	103	700以上	150	600×500	D16(3×3)	D13@150	600×500	D16(5×4)	D13@150	220	600×500	D16(3×3)	D13@150	600×500	D16(5×4)	D13@150	220
		H250×175 H250×250	EH250×250-4-24		4-M24	31.0	18.0	440	340	350	250	－	－	－	－	－	48	57	18	75	480	103	700以上	150	650×550	D16(3×3)	D13@150	650×550	D16(5×4)	D13@150	210	650×550	D16(3×3)	D13@150	650×550	D16(5×4)	D13@150	210
			EH250×250-4-30		4-M30	36.7	20.3	440	340	350	250						48	57	29	86	600	118	800以上	160	650×550	D19(3×3)	D13@150	650×550	D19(5×4)	D13@150	310	650×550	D19(3×3)	D13@150	650×550	D19(5×4)	D13@150	310
		H300×200 H300×300	EH300×300-4-30		4-M30	49.6	30.0	490	390	400	300	－	－	－	－	－	48	73	30	103	600	118	800以上	160	700×600	D19(3×3)	D13@150	700×600	D19(5×4)	D13@150	300	700×600	D19(3×3)	D13@150	700×600	D19(5×4)	D13@150	300
C21,22			EH300×300-4-36		4-M36	69.2	35.6	540	390	450	300						60	100	45	145	720	129	950以上	180	750×600	D22(4×3)	D13@150	750×600	D22(5×4)	D13@150	410	750×600	D22(3×3)	D13@150	750×600	D22(5×4)	D13@150	410
		H350×250	EH350×250-4-30		4-M30	59.2	39.1	540	440	450	350	－	－	－	－	－	48	90	30	120	600	118	800以上	160	750×650	D19(3×3)	D13@150	750×650	D19(5×4)	D13@150	290	750×650	D19(3×3)	D13@150	750×650	D19(5×4)	D13@150	290
		H350×250 H350×350	EH350×350-4-42		4-M42	93.7	52.6	610	460	500	350	－	－	－	－	－	65	144	76	220	840	152	1100以上	200	850×700	D25(4×3)	D13@100	850×700	D25(5×5)	D13@100	430	850×700	D25(3×3)	D13@100	850×700	D25(5×5)	D13@100	430
		H400×200 H400×300	EH400×300-4-30		4-M30	74.3	30.1	600	390	510	300	－	－	－	－	－	48	89	30	119	600	118	800以上	160	800×650	D19(3×3)	D13@100	800×650	D19(5×4)	D13@100	260	800×650	D19(3×3)	D13@100	800×650	D19(5×4)	D13@100	260
			EH400×300-4-36		4-M36	102	33.9	650	390	560	300						60	120	46	166	720	129	950以上	180	850×650	D22(4×3)	D13@100	850×650	D22(5×4)	D13@100	350	850×650	D22(3×3)	D13@100	850×650	D22(5×4)	D13@100	350
		H400×300 H400×400	EH400×400-4-42		4-M42	118	67.3	660	510	550	400	－	－	－	－	－	60	159	78	237	840	147	1100以上	200	900×750	D25(4×3)	D13@100	900×750	D25(5×5)	D13@100	420	900×750	D25(3×3)	D13@100	900×750	D25(5×5)	D13@100	420
				GH400×400-4-56	4-M56	265	138	760	490	620	330	468	340	470	60	100	71	176	200	376	1120	194	1450以上	－	1000×700	D29(4×5)	D13@100	1000×700	D29(5×6)	D13@100	850	1000×700	D29(3×4)	D13@100	1000×700	D29(5×6)	D13@100	850
		H450×200 H450×250 H450×300	EH450×300-4-30		4-M30	94.1	30.8	650	390	560	300	－	－	－	－	－	48	96	31	127	600	118	800以上	160	850×650	D19(3×3)	D13@100	850×650	D19(5×4)	D13@100	260	850×650	D19(3×3)	D13@100	850×650	D19(5×4)	D13@100	260
			EH450×300-4-42		4-M42	135	38.9	690	410	580	300						65	145	77	222	840	152	1100以上	200	950×650	D25(4×3)	D13@100	950×650	D25(5×5)	D13@100	450	950×650	D25(3×3)	D13@100	950×650	D25(5×5)	D13@100	450
		H500×200 H500×250 H500×300	EH500×300-4-30		4-M30	112	30.5	700	390	610	300	－	－	－	－	－	48	103	31	134	600	118	800以上	160	900×650	D19(4×3)	D13@100	900×650	D19(5×4)	D13@100	250	900×650	D19(4×3)	D13@100	900×650	D19(5×4)	D13@100	250
			EH500×300-4-42		4-M42	154	40.8	740	410	630	300						65	155	78	233	840	152	1100以上	200	1000×650	D25(3×4)	D13@100	1000×650	D25(5×5)	D13@100	480	1000×650	D25(3×3)	D13@100	1000×650	D25(5×5)	D13@100	480
		H600×200 H600×250 H600×300	EH600×300-4-36		4-M36	189	39.1	830	390	740	300	－	－	－	－	－	60	153	51	204	720	129	950以上	180	1050×650	D22(3×4)	D13@100	1050×650	D22(4×5)	D13@100	390	1050×650	D22(3×3)	D13@100	1050×650	D22(4×5)	D13@100	390
				GH600×300-4-48	4-M48	342	71.4	880	370	750	220	616	510	350	40	100	66	127	128	255	960	173	1300以上	－	1150×600	D29(3×3)	D16@100	1150×600	D29(5×4)	D16@100	510	1150×600	D29(3×3)	D16@100	1150×600	D29(5×4)	D16@100	510
		H700×300	EH700×300-4-42		4-M42	287	45.1	950	410	840	300	－	－	－	－	－	65	199	86	285	840	152	1100以上	200	1200×650	D25(4×3)	D16@100	1200×650	D25(5×5)	D16@100	370	1200×650	D25(3×3)	D16@100	1200×650	D25(5×5)	D16@100	370
		H700×300 H700×350		GH700×300-4-56	4-M56	540	97.6	1020	440	880	220	720	600	420	40	120	84	204	207	411	1120	207	1450以上	－	1300×600	D29(5×4)	D16@100	1300×600	D29(6×5)	D16@100	730	1300×600	D29(4×4)	D16@100	1300×600	D29(6×5)	D16@100	730
		H800×300		GH800×300-4-42	4-M42	478	82.1	1050	390	940	220	820	690	330	40	90	56	136	89	225	840	151	1100以上	－	1300×600	D25(3×4)	D16@100	1300×600	D25(5×5)	D16@100	500	1300×600	D25(3×3)	D16@100	1300×600	D25(5×5)	D16@100	500
		H800×300 H800×350 H800×400		GH800×300-4-56	4-M56	668	110	1120	440	980	220	820	690	420	40	120	84	219	212	431	1120	207	1450以上	－	1400×600	D29(5×4)	D16@100	1400×600	D29(6×5)	D16@100	770	1400×600	D29(4×4)	D16@100	1400×600	D29(6×5)	D16@100	770
		H900×300		GH900×300-4-42	4-M42	606	96.8	1150	390	1040	220	920	790	330	40	90	56	150	91	241	840	151	1100以上	－	1400×600	D25(3×4)	D16@100	1400×600	D25(5×5)	D16@100	520	1400×600	D25(3×3)	D16@100	1400×600	D25(5×5)	D16@100	520
		H900×300 H900×350 H900×400		GH900×300-4-56	4-M56	828	118	1220	440	1080	220	920	790	420	40	120	84	237	217	454	1120	207	1450以上	－	1500×600	D29(5×4)	D16@100	1500×600	D29(6×5)	D16@100	810	1500×600	D29(4×4)	D16@100	1500×600	D29(6×5)	D16@100	810

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。
注 1）Ⅰ、Ⅱゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2）上記表内の〈中柱用〉とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、〈側・隅柱用〉を御採用下さい。
注 3）表中の鉄筋量は基礎立上がりのない場合（基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4）〈中柱用〉の鉄筋量は、D10@250算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
注 5）部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社　URL https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932　関東 TEL 027-322-9411　北陸 TEL 076-233-5260　九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177　横浜 TEL 03-4214-1945　関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595　中部 TEL 052-582-3356　中四国TEL 082-240-1630

株式会社 佐藤総合計画
設計番号 04453-010　工事名称 鞍手町庁舎等建設工事　種別 SA
図面名 各棟共通 ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (4)　縮尺 A1 1: - A3 1: -
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号　建設コンサルタント 登録番号 建01第843号
総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹　構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞　担当　番号 017
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司
法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅
作成日 2022.3

ニューフェローデッキ 設計標準仕様書（鉄筋トラス付捨て型枠床版工法）

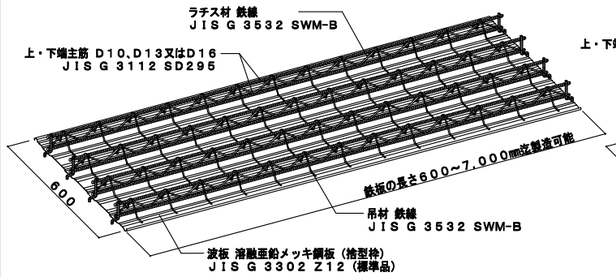
株式会社富士昭技研

1．工法の概要

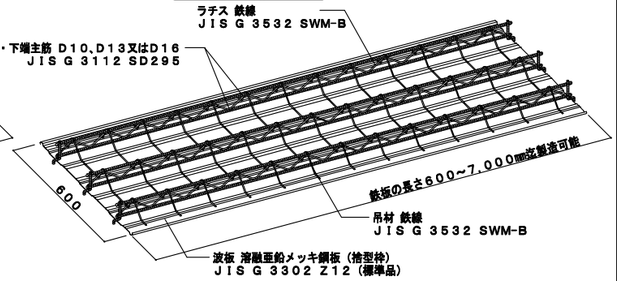
本構造は、上端主筋と下端主筋の両者をつなぐラチス材および吊材、波板で構成するニューフェローデッキに、必要な現場施工部材を設置し
コンクリートを打設することにより、コンクリート硬化後ニューフェローデッキの上端主筋および下端主筋とコンクリートが一体となるスラブである。
本工法特性：下端定着筋及び下端配力筋を設けない工法として日本建築センター評定を取得。
（日本建築センター評定取得　BCJ評定－RC0108）

2．形状と材質

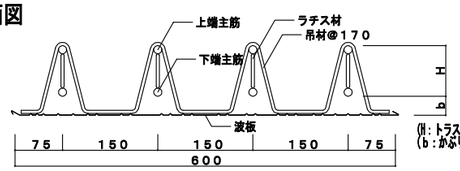
プロトタイプ 鉄筋@150

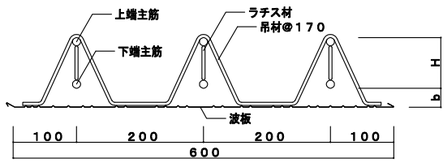


エコタイプ 鉄筋@200

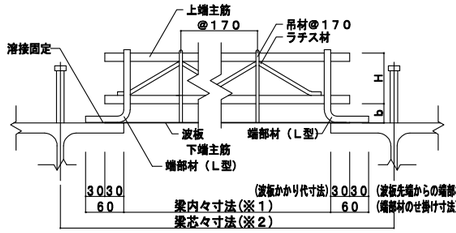


3．断面図





4．標準納まり図



（※1）仮設時許容スパンは、梁内～内間とする。
（※2）本設時許容スパンは、梁芯～芯間とする。

5．施工手順及び留意事項

（1）搬入・荷揚げ・仮置

・搬入は、当該現場の工区、工程に応じて作成された荷姿図および合番図と、積荷を照合し、施工計画に従って行う。
・荷揚げは、現場クレーンに応じ、専用の治具等を用いて４点吊りにて行うものとする。専用の治具には、トラックから地面に荷下ろしするものと、躯体（上部）に荷揚げするものがある。その際波板、吊材等ニューフェローデッキの部材を変形、破損させないよう注意する。
・仮置きする場合は、端部材のかかり代を確認するとともに、風散養生を十分に行い、ニューフェローデッキ梱包および副資材の落下を防止する。

（2）敷込み・加工・固定

・敷込みは、側付け計画に従ってあらかじめ墨出しを行い、所定の位置に不陸を生じないように注意して敷込む。
・デッキのかかり代については下の表に示す

		S造
波板のかかり代	許定基準	
	標準設定	30mm
施工安全上の端部材かかり代	許定基準	30mm以上
	標準設定	60mm

※上記の寸法で納まらない場合は、施工者と協議の上決定する。
・加工は、柱廻りや梁継手部分の切り欠き加工を行い、端部材を切断した場合には、所定の位置に新たに端部材をアーク溶接にて取付け直す。

・梁への固定は端部材をアークスポット溶接にて固定する。固定位置は、幅方向については１枚（６００mm幅）に対し片側１ヶ所以上とする。

（3）梁鉄筋の施工（鉄筋工事）

（4）梁上の上端連結（定着）筋の施工（鉄筋工事）
・継手長さはＬ１、定着長さはＬ２とする。

（5）上端配力筋の施工（鉄筋工事）
・継手長さはＬ１、定着長さはＬ２とする。

（6）留意事項
・トラス筋は施工時の支保工の役目を持つ構造材である為、部材の切断はしないこと。
設備・配管工事の為、コン打以前に切断の必要がある場合は事前に対応策を設けること。
・開口部は、大きさにより定められた補強筋を配筋すること。
・仮設時有効スパンを超える場合は、必ず適切な位置に仮設サポートを設けること。

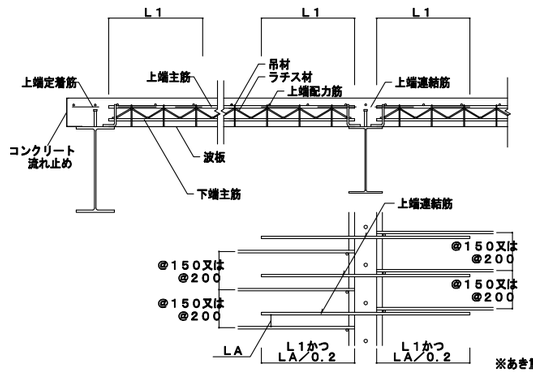
ニューフェローデッキ使用部分スラブリスト

符号	デッキタイプ	スラブ厚 / 増打ち厚	位置	短辺方向 デッキ主筋	短辺方向 現場配筋 連結筋・定着筋	短辺方向 現場配筋 追加補強主筋 端部 Lx/4+15d	短辺方向 現場配筋 追加補強主筋 中央部 15d+Lx/2+15d	長辺方向※1 端部 『Lx/4+15d』	長辺方向※1 中央部 『15d+(Ly-Lx/2)+15d』	備考
										※1 長辺方向上端の配力筋については「通し配筋」を基本とする。端部と中央部で鉄筋径・ピッチが異なる場合は『』内の配筋とする。
										別紙参照

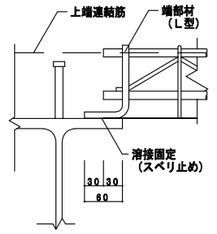
標準納まり図＜S造＞

株式会社 富士昭サンマテック
本社・大阪本店　〒540-0008　大阪府大阪市中央区大手前１丁目４番１２号（大阪天満橋ビル３階）　TEL. 06-6910-0081 FAX. 06-6910-0080
東京本店　〒103-0004　東京都中央区東日本橋３丁目３番７号（近江会館ビル４階）　TEL. 03-5640-4161 FAX. 03-5640-4162
名古屋支店　〒460-0008　愛知県名古屋市中区栄４丁目１４－１９（栄田ビル５階）　TEL. 052-242-3605 FAX. 052-243-3828
九州支店　〒812-0013　福岡県福岡市博多区博多駅東１丁目１６番８号（ＩＴビル６階）　TEL. 092-433-0088 FAX. 092-433-1200

主筋方向納まり図ー（1）　ニューフェローデッキ標準品

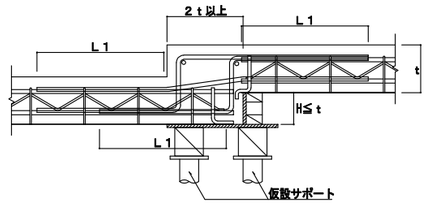


主筋方向端部納まり詳細図

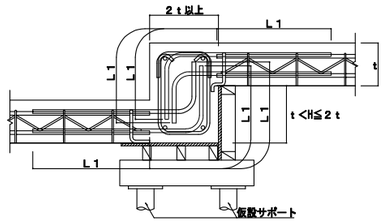


※あき重ね継ぎ手長さは、最低４５０mm以上とする.

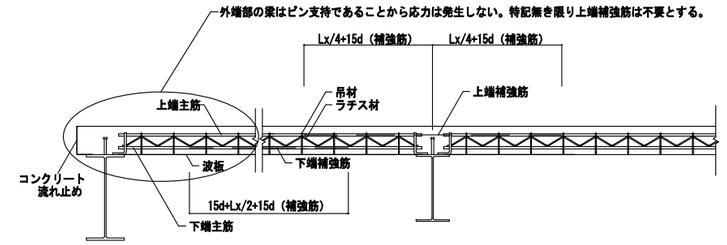
主筋方向段差納まり図＜参考＞　段差（H）≦t



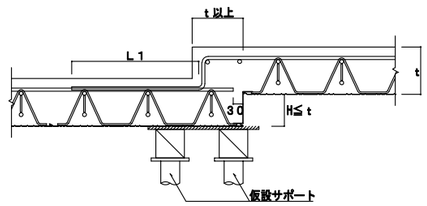
主筋方向段差納まり図＜参考＞　t＜段差（H）≦2ｔ



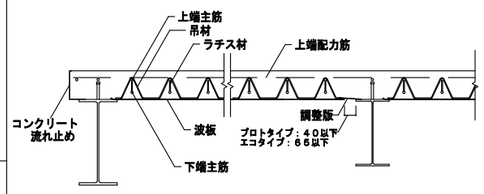
主筋方向納まり図ー（2）補強筋が必要な場合の配筋納まり図（※連結筋・定着筋・配力筋は上図（1）を参照）



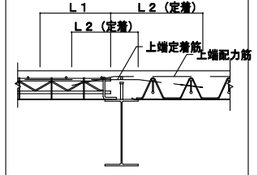
配力筋方向段差納まり図＜参考＞　段差（H）≦t



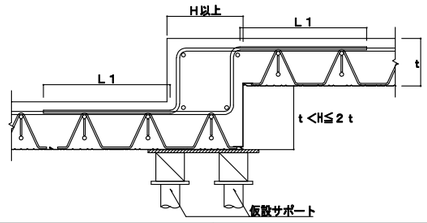
配力筋方向納まり図



異方向部分納まり図



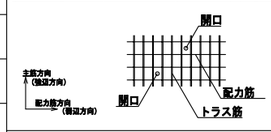
配力筋方向段差納まり図＜参考＞　t＜段差（H）≦2ｔ



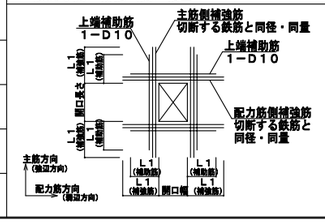
ニューフェローデッキ開口補強要領

補強を行わない開口

開口幅・スリーブが小さく、主筋・配力筋共に鉄筋の切断が無くかぶりを確保出来る場合は補強しない。
但し、吊り材は溶接部を含め、切断しないこと。
吊り材・鉄筋を切断する場合は支保工を設置するなど、仮設計画を確実に行い、開口の形状に応じた補強を行うこと。

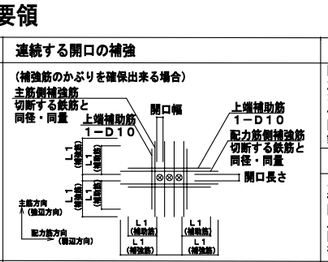


一般的な開口補強（開口幅≦６００）

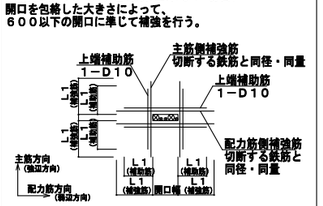


連続する開口の補強

（補強筋のかぶりを確保出来る場合）



（補強筋のかぶりを確保出来ない場合）
開口を包絡した大きさによって、
６００以下の開口に準じて補強を行う。



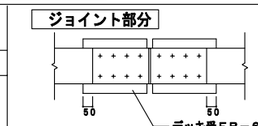
大開口の補強

開口幅・開口長さとも６００を超える場合は、開口の位置・大きさにより辺からの片持ちスラブ・３辺固定スラブとするなど、実状に応じた設計を行う。
但し、配力方向下端に配筋する場合は、施工時の作業性や開口部周辺のトラスの損傷防止を考慮して、Ｄ１３以下の径の鉄筋を使用すること。

開口部の施工

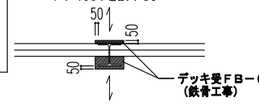
ニューフェローデッキは仮設時にも構造材として機能している。
従って、トラスの切断は開口の大きさに関わらず、
開口部を墨抜きし、コンクリートの硬化後に行う。
止むを得ずコンクリートの硬化前に切断する場合は、
開口周辺を支保工等により補強し、切断及びコンクリートの打設を行うこととする。

ジョイント部分



梁上間柱部分

間柱、束、ササラ桁等が梁に取り付き、
掛かり代を確保出来ない場合は
デッキ受けを設ける。



ニューフェローデッキの連結筋・定着筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度	重ね継手長さ L1	定着長さ L2	定着長さ Lb
SD295	18	45d直線又は35dフック付き	40d	15d
	21	40d直線又は30dフック付き	35d	15d
	24～36	35d直線又は25dフック付き	30d	15d
	39～60	30d直線又は20dフック付き	25d	15d

※ただし、軽量コンクリートの場合は表の長さ＋５dとする。
※（注）本表は、「建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ５ 鉄筋コンクリート工事（２０１５年版）」に準拠したものであり本物件の設計図書（構造標準図、仕様書等）が上表と異なる場合は本物件の仕様を優先する。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 各棟共通 ニューフェローデッキ設計標準仕様書		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 / 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当	番号 018
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

ボーリング位置図

庁舎棟　設計GL＝TP+8.4m

【令和２年】

ボーリング名	No．1	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北緯	33° 47′ 34.63″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 12日 ～ 2年 11月 13日	東経	130° 41′ 31.28″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師	現場代理人 / コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	山田孝弘
孔口標高	TP 15.26m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総掘進長	13.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機 YBM－05DA / ハンマー落下用具 半自動落下型 / エンジン NFD－8型 / ポンプ GP－5

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	記事
15.06	0.20	0.20	表土	暗茶灰	腐植物多量混入する。砂混り粘性土。
9.56	5.50	5.70	強風化頁岩	淡黄褐～白灰～淡青灰	頁岩の強風化帯。風化著しく泥質化～土砂化が進行して固結シルト状を呈する。コアは殆んど流失するが、所々泥質棒状コアで採取される。コアは指圧にて潰れる硬さ、あるいは手で容易に折れる硬さである。
7.86	1.70	7.40	泥質砂岩	灰～淡褐灰	風化し土砂化が進行した岩（軟岩）であるが密実である。棒状コアとなるが、手で折れる硬さ、ハンマーの軽打で折れる。
6.16	1.70	9.10	頁岩	暗灰～褐灰	軟岩である。概ね硬質で連続して棒状コアで採取される。所々風化が進行しやや軟質となる。8.6m,8.83m付近に斜亀裂あり。
2.26	3.90	13.00	砂岩	淡黄褐灰	中粒砂岩。全体的に風化したやや軟質な岩（軟岩）であるが密実である。上部は泥質砂岩状を呈する。亀裂の少ない岩で、棒状コアとなるも、手で折れ、ハンマーの軽打で割れる硬さ。コアは部分的に流失する。

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	10	8	9	27/30	27
1.45～2.15	6	11	12	29/30	29
2.45～3.15	13	14	15	42/30	42
3.45～4.15	10	14	16	40/30	40
4.45～5.15	6	8	10	24/30	24
5.45～6.15	21	23	6/2	50/22	68
6.37～7.15	6	18	26/8	50/28	54
7.43～8.05	50/8			50/8	188
8.13～9.10	21	29		50/20	75
9.30～10.10	24	26/7		50/17	88
10.27～11.00	50/9			50/9	167
11.09～12.05	37	13/2		50/12	125
12.17～13.05	50/6			50/6	250
13.11					

掘進月日：11/12、11/13

庁舎棟設計GL　6860　2200　基礎下端

【令和２年】

ボーリング名	No．2	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北緯	33° 47′ 35.20″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 12日 ～ 2年 11月 13日	東経	130° 41′ 33.56″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師	現場代理人 / コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	木村孝志
孔口標高	TP 7.43m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総掘進長	9.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機 YBM－05DA2 / ハンマー落下用具 半自動落下型 / エンジン NFD－8型 / ポンプ GP－5

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	記事
7.23	0.20	0.20	表土	茶灰	腐植物多量混入する。
6.18	1.05	1.25	粘性土	淡黄茶	頁岩の二次堆積土（崩積土）含水少なくやや固い。
1.63	4.55	5.80	強風化頁岩	乳黄灰～淡黄灰	頁岩の強風化帯。風化著しく泥質化～土砂化が進行して固結シルト状を呈する。コアは殆んど流失するが、所々泥質棒状コアで採取される。コアは指圧にて潰れる硬さ、あるいは手で容易に折れる硬さである。
-1.57	3.20	9.00	頁岩	青灰	軟岩である。上部6.5m付近まではやや風化が進行するも密実である。以深は概ね中硬質な岩で、短棒状コアで採取される。コアはハンマーの中打～強打で割れる硬さ。

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	3	7/30	7
1.45～2.15	3	3	5	11/30	11
2.45～3.15	5	6	6	17/30	17
3.45～4.15	4	6	5	15/30	15
4.45～5.15	6	8	9	23/30	23
5.45～6.05	22	28/9		50/19	79
6.24～7.05	50/5			50/5	300
7.10～8.15	50/9			50/9	167
8.24～9.05	50/4			50/4	375
9.09					

掘進月日：11/12、11/13

庁舎棟設計GL　970　2200　4800　基礎下端

【令和２年】

ボーリング名	No．3	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北緯	33° 47′ 34.18″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 9日 ～ 2年 11月 11日	東経	138° 41′ 32.50″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師	現場代理人 / コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	山田孝弘
孔口標高	TP 13.31m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総掘進長	11.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機 YBM－05DA / ハンマー落下用具 半自動落下型 / エンジン NFD－8型 / ポンプ GP－5

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	記事
12.71	0.60	0.60	表土	茶灰	0.20mまでアスファルト,砕石。0.20m以深は砂混り粘性土からなる。
9.61	3.10	3.70	強風化頁岩	赤褐～乳黄灰	頁岩の強風化帯。風化著しく泥質化～土砂化が進行して、シルト～固結シルト状を呈する。コアは流失する。
2.31	7.30	11.00	頁岩	淡青灰～青灰	上部5m付近までは風化進行したやや軟質な岩（軟岩）であるが、礫状、岩片状、短棒状コアとなる部分もある。5m以深は概ね中硬質な岩で、コアは25～50cm位の棒状コアとなる。コアはハンマーの中打～強打で割れる硬さ。所々、砂岩の薄層を挟んでいる。所々に斜亀裂があり、亀裂面はわずかに脆弱化している。

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	4	10/30	10
1.45～2.15	3	3	4	10/30	10
2.45～3.15	4	5	5	14/30	14
3.45～4.10	50			50/10	150
4.20～5.10	39	11/2		50/12	125
5.22～6.05	50/8			50/8	188
6.13～7.05	50/7			50/7	214
7.12～8.00	50/4			50/4	375
8.04～9.00	50/4			50/4	375
9.04～10.00	50/3			50/3	500
10.03～11.05	50			50/10	150
11.15					

掘進月日：11/9、11/10、11/11

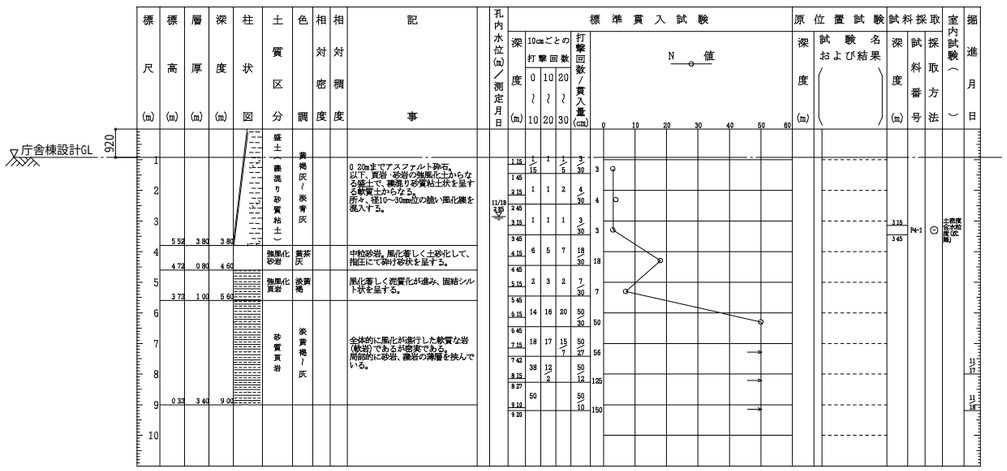
庁舎棟設計GL　4910　2200　基礎下端

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　ボーリング柱状図 (1)		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当	番号 019
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

株式会社 佐藤総合計画

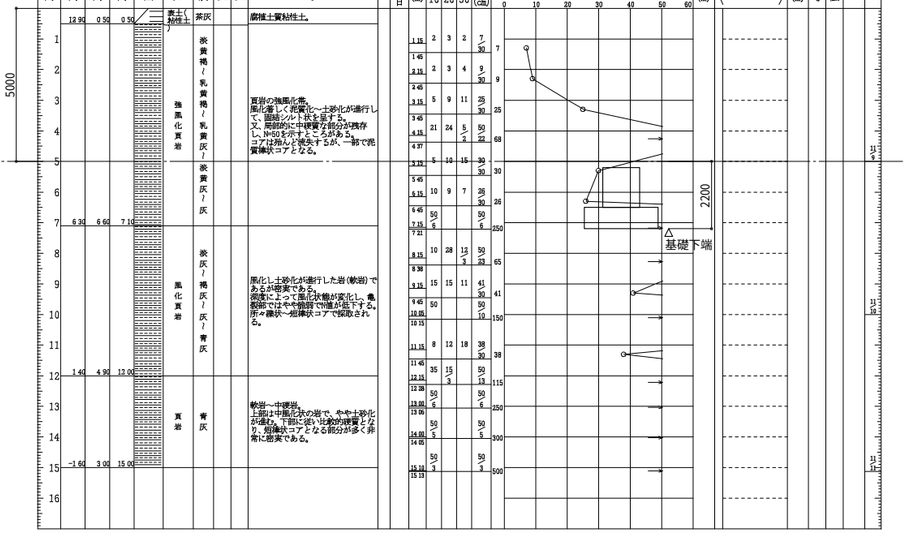
【令和２年】

ボーリング名	No．4	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北　緯	33° 47′ 33.45″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 16日 ～ 2年 11月 18日	東　経	130° 41′ 31.38″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870） 主任技師	現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	野口義文
孔口標高	TP 9.32m 角度 180°上 90° 下 0° 方向 北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM－05DA2	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	9.00m		エンジン NFD－8型	ポンプ	GP－5



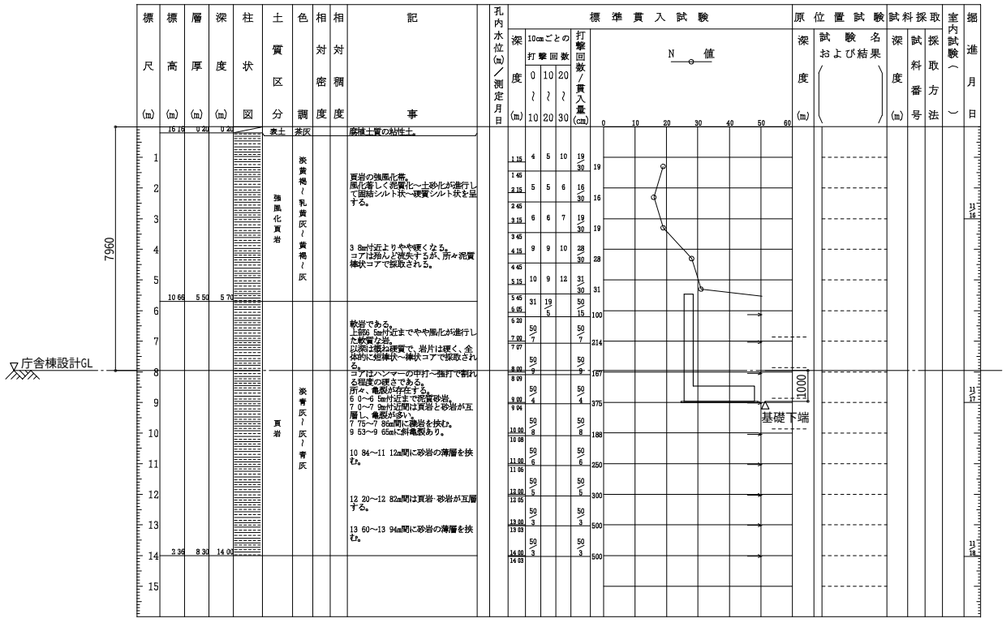
【令和２年】

ボーリング名	No．5	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北　緯	33° 47′ 34.35″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 9日 ～ 2年 11月 11日	東　経	130° 41′ 34.02″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870） 主任技師	現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	木村孝志
孔口標高	TP 13.40m 角度 180°上 90° 下 0° 方向 北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM－05DA2	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	15.00m		エンジン NFD－8型	ポンプ	GP－5



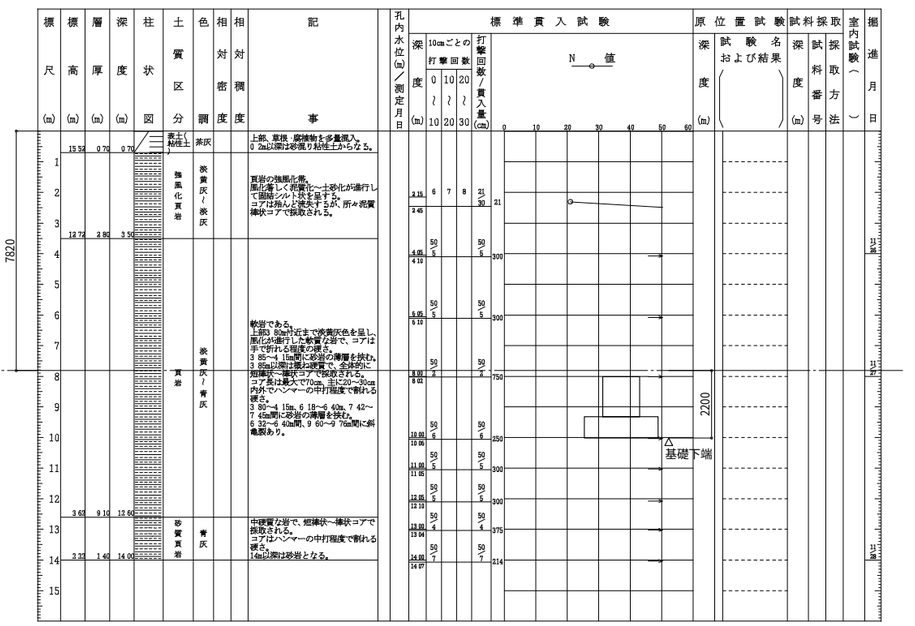
【令和２年】

ボーリング名	No．7	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北　緯	33° 47′ 33.20″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 16日 ～ 2年 11月 18日	東　経	130° 41′ 33.40″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870） 主任技師	現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	山田孝弘
孔口標高	TP 16.36m 角度 180°上 90° 下 0° 方向 北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM－05DA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	14.00m		エンジン NFD－8型	ポンプ	GP－5



【令和２年】

ボーリング名	No．9	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）	北　緯	33° 47′ 33.75″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 26日 ～ 2年 11月 28日	東　経	130° 41′ 32.28″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870） 主任技師	現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	木村孝志
孔口標高	TP 16.22m 角度 180°上 90° 下 0° 方向 北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM－05DA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	14.00m		エンジン NFD－8型	ポンプ	GP－5

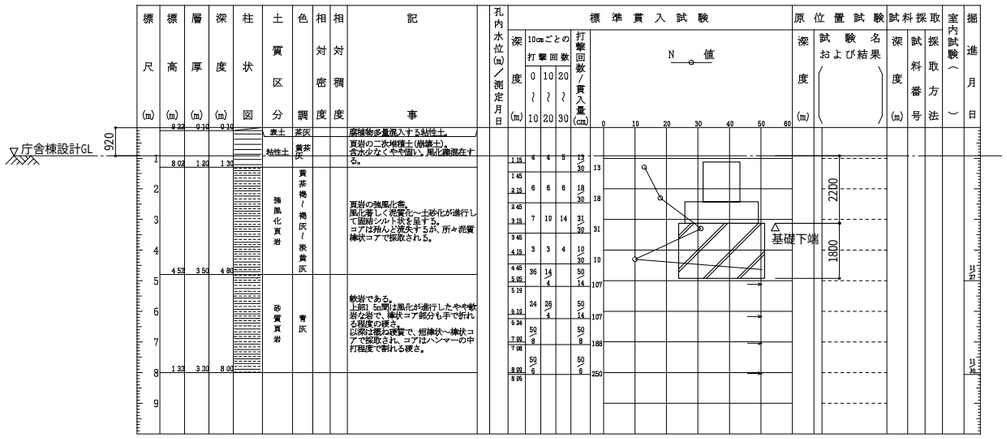


株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称	鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名	庁舎棟　ボーリング柱状図 (2)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 020
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

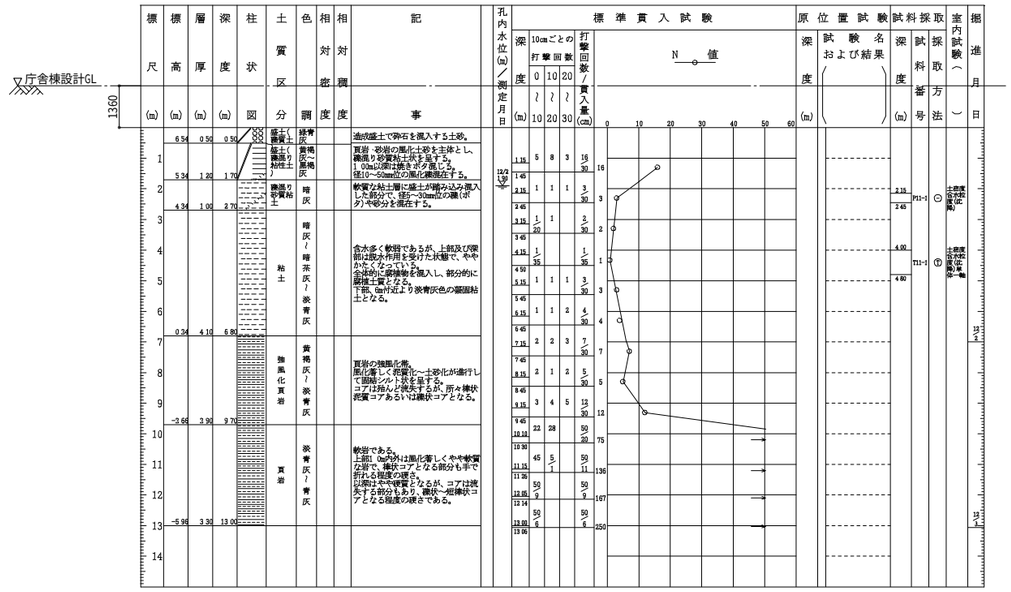
【令和２年】

ボーリング名	Ｎｏ．１０	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外(鞍手町文化体育総合施設内北側用地)			北緯	33° 47′ 34.96″
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 2年 11月 27日 ～ 2年 11月 30日	東経	130° 41′ 33.67″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	山田孝弘
孔口標高	TP 9.32m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°
総掘進長	8.00m	試錐機	ＹＢＭ－０５ＤＡ	ハンマー落下具	半自動落下型	使用機種	
		エンジン	ＮＦＤ－８型	ポンプ	ＧＰ－５		



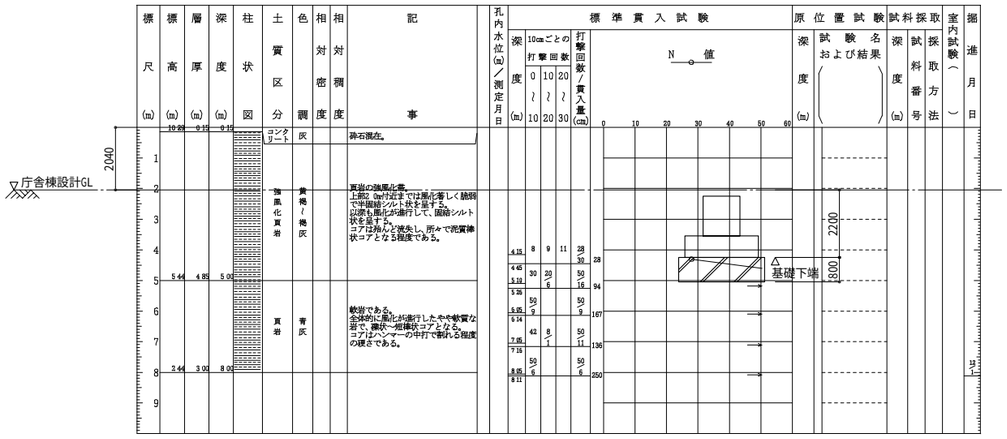
【令和２年】

ボーリング名	Ｎｏ．１１	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外(鞍手町文化体育総合施設内北側用地)			北緯	33° 47′ 35.76″
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 2年 12月 2日 ～ 2年 12月 3日	東経	130° 41′ 34.18″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	山田孝弘
孔口標高	TP 7.04m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°
総掘進長	13.00m	試錐機	ＹＢＭ－０５ＤＡ	ハンマー落下具	半自動落下型	使用機種	
		エンジン	ＮＦＤ－８型	ポンプ	ＧＰ－５		



【令和２年】

ボーリング名	Ｎｏ．１２	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外(鞍手町文化体育総合施設内北側用地)			北緯	33° 47′ 34.96″
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 2年 12月 1日 ～ 2年 12月 1日	東経	130° 41′ 32.75″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	山田孝弘
孔口標高	TP 10.44m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°
総掘進長	8.00m	試錐機	ＹＢＭ－０５ＤＡ	ハンマー落下具	半自動落下型	使用機種	
		エンジン	ＮＦＤ－８型	ポンプ	ＧＰ－５		

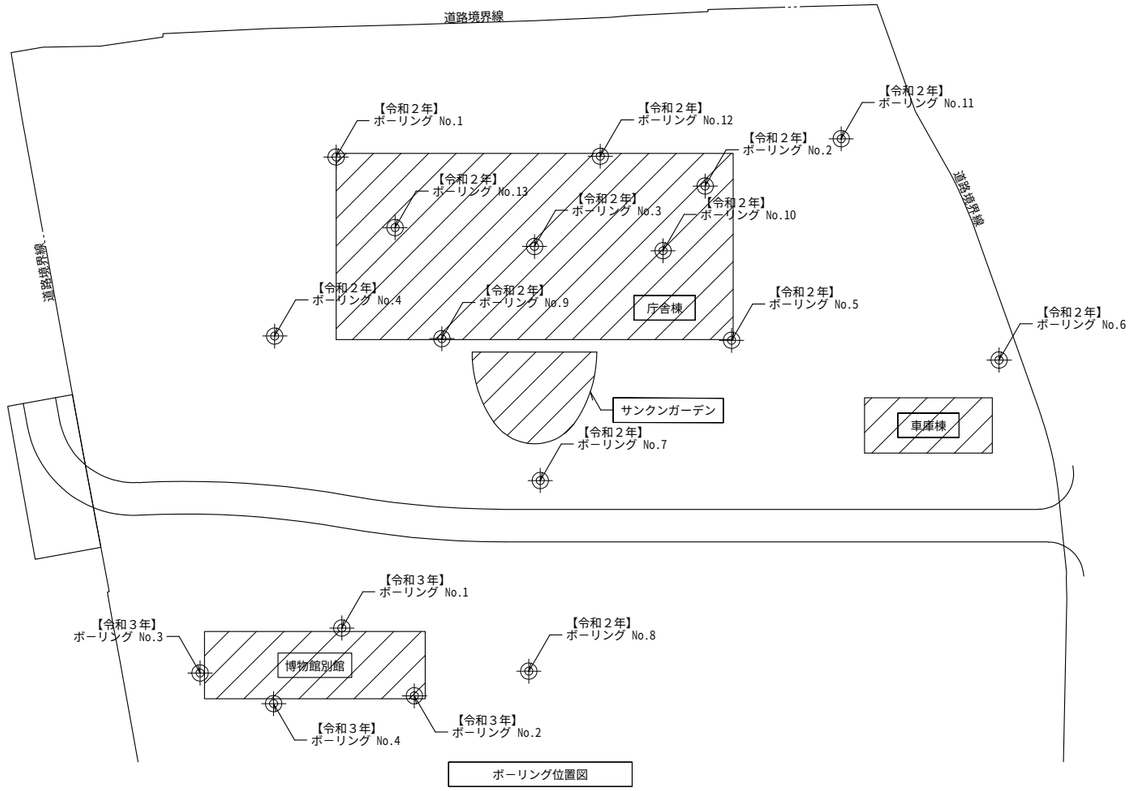


【令和２年】

ボーリング名	Ｎｏ．１３	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外(鞍手町文化体育総合施設内北側用地)			北緯	33° 47′ 34.21″
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 2年 11月 30日 ～ 2年 12月 1日	東経	130° 41′ 31.92″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人	コア鑑定者 樋口敏輝	ボーリング責任者	木村孝志
孔口標高	TP 15.17m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°
総掘進長	13.00m	試錐機	ＹＢＭ－０５ＤＡ２	ハンマー落下具	半自動落下型	使用機種	
		エンジン	ＮＦＤ－８型	ポンプ	ＧＰ－５		

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称	鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名	庁舎棟 ボーリング柱状図 (3)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当	番号 021
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

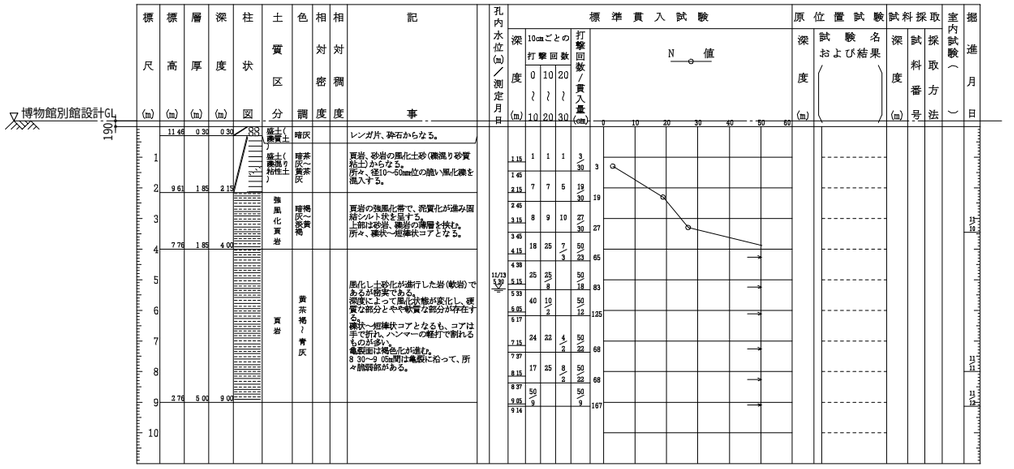


ボーリング位置図

博物館別館　設計GL＝TP+11.95m

【令和２年】

ボーリング名	No. 8	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外（鞍手町文化体育総合施設内北側用地）					北緯	33° 47′ 32.45″		
発注機関	福岡県鞍手町役場				調査期間	令和 2年 11月 10日 ～ 2年 11月 12日		東経	130° 41′ 33.81″		
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092−263−0870）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	樋口敏輝	ボーリング責任者	岩崎一郎		
孔口標高	TP 11.76m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機	YBM−1WA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	9.00m								エンジン	NFD−10型	ポンプ	GP−5



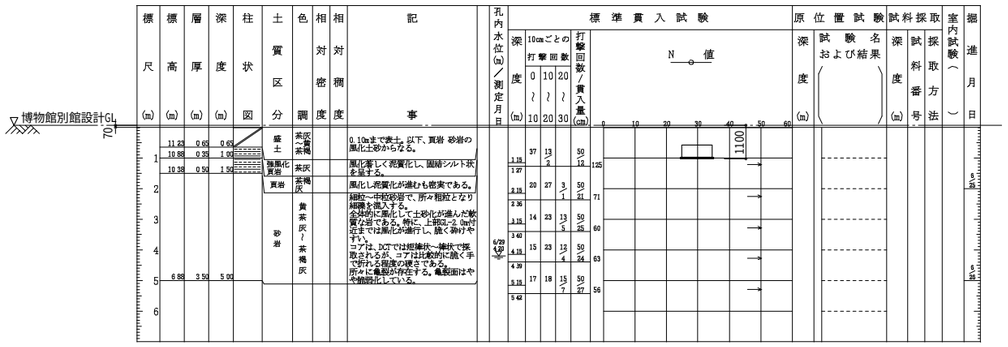
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	11.46	0.30	0.30		盛土（礫混り砂質粘土）/盛土（礫混り粘性土）	暗灰			レンガ片、砕石からなる。
1	9.61	1.85	2.15		強風化頁岩	暗茶灰～黄茶灰			頁岩、砂岩の風化土砂（礫混り砂質粘土）からなる。 所々、径10～50mm位の硬い風化礫を混入する。
2									
3									
4	7.76	1.85	4.00			暗褐灰～灰黄褐			頁岩の強風化帯で、岩質化が進み固結シルト状を呈する。 上部は砂岩、礫岩の薄層を挟む。 所々、棒状～短柱状コアとなる。
5									
6					頁岩	黄茶褐～青灰			風化し土砂化が進行した岩（軟岩）であるが密実である。 深度によって風化変質が変化し、硬質な部分とやや軟質な部分が存在する。 棒状～短柱状コアとなるも、コアは手で折れ、ハンマーの軽打で割れるものがある。 亀裂面は褐色化が進む。 8.30～9.00m間は亀裂に沿って、所々脱落部がある。
7									
8									
9	2.76	5.00	9.00						
10									

孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	標準貫入試験 10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（～）	掘進月日
1.15	1.15	1	1	1	3/30							11/12
1.45	1.45											
2.15	2.15	7	7	5	19/30							
2.45	2.45											
3.15	3.15	8	9	10	27/30							
3.45	3.45											
4.15	4.15	18	25	7/3	50/23							
4.38	4.38											
5.15	5.15	25	25/4		50/18							
5.33	5.33											
5.65	5.65	40	10/2		50/12							
6.17	6.17											
7.15	7.15	24	22	4/3	50/22							
7.37	7.37											
8.15	8.15	17	25	8/5	50/22							
8.37	8.37	50/9			50/9							
9.05	9.05											
9.14	9.14											

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 博物館別館　ボーリング柱状 (4)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当 / 番号 022
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3

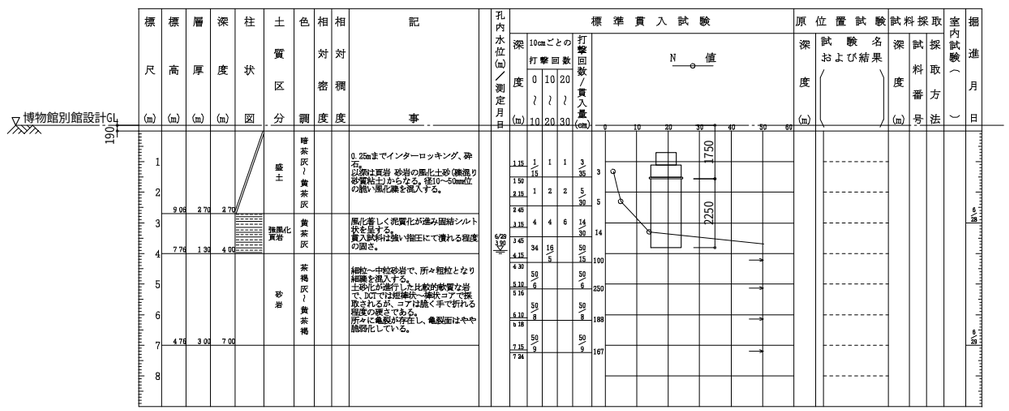
【令和３年】

ボーリング名	No．1	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧（鞍手町歴史民俗博物館北側用地）					北緯	33° 47′ 32.23″		
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 3年 6月 25日 ～ 3年 6月 26日		東経	130° 41′ 32.63″			
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	樋口敏輝	ボーリング責任者	岩崎一郎		
孔口標高	TP 11.88m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	YBM－1WA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	5.00m								エンジン	NFD－10型	ポンプ	GP－5



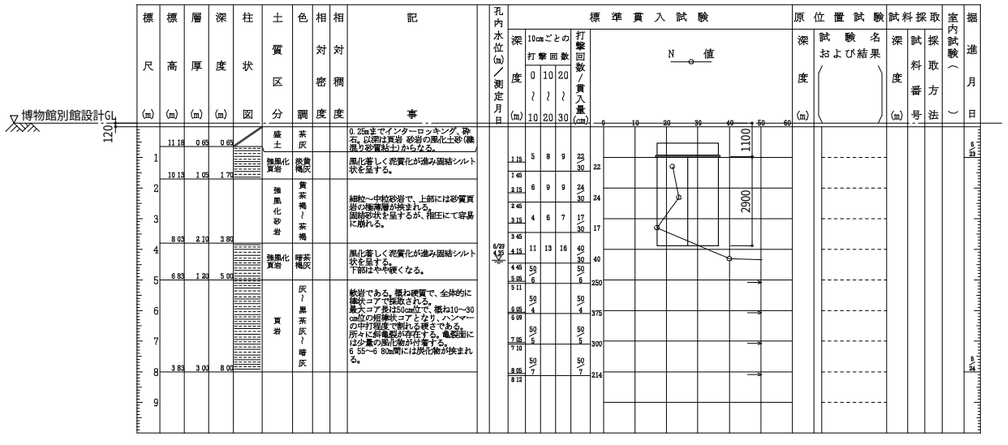
【令和３年】

ボーリング名	No．2	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧（鞍手町歴史民俗博物館北側用地）					北緯	33° 47′ 32.13″		
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 3年 6月 28日 ～ 3年 6月 29日		東経	130° 41′ 33.31″			
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	樋口敏輝	ボーリング責任者	岩崎一郎		
孔口標高	TP 11.76m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	YBM－1WA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	7.00m								エンジン	NFD－10型	ポンプ	GP－5



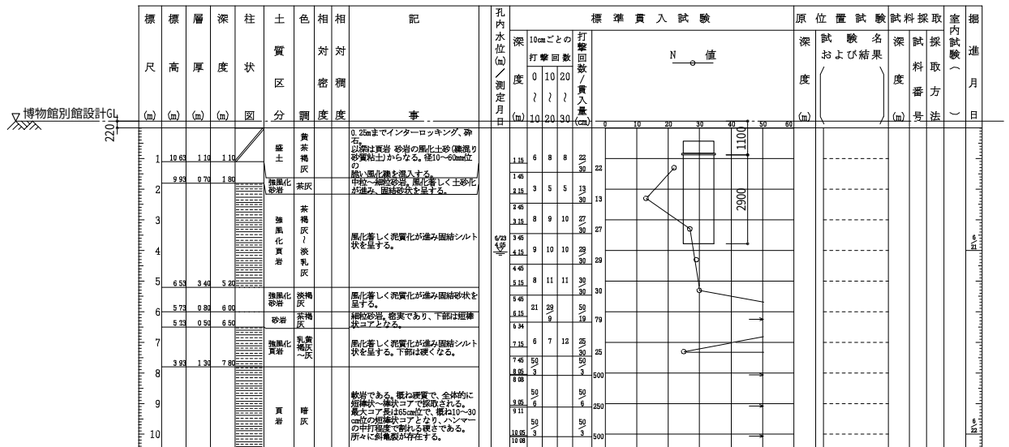
【令和３年】

ボーリング名	No．3	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧（鞍手町歴史民俗博物館北側用地）					北緯	33° 47′ 31.68″		
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 3年 6月 23日 ～ 3年 6月 24日		東経	130° 41′ 32.01″			
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	岩崎一郎		
孔口標高	TP 11.83m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	YBM－1WA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	8.00m								エンジン	NFD－10型	ポンプ	GP－5



【令和３年】

ボーリング名	No．4	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧（鞍手町歴史民俗博物館北側用地）					北緯	33° 47′ 31.70″		
発注機関	福岡県鞍手町役場			調査期間	令和 3年 6月 21日 ～ 3年 6月 23日		東経	130° 41′ 32.51″			
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092－263－0870）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	樋口敏輝	ボーリング責任者	岩崎一郎		
孔口標高	TP 11.73m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	YBM－1WA	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	11.00m								エンジン	NFD－10型	ポンプ	GP－5



株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 博物館別館 ボーリング柱状 (5)	縮尺 A1 1: - A3 1: -	
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 023

ボーリング位置図

車庫棟　設計GL＝TP+7.9m

【令和２年】

ボーリング名	No.5	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外(鞍手町文化体育総合施設内北側用地)	北緯	33° 47′ 34.35″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 9日 ～ 2年 11月 11日	東経	130° 41′ 34.02″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092-263-0870）	主任技師		現場代理人	
コア鑑定者	樋口敏輝	ボーリング責任者	木村孝志		
孔口標高	TP 13.40m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	15.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°		
使用機種 試錐機	YBM-05DA2	ハンマー落下用具	半自動落下型		
使用機種 エンジン	NFD-8型	ポンプ	GP-5		

車庫棟設計GL　5500

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	記事
12.90	0.50	0.50	表土(粘性土)	茶灰	腐植土質粘性土。
6.30	6.60	7.10	強風化頁岩	淡黄褐～乳黄褐～乳黄灰～淡黄灰～灰	頁岩の強風化帯。風化著しく泥質化～土砂化が進行して、固結シルト状を呈する。又、局部的に中硬質な部分が残存し、N=50を示すところがある。コアは殆んど流失するが、一部で泥質棒状コアとなる。
1.40	4.90	12.00	風化頁岩	淡灰～褐灰～灰～青灰	風化し土砂化が進行した岩(軟岩)であるが密実である。深度によって風化状態が変化し、亀裂部ではやや脆弱でN値が低下する。所々礫状～短棒状コアで採取される。
-1.60	3.00	15.00	頁岩	青灰	軟岩～中硬岩。上部は中風化状の岩で、やや土砂化が進む。下部に従い比較的硬質となり、短棒状コアとなる部分が多く非常に密実である。

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量(cm)	N値	掘進月日
1.15～1.45	2	3	2	7/30	7	
2.15～2.45	2	3	4	9/30	9	
3.15～3.45	5	9	11	25/30	25	
4.15～4.37	21	24	5/2	50/22	68	11/9
5.15～5.45	5	10	15	30/30	30	
6.15～6.45	10	9	7	26/30	26	
7.15～7.21	50/6			50/6	250	
8.15～8.38	10	28	12/3	50/23	65	
9.15～9.45	15	15	11	41/30	41	
10.05～10.15	50			50/10	150	11/10
11.15～11.45	8	12	18	38/30	38	
12.15～12.28	35	15/3		50/13	115	
13.00～13.06	50/6			50/6	250	
14.00～14.05	50/5			50/5	300	
15.10～15.13	50/3			50/3	500	11/11

【令和２年】

ボーリング名	No.6	調査位置	鞍手郡鞍手町大字小牧2080番2外(鞍手町文化体育総合施設内北側用地)	北緯	33° 47′ 34.98″
発注機関	福岡県鞍手町役場	調査期間	令和 2年 11月 13日 ～ 2年 11月 16日	東経	130° 41′ 35.68″
調査業者名	株式会社佐藤総合計画 電話（092-263-0870）	主任技師		現場代理人	
コア鑑定者	樋口敏輝	ボーリング責任者	岩崎一郎		
孔口標高	TP 7.08m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	10.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°		
使用機種 試錐機	YBM-1WA	ハンマー落下用具	半自動落下型		
使用機種 エンジン	NFD-10型	ポンプ	GP-5		

車庫棟設計GL　820　1350　基礎下端　6650

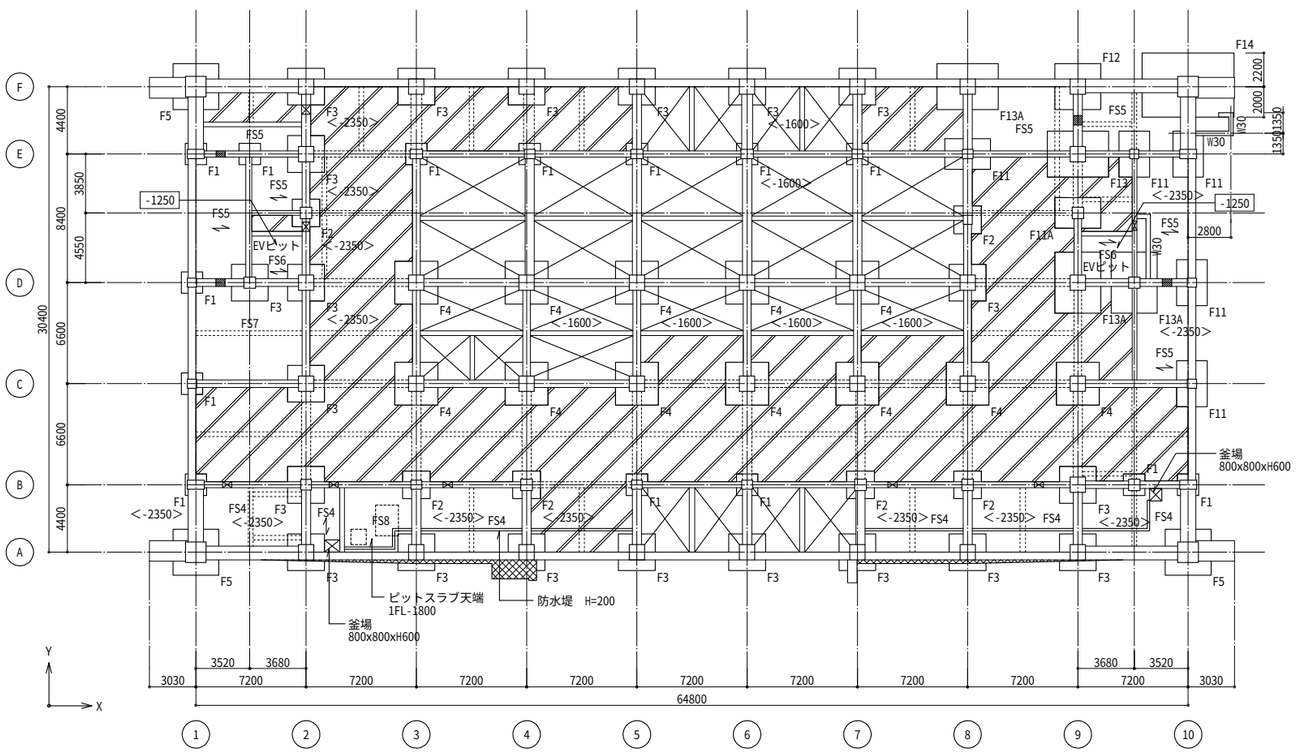
標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	記事
4.68	2.40	2.40	盛土(礫質土)	灰～茶灰	造成盛土。0.15mまで砕石。0.15m以深は瓦礫, コンクリート, 玉石等を混入する礫質土からなる。1.6m以深はボタ～焼ボタ等を主体とする礫混り土からなる。
1.18	3.50	5.90	強風化砂岩	黄褐灰～褐茶灰	中粒砂岩で、上部は頁岩の薄層を挟んでいる。風化著しく完全に土砂化して中細砂状を呈する。所々、脆い風化礫が存在する。
-0.22	1.40	7.30	強風化頁岩	褐灰	風化著しく泥質化し、シルト～固結シルト状を呈する。
-2.92	2.70	10.00	頁岩	青灰	上部8.75m付近までは、やや風化が進行した軟岩であるが、礫状～短棒状コアで採取される部分もある。8.75m以深は比較的硬質で、短棒状コア又は連続して棒状コアとなる。所々亀裂が存在する。

孔内水位(m)/測定月日：11/13 2.60

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量(cm)	N値	掘進月日
1.15～1.45	8	3	6	17/30	17	
2.15～2.45	13	5	4	22/30	22	
3.15～3.50	1	2	2/15	5/35	4	
4.15～4.45	1	2/15	1/5	4/30	4	
5.15～5.45	2/15	1/5	3	6/30	6	
6.15～6.45	2/15	1/5	2	5/30	5	
7.15～7.43	5	14	31/8	50/28	54	11/13
8.15～8.43	15	24	11/8	50/28	54	
9.05～9.11	50/6			50/6	250	
10.05～10.12	50/7			50/7	214	11/16

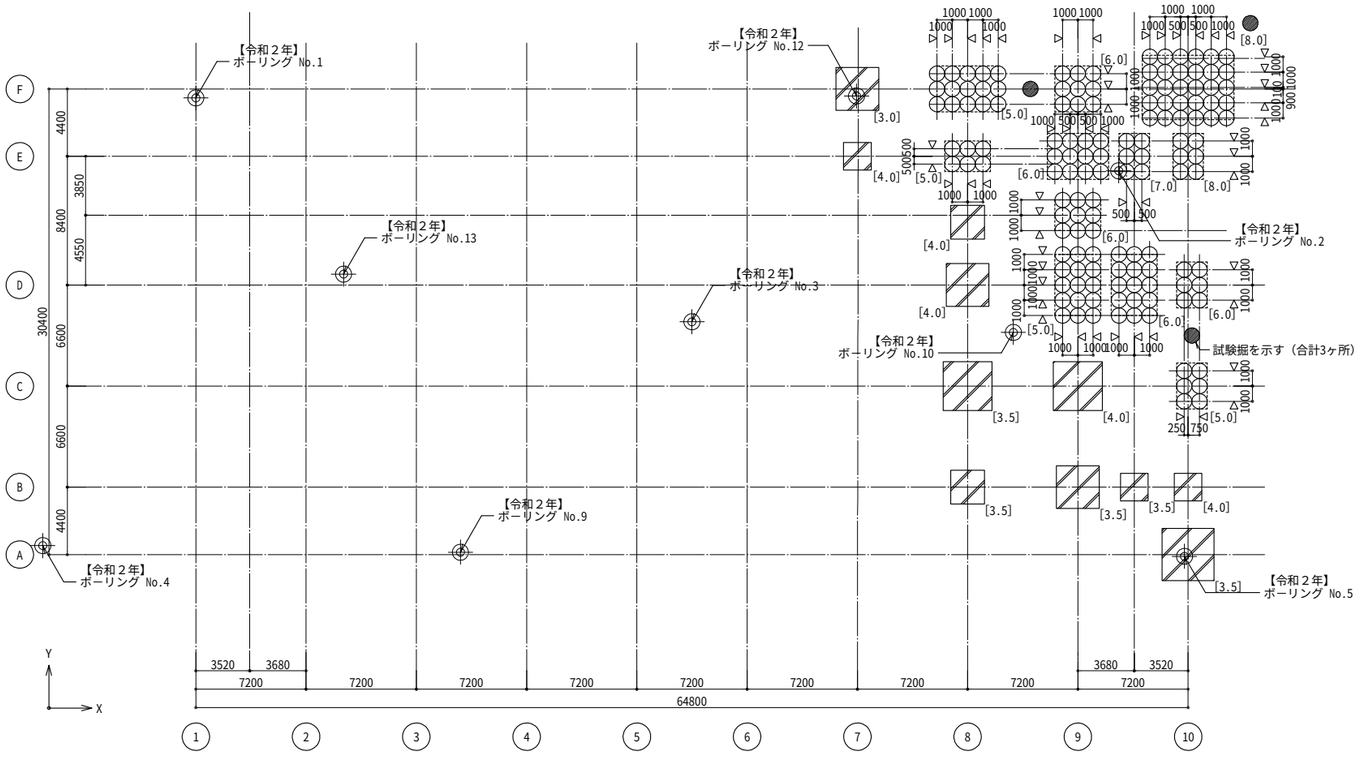
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事
図面名	車庫棟　ボーリング柱状図 (6)	縮尺 A1 1: - A3 1: -
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3
種別 SA	番号 024	



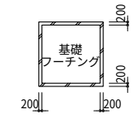
ピット・基礎伏図　1/200

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 柱芯=基礎芯とする。
3. 基礎下端は設計GL-2,200とする。
4. ＜　＞内数値は設計GLからの基礎下端を示す。
5. ピットスラブ天端は1FL-1950とする。
6. ▭ 内数値は1FLからのスラブ天端を示す。
7. ▨ 印は捨てコンピット(t=50)を示し、天端レベル1FL-2200とする。
8. スラブ主筋方向はY方向とする。
9. ⌁ 印はスラブ主筋方向を示す。
10. ⊠ 印は埋戻しを示す。
11. ▩ 印は増打ちを示す。
12. ⊗ 印は人通孔 600φを示す。
13. ◹ 印は土間コンクリートを示す。
14. ▨ 印は水槽間接続スリーブ 550φを示す。



ラップルコンクリート要領図



ラップルコンクリート・コラム伏図　1/200

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. ◁ 印はコラム芯示す。
3. 支持層は頁岩、砂質頁岩、風化頁岩とする。
4. [　] 内は設計GLからのラップルコンクリート、改良体想定深さを示す。
5. 施工に先立ち試験掘を行うこと。
   その際、必ず土質サンプルを採取すること。
   （採取が困難な場合は無水掘とする。）
6. 改良コラム先端深さは先行コラムにて基準トルク値
   を決定し、基準トルク値程度となる深さを標準とする。

地盤改良仕様

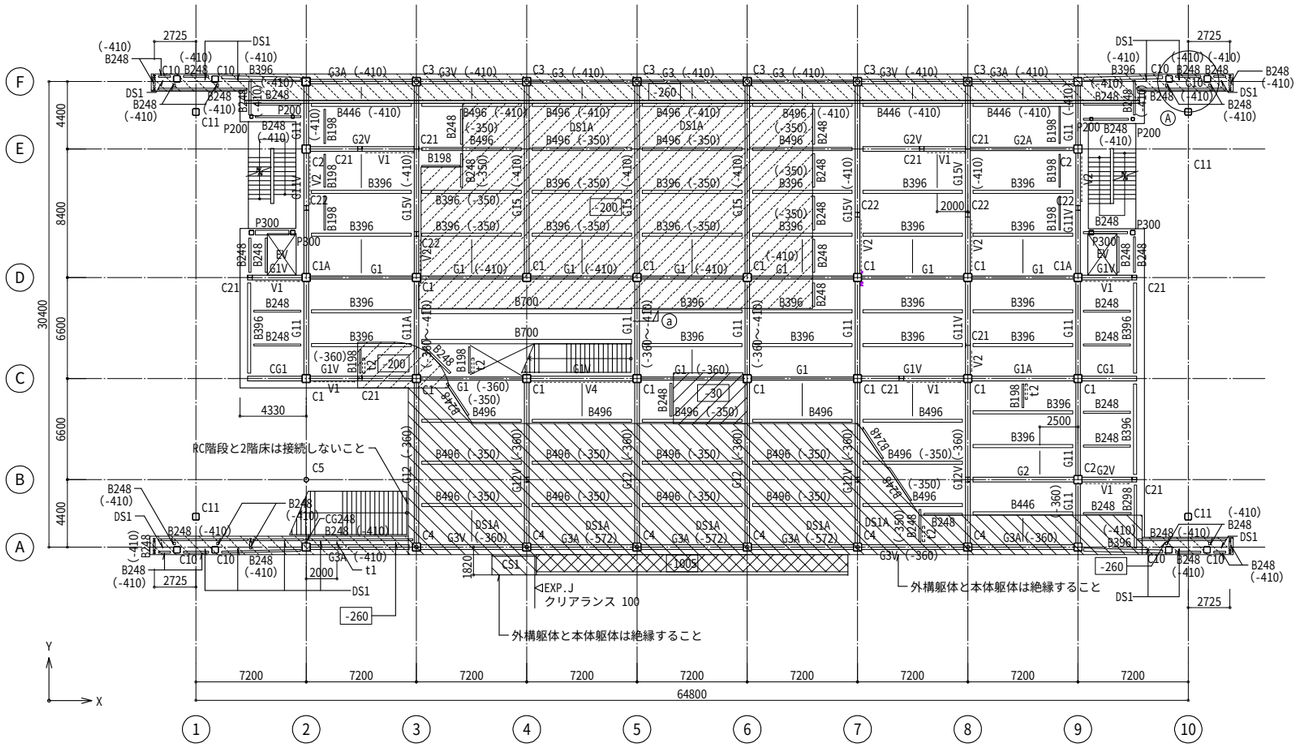
工法：深層混合処理工法
基礎下長期支持力：200kN/m²
設計用先端N値：16

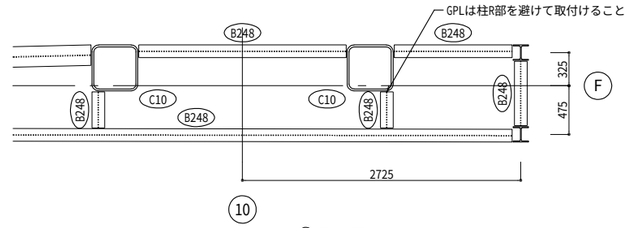
設計基準強度　Fc=800kN/m²

コラム径	地盤改良天端	地盤改良想定先端深さ	本数
1000φ	設計GL-2.25m	図示	135

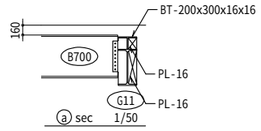
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　コラム・ピット・基礎伏図		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 025
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	





Ⓐ 部拡大図　1/30

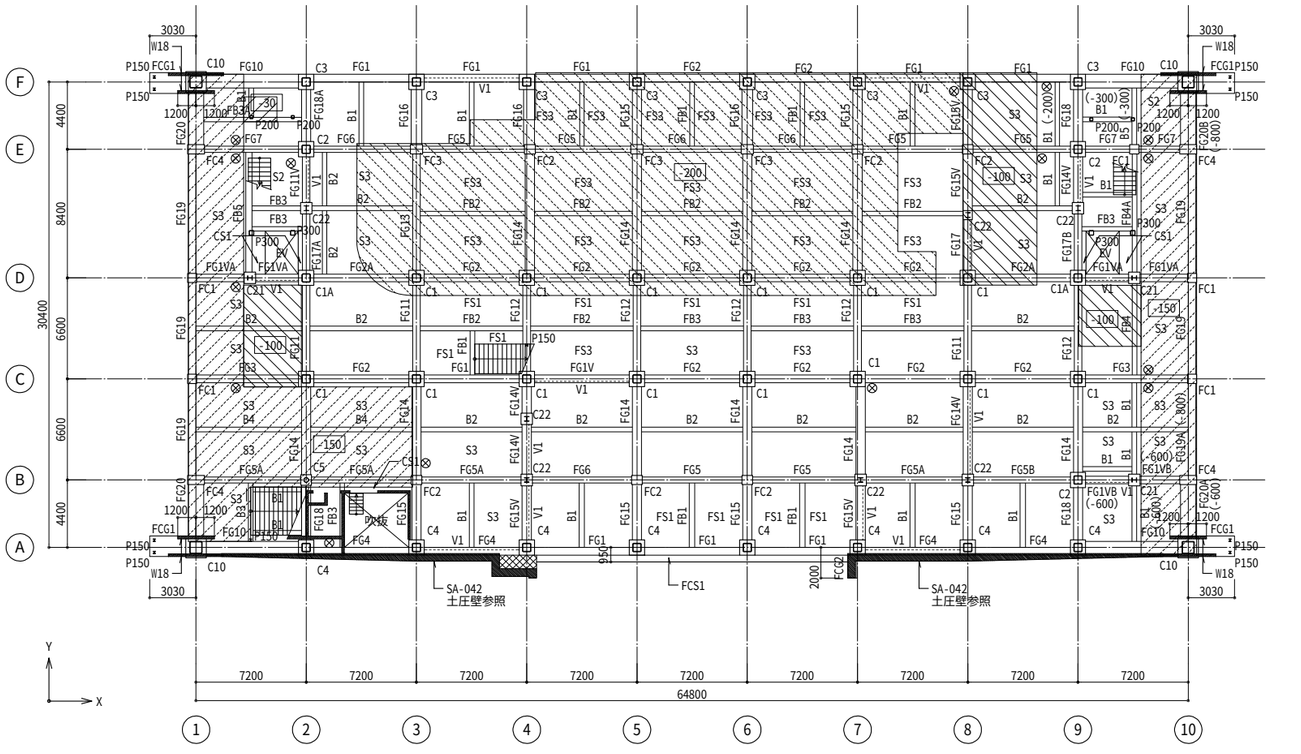


ⓐ sec　1/50

2階伏図　1/200

特記なき限り下記による

1. 鉄骨梁天端は2FL-160とする。
2. （ ）内数値は2FLからの鉄骨梁天端を示す。
3. スラブ天端は2FL-10とする。
4. 印範囲のスラブ天端は2FL-200を示し、小梁天端2FL-350を示す。
   印範囲のスラブ天端は2FL-260を示す。
   印範囲は勾配スラブを示し、天端レベル2FL-70～-200とする。
   印範囲のスラブ天端は2FL-30とする。
   印範囲のスラブ天端は2FL-1005とする。
5. 内数値は2FLからのスラブ天端を示す。
6. スラブ符号はDS1とする。
7. スラブ主筋方向はY方向とする。
8. 印はスラブ主筋方向を示す。
9. 片持ちスラブの主筋方向は取り付く梁と直交方向とする。
10. 大梁継手位置は柱芯（取付く部材芯）より1200とする。
11. ---- 印は鉛直ブレースを示す。
12. ― 印はt1を示す。
13. 建具工事等の下地鉄骨は意匠図による。



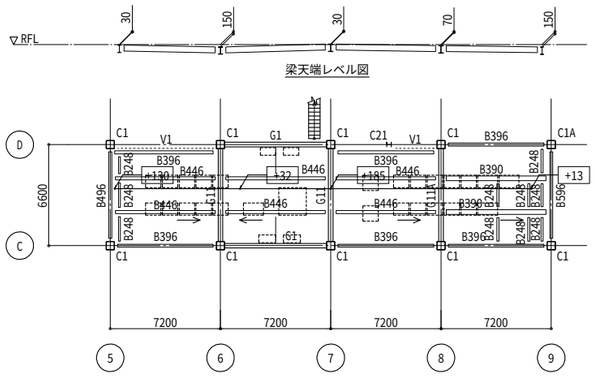
1階伏図　1/200

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 梁天端は1FL-450とする。
3. （ ）内数値は1FLからの梁天端を示す。
4. BPL下端は1FL-400とする。
5. スラブ天端は1FL±0とする。
6. 印範囲のスラブ天端は1FL-30を示す。
   印範囲のスラブ天端は1FL-100を示す。
   印範囲のスラブ天端は1FL-150を示す。
   印範囲のスラブ天端は1FL-200を示す。
7. 内数値は1FLからのスラブ天端を示す。
8. スラブ符号はS1とする。
9. スラブ主筋方向はY方向とする。
10. 印はスラブ主筋方向を示す。
11. 片持ちスラブの主筋方向は取り付く梁と直交方向とする。
12. 立上り壁符号はW18とする。
13. 印は増打ちを示す。
14. ⊗ はマンホールを示す。
15. ---- 印は鉛直ブレースを示す。
16. 印はW18を示す。

株式会社 佐藤総合計画

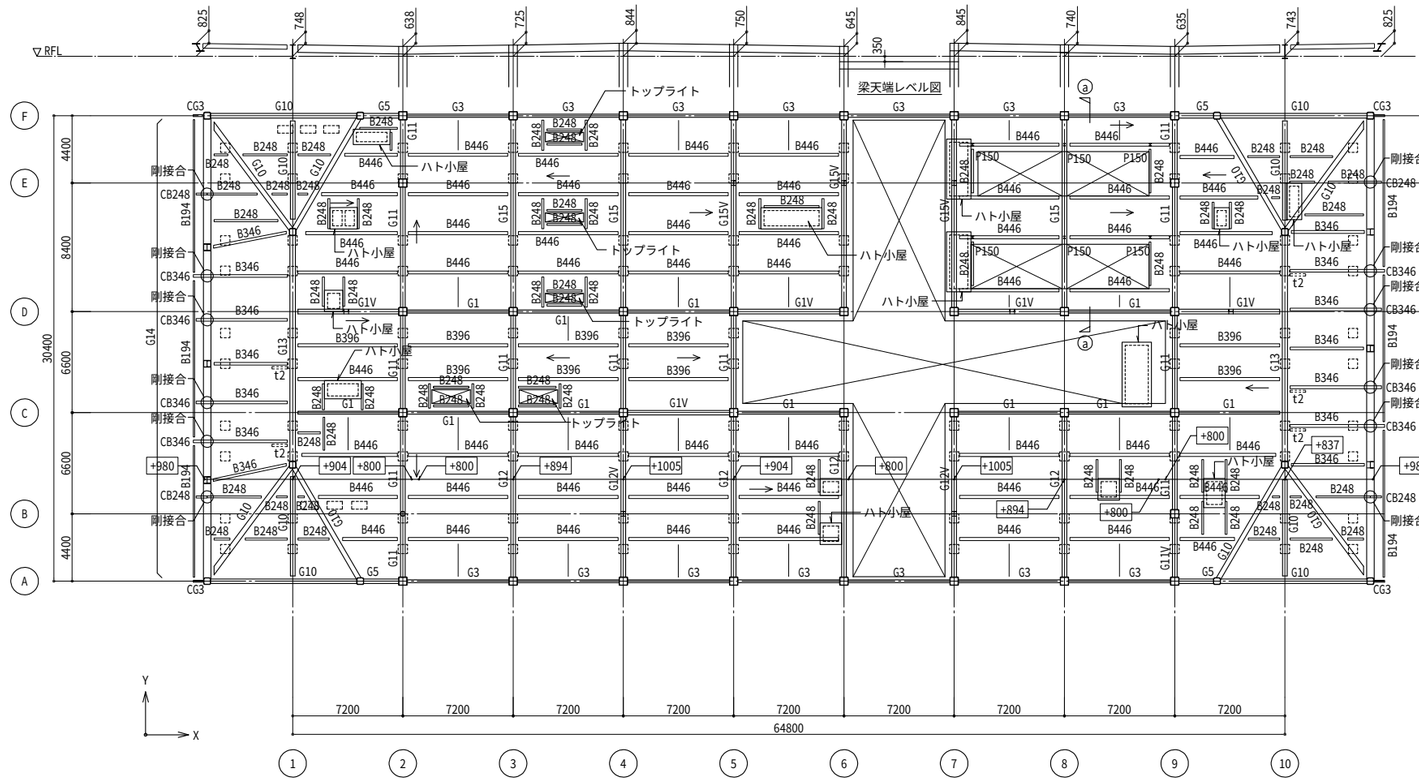
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名 庁舎棟　1階・2階伏図	縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計―級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計―級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
		番号 026

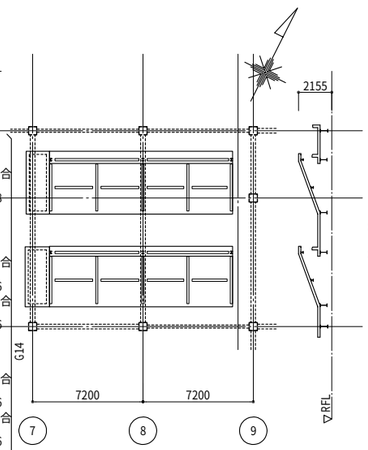


RFL-80伏図　1/200

特記なき限り下記による

1.梁天端は水勾配による。
2. □ 内数値はRFLからのスラブ天端を示す。
3.スラブ符号はDS1とする。
4.スラブ主筋方向はY方向とする。
5. ← 印は水勾配を示す。





ハイサイドライト屋根伏図　1/200

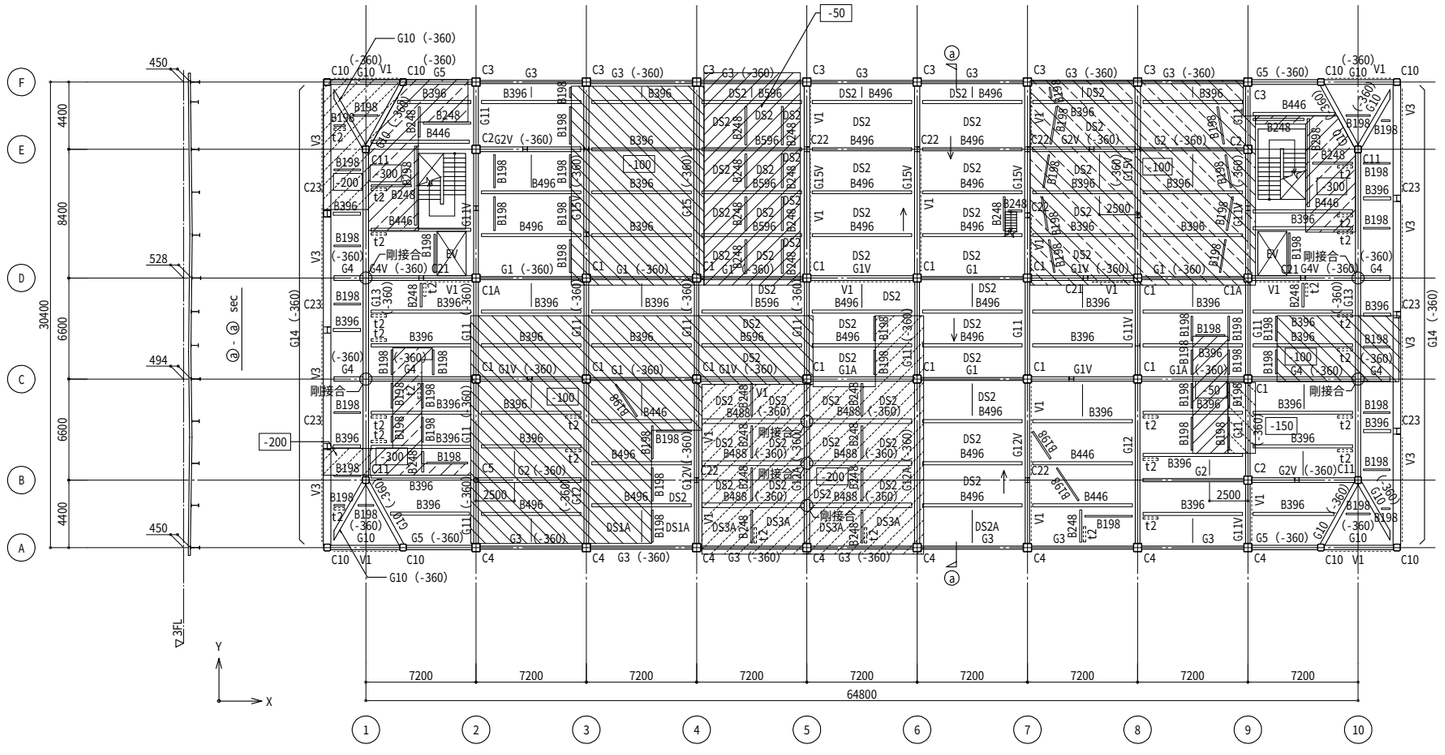
特記なき限り下記による

1.梁符号はB148とする。

R階伏図　1/200

特記なき限り下記による

1.梁天端は水勾配による。
2. □ 内数値はRFLからのスラブ天端を示す。
3.スラブ符号はDS1とする。
4.スラブ主筋方向はY方向とする。
5 ⌇ 印はスラブ主筋方向を示す。
6.片持ちスラブの主筋方向は取り付く梁と直交方向とする。
7. ← 印は水勾配を示す。
8.大梁継手位置は柱芯（取付く部材芯）より1200とする。
9. ― 印はt1を示す。
10.建具工事等の下地鉄骨は意匠図による。



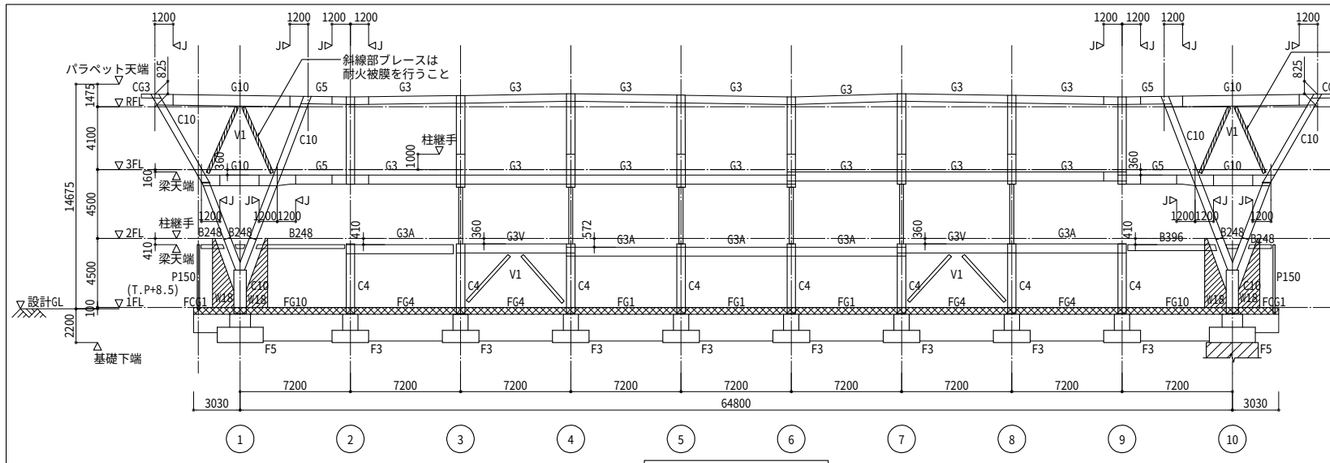
3階伏図　1/200

特記なき限り下記による

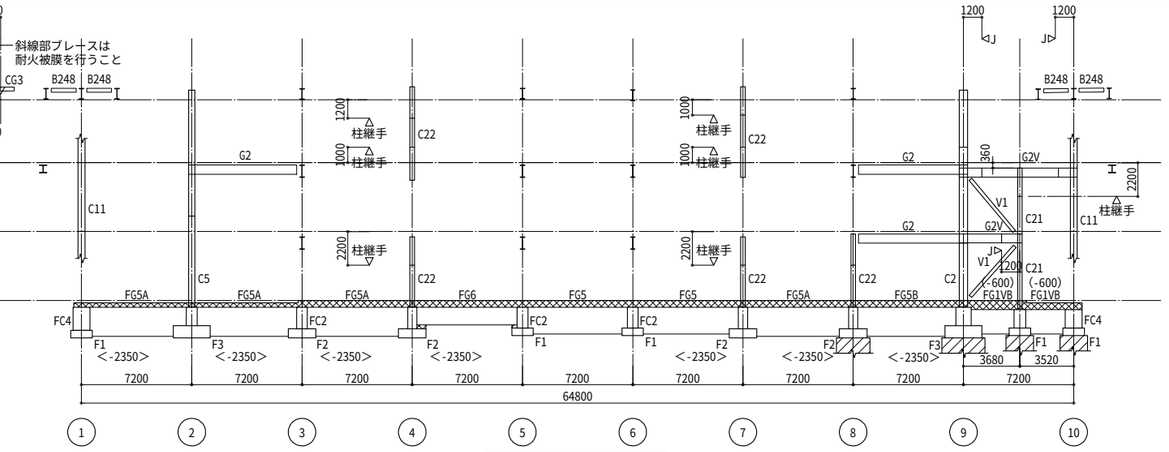
1.鉄骨梁天端は3FL-160とする。
2.（ ）内数値は3FLからの鉄骨梁天端を示す。
3.スラブ天端は3FL-10とする。
4. ▨ 印範囲のスラブ天端は3FL- 50を示し、小梁天端は3FL-200とする。
▨ 印範囲のスラブ天端は3FL-100を示し、小梁天端は3FL-250とする。
▨ 印範囲のスラブ天端は3FL-150を示し、小梁天端は3FL-300とする。
▨ 印範囲のスラブ天端は3FL-200を示し、小梁天端は3FL-350とする。
▨ 印範囲のスラブ天端は3FL-300を示し、小梁天端は3FL-450とする。
▨ 印範囲のスラブ天端は3FL-100を示し、小梁天端は3FL-250とする。
5. □ 内数値は3FLからのスラブ天端を示す。
6.スラブ符号はDS1とする。
7.スラブ主筋方向はY方向とする。
8. ⌇ 印はスラブ主筋方向を示す。
9.片持ちスラブの主筋方向は取り付く梁と直交方向とする。
10.大梁継手位置は柱芯（取付く部材芯）より1200とする。
11. ---- 印は鉛直ブレースを示す。
12. ― 印はt1を示す。
13.建具工事等の下地鉄骨は意匠図による。

株式会社 佐藤総合計画

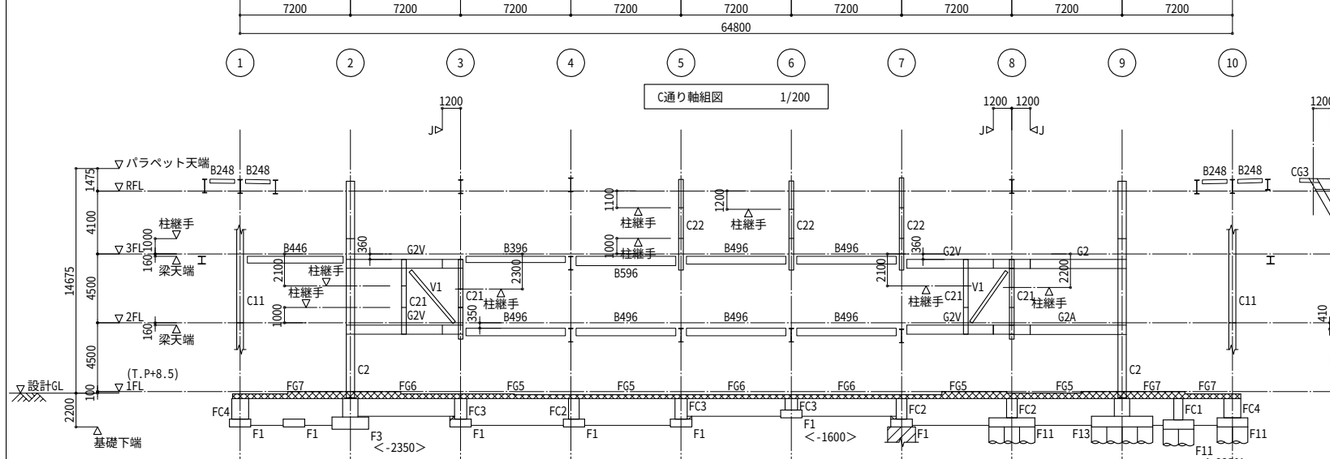
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　3階・R階伏図		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 027
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



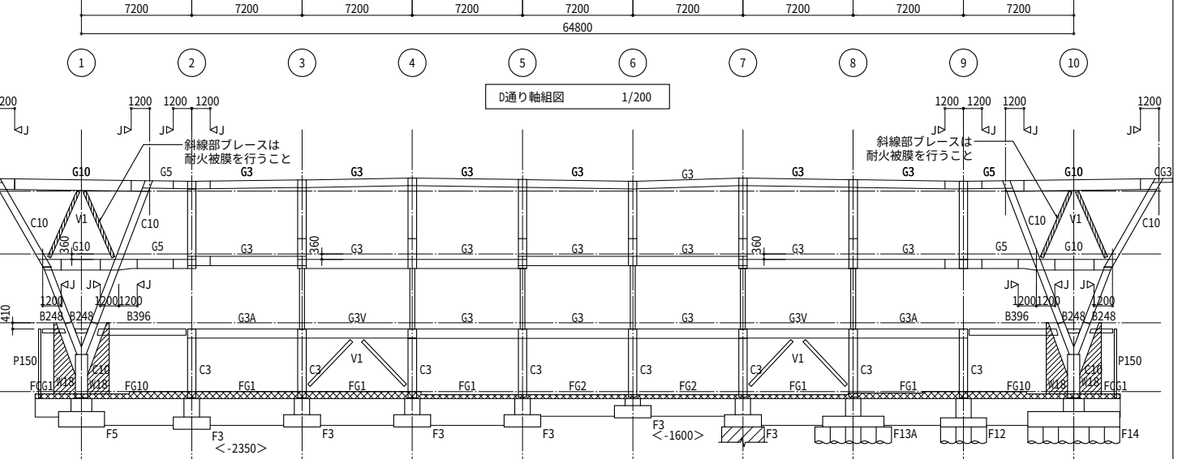
A通り軸組図　1/200



B通り軸組図　1/200



C通り軸組図　1/200



D通り軸組図　1/200

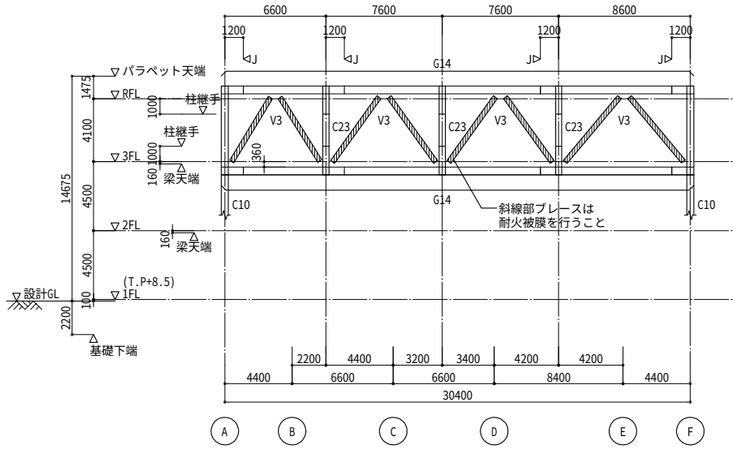
E通り軸組図　1/200

F通り軸組図　1/200

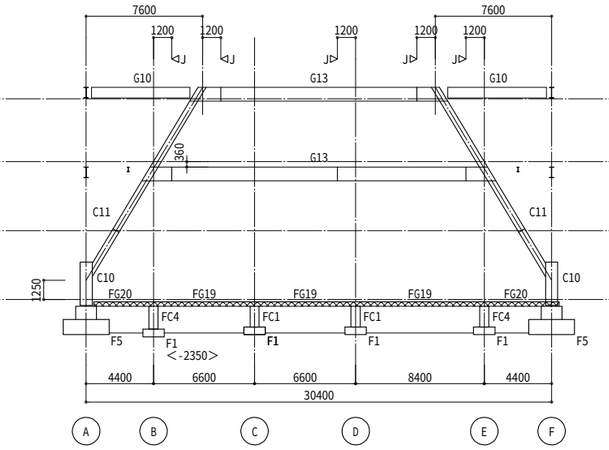
特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 基礎下端は設計GL-2,200とする。
3. ＜　＞内数値は設計GLからの基礎下端を示す。
4. B.PL下端は1FL-400とする。
5. [　]内数値は1FLからのBPL下端を示す。
6. 基礎梁天端は1FL-450とする。
7. (　) 内数値はFLからの梁天端を示す。
8. ⊲J 印はJoint位置を示す。
9. ▨ 印は増打を示す。
10. RC立上り壁はW18とする。

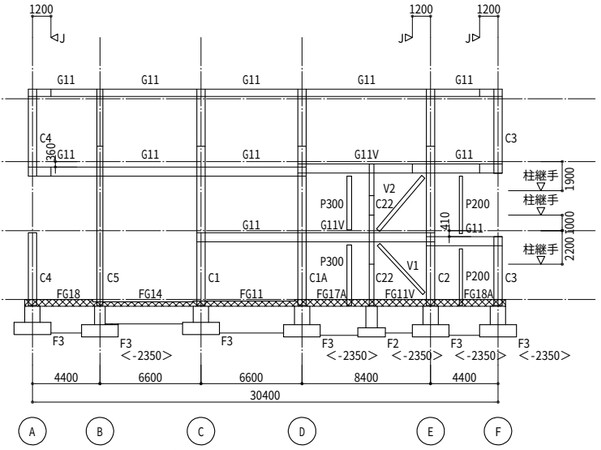
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 庁舎棟　軸組図 (1)	縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道真	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 028



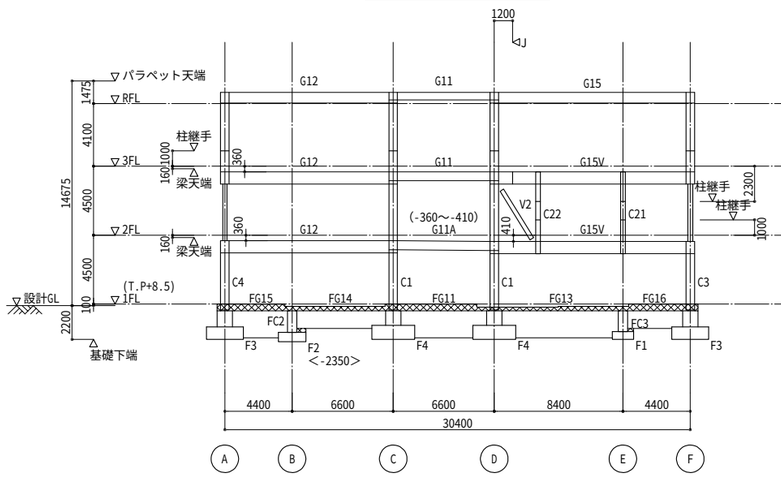
1通り-4300軸組図　1/200



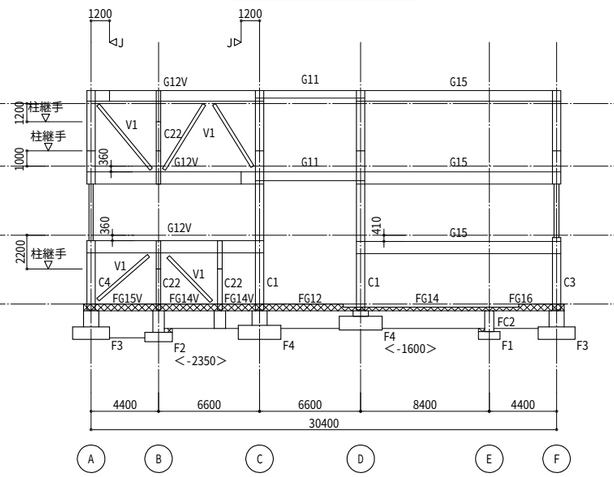
1通り軸組図　1/200



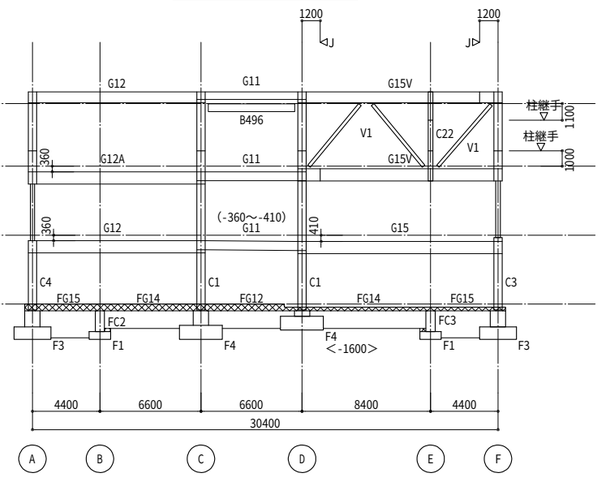
2通り軸組図　1/200



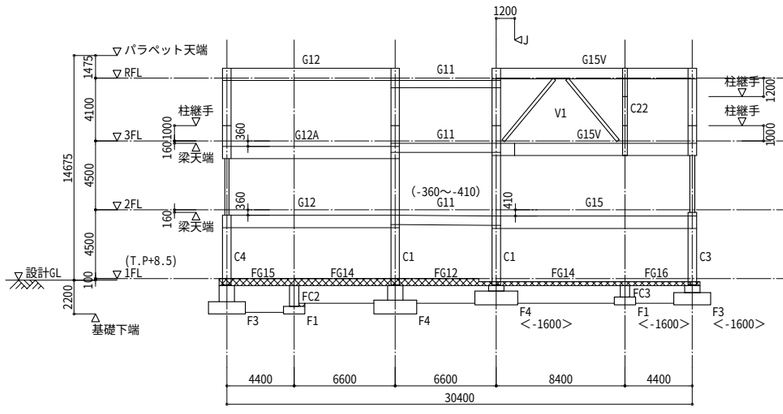
3通り軸組図　1/200



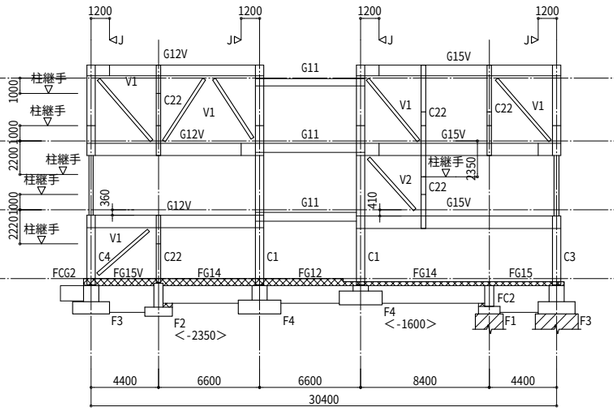
4通り軸組図　1/200



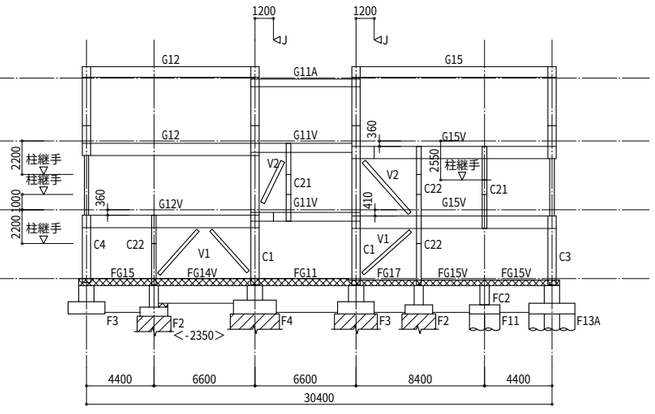
5通り軸組図　1/200



6通り軸組図　1/200



7通り軸組図　1/200



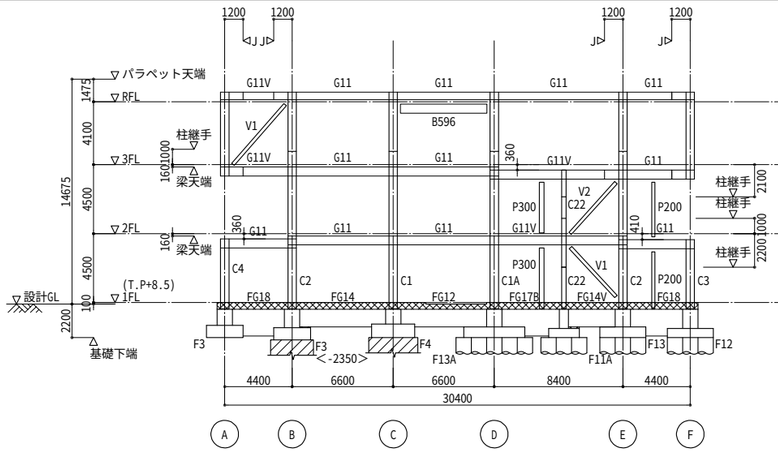
8通り軸組図　1/200

特記なき限り下記による

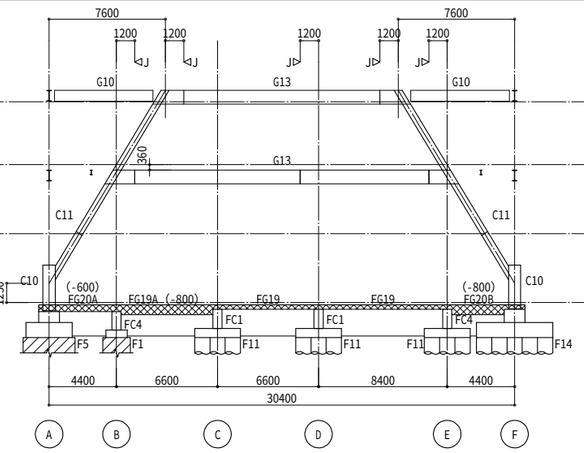
1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 基礎下端は設計GL-2,200とする。
3. ＜　＞内数値は設計GLからの基礎下端を示す。
4. B.PL下端は1FL-400とする。
5. [　]内数値は1FLからのBPL下端を示す。
6. 基礎梁天端は1FL-450とする。
7. (　) 内数値はFLからの梁天端を示す。
8. ⊲J 印はJoint位置を示す。
9. ▨ 印は増打を示す。
10. RC立上り壁はW18とする。

株式会社 佐藤総合計画

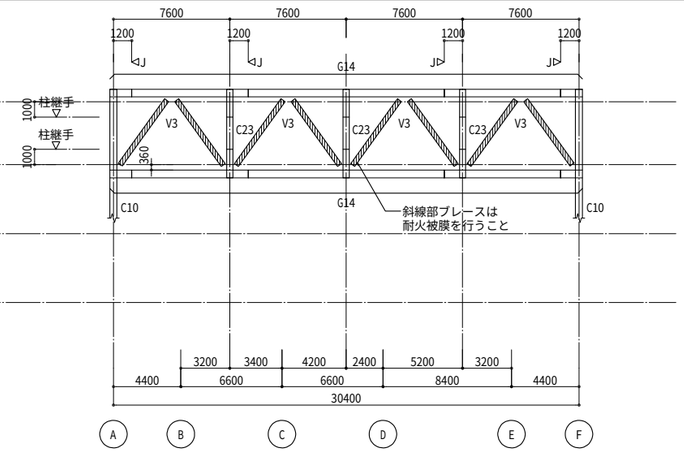
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　軸組図 (2)		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 029
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



9通り軸組図　1/200



10通り軸組図　1/200



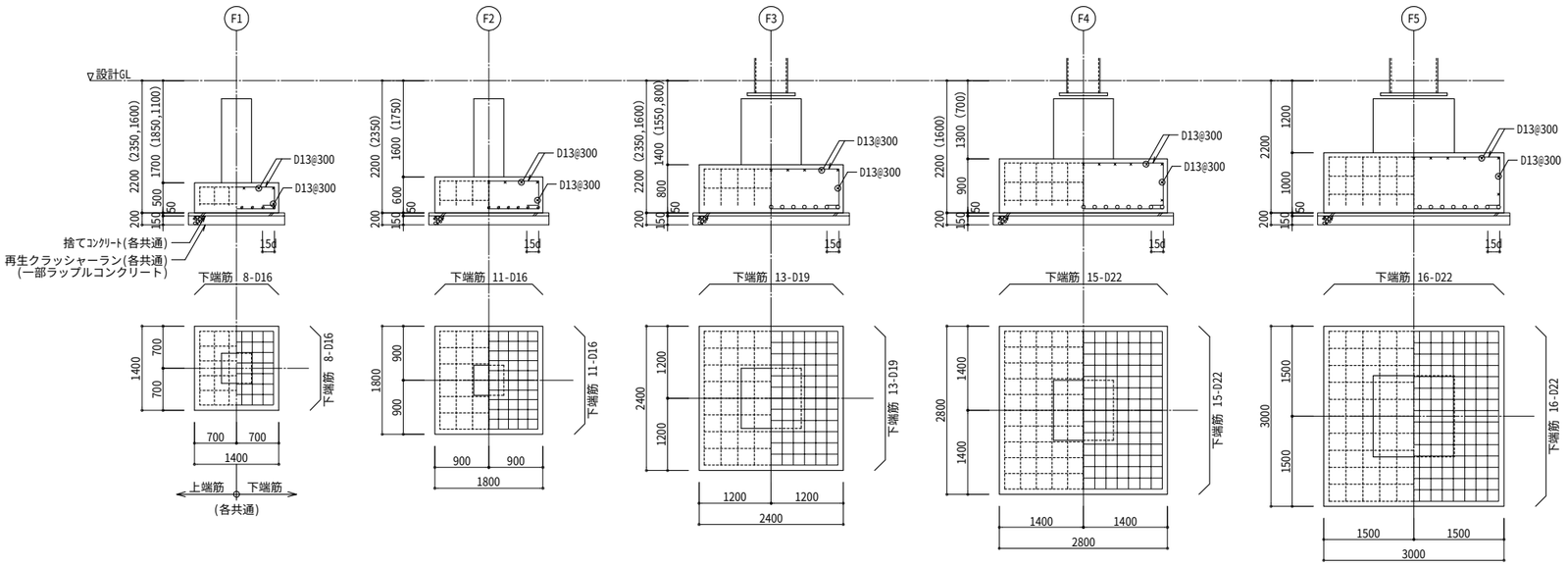
10通り+4300軸組図　1/200

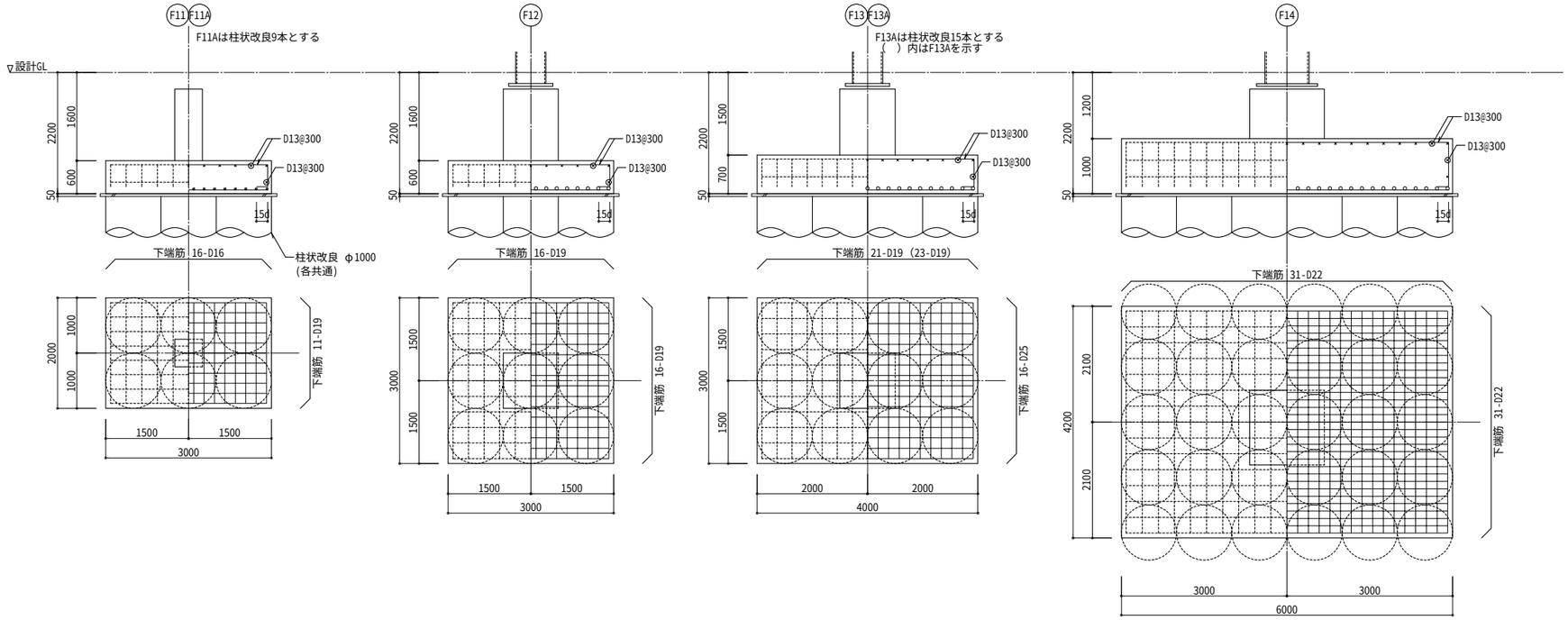
特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 基礎下端は設計GL-2,200とする。
3. ＜　＞内数値は設計GLからの基礎下端を示す。
4. B.PL下端は1FL-400とする。
5. [　]内数値は1FLからのBPL下端を示す。
6. 基礎梁天端は1FL-450とする。
7. (　) 内数値はFLからの梁天端を示す。
8. 「KJ」 印はJoint位置を示す。
9. ▨ 印は増打を示す。
10. RC立上り壁はW18とする。

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010 / 工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
	図面名 庁舎棟　軸組図 (3)	縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典 / 担当	番号 030
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3

基礎リスト　1/50

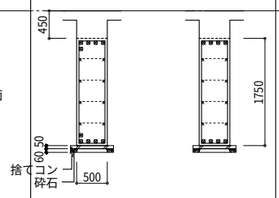


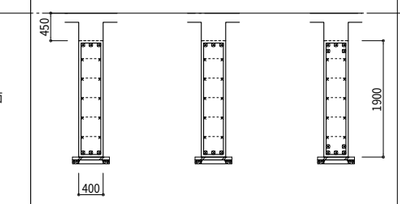


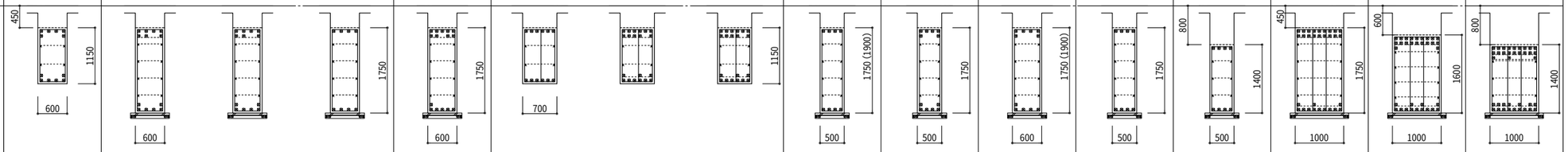
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 庁舎棟　基礎リスト	縮尺 A1 1:50 A3 1:100	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 031

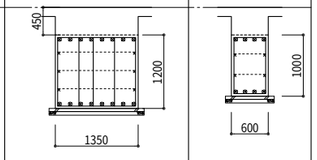
基礎梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⊓⊐ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295規格品、D22：SD345規格品、D29：SD390規格品とする。

符号	FG1		FG1V	FG1VA	FG1VB	FG2		FG2A			FG3			FG4		FG5	FG5A	
位置	端部	中央	全断面	全断面	全断面	端部	中央	2・9 端	中央	3・8 端	1・10 端	中央	2・9 端	端部	中央	全断面	端部	中央
断面																		
上端筋	5-D29	4-D29	5-D29	7-D29	7-D29	5-D29	4-D29	7-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	5-D29	6-D29	4-D29	3-D29	4-D29	3-D29
下端筋	5-D29	4-D29	5-D29	7-D29	7-D29	5-D29	4-D29	7-D29	4-D29	5-D29	4-D29	5-D29	5-D29	5-D29	4-D29	3-D29	3-D29	3-D29
スターラップ	□ -D13@200		□ -D13@100	□ -D13@100	□ -D13@100	□ -D13@200		□ -D13@200			□ -D13@200			□ -D13@100		□ -D13@200	□ -D13@200	
腹筋	8-D13		8-D13	8-D13	8-D13	4-D13		4-D13			8-D13			8-D13		8-D13	10-D13	
備考	カットオフ：2250							カットオフ：2800					カットオフ：2250	カットオフ：2550			カットオフ：2500	

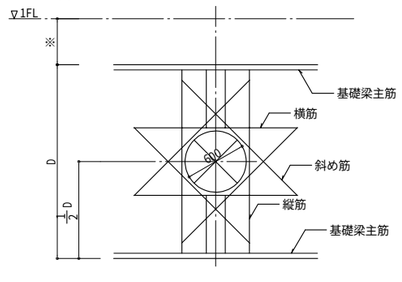
符号	FG5B			FG6	FG7	FG10			FG11	FG11V	FG12		FG13			FG14		
位置	8 端	中央	9 端	全断面	全断面	1・10 端	中央	2・9 端	全断面	全断面	端部	中央	D 端	中央	E 端	B・E 端	中央	C・D 端
断面																		
上端筋	3-D29	3-D29	5-D29	3-D29	4-D29	16-D29	16-D29	8-D29	5-D29	5-D29	7-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29
下端筋	3-D29	3-D29	5-D29	3-D29	4-D29	13-D29	13-D29	8-D29	5-D29	5-D29	7-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29
スターラップ	□ -D13@200			□ -D13@200	□ -D13@200	▥ -D13@200			□ -D13@200	□ -D13@100	□ -D13@200		□ -D13@200			□ -D13@200		
腹筋	10-D13			4-D13	8-D13	8-D13			8-D13	8-D13	4-D13		8-D13			4-D13		
備考			カットオフ：3150								カットオフ：2750							カットオフ：2050

符号	FG14V	FG15			FG15V	FG16			FG17（FG17A）	FG17B	FG18（FG18A）	FG19	FG19A	FG20	FG20A	FG20B
位置	全断面	A・F 端	中央	B・E 端	全断面	E 端	中央	F 端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面																
上端筋	6-D29	7-D29	7-D29	4-D29	9-D29	6-D29	11-D29	11-D29	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	18-D29	20-D29	21-D29
下端筋	6-D29	6-D29	6-D29	4-D29	6-D29	6-D29	9-D29	9-D29	4-D29	6-D29	5-D29	4-D29	4-D29	12-D29	13-D29	16-D29
スターラップ	□ -D13@100	□ -D13@200			□ -D13@100	▥ -D13@200			□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200	▥ -D13@200	▥ -D13@200	▥ -D13@100
腹筋	4-D13	8-D13			8-D13	4-D13			8-D13（10-D13）	8-D13	8-D13（10-D13）	8-D13	6-D13	8-D13	8-D13	6-D13
備考									（ ）内はFG17Aを示す		（ ）内はFG18Aを示す					

符号	FCG1	FCG2
位置	全断面	全断面
断面		
上端筋	8-D29	4-D29
下端筋	8-D29	4-D29
スターラップ	▥ -D13@200	□ -D13@100
腹筋	6-D13	2-D13
備考		

人通孔補強要領図　1/30

※はSA-026図による



	横筋	縦筋	斜め筋
H1	4-D16	2-D13	8-D19
H2	4-D16	2-D13	8-D22
H3	8-D16	2-D13	8-D22
H4	8-D16	2-D13	8-D25
H5	8-D16	2-D13	8-D29

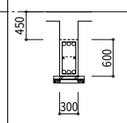
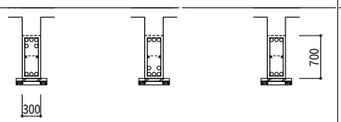
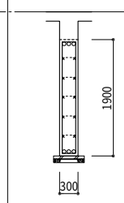
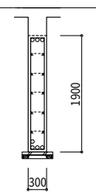
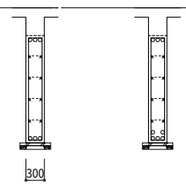
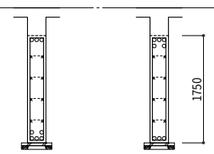
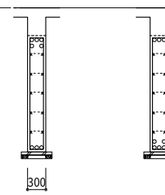
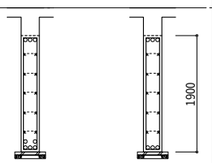
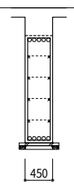
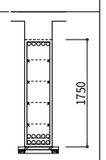
梁符号	550φ	600φ
FG1VA	H5	-
FG5A	-	H2
FG5B	-	H1
FG7	H2	-
FG17A	-	H4
FG18	H4	-
FB4A	-	H2

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　基礎梁リスト		縮尺 A1 1:50 A3 1:100	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 032
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

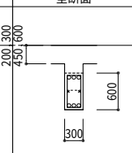
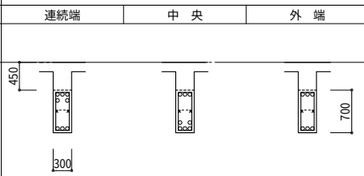
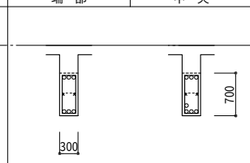
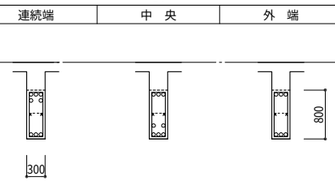
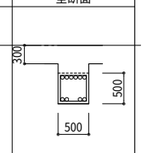
基礎小梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⌐¬ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295A規格品、D22:SD345規格品

符　号	FB1	FB2			FB3	FB3A	FB4			FB4A			FB5	
位　置	全断面	連続端	中　央	外　端	全断面	全断面	C　端	中　央	D　端	D　端	中　央	E　端	端　部	中　央
断　面														
上端筋	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22
下端筋	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	10-D22
スターラップ	□ -D10@200	□ -D10@200			□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200			□ -D13@200			□ -D13@200	
腹　筋	2-D13	2-D13			10-D13	10-D13	8-D13			10-D13			8-D13	
備　考														

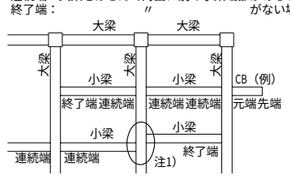
小梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⌐¬ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295A規格品、D22:SD345規格品

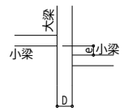
符　号	B1	B2			B3		B4			B5
位　置	全断面	連続端	中　央	外　端	端　部	中　央	連続端	中　央	外　端	全断面
断　面										
上端筋	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	6-D22
下端筋	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22
スターラップ	□ -D10@200	□ -D10@200			□ -D10@200		□ -D10@200			□ -D13@200
腹　筋	2-D13	2-D13			2-D13		2-D13			-
備　考										

連続端の適用範囲

連続端：大梁をはさんで対面に別の小梁端部がある場合
終了端：　〃　　がない場合



注）1.小梁相互の芯に平面的なずれがある場合の扱いは特記による。
特記がない場合は下記による。



e≦500・・・連続端とする
e>500・・・終了端とする

耐圧版リスト

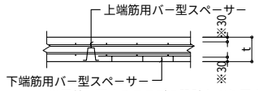
特記なき限り　・地業　捨てコンｔ=50、砕石ｔ=60とする。

※屋外に面するスラブの設計かぶり厚さは40㎜、

符　号	版　厚	位　置	短辺方向		長辺方向		備　考
			端　部	中　央	端　部	中　央	
FS1	165	上端筋	D10・D13@200		D10@200		
		下端筋	D10・D13@200		D10@200		
FS2	165	上端筋	D10・D13@200		D10・D13@200		
		下端筋	D10・D13@200		D10・D13@200		
FS3	165	上端筋	D13@200		D10・D13@200		
		下端筋	D13@200		D10・D13@200		
FS4	200	上端筋	D13@200		D13@200		
		下端筋	D13@200		D13@200		
FS5	200	上端筋	D13@100		D13@100		
		下端筋	D13@100		D13@100		
FS6	250	上端筋	D13@150		D13@150		
		下端筋	D13@150		D13@150		
FS7	300	上端筋	D13@100		D13@100		
		下端筋	D13@100		D13@100		
FS8	400	上端筋	D13@100		D13@100		
		下端筋	D13@100		D13@100		
FCS1	200	上端筋	D13@200		D10@200		
		下端筋	D10@200		D10@200		

スラブリスト

特記なき限り　1.バー型スペーサーを使用する。
2.普通型枠使用



※屋外に面するスラブの設計かぶり厚さは40㎜、

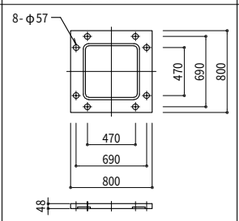
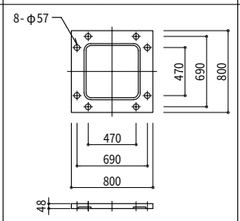
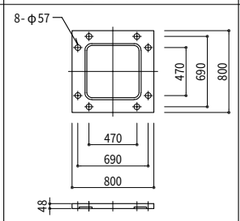
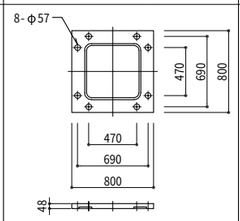
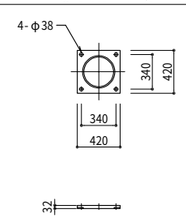
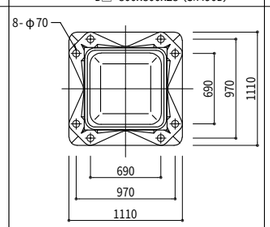
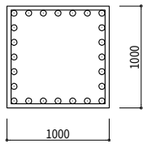
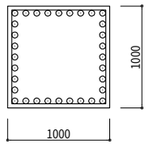
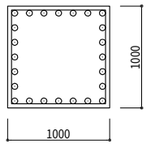
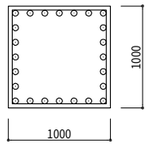
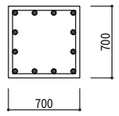
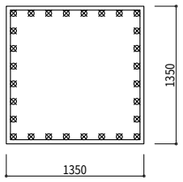
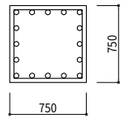
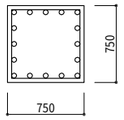
符　号	版　厚	位　置	短辺方向		長辺方向		備　考
			端　部	中　央	端　部	中　央	
S1	150	上端筋	D10・D13@200		D10@200		
		下端筋	D10・D13@200		D10@200		
S2	150	上端筋	D10・D13@200		D10・D13@200		
		下端筋	D10・D13@200		D10・D13@200		
S3	150	上端筋	D13@200		D10・D13@200		
		下端筋	D13@200		D10・D13@200		
CS1	150	上端筋	D13@200		D10@200		
		下端筋	D10@200		D10@200		

株式会社 佐藤総合計画

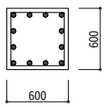
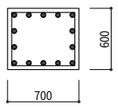
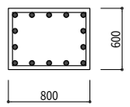
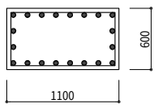
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名 庁舎棟　基礎小梁･小梁リスト	縮尺 A1 1:50 A3 1:100	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
		番号 033

鉄骨柱リスト　1/30

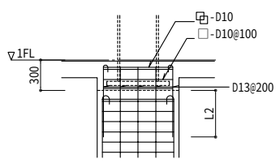
特記なき限り
1．使用鋼材はBCR295規格品とする。
2．通しダイアフラム：集合する梁フランジ最大厚の2サイズ（6mm）アップ以上かつ
　　接合する柱材の1サイズ（3mm）アップ以上でSN490Cとする。
3．内ダイアフラム　：集合する梁フランジ最大厚の1サイズ（3mm）アップ以上でSN490Cとする。
4.SN490B材の大梁が取付くダイアフラムは全て通しダイアフラムとする。
5．屋外に露出する鉄骨は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。

符 号	C1（C1A）	C2	C3	C4	C5	C10	C11	C21	C22	C23
3 階	□-550x550x22	□-550x550x19	□-550x550x19	□-550x550x19	○-318.5x12.7（STKN400B）	□-450x450x19	□-450x450x19	H-300x300x10x15（SN400B）	H-300x300x10x15（SN400B）	H-400x400x13x21（SN490B）
2 階	□-550x550x22	□-550x550x19	○-318.5x19（STKN490B）	○-267.4x19（STKN490B）	○-318.5x12.7（STKN400B）	□-450x450x19	□-450x450x19	H-300x300x10x15（SN400B）	H-300x300x10x15（SN400B）	-
1 階	□-550x550x22	□-550x550x19	□-550x550x19	□-550x550x19	○-318.5x12.7（STKN400B）	B□-800x800x28（SN490B）	□-450x450x19	H-300x300x10x15（SN490B）	H-300x300x10x15（SN490B）	-
柱 脚										
B.PL	ハイベースNEO　EB550-8-42	ハイベースNEO　EB550-8-42	ハイベースNEO　EB550-8-42	ハイベースNEO　EB550-8-42	ハイベースNEO　EM300-4-24	ハイベースNEO　GB800-8-56		ハイベースNEO　EH300x300-4-36	ハイベースNEO　EH300x300-4-36	
A.BOLT	8-M42	8-M42	8-M42	8-M42	4-M24	8-M56		4-M36	4-M36	
備 考	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50		無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	
柱 型										
主 筋	24-D25（32-D25）	32-D25	24-D25	24-D25	12-D19	28-D29		16-D22	16-D22	
HOOP	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D16@100		□-D13@100	□-D13@100	
備 考	（　）内はC1Aを示す									
継手								[SN400B] F.PL - 9x300x350 2F.PLs-12x110x350　HTB 6-M22 2W.PLs- 9x200x170　HTB 3-M22 [SN490B] F.PL - 9x300x440 2F.PLs-12x110x440　HTB 8-M22 2W.PLs- 9x200x290　HTB 6-M22	[SN400B] F.PL - 9x300x350 2F.PLs-12x110x350　HTB 6-M22 2W.PLs- 9x200x170　HTB 3-M22 [SN490B] F.PL - 9x300x440 2F.PLs-12x110x440　HTB 8-M22 2W.PLs- 9x200x290　HTB 6-M22	F.PL -12x400x530 2F.PLs-16x170x530　HTB 16-M22 2W.PLs-12x260x290　HTB 8-M22

鉄骨柱リスト　1/30

符 号	FC1	FC2	FC3	FC4
断 面				
主 筋	12-D19	14-D19	14-D19	20-D19
HOOP	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100
備 考				

露出柱脚保護コンクリート要領図　1/30



株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　鉄骨柱リスト		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 034
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

鉄骨大梁リスト

特記なき限り
1. 使用鋼材はSN400B規格品とする。 ◯ 印はSN490Bとする。
2. 屋外に露出する鉄骨は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
3. 大梁ピン接合のボルトは、継手表ブラケットタイプのウェブ欄による（二面せん断）。
   GPLはウェブ厚以上とし、材質はSN400Bとする。
4. エンドタブに代替タブを使用する場合は、AW検定有資格者にて溶接を行うこと。

階 \ 符号	G1	G1A	G1V	G2	G2A	G2V	G3	G3A	G3V
R 階	全断面 H -500x200x10x16		全断面 H -488x300x11x18				全断面 H -500x200x10x16		
3 階	全断面 H -600x200x11x17	全断面 H -588x300x12x20	全断面 H -588x300x12x20	全断面 H -588x300x12x20		全断面 H -588x300x12x20	全断面 H -600x200x11x17		
2 階	全断面 H -600x200x11x17	全断面 H -800x300x14x26	全断面 H -600x300x12x22	全断面 H -588x300x12x20	全断面 H -600x200x 9x22	全断面 Ⓗ-588x300x12x20	全断面 H -600x200x11x17	全断面 H -588x300x12x20	全断面 H -588x300x12x20

階 \ 符号	G4	G4V	G5	G10	G11	G11A	G11V	G12	G12A
R 階			全断面 Ⓗ-488x300x11x18	全断面 H -700x300x13x24	全断面 H -488x300x11x18	全断面 Ⓗ-488x300x11x18	全断面 H -488x300x11x18	全断面 H -700x300x13x24	
3 階	全断面 H -900x300x16x25	全断面 H -900x300x16x25	G10側 BH -700x300x12x22 中央・他端 H -588x300x12x20	全断面 H -700x300x13x24	全断面 H -588x300x12x20		全断面 H -588x300x12x20	全断面 Ⓗ-800x300x14x26	全断面 Ⓗ-800x350x14x28
2 階					全断面 H -588x300x12x20	全断面 H -600x300x12x28	全断面 H -588x300x12x20	全断面 Ⓗ-800x300x14x22	

階 \ 符号	G12V	G13	G14	G15	G15V		CG1	CG3	
R 階	全断面 Ⓗ-700x300x13x24	全断面 H -900x350x16x28	全断面 BH -500x500x19x32	全断面 Ⓗ-700x300x13x24	全断面 Ⓗ-700x300x13x24			全断面 H -248x124x 5x 8	
3 階	全断面 Ⓗ-800x300x14x26	全断面 H -900x350x16x28	全断面 BH -500x500x19x32	全断面 Ⓗ-800x350x14x25	全断面 Ⓗ-800x350x14x25				
2 階	全断面 Ⓗ-800x300x14x22			全断面 Ⓗ-800x350x14x25	全断面 Ⓗ-800x350x14x25		全断面 H -800x300x14x26		

大梁継手表

使用鋼材　無印：SN400B規格品　〇印：SN490B規格品
Ⓒ印：SN490C規格品
Ⓣ印：TMCP325C規格品

ブラケットタイプ

・使用鋼材は、無印：SN400B規格品、〇印：SN490B規格品とする。
・使用H.T.BはS10T認定品とする。外部鉄骨は溶融亜鉛メッキとし、
　H.T.BはF8Tメッキボルト認定品とする。
・下表のF.H.T.Bの本数は、JOINTする片側の梁の１フランジに必要な本数とする。
・下表のW.H.T.Bの本数は、JOINTする片側の梁のウェブに必要な本数とする。
・継手はSCSS-H97に準拠する。
・スプライスプレートの材質は母材材質に同等とする。

高力ボルトの諸規定は、下表による

種別		ピッチ	エッジ	孔径
F10T	M22	60	40	23.5φ
	M20	60	40	21.5φ
	M16	60	40	17.5φ

（JSS Ⅱ 09 規格品・トルシア形特殊高力ボルト）

フランジ幅300シリーズ

フランジ幅400シリーズ

梁中央部主材	フランジ F.J.PL(A)	フランジ 2F.J.PLs(B)	フランジ F.HTB	ウェブ 2W.J.PLs	ウェブ P	ウェブ W.HTB
H -500x200x10x16	12x200x410	12x 80x410	6-M22	9x350x170	90	4x1-M22
H -600x200x 9x22	16x200x410	16x 80x410	6-M22	9x440x170	90	5x1-M22
H -600x200x11x17	12x200x410	12x 80x410	6-M22	9x440x170	60	7x1-M22
H -488x300x11x18	12x300x440	12x110x440	8-M22	12x320x170	60	5x1-M22
H -588x300x12x20	12x300x440	16x110x440	8-M22	9x440x170	60	7x1-M22
H -600x300x12x22	16x300x530	19x110x530	10-M22	9x440x170	60	7x1-M22
H -600x300x12x28	19x300x620	22x110x620	12-M22	9x440x170	60	7x1-M22
H -700x300x13x24	19x300x530	19x110x530	10-M22	9x560x170	60	9x1-M22
H -800x300x14x26	19x300x530	19x110x530	10-M22	12x620x170	60	10x1-M22
H -800x350x14x25	16x350x410	19x140x410	12-M22	12x620x170	60	10x1-M22
H -900x300x16x25	19x300x530	19x110x530	10-M22	12x740x170	60	12x1-M22
H -900x350x16x28	19x350x410	19x140x410	12-M22	12x680x170	60	11x1-M22
BH -500x500x19x32	25x500x530	25x170x530	16-M22	16x320x290	60	5x2-M22
Ⓗ-488x300x11x18	12x300x530	12x110x530	10-M22	9x350x290	90	4x2-M22
Ⓗ-588x300x12x20	12x300x530	16x110x530	10-M22	9x440x290	90	5x2-M22
Ⓗ-700x300x13x24	19x300x710	19x110x710	14-M22	12x530x290	90	6x2-M22
Ⓗ-800x300x14x22	16x300x620	19x110x620	12-M22	12x620x290	90	7x2-M22
Ⓗ-800x300x14x26	19x300x710	19x110x710	14-M22	12x620x290	90	7x2-M22
Ⓗ-800x350x14x25	19x350x650	22x140x650	20-M22	12x620x290	90	7x2-M22
Ⓗ-800x350x14x28	19x350x530	19x140x530	16-M22	12x620x290	90	7x2-M22

ノンブラケットタイプ

ノンブラケットタイプ［ウェブ（HTB+現場溶接）］

<タイプA>

H	G.PL	H.T.B.	P	e
450	12	3-M22	120	105
488～500	12	3-M22	120	130
588～600	12	4-M22	120	120
650	12	4-M22	120	145
700	16	4-M22	140	140
750	16	5-M22	120	135
800	16	5-M22	120	160
850	16	5-M22	140	145
900	16	6-M22	120	150
950	16	6-M22	120	175
1,000	16	6-M22	140	150

G.PLの材質は取付く梁と同じとする

ノンブラケットタイプ［ウェブ（HTBのみ）］

<タイプB>

※注記 G.PL-16以下は隅肉溶接
G.PL-19は部分溶込み溶接
G.PL-22以上は完全溶込み突合せ溶接

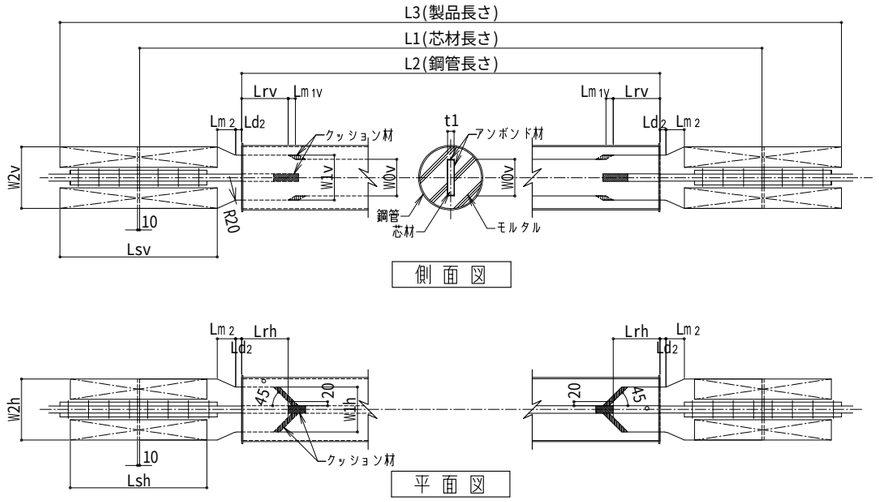
・タイプAを標準とする。タイプBを採用する場合は継手耐力検討を行い、監理者の確認を得ること。

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 庁舎棟 鉄骨大梁リスト・大梁継手表	縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当 / 番号 035
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3

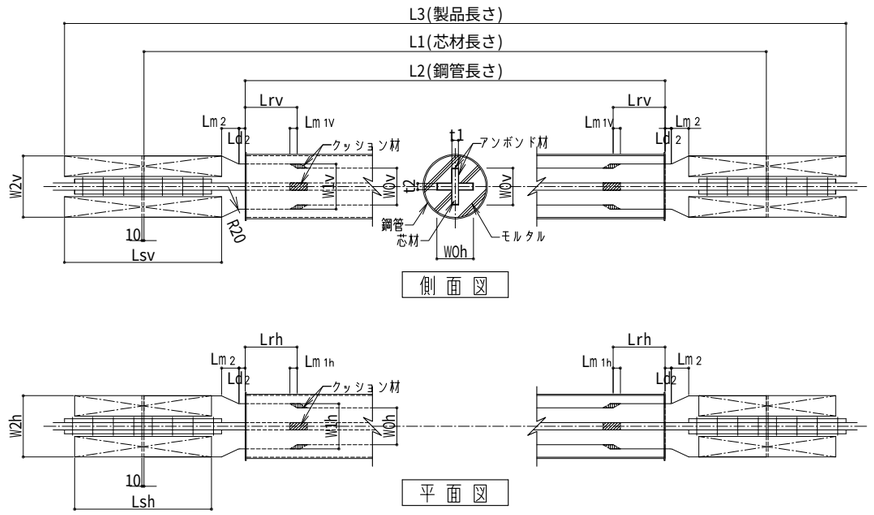
アンボンドブレース標準部材表

耐震タイプ　標準図(SN490B)

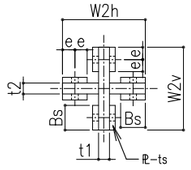
芯材形状　一型



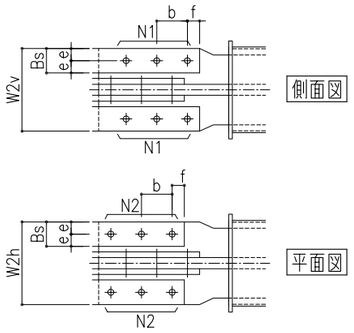
芯材形状　＋型



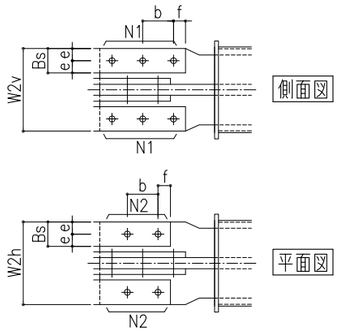
継手断面図(タイプ1A,1B)



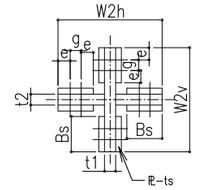
継手タイプ　1A



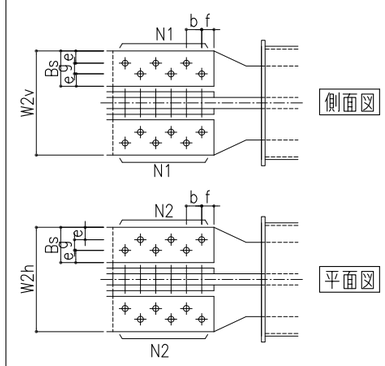
継手タイプ　1B



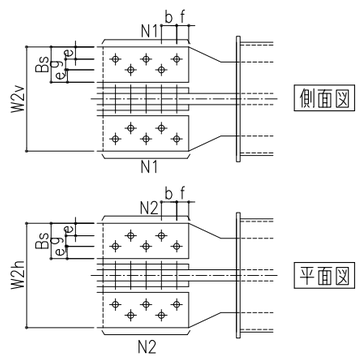
継手断面図(タイプ2A,2B,2C)



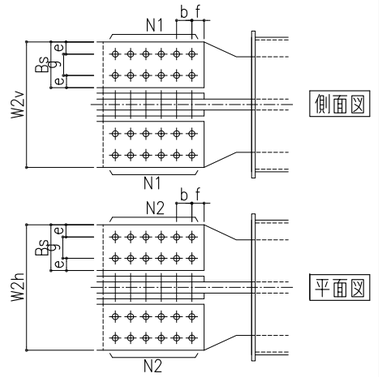
継手タイプ　2A



継手タイプ　2B



継手タイプ　2C



＜特　記　事　項＞

1. アンボンドブレースの製作に関しては、日鉄エンジニアリングのアンボンドブレース製作要領書（日本建築センター　一般評定：BCJ評定−ST0125−07）による。
2. Ny = F値 x Ac
3. モルタル：Fc 21 N/mm²

*4. Lrv , Lrhは、−型についてはW1v以上、+型についてはそれぞれW1v又はW1h以上確保すること。
*5. ガセットPL側を含めた総本数
*6. 鋼管・芯材形状の寸法を同表の値とした場合の長さであり、座屈長さがこの値を超える場合はお問い合わせ下さい。なお、別途ブレースごとに構面外座屈安定性の検討が必要です。

*7. Ld2は、30mm以上且つ設計で定められた適切な変形量を確保できるよう設定する。
*8. ()内は、ボルト3本配列側(側面側)の値。

9. 塗装仕様(屋内仕様)
座屈拘束鋼管部　素地調整 JASS18 2種
塗装　JIS K 5674(1種) を標準とする。
*10. スプライスプレートの鋼種はSM490A(電炉材)とする。

部材符号	製品記号	降伏軸力 Ny (kN)	座屈拘束鋼管 (STK 400)	芯材形状	芯材														スプライスプレート(SM490A)*10								高力ボルト(F10T(S10T))					*6	備考
					芯材材質	Ac (cm²)	鉛直材						水平材						*7													*5		
							t1 (mm)	W0v (mm)	W1v (mm)	W2v (mm)	Lrv,min (mm) *4	Lm1v (mm)	t2 (mm)	W0h (mm)	W1h (mm)	W2h (mm)	Lrh,min (mm) *4	Lm1h (mm)	Ld2,min (mm)	Lm2 (mm)	ts (mm)	Bs (mm)	Lsv (mm)	Lsh (mm)	e (mm)	f (mm)	b (mm)	g (mm)	ボルト径	継手タイプ	N1 (本)	N2 (本)	総本数 (本)	限界座屈長さ (m)	
V1	UB400−108−2	1085	φ−216.3x6.0	+	SN400B	46.2	19	131	177	194	177	40	19	131	177	194	177	40	30	15	12	60	590	470	30	55	120	−	M22	1A	2	2	32	4.56	
V2	UB400−162−1	1623	φ−267.4x6.0	+		69.1	22	168	224	224	224	50	22	168	224	224	224	50	30	10	16	60	610	530	30	55(40)*8	110	−	M22	1B	3	2	40	5.91	
V3	UB490−300−2	2995	φ−355.6x6.4	+	SN490B	92.2	19	252	309	309	309	50	19	252	309	309	309	50	30	10	16	100	570	570	35	40	50	30	M22	2B	5	5	80	6.94	
V4	UB400−162−1	1623	φ−267.4x6.0	+	SN400B	69.1	22	168	224	224	224	50	22	168	224	224	224	50	30	10	ピン接合タイプとする													5.91	

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　座屈拘束ブレースリスト		縮尺 A1 1: - A3 1: -	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括　統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 036
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

鉄骨部材リスト

特記なき限り　1. 使用鋼材は SS400規格品とする。
2. 使用H.T.BはS10T認定品とし、めっき部材はF8Tめっきボルト認定品とする。
3. 屋外に露出する鉄骨は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。

	符号	部材	仕口		備考
小梁	B198	H-198x 99x4.5x7	G.PL- 6　HTB 2-M20		
	B248,CB248	H-248x124x 5x8	G.PL- 9　HTB 3-M20	剛接合 継手	フランジ： PL-12x124x410 HTB 4-M16
					ウェブ　：2PL- 6x170x290 HTB 2-M16 @90
	B298	H-298x149x5.5x8	G.PL- 9　HTB 3-M20		
	B346,CB346	H-346x174x 6x9	G.PL- 9　HTB 3x2-M20	剛接合 継手	フランジ： PL-9x174x290,2PL-9x 70x290 HTB 4-M20
					ウェブ　：2PL- 6x260x170 HTB 3-M20 @90
	B390	H-390x300x10x16	G.PL-12　HTB 5-M20		
	B396	H-396x199x 7x11	G.PL-12　HTB 5-M20		
	B446	H-446x199x 8x12	G.PL-12　HTB 6-M20		
	B488	H-488x300x11x18	G.PL-12　HTB 7-M22		剛接合部の継手はSA-035のブラケットタイプによる。 継手位置は梁芯から700とする。
	B496	H-496x199x 9x14	G.PL-12　HTB 7-M20		
	B582	H-582x300x 12x17	G.PL-12　HTB 8-M22		
	B596	H-596x199x10x15	G.PL-16　HTB 8-M20		
	B700	H-700x300x13x24	G.PL-16　HTB 8-M22		
	B148	H-148x100x 6x 9	G.PL- 9　HTB 2-M20		
	B194	H-194x150x 6x 9	G.PL- 9　HTB 2-M20		
	B150	H-150x150x 7x10	G.PL- 9　HTB 2-M20		
	B125	[-125x 65x 6x 8	G.PL- 6　HTB 2-M16		
	HB1	□-125x125x 9（STKR400）	G.PL-12　HTB 2-M20		
	HB150	H-150x150x 7x10	G.PL-12　HTB 2-M20		横使い
	CG150	H-150x150x 7x10	剛接合・継手なし		
	CG248	H-248x124x 5x8	剛接合・継手なし		
	胴縁	C-100x50x20x2.3@606（@1820にダブル）	G.PL- 4.5　2-M12（普通ボルト）		SSC400
	天井支持材	C-100x 50x20x2.3@900	G.PL- 4.5　2-M12（普通ボルト）		SSC400

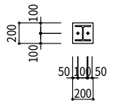
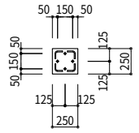
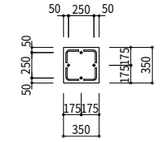
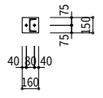
デッキスラブリスト

特記なき限り　1. 鉄筋トラス付捨て型枠床版工法（ニューフェローデッキ同等品）とする。
但し、デッキ長が600㎜以下となる箇所は、フラットデッキ捨て型枠床版工法とする。

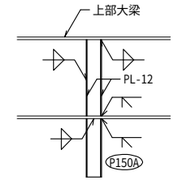
符号	スラブ厚	位置	フラットデッキ捨て型枠床版工法				鉄筋トラス付捨て型枠床版工法								
			短辺方向		長辺方向		デッキタイプ	位置	短辺方向				長辺方向		備考
										現場配筋					
			端部	中央	端部	中央			デッキ主筋	連結筋・定着筋	追加補強主筋 端部 Lx/4+15d	追加補強主筋 中央部 15d+Lx/2+15d	端部 Lx/4+15d	中央部 15d+(Ly-Lx/2)+15d	
DS1	150	上端筋	D13@200		D10・D13@200		EB80-110	上端筋	D13@200	D13@200	-	-	D10@200		
		下端筋	D13@200		D10・D13@200			下端筋	D13@200	-	-	-	-		
DS1A	150	上端筋	D13@150		D13@200		EB80-110	上端筋	D13@200	D13@200	-	-	D10@200		
		下端筋	D13@150		D13@200			下端筋	D13@200	-	-	-	-		
DS2	150	上端筋	D13@150		D13@200		B80-110	上端筋	D13@150	D13@150	-	-	D10@200		
		下端筋	D13@150		D13@200			下端筋	D13@150	-	-	-	-		
DS2A	150	上端筋	D10・D13@100		D13@150		B80-110	上端筋	D13@150	D13@150	-	-	D10@200		
		下端筋	D10・D13@100		D13@150			下端筋	D13@150	-	-	-	-		
DS3A	150	上端筋	D13@100		D13@100		F80-110	上端筋	D13@150	D13@150	D10@300	-	D10@200		
		下端筋	D16@150		D13@100			下端筋	D16@150	-	-	-	-		

鉄骨間柱リスト　1/30

特記なき限り　1. 使用鋼材は、SS400規格品とする。
2. H.T.Bは、S10T認定品とする。
3. A.BOLTはSS400とする。

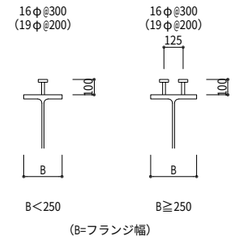
符号	P150、P150A	P200	P300	P1
断面	H-150x150x7x10	□-200x200x9（STKR400）	□-300x300x12（STKR400）	[-125x 65x 6x 8
接合部	G.PL-9,2-M20	G.PL-9,2-M20 BT-250x100x9x12	G.PL-12,2-M20 BT-350x100x12x16	G.PL-9,2-M16
柱脚				
B.PL	B.PL-12	B.PL-16	B.PL-16	B.PL-12
A.BOLT	2-M16（L=320） フック付ダブルナット締め	4-M20（L=400） フック付ダブルナット締め	4-M20（L=400） フック付ダブルナット締め	2-M16（L=400） フック付ダブルナット締め
備考	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50

P150A要領図　1/30



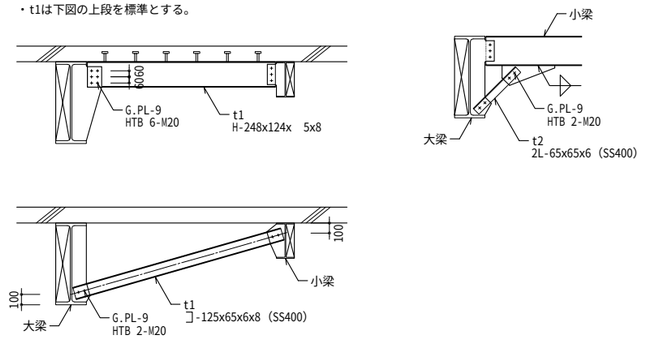
梁上端スタッドボルト要領図　1/20

・（ ）内大梁の場合とする。

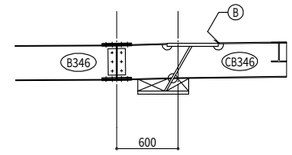


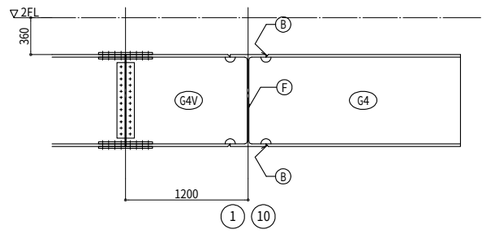
座屈止め要領図

・t1は下図の上段を標準とする。

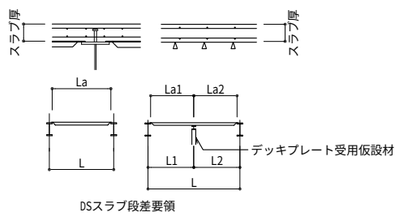


小梁継手要領図　1/30





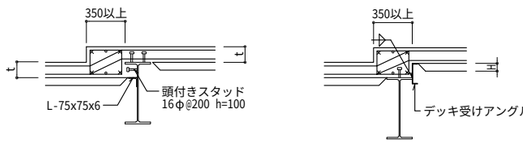
床型枠用鋼製デッキプレート



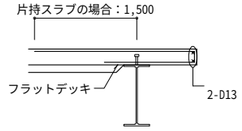
DSスラブ段差要領

（注記）
1. デッキプレート受用仮設材は施工荷重1470N/㎡を見込む
2. 仮設材を設けたデッキプレート厚さは
max（La1, La2）＝Laとして右記表による
3. デッキプレートの梁フランジへの重ね分は50㎜とする
4. デッキプレートの溶接：アークスポット溶接

DSスラブ段差要領



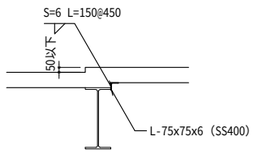
DSスラブ先端要領



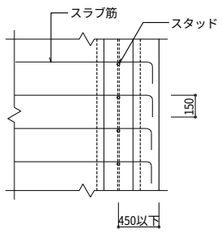
フラットデッキ厚

内法スパン(La)	デッキ厚
スラブ t=150	
La≦2420	t=0.8
2420<La≦2750	t=1.0
2750<La≦2900	t=1.2
2900<La≦3020	t=1.4

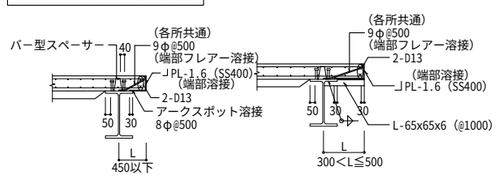
※上記以上のスパンの場合はサポートを設置する事

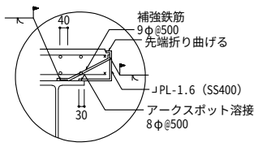


デッキスラブ配筋末端処理図



デッキスラブ外端部納まり要領図

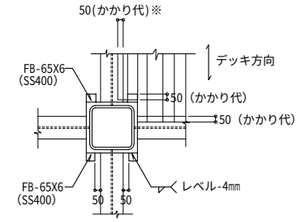




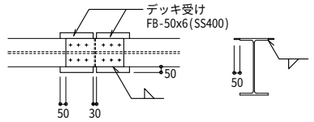
補強鉄筋端部溶接要領

デッキ受け詳細図

柱周囲部

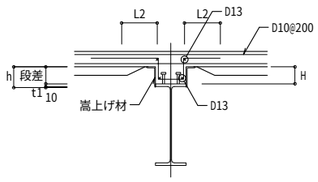


梁継手部

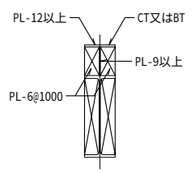


スラブ嵩上げ要領図

・山形鋼による場合



・CT鋼による場合



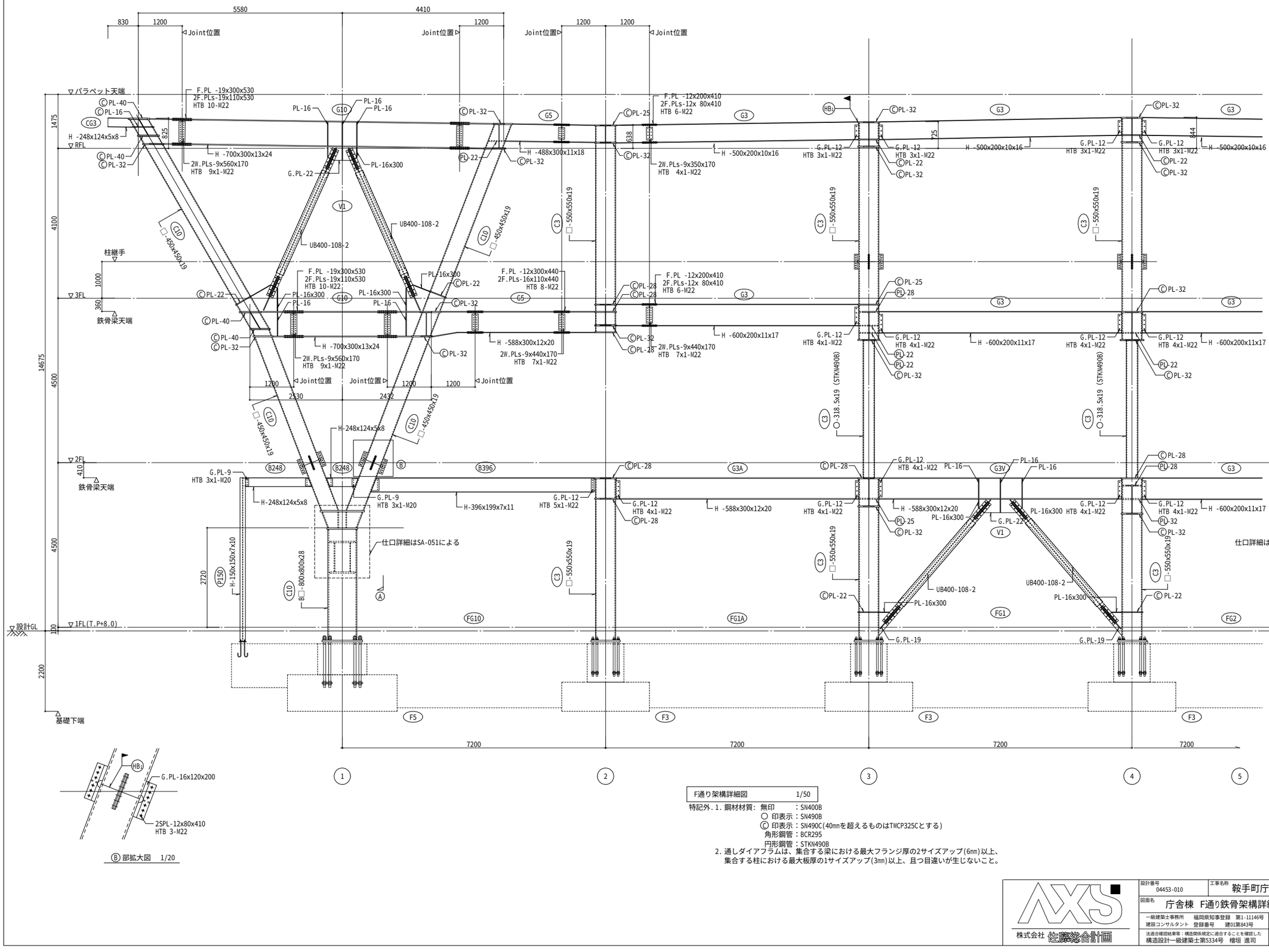
h=段差寸法+t1+10とする。

h	嵩上げ材
h ≦ 65	L- 65x 65x 6
65 ＜ h ≦ 75	L- 75x 75x 6
75 ＜ h ≦ 90	L- 90x 90x 6
90 ＜ h ≦100	L-100x100x 7
100 ＜ h ≦150	L-150x 90x 9
150 ＜ h ≦200	L-200x 90x 9 x14
200 ＜ h	CT鋼による

株式会社 佐藤総合計画

設計番号	04453-010
工事名称	鞍手町庁舎等建設工事
図面名	庁舎棟　鉄骨部材リスト
縮尺	A1 1:20,30 A3 1:40,60
種別	SA
番号	037
担当	
作成日	2022.3

一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号
建設コンサルタント　登録番号　建01第843号
総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹
構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した
構造設計一級建築士第5334号　楢垣 進司
法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した
設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅



Ⓑ 部拡大図　1/20

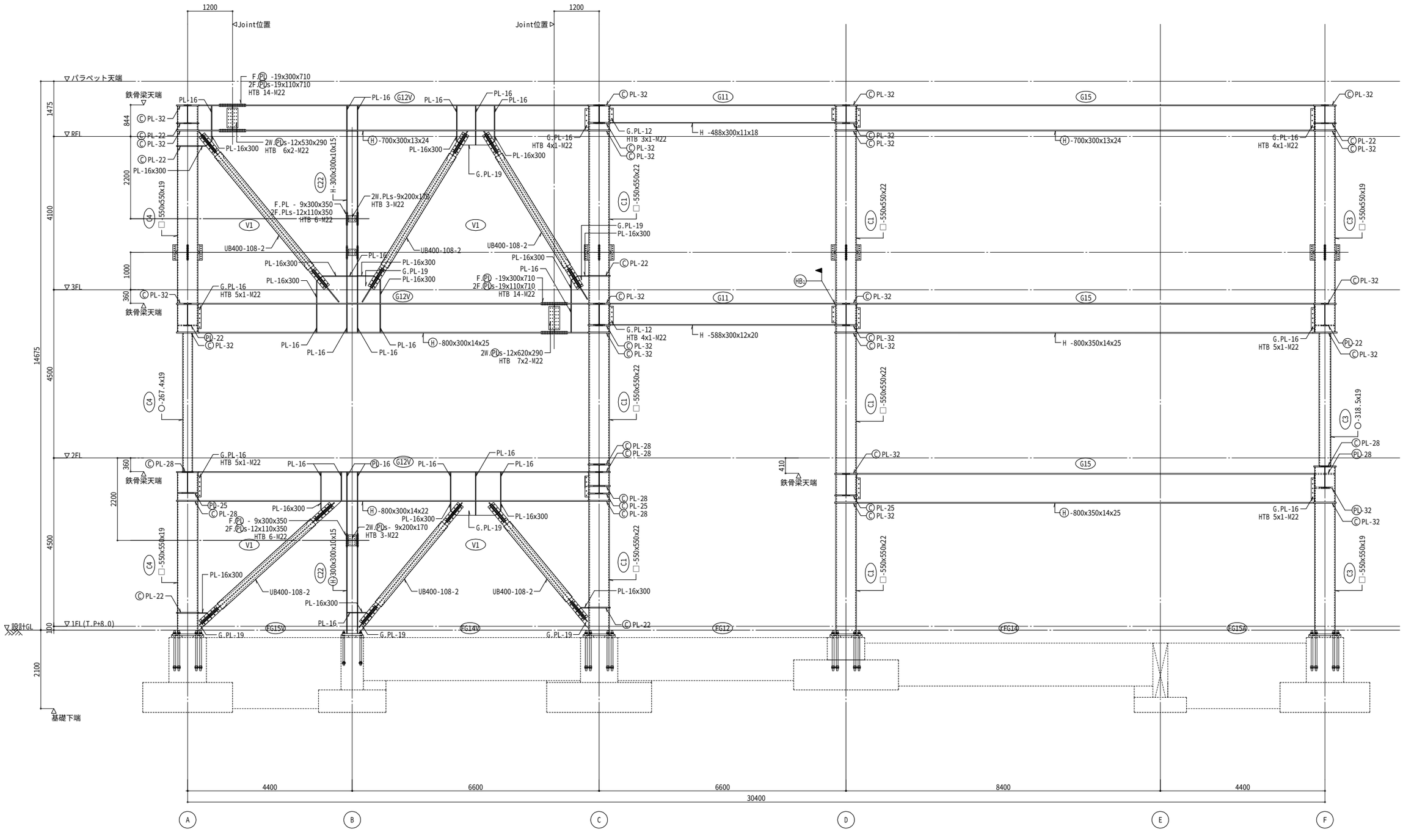
Ⓐ - Ⓐ 矢視図　1/50

F通り架構詳細図　1/50

特記外. 1. 鋼材材質: 無印　：SN400B
○ 印表示：SN490B
Ⓒ 印表示：SN490C(40㎜を超えるものはTMCP325Cとする)
角形鋼管：BCR295
円形鋼管：STKN490B
2. 通しダイアフラムは、集合する梁における最大フランジ厚の2サイズアップ(6㎜)以上、集合する柱における最大板厚の1サイズアップ(3㎜)以上、且つ目違いが生じないこと。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名 庁舎棟　F通り鉄骨架構詳細図	縮尺 A1 1: 50 A3 1:100	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
		番号 038

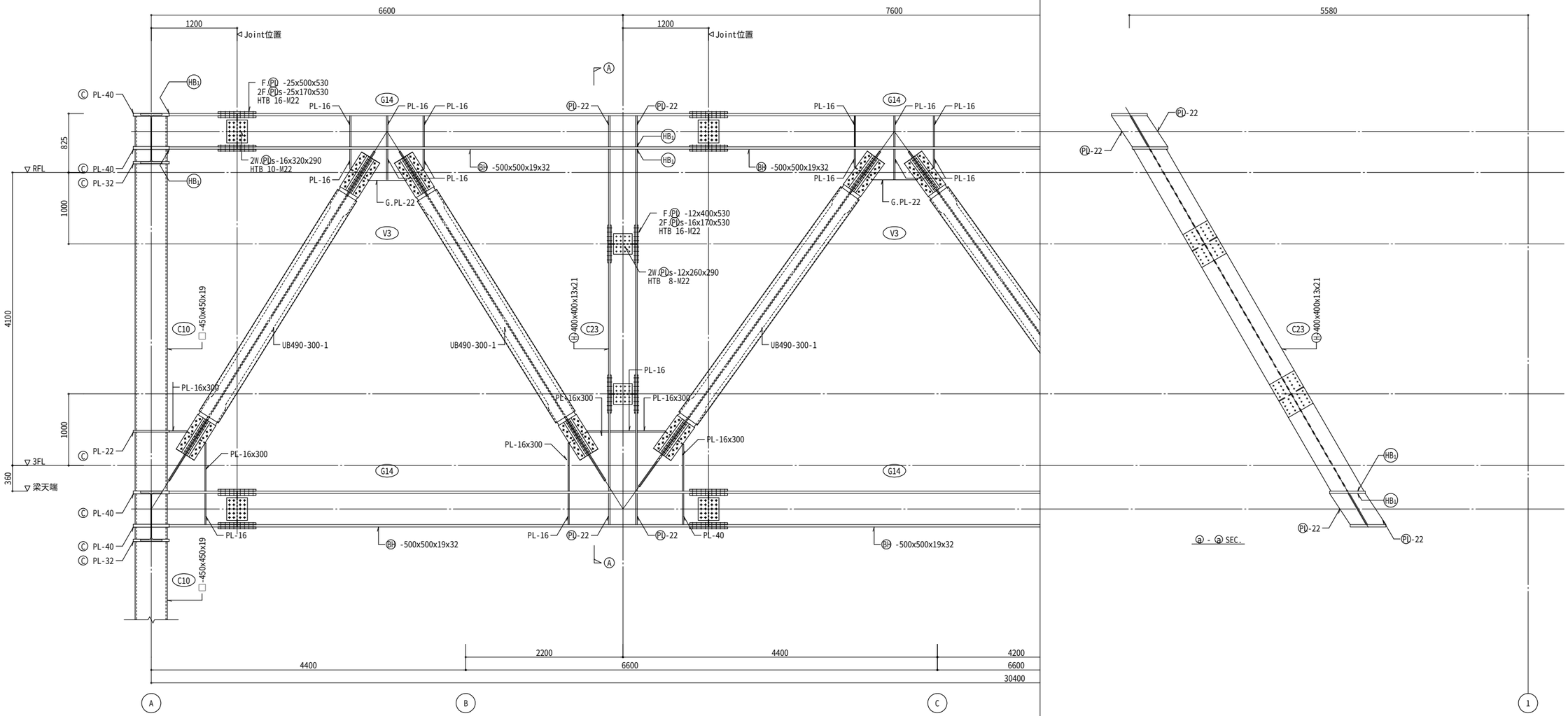


4通り架構詳細図　1/50

特記外. 1. 鋼材材質: 無印　：SN400B
○ 印表示：SN490B
Ⓒ 印表示：SN490C(40㎜を超えるものはTMCP325Cとする)
角形鋼管：BCR295
円形鋼管：STKN490B
2. 通しダイアフラムは、集合する梁における最大フランジ厚の2サイズアップ(6㎜)以上、
集合する柱における最大板厚の1サイズアップ(3㎜)以上、且つ目違いが生じないこと。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟 4通り鉄骨架構詳細図		縮尺 A1 1: 50 A3 1:100	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 039
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	



1通り-4300詳細図　1/30

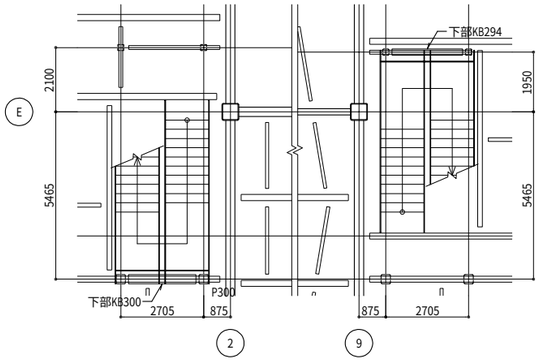
特記外．1．鋼材材質：無印　：SN400B
○ 印表示：SN490B
Ⓒ 印表示：SN490C(40㎜を超えるものはTMCP325Cとする)
角形鋼管：BCR295

2．通しダイアフラムは、集合する梁における最大フランジ厚の2サイズアップ(6㎜)以上、
集合する柱における最大板厚の1サイズアップ(3㎜)以上、且つ目違いが生じないこと。

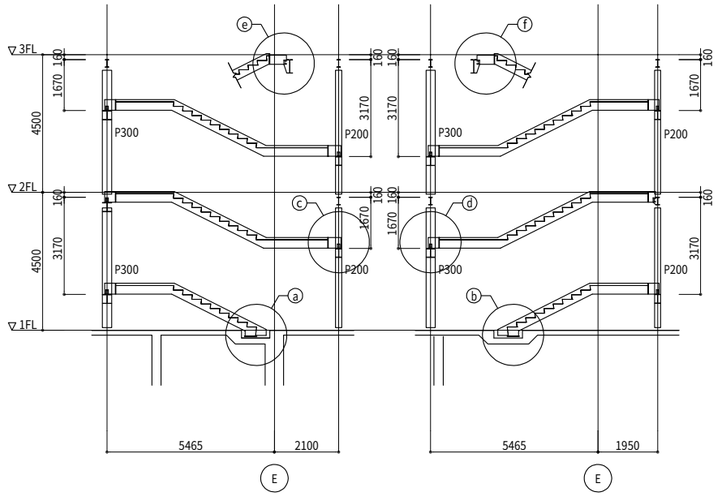
株式会社 佐藤総合計画

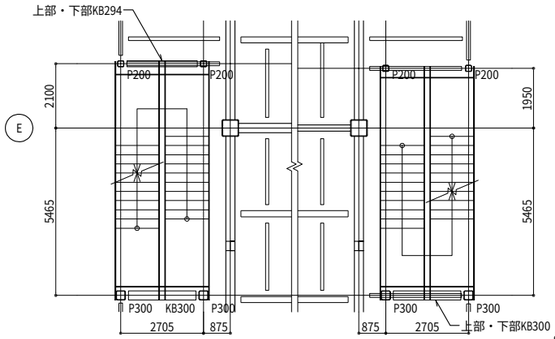
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟 トラス架構詳細図		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当	番号 040
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

階段（1）（2）詳細図

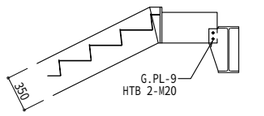


3階伏図　1/100

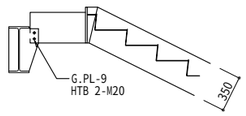




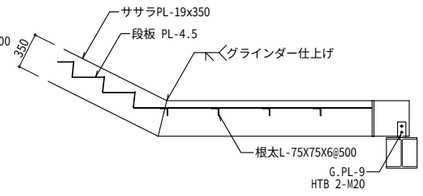
2階伏図　1/100



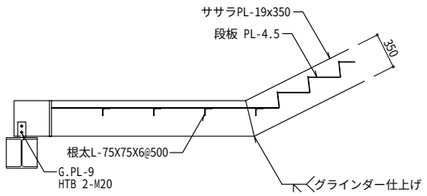
e 部詳細図　1/30



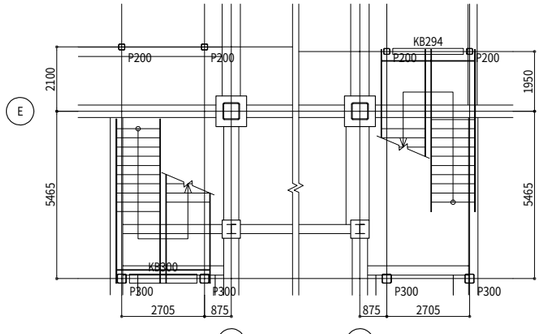
f 部詳細図　1/30



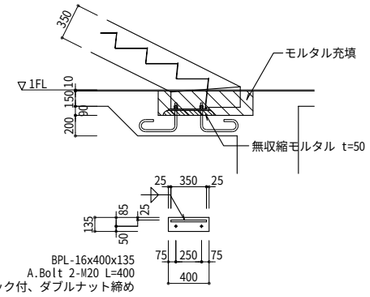
c 部詳細図　1/30



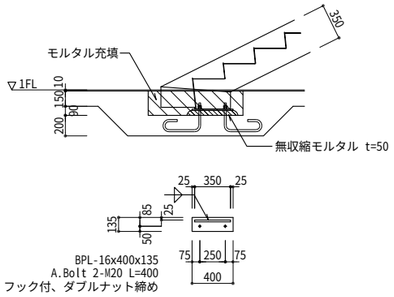
d 部詳細図　1/30



1階伏図　1/100



a 部詳細図　1/30



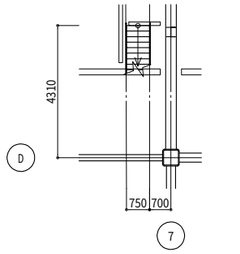
b 部詳細図　1/30

鉄骨部材リスト

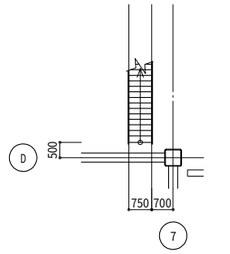
特記なき限り　1．使用鋼材は SS400規格品とする。
2．使用H.T.BはS10T認定品とする。

	符 号	部 材	仕 口	備 考
小 梁	KB298	H-298x149x5.5x8	G.PL- 9　HTB 3-M20	
	KB294	H-294x200x 8x12	G.PL-12　HTB 3-M20	
	KB300	H-300x300x10x15	G.PL-12　HTB 3-M20	

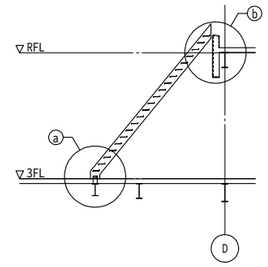
設備階段詳細図

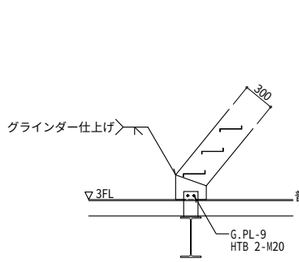


3階伏図　1/100

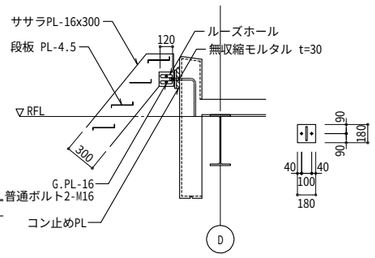


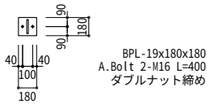
R階伏図　1/100





a 部詳細図　1/30



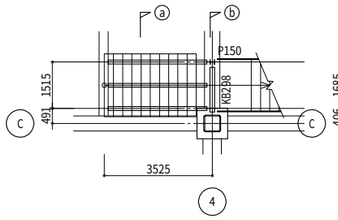


BPL-19x180x180
A.Bolt 2-M16 L=400
ダブルナット締め

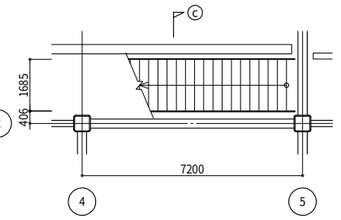
b 部詳細図　1/30

構造仕様
鋼材：SS400
HTB：F8T溶融亜鉛めっきボルト（認定品）
鋼材は溶融亜鉛めっき処理とする。

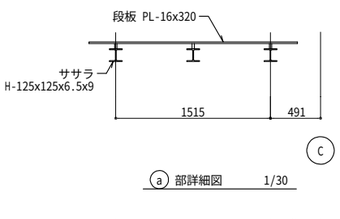
中央階段詳細図



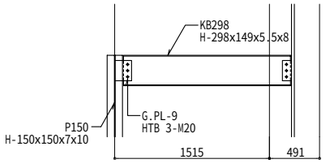
1階伏図　1/100



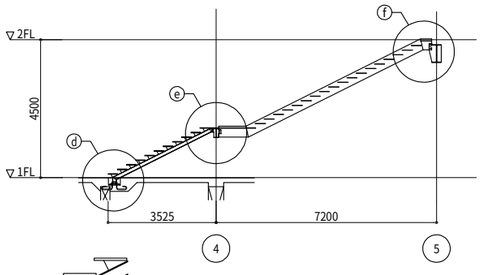
2階伏図　1/100

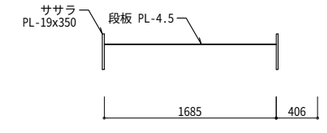


a 部詳細図　1/30

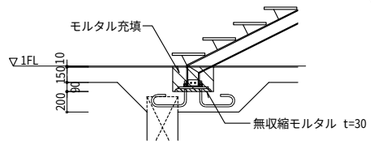


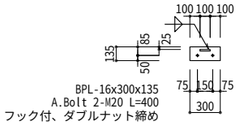
b 部詳細図　1/30



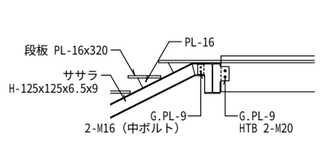


c 部詳細図　1/30

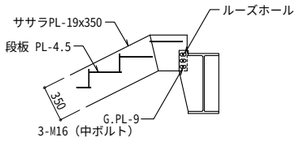




d 部詳細図　1/30



e 部詳細図　1/30

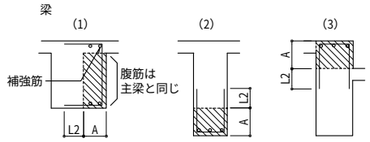


f 部詳細図　1/30

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　鉄骨階段詳細図		縮尺 A1 1:30, 100 A3 1:60, 200	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 041
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

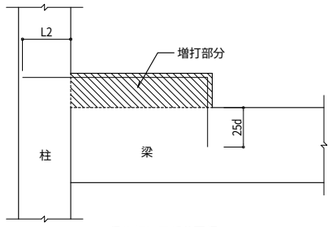
柱・梁増打ち要領図（基礎梁を含む。）



梁増打部分のあばら筋及び腹筋は主梁と同径，同間隔
※腹筋の定着は、主梁の腹筋と同等とする。

補強筋本数表　　A＜70補強なし

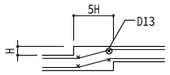
Aの範囲	梁（1）	梁（2）、（3）	柱
70≦A≦300	D16-@200で割付	D16-@200で割付	D16-@200で割付
300＜A	主筋と同径を@200で割付	同　左 腹筋はD13@300	同　左



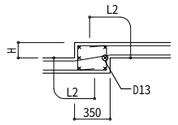
梁増打終了部分要領

スラブ段差補強要領図

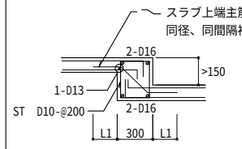
(1) 床版の段差(H)≦70



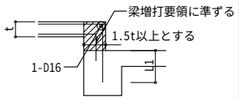
(2) 70＜床版の段差(H)≦150



(3) 床版の段差＞150



(4) 段違いの下に梁を設けた時

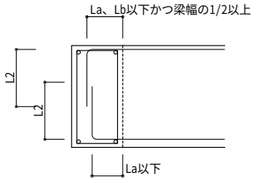


（注）上記の場合床版配筋はモチアミ配筋とする。

（注）適用範囲は床版厚さt≦200
の場合とする。

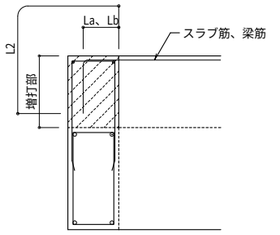
水平定着長La、Lbが不足する際の配筋要領

※鉛直定着長をL2以上とする。
小梁下端筋は、適用外とする。

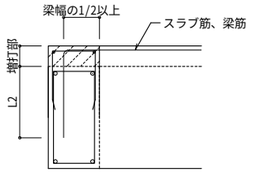


増打部に定着する場合の配筋要領（スラブ、梁共通）

・増打部内で定着長を満足する場合



・増打部内で定着長を満足しない場合



設備基礎配筋要領図

(a) H≦200の場合

※寸法は意匠図による。

(a) 屋外

(b) 一般

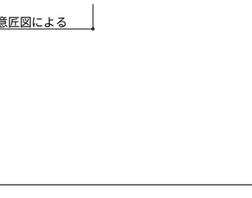
(b) 200＜H≦400の場合

（注）位置寸法は建築図による。

（注）　1.取付く梁のスパンは4000以下とする。
2.梁形は本体の梁から梁へ通すこと。
3.幅止め筋　D10-@1000
腹筋　　2-D10
4.B.H.Lは建築図による。
5.鉄骨架台はH-200x200x8x12（SS400）とし、
アンカーボルト2-M16（SS400）フック付きとする。
6.鉄骨架台は溶融亜鉛めっき処理とする。

設備基礎配筋図

※印は意匠図による



釜場配筋図

B×L寸法は、意匠図による。
t：耐圧版厚さ

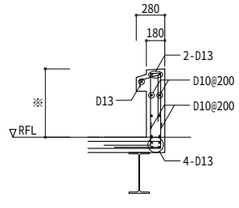
土圧壁配筋図

②～④、⑦～⑨間

①～②、⑨～⑩間

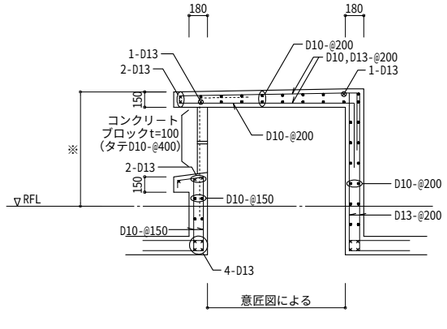
パラペット配筋図

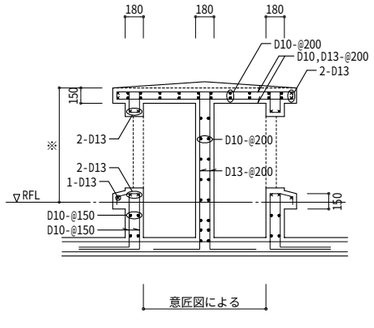
※印寸法は意匠図による



PS立上り配筋要領図

※印寸法は意匠図による

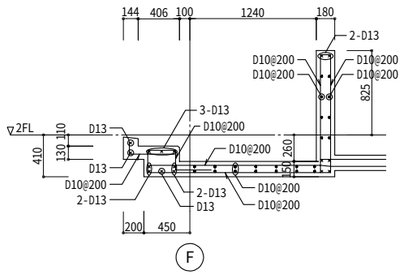




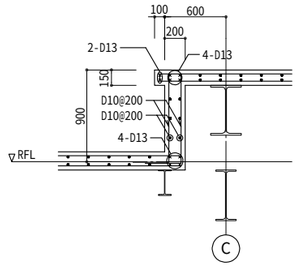
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　雑配筋図 (1)		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道真	担当	番号 042
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

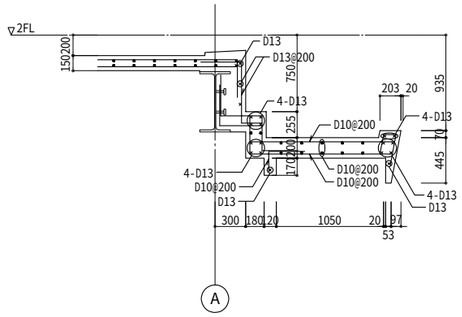
リフレッシュスペース部



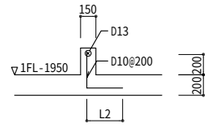
R階



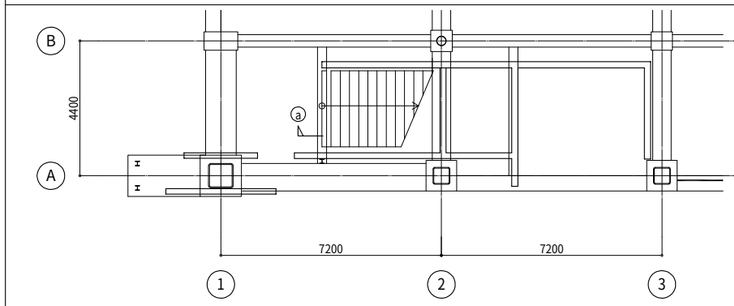
デッキ階段部スラブ配筋図



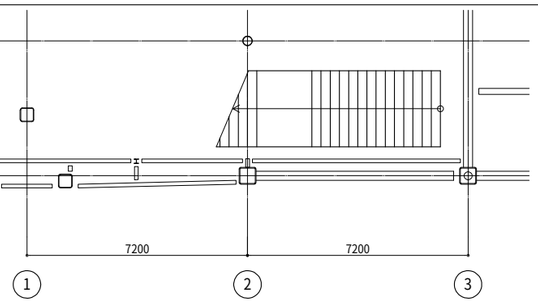
防水提配筋図



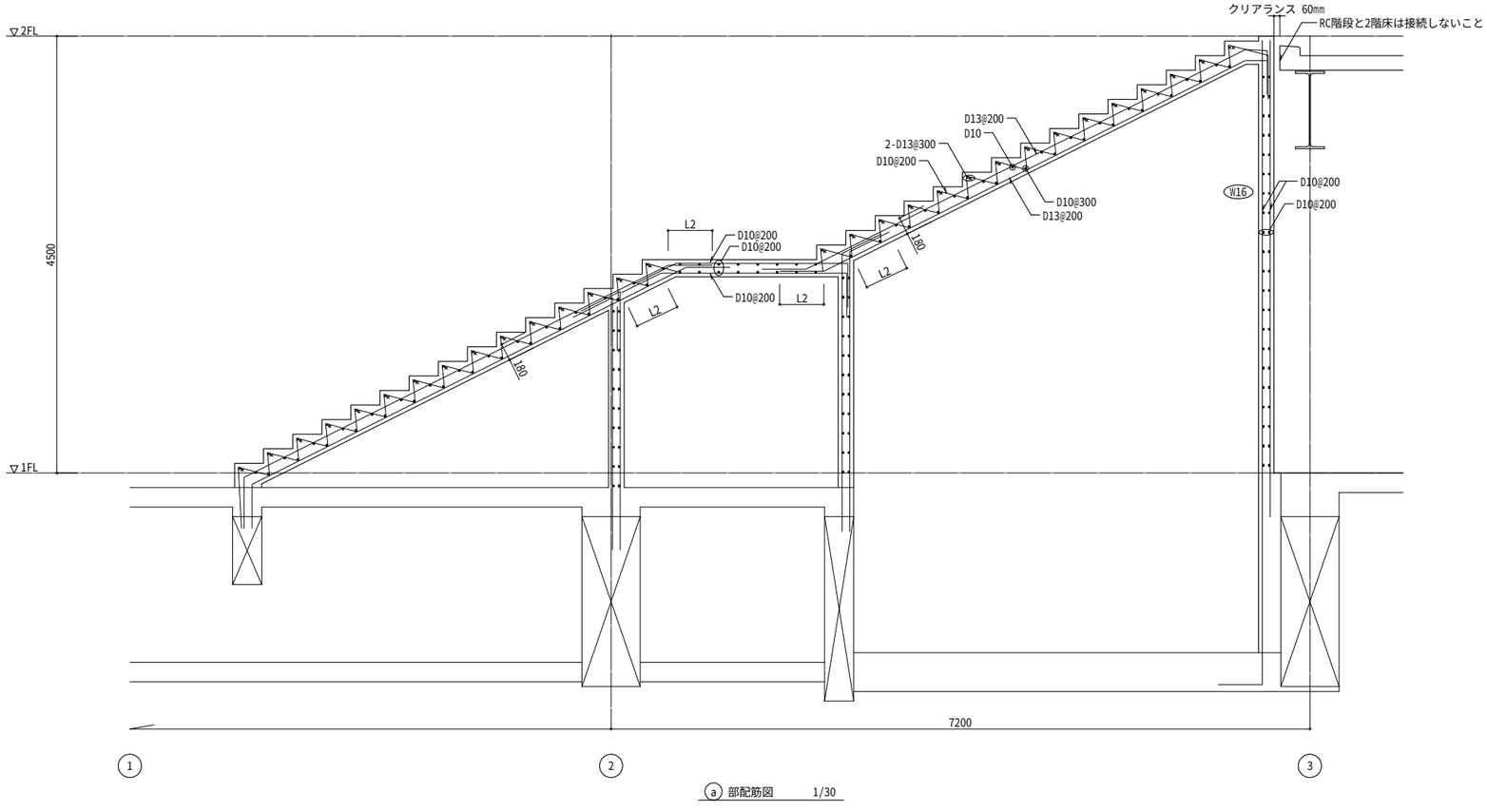
テラス階段配筋要領図



1階伏図 1/200



2階伏図 1/200



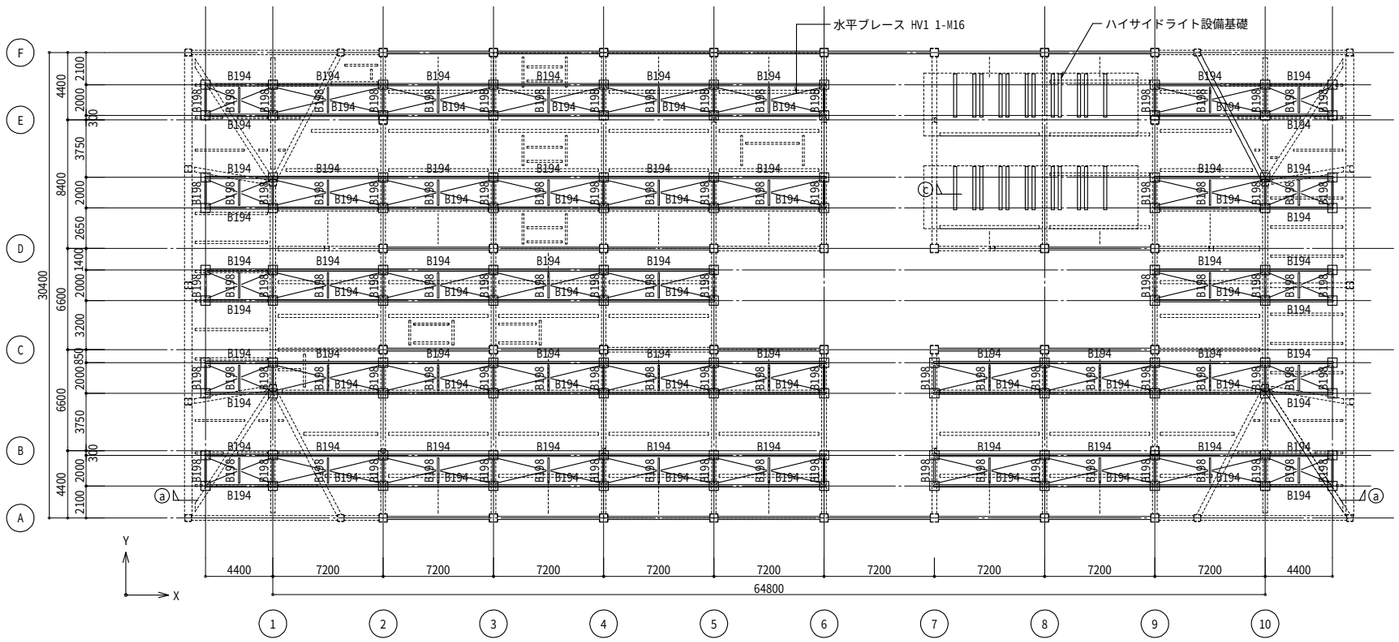
a 部配筋図 1/30

壁リスト 1/30 特記外．1.断面は水平断面とする。

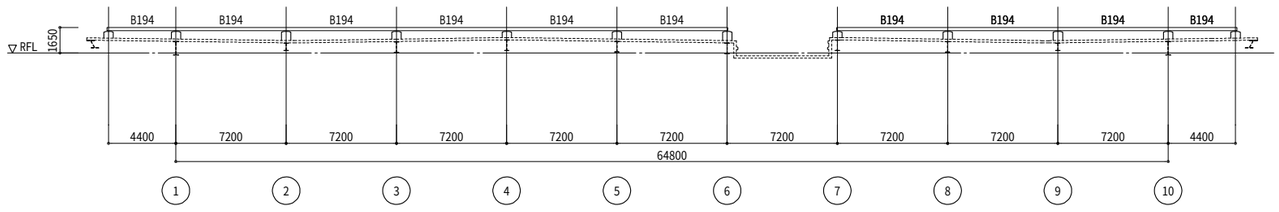
符　号		W16
位　置		全断面
断　面		160
壁　厚		160
縦　筋		D13@150（ダブル）
横　筋		D10・D13@150（ダブル）
幅止め		D10@1000
開口補強筋	縦　筋	-
	横　筋	-
	斜　筋	-

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　雑配筋図 (2)		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 043
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



R階目隠し壁伏図　1/200



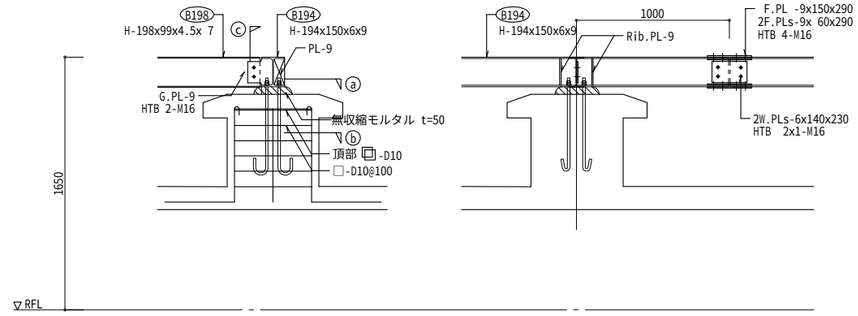
ⓐ - ⓐ sec

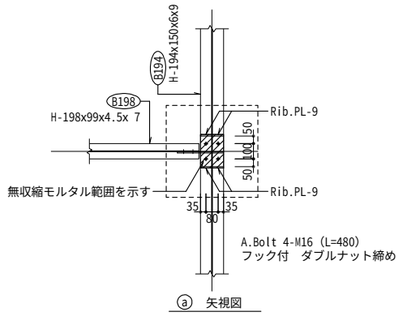
鉄骨部材リスト

特記なき限り　1. 使用鋼材は SS400規格品とする。
2. 使用H.T.BはF8Tめっきボルト認定品とする。
3. 鉄骨は、溶融亜鉛めっき仕上げとする。

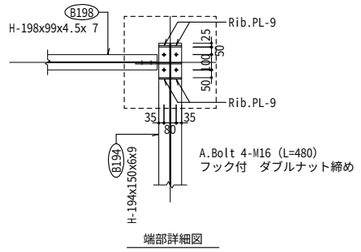
	符 号	部 材	仕 口	備 考
小 梁	B198	H-198x 99x4.5x 7	G.PL- 9　HTB 2-M16	
	B194	H-194x150x 6x 9	G.PL- 9　HTB 2-M20	
水平ブレース	HV1	1-M16（ターンバックル付）	G.PL- 9　HTB 1-M16	

継手は各スパンに設置する

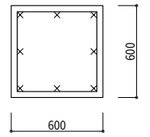




ⓐ 矢視図

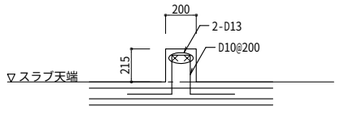


端部詳細図



主筋：　8-D13
HOOP：　□-D10@100
頂部：　□-D10

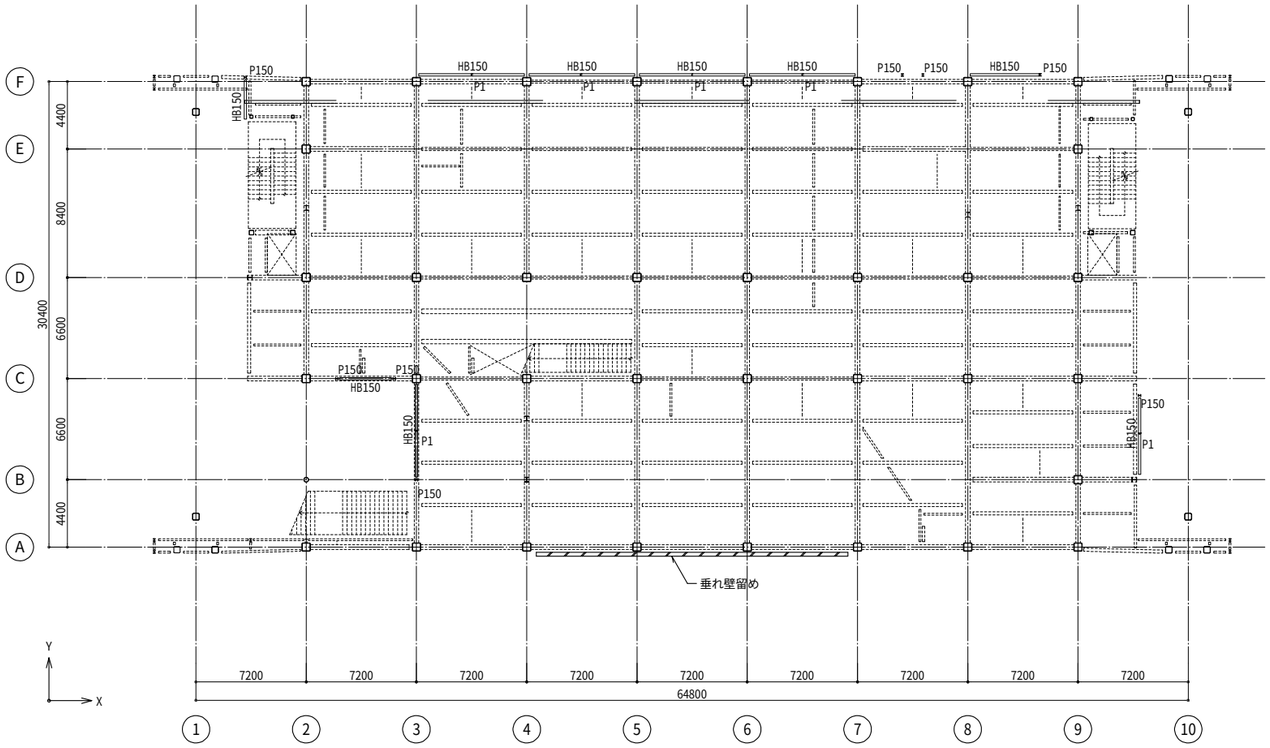
ⓑ 矢視図



ⓒ 矢視図

株式会社 佐藤総合計画

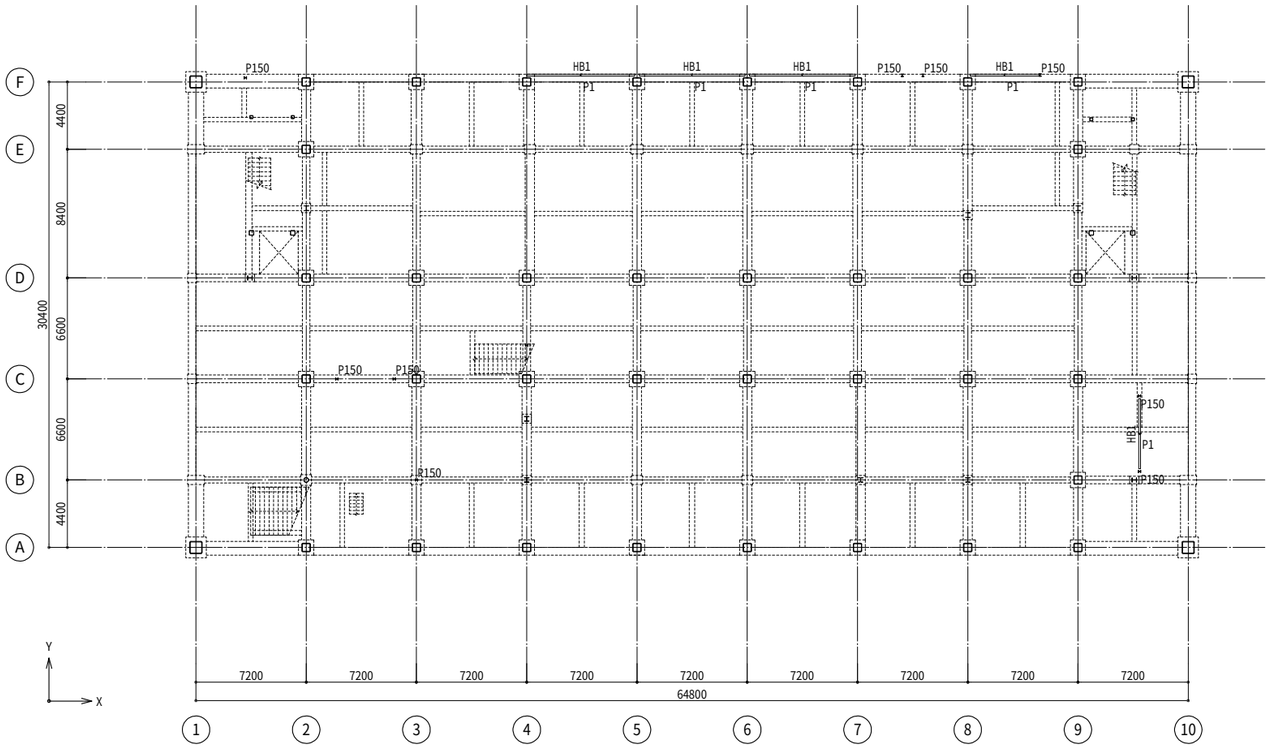
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　設備架台詳細図		縮尺 A1 1:20, 200 A3 1:40, 400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 044
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



1階上部外壁受け伏図　1/200

特記なき限り下記による

1.鉄骨梁天端は2FL-1530とする。



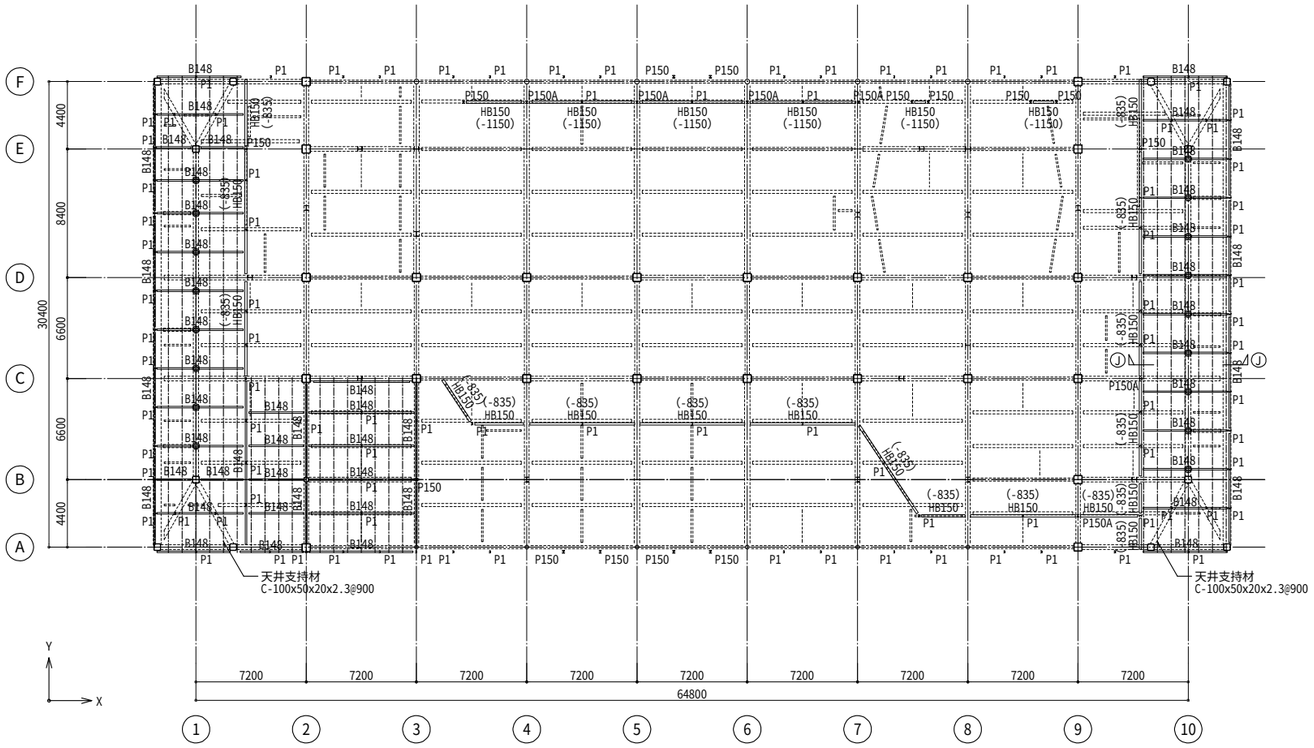
1階下部外壁受け伏図　1/200

特記なき限り下記による

1.鉄骨梁天端は1FL+815とする。

株式会社 佐藤総合計画

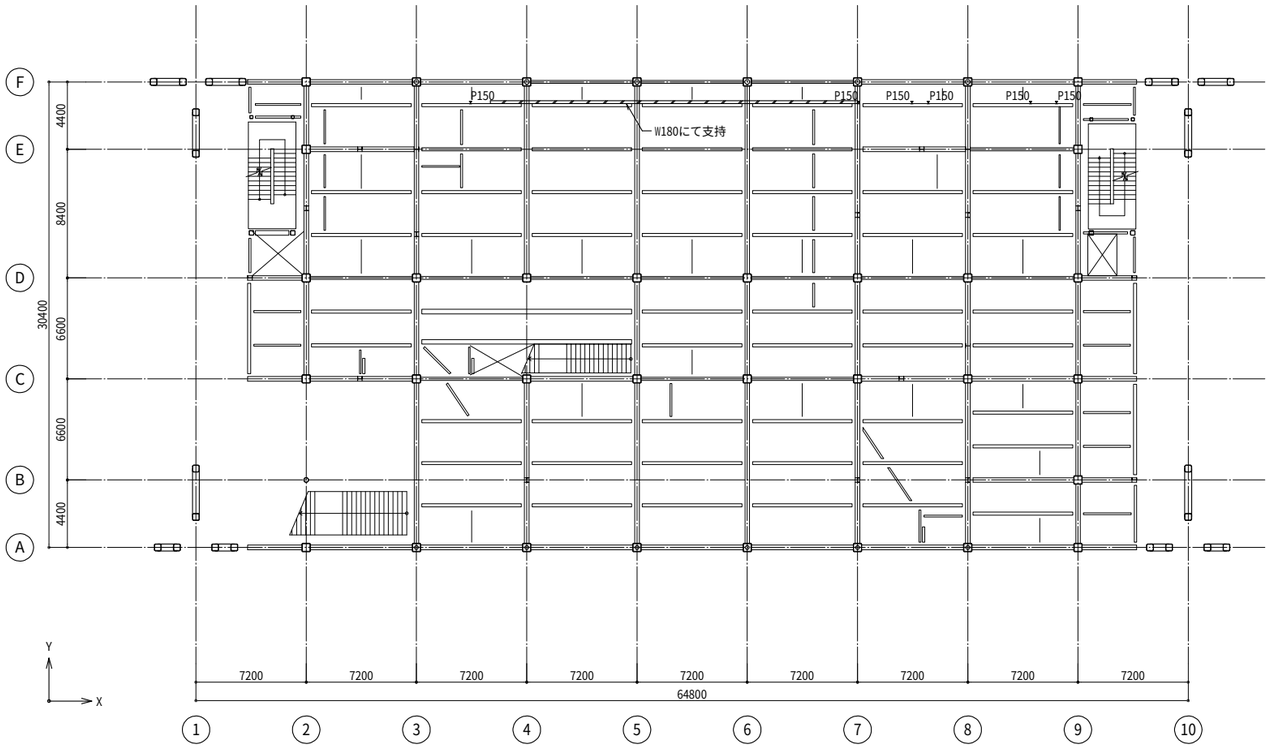
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　外壁受け伏図 (1)		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 045
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



2階上部外壁受け伏図　1/200

特記なき限り下記による

1. 鉄骨梁天端は3FL-1350とする。
2. ◎ 印は上部梁接合位置を示す。 (G.PL-9　HTB 2-M16)
3. (　) 内は3FLからの梁天端レベルを示す。

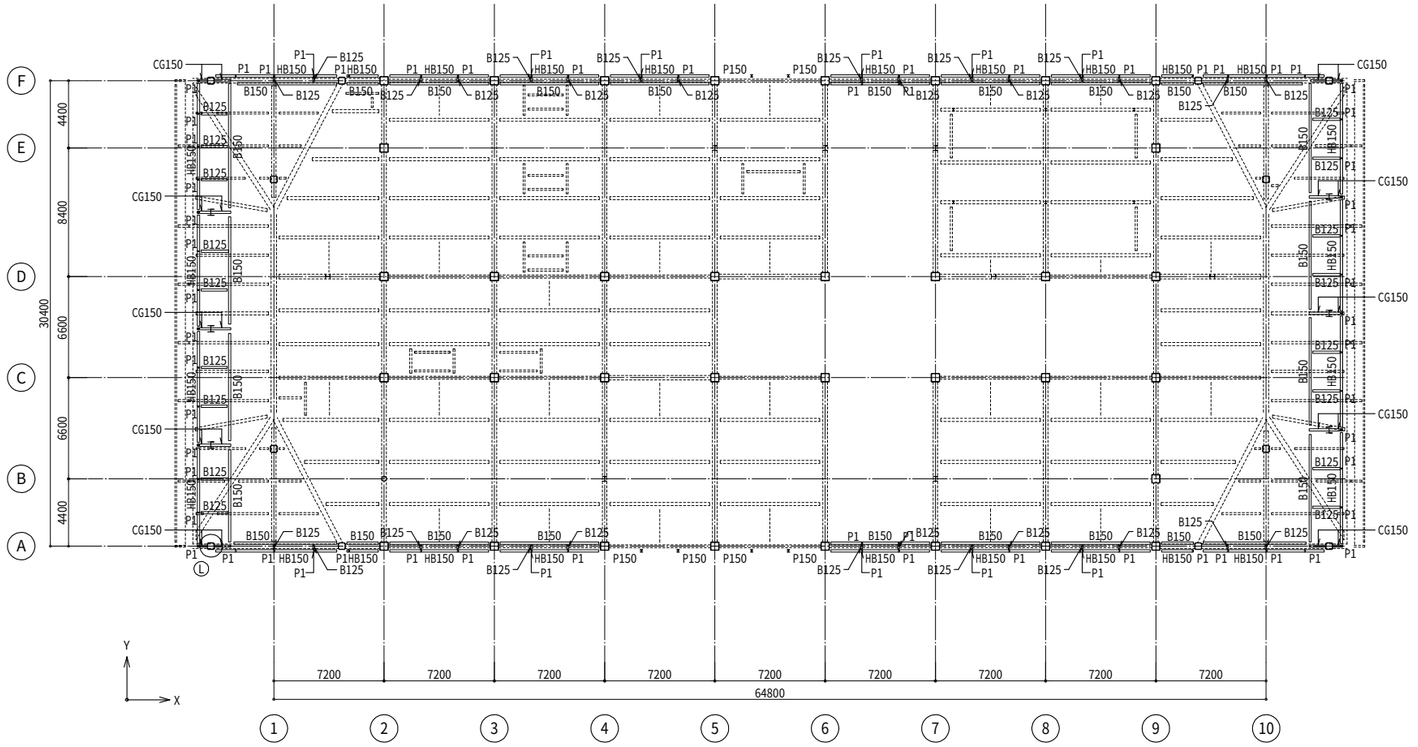


2階下部外壁受け伏図　1/200

特記なき限り下記による

1. RC壁天端は2FL+825とする。

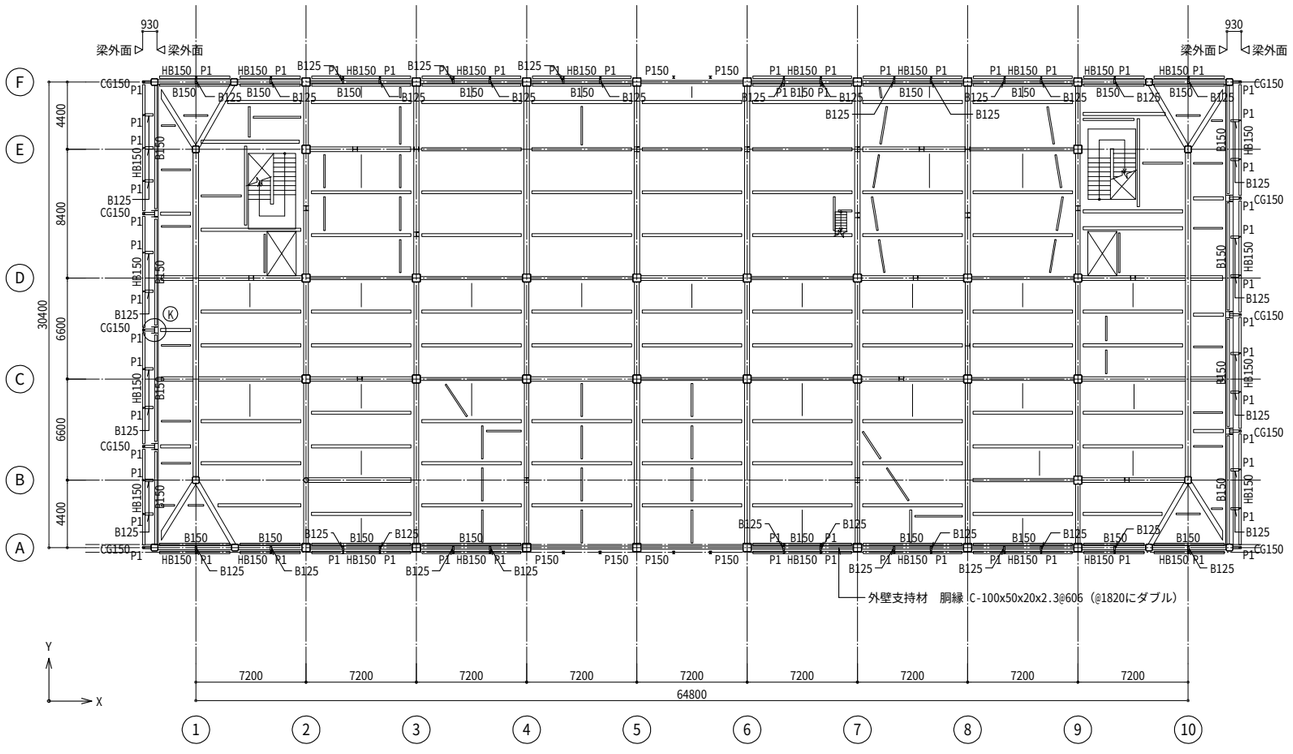
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 庁舎棟　外壁受け伏図 (2)	縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 046



3階上部外壁受け伏図　1/200

特記なき限り下記による

1.鉄骨梁天端はRFL-1700とする。



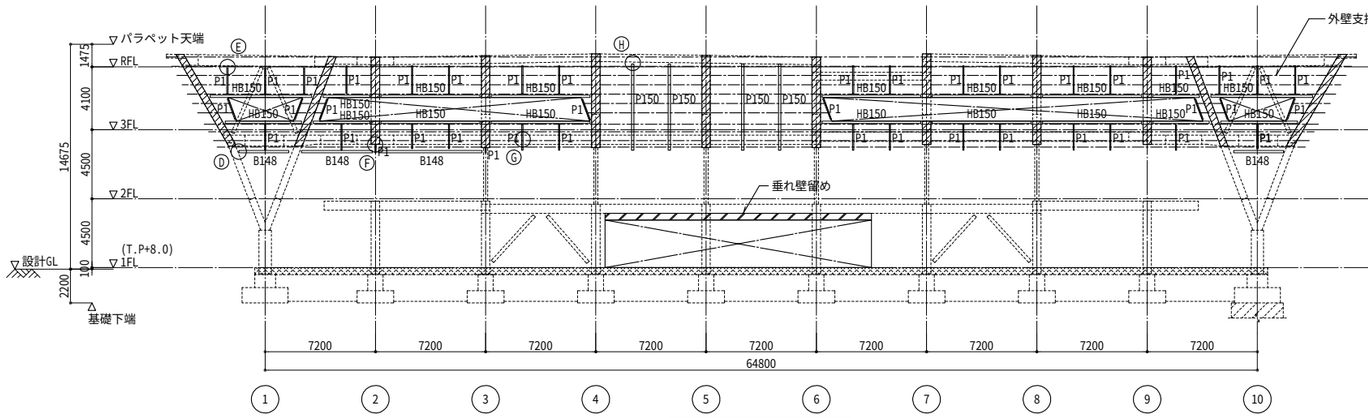
3階下部外壁受け伏図　1/200

特記なき限り下記による

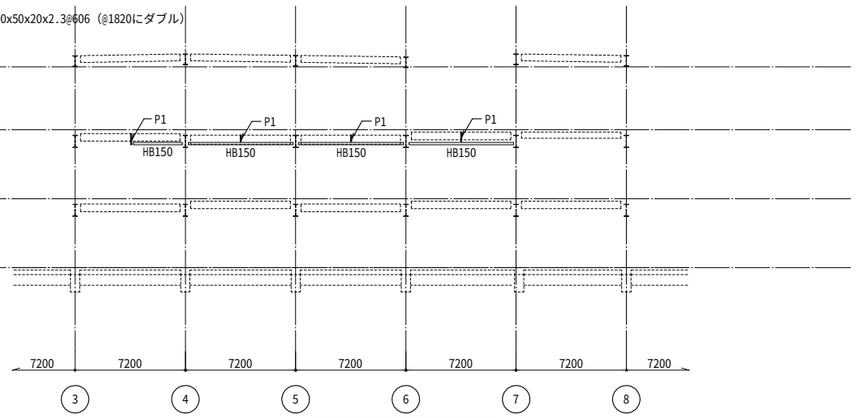
1.鉄骨梁天端は3FL+430とする。

株式会社 佐藤総合計画

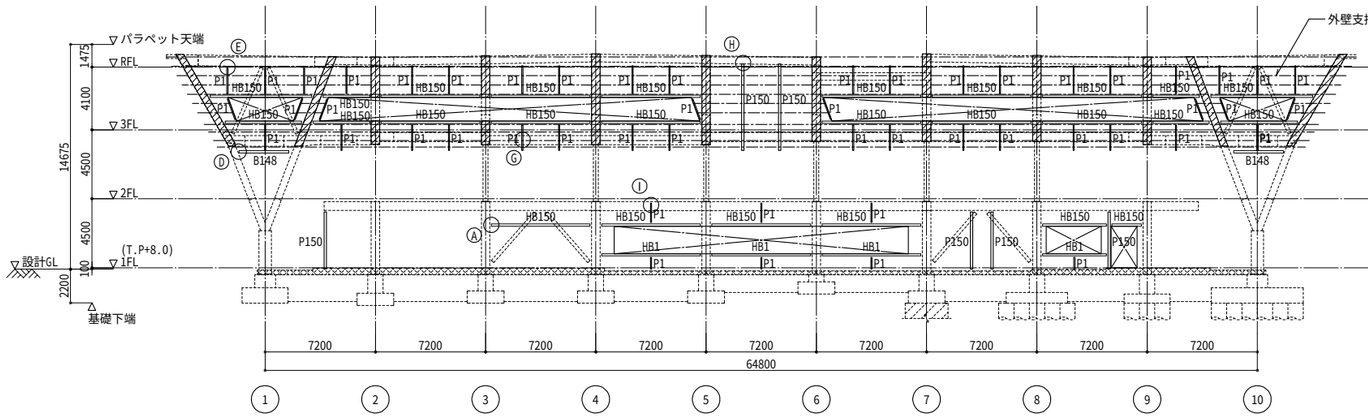
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　外壁受け伏図 (3)		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 047
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



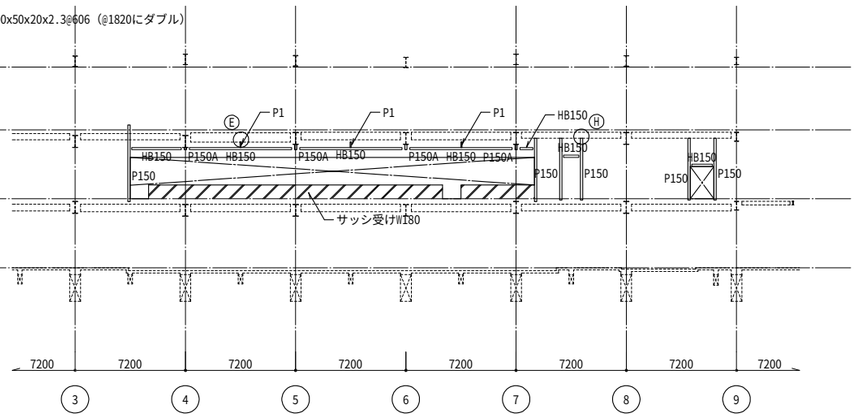
A通り軸組図　1/200



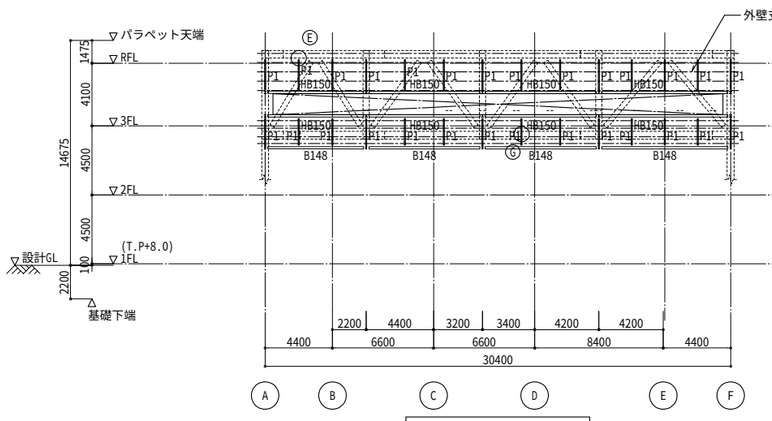
C通り-2950軸組図　1/200



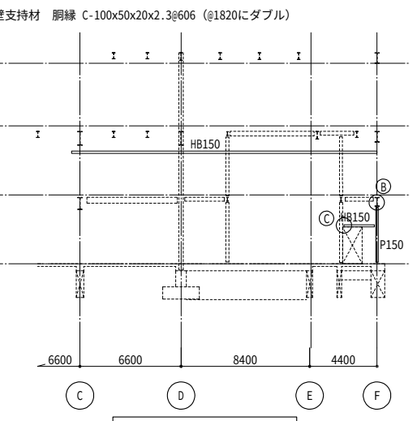
F通り軸組図　1/200



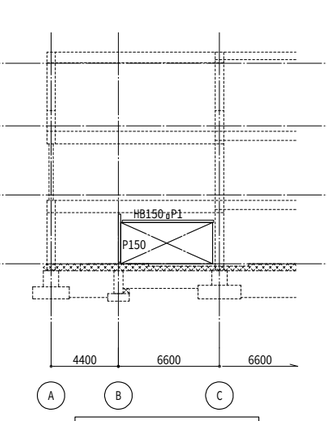
F通り-1250軸組図　1/200



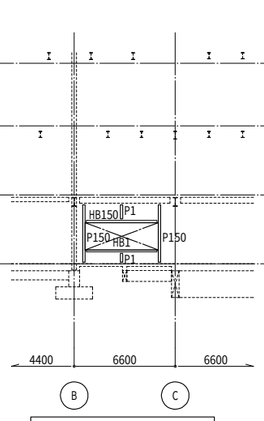
1通り-4300軸組図　1/200



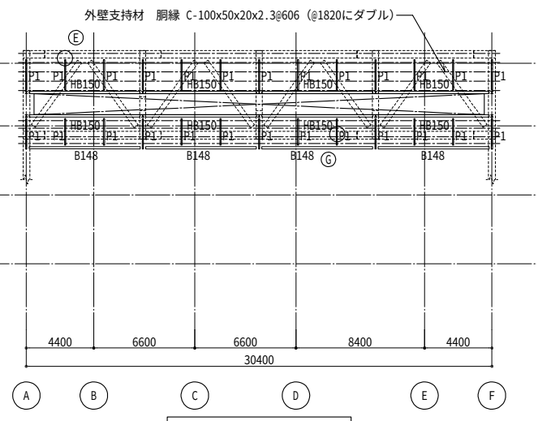
1通り+3900軸組図　1/200



3通り軸組図　1/200



10通り-3120軸組図　1/200



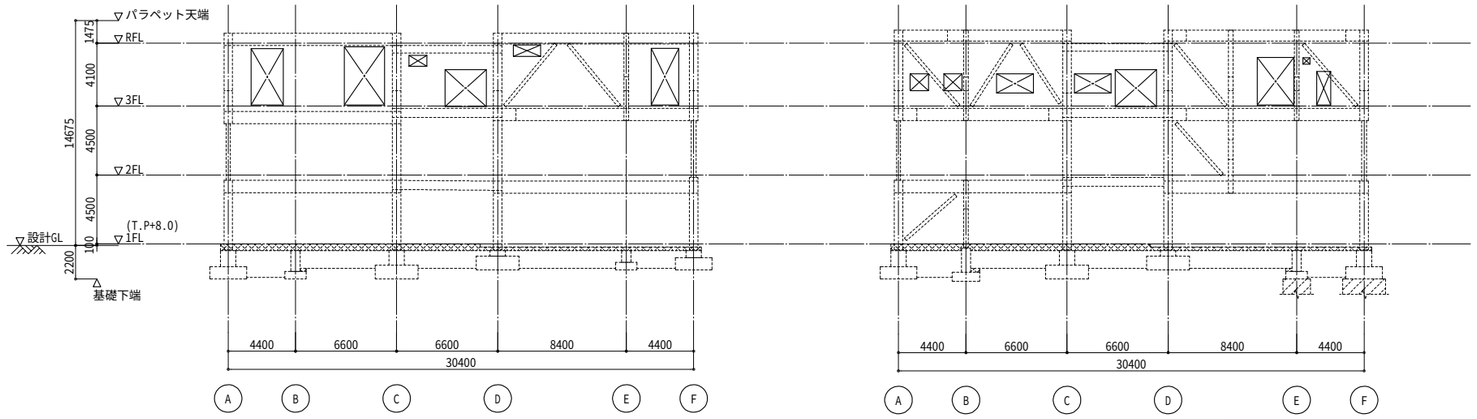
10通り+4300軸組図　1/200

特記なき限り下記による

・ ▨ 印は胴縁受けBT-120x150x6.5x9を示す。

柱接合部はG.PL-9　HTB 2-M16@1000とする。

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 庁舎棟　外壁受け軸組図	縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 048



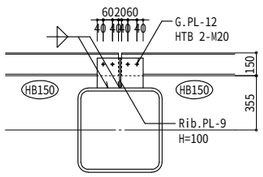
6通り軸組図　1/200

7通り軸組図　1/200

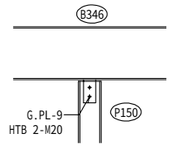
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　外壁受け軸組図 (2)		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 049
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

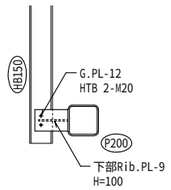
Ⓐ部詳細図



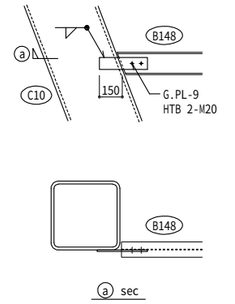
Ⓑ部詳細図



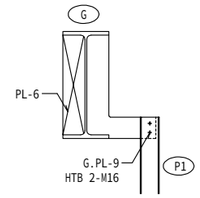
Ⓒ部詳細図



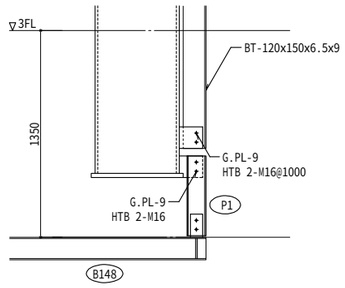
Ⓓ部詳細図



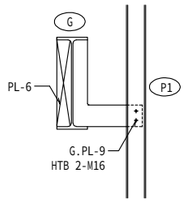
Ⓔ部詳細図



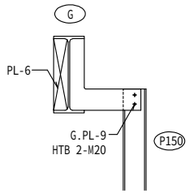
Ⓕ部詳細図



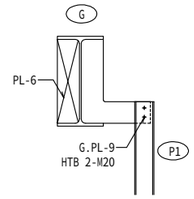
Ⓖ部詳細図



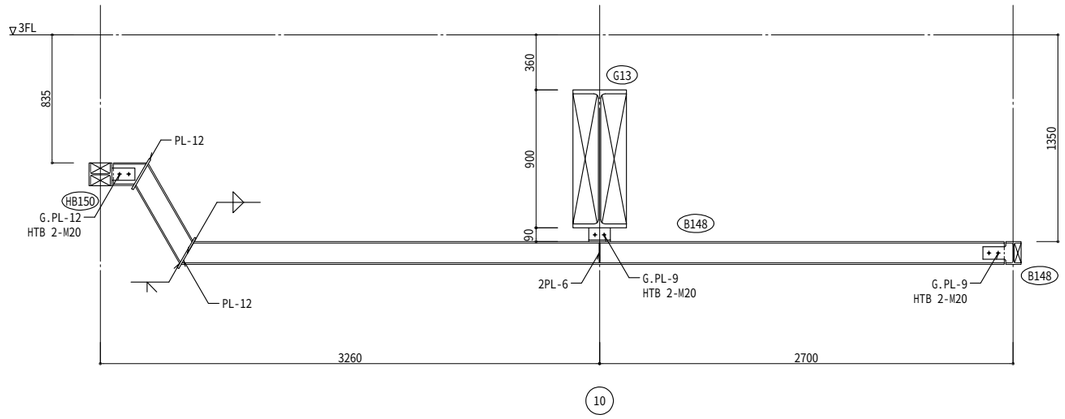
Ⓗ部詳細図



Ⓘ部詳細図

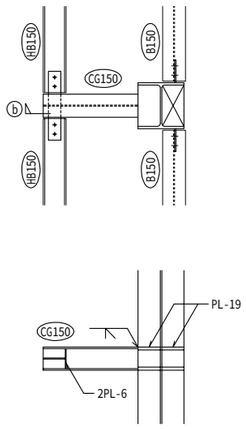


Ⓙ部詳細図

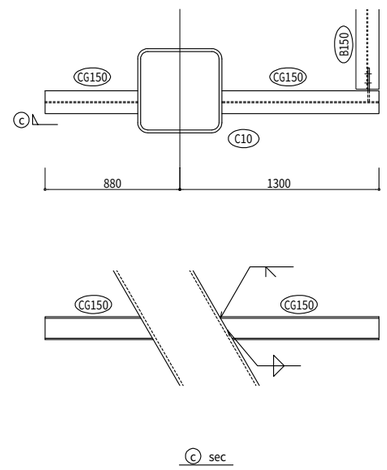


10

Ⓚ部詳細図

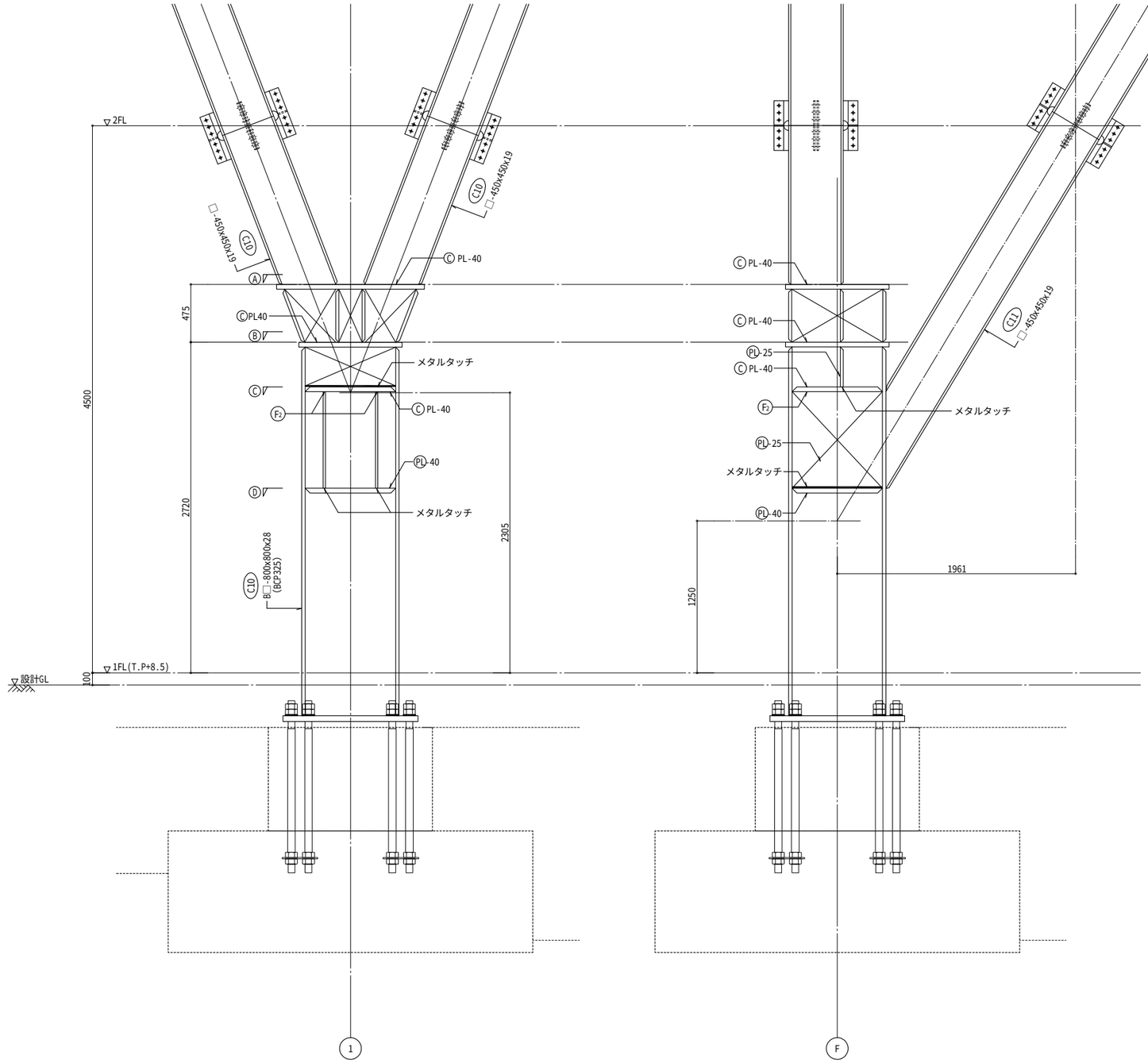


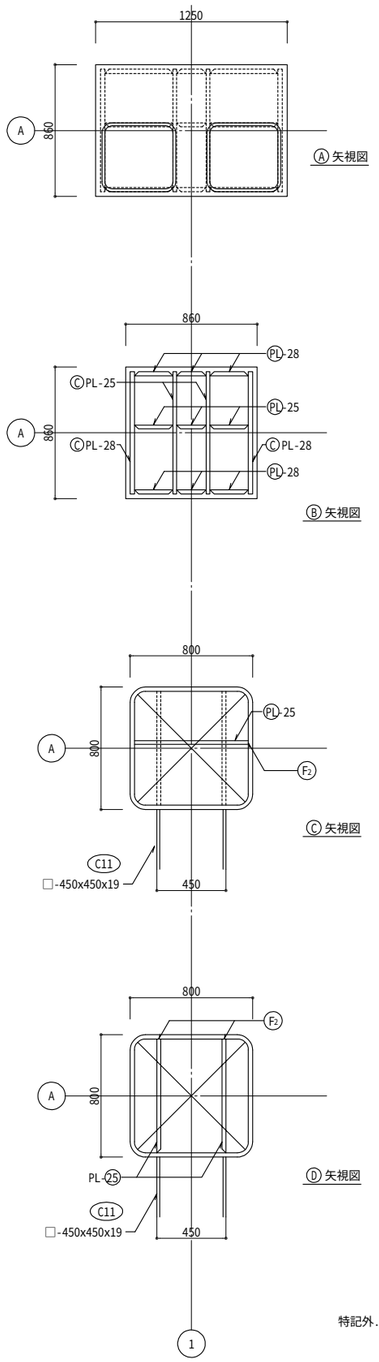
Ⓛ部詳細図



株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟 外壁受け取合い要領図		縮尺 A1 1:20 A3 1:40	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当	番号 050
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

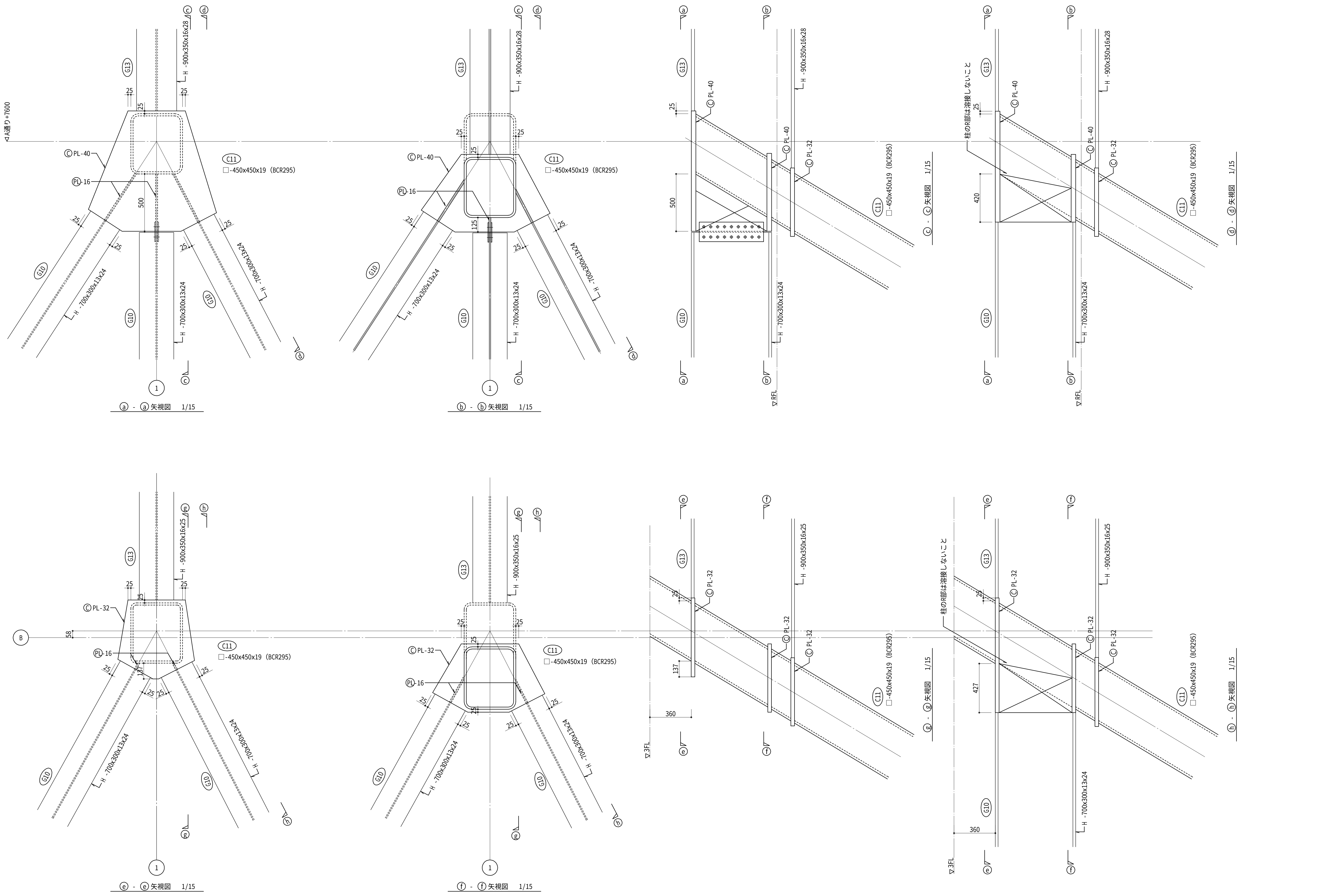




特記外. 1. 溶接は、突合せ溶接（Ⓣ）とする
2. 鋼材材質: ○ 印表示：SN490B
Ⓒ 印表示：SN490C
角形鋼管：BCR295

株式会社 佐藤総合計画

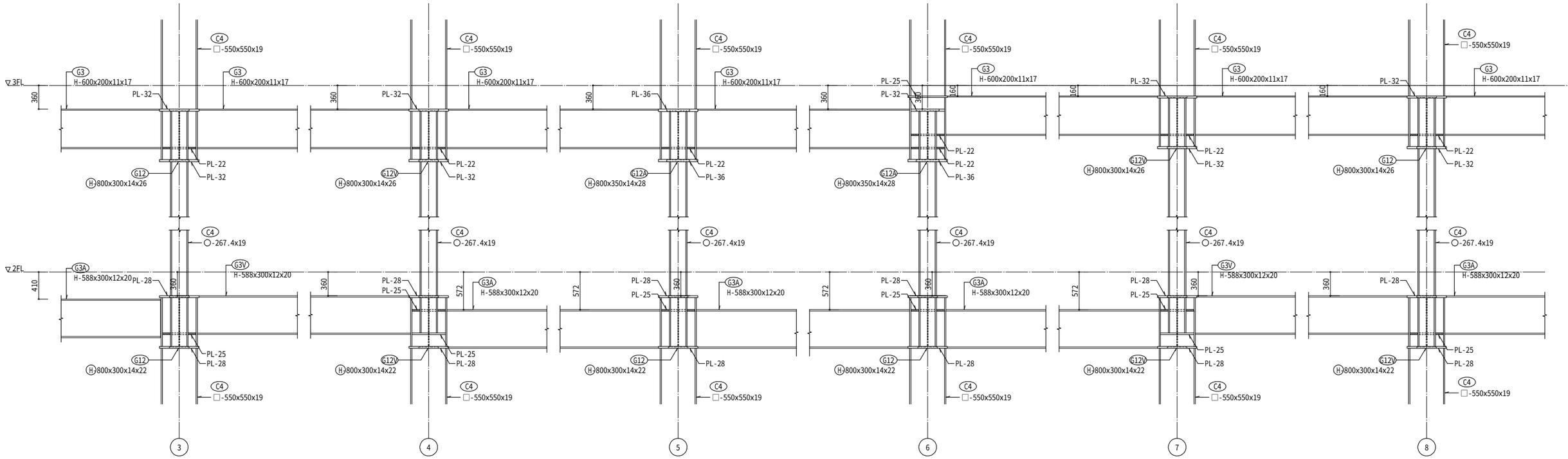
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟 C10仕口詳細図		縮尺 A1 1:20 A3 1:40	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 051
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 楠垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	



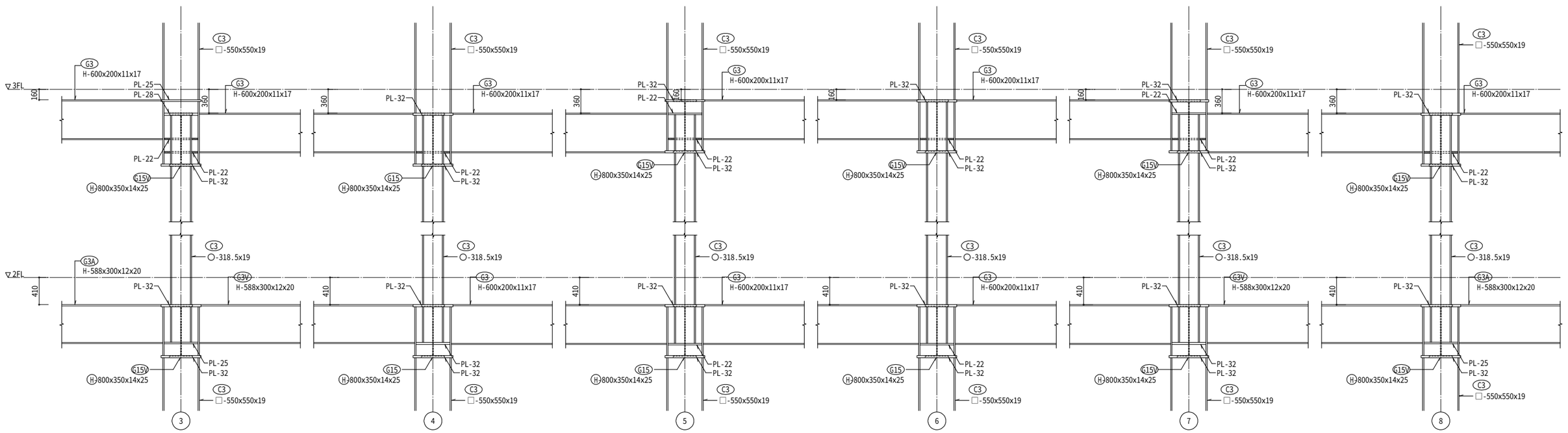
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事			種別 SA
図面名 庁舎棟 C11仕口詳細図			縮尺 A1 1:15 A3 1:30	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞		担当	番号 052
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅		作成日 2022.3	

株式会社 佐藤総合計画

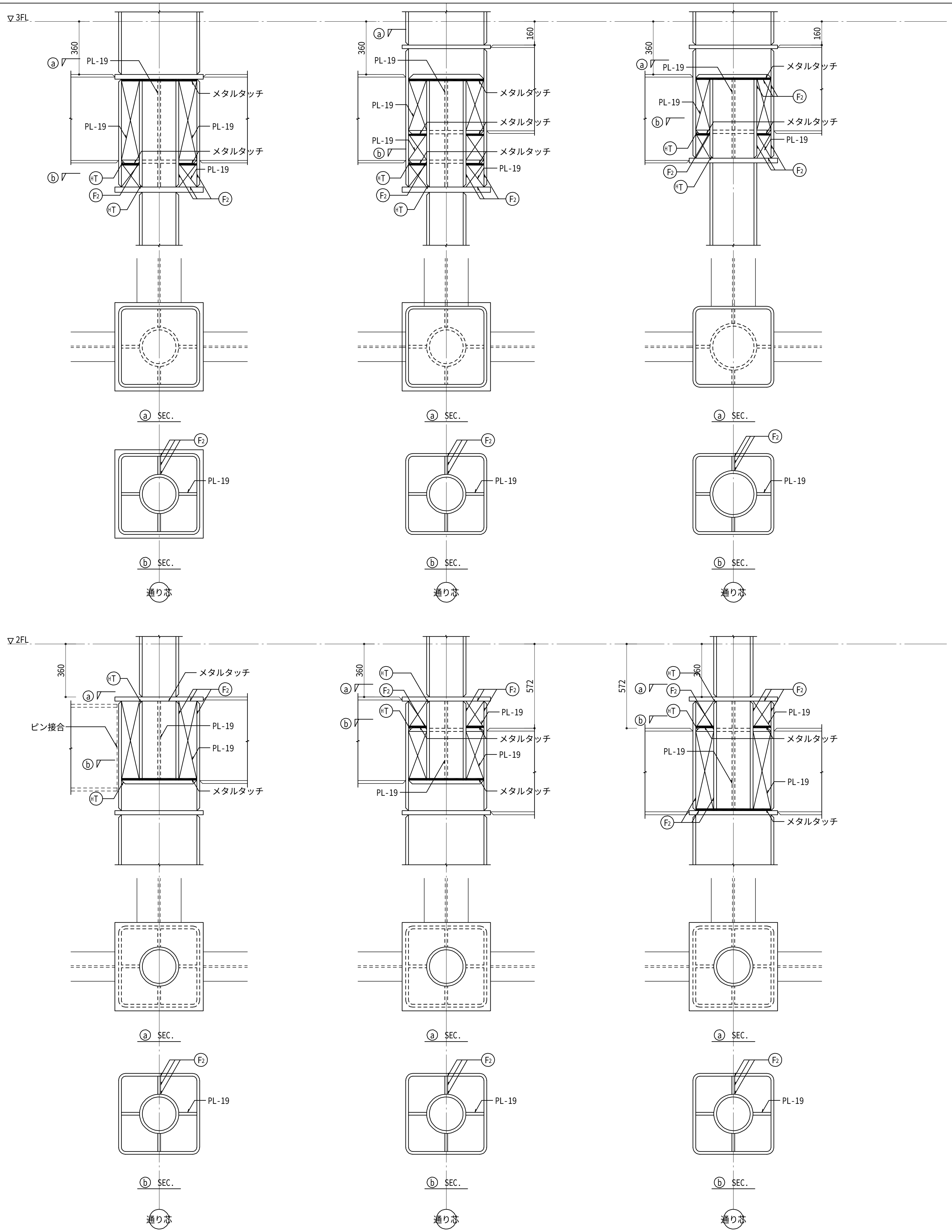
A通り



F通り



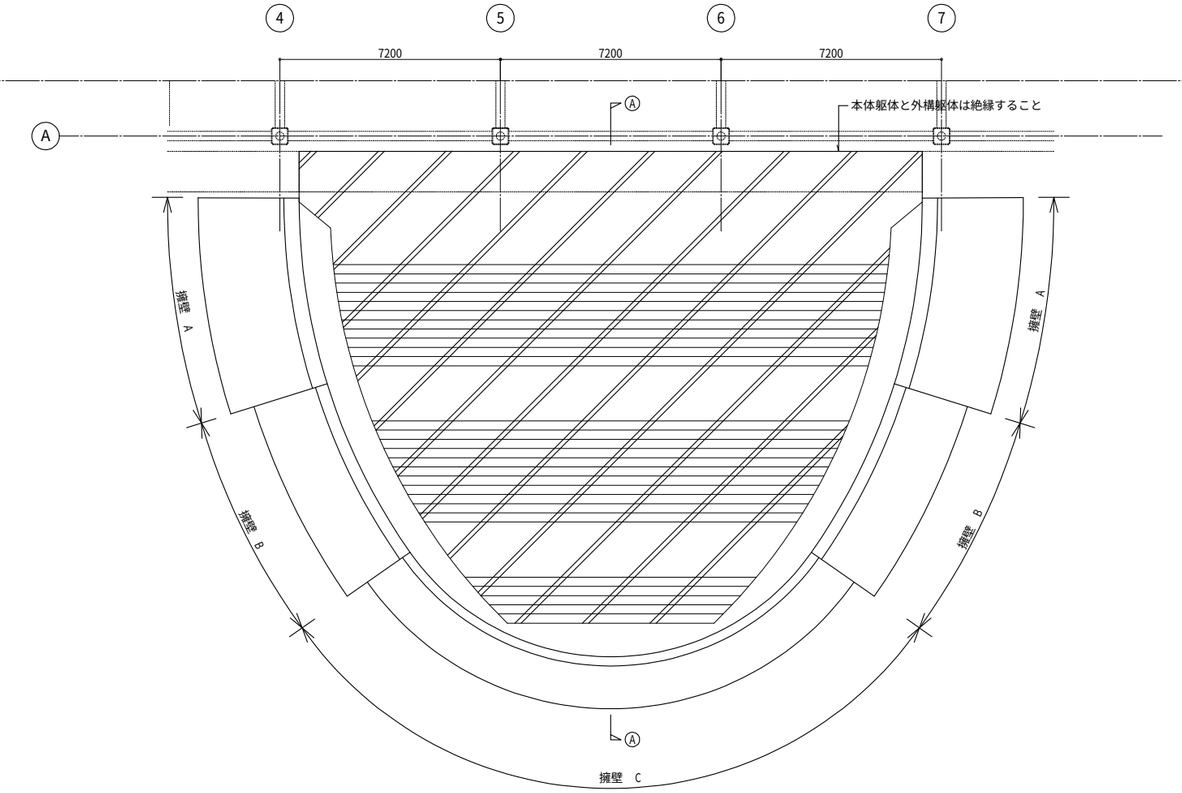
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
	図面名 庁舎棟　A通り・F通り仕口詳細図（1）	縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 053

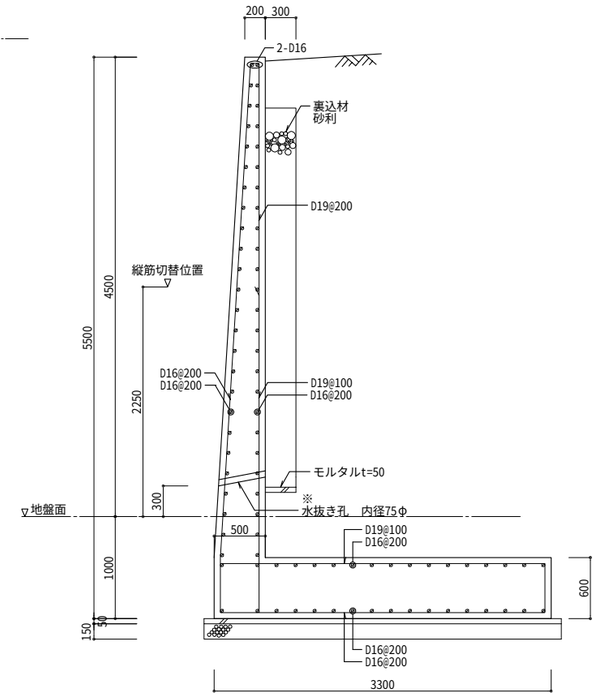


株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
	図面名 庁舎棟　A通り･F通り仕口詳細図 ⑵		縮尺 A1 1:15 A3 1:30	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 054
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

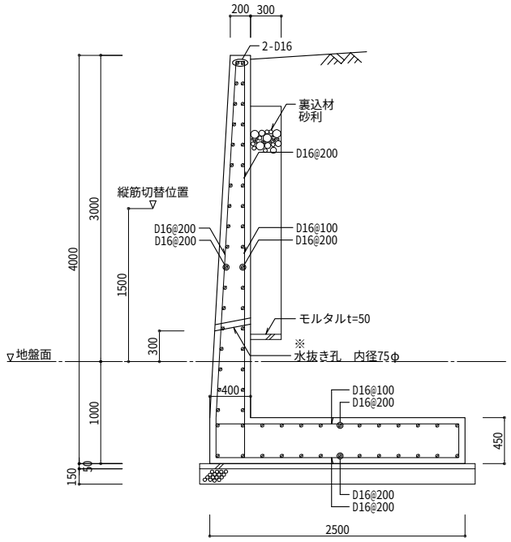
擁壁配筋図　1/30

※水抜き孔の間隔は3㎡以内に配置する。
裏込材は内部摩擦角が30°を超えるよう締め固める。





擁壁 A

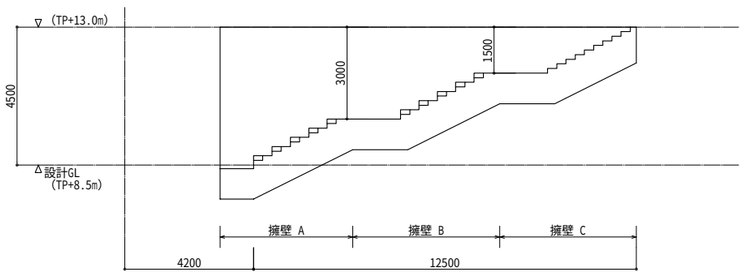


擁壁 B

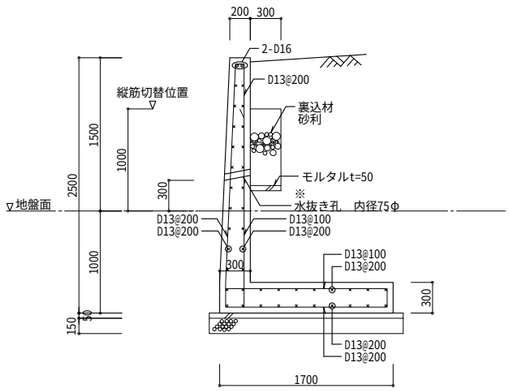
擁壁配置図　1/100

特記なき限り下記による

1. ▨ 印は土間コンクリートを示す。
2. 15m毎に収縮目地（絶縁目地20mm）を設けること。

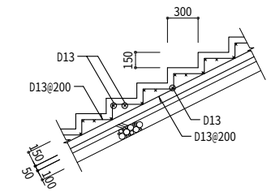


Ⓐ - Ⓐ 断面図　1/100



擁壁 C

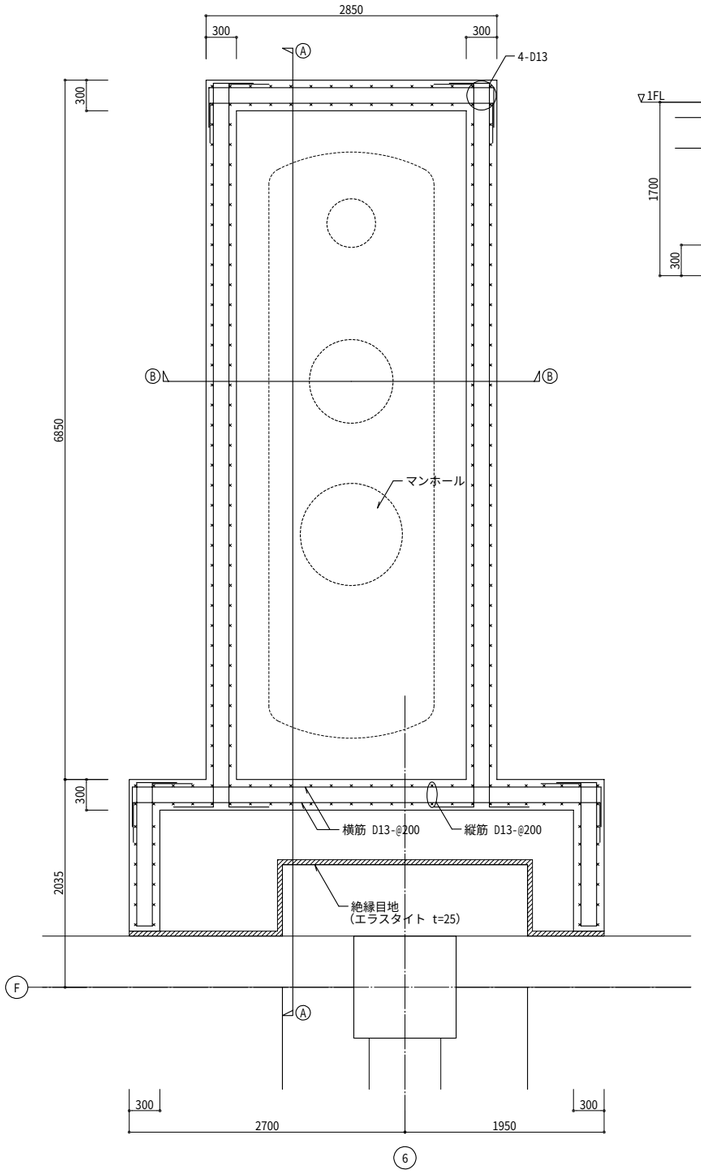
階段段部配筋図　1/30



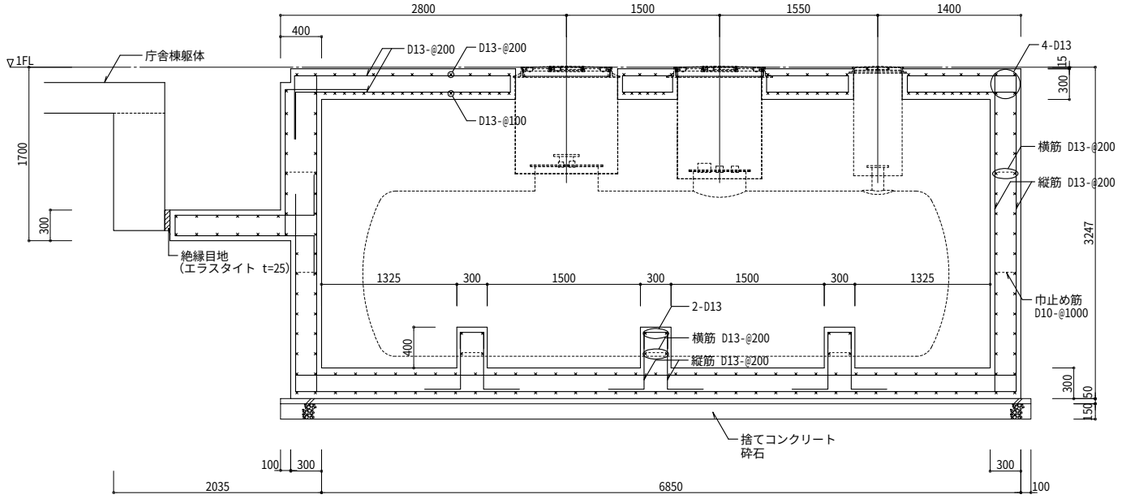
構造仕様	
コンクリート	Fc 21 スランプ 基礎15cm 地上18cm セメントN
鉄　筋	SD295　D10～D16 SD345　D19
長期設計地耐力	300 kN/m²

株式会社 佐藤総合計画

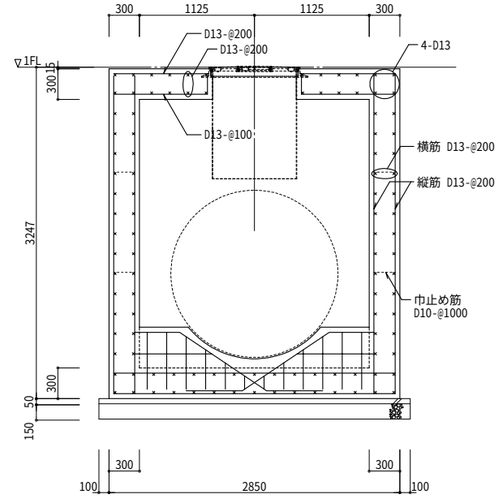
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　擁壁詳細図		縮尺 A1 1:50,100 A3 1:100,200	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 101
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 達司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



オイルタンク　伏図　1/30

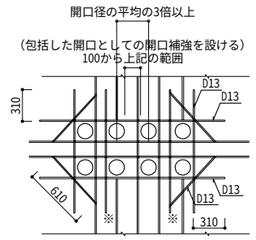


Ⓐ - Ⓐ 矢視図　1/30



Ⓑ - Ⓑ 矢視図　1/30

スラブ補強要領	スラブ開口補強筋要領図
・設備配管（CD管、チューブ等）部はスラブ配筋が@200以上の場合は、同径で同ピッチを間の上端に付加する。又は6φ-100×100を付加する。 ・埋設配管を行う場合は厚さtの1／5以下の管径とし、配管ピッチは@200以上とする。 ・合成梁のスラブは、スラブ配筋が@200以上の場合は、（合成床版を含む）梁直交方向の上端に同径で同ピッチ、2L1以上、梁と平行方向も同径で同ピッチを付加する。 ・スラブの嵩上げコンクリート厚さが50㎜を超える場合は、D10@200モチアミ、又は6φ-100×100を付加する。 開口が連続する場合 開口径の平均の3倍以上 （包括した開口としての開口補強を設ける） 100から上記の範囲 ※ 開口によって鉄筋が切られる場合、同径以上の鉄筋にて補強する。 ※ スリーブ間隔は、隣り合う開口径の平均の3倍以上とする。 間隔が確保できない場合は、開口面間寸法は100㎜以上とし、 包括した開口として開口補強筋を設ける。	① スラブ端部の配筋 開口部廻りの上端筋にフックを設ける。 L1 開口寸法A 開口寸法B 斜め筋 2-D13（シングル） 補強筋B D13（ダブル） 補強筋A D13（ダブル） L1 L1 開口補強筋



開口補強筋

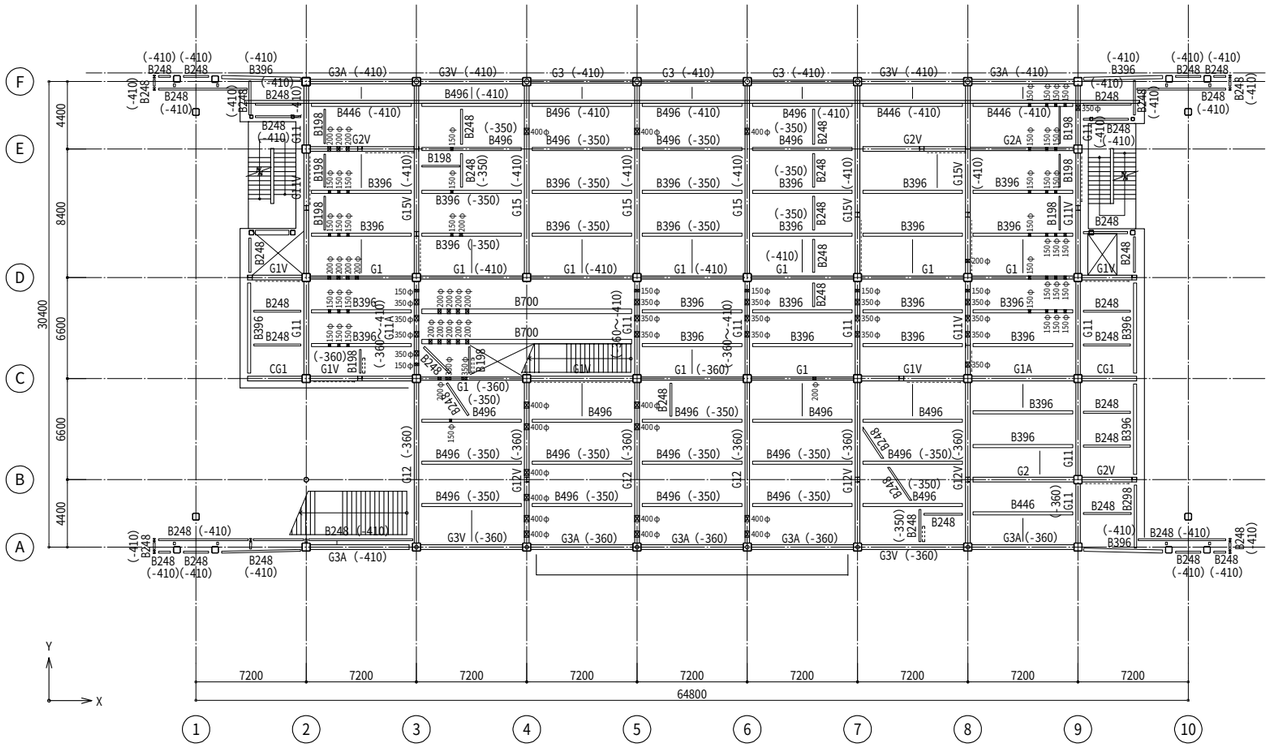
開口寸法A	補強筋位置	開口寸法B		
		400㎜	700㎜	1000㎜
400㎜	補強筋A	2-D13	2-D13	3-D13
	補強筋B	2-D13	3-D13	4-D13
700㎜	補強筋A	3-D13	3-D13	3-D13
	補強筋B	2-D13	3-D13	4-D13
1000㎜	補強筋A	4-D13	4-D13	4-D13
	補強筋B	3-D13	3-D13	4-D13

※床開口補強筋は、上記本数かつ切断した鉄筋の1/2本以上を開口の両側の上下筋位置に設ける。

構造仕様	
コンクリート	Fc 21 スランプ 15cm セメントN
鉄　筋	SD295　D10～D13
長期設計地耐力	100 kN/m²

株式会社 佐藤総合計画

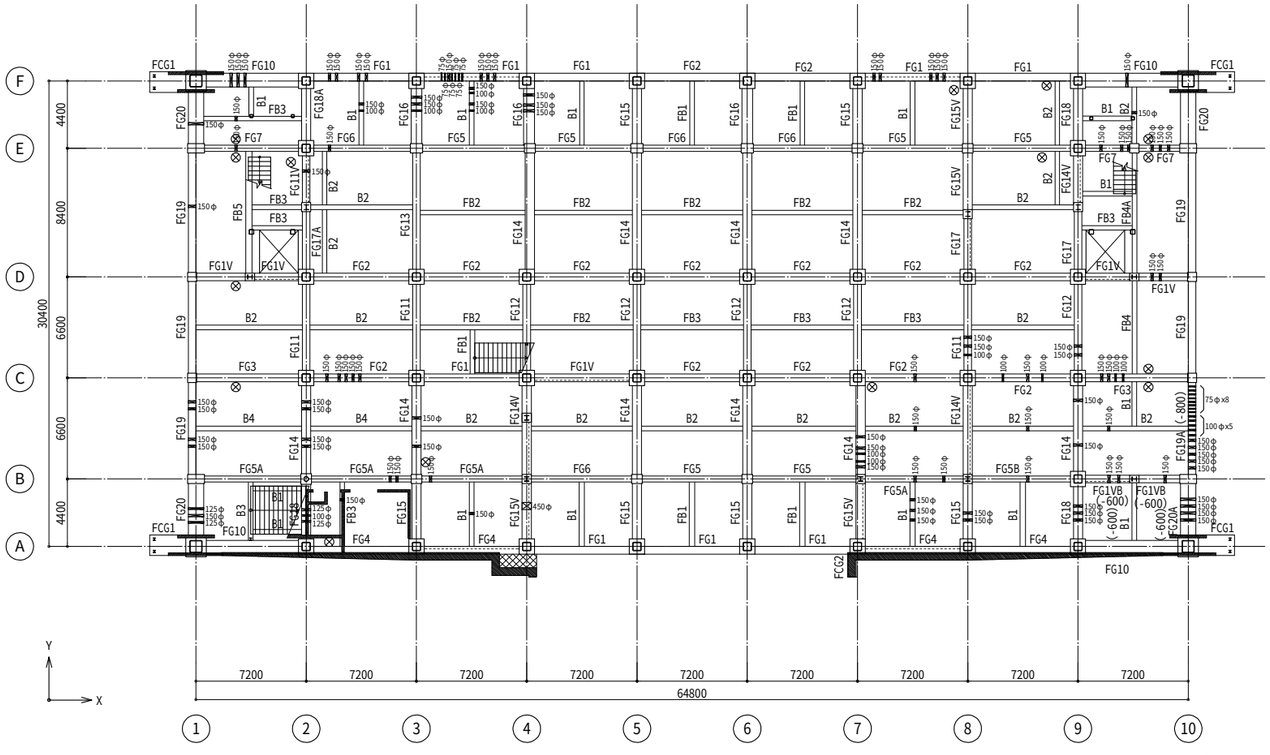
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　オイルタンク配筋図		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 102
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 達司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



2階伏図　1/200

梁符号	スリーブ径	数量
G1	150φ	4
	200φ	6
	350φ	2
G2A	150φ	3
G2V	200φ	3
G11	150φ	3
	350φ	10
G11A	150φ	2
	350φ	4
G11V	150φ	1
	350φ	4
G12	400φ	6
G12V	400φ	6
G15	400φ	3
G15V	200φ	1

梁符号	スリーブ径	数量
B396	150φ	25
	200φ	1
B446	150φ	4
B496	150φ	2
B700	200φ	9



1階伏図　1/200

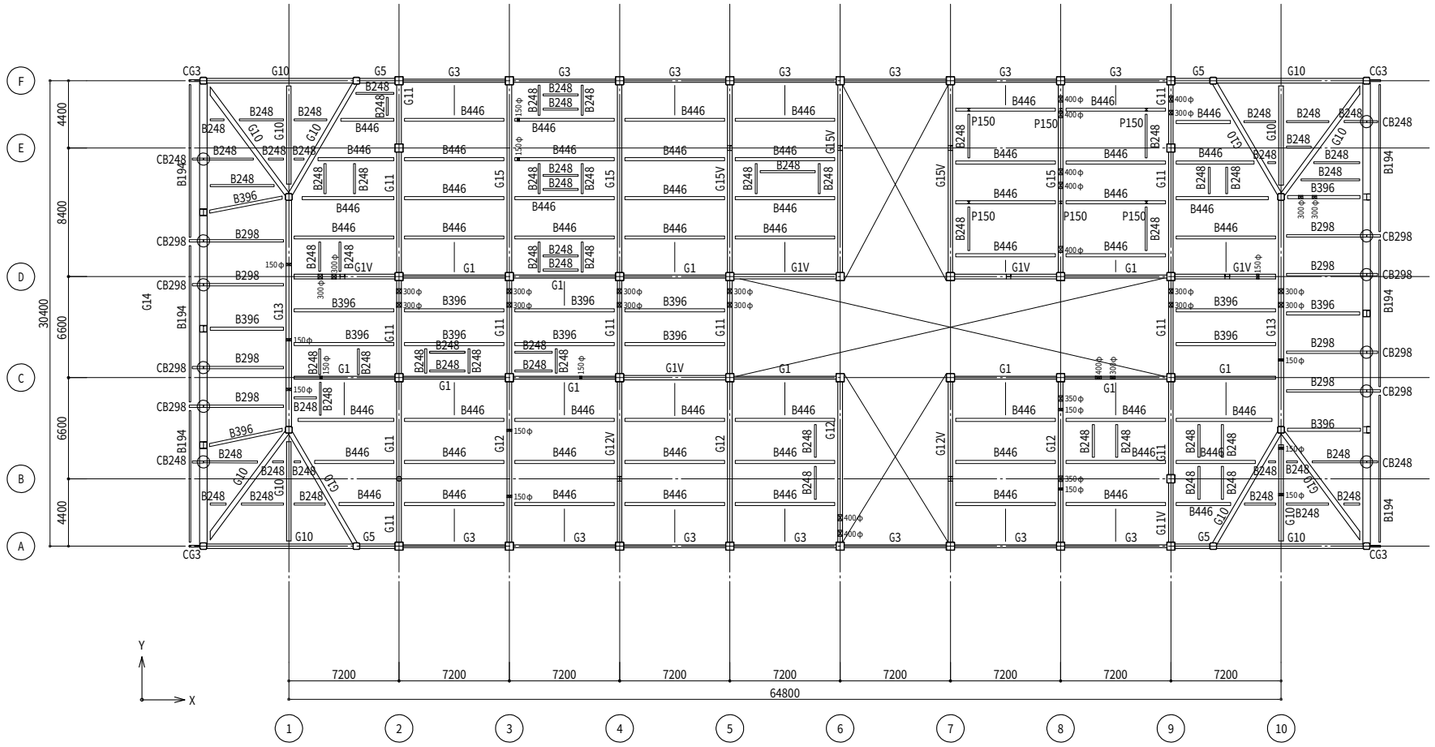
梁符号	スリーブ径	数量
FG1	100φ	6
	150φ	13
FG1V	150φ	2
FG1VB	150φ	3
FG2	100φ	2
	150φ	7
FG3	100φ	2
	150φ	2
FG5A	150φ	5
FG5B	150φ	1
FG6	150φ	1
FG7	150φ	8
FG10	150φ	4

梁符号	スリーブ径	数量
FG11	100φ	1
	150φ	2
FG11V	150φ	1
FG12	150φ	2
FG14	100φ	2
	150φ	11
FG15	150φ	2
FG15V	450φ	1
FG16	100φ	1
	150φ	5
FG18	100φ	1
	125φ	2
	150φ	3

梁符号	スリーブ径	数量
FG19	150φ	8
FG19A	75φ	8
	100φ	5
	150φ	5
FG20	125φ	2
	150φ	2
FG20A	150φ	4

株式会社 佐藤総合計画

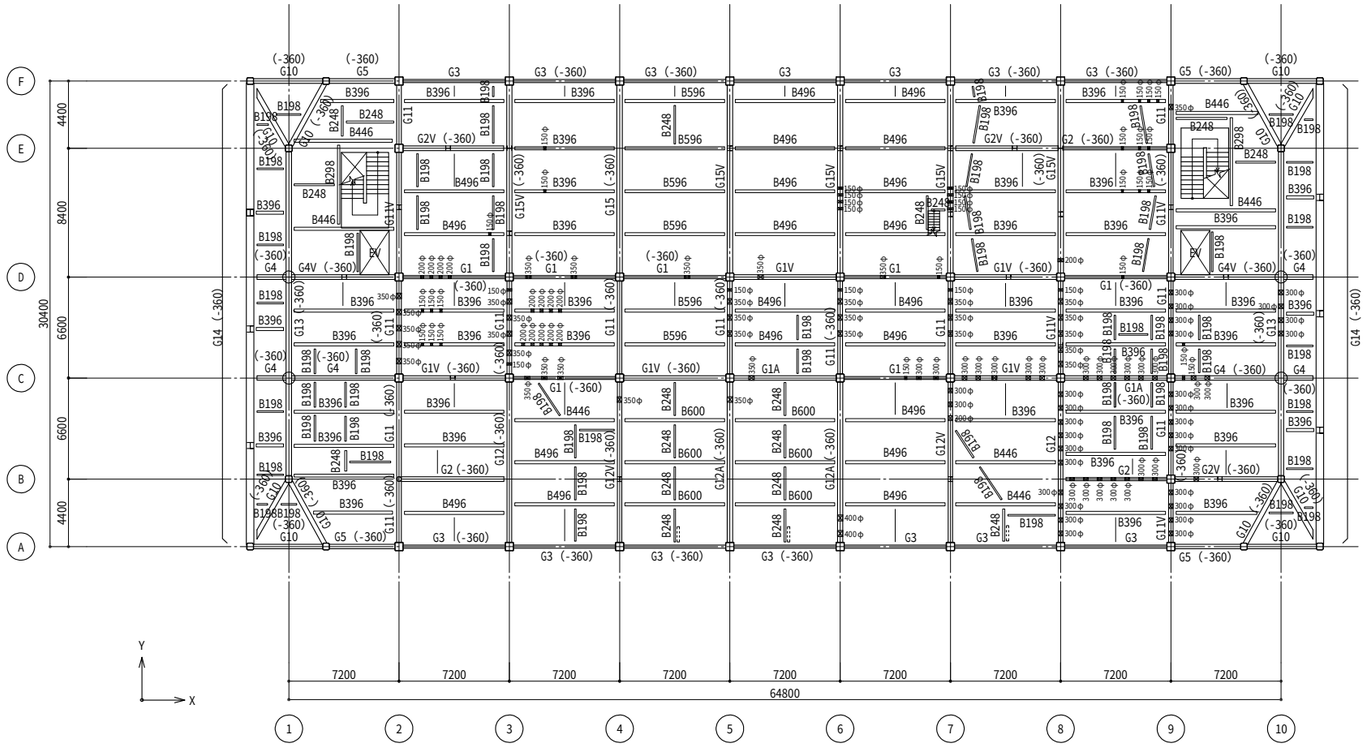
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SA
図面名 庁舎棟　スリーブ伏図 (1)		縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 201
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



R階伏図　1/200

梁符号	スリーブ径	数量
G1	150φ	2
	300φ	1
	400φ	1
G1V	150φ	2
	300φ	1
G10	150φ	3
G11	300φ	11
	400φ	1
G12	150φ	2
	350φ	4
	400φ	2
G13	150φ	4
	300φ	2
G15	400φ	5

梁符号	スリーブ径	数量
B396	300φ	2
B446	150φ	2



3階伏図　1/200

梁符号	スリーブ径	数量
G1	150φ	3
	200φ	4
	300φ	2
	350φ	7
G1A	300φ	6
	350φ	1
G1V	300φ	5
	350φ	1
G2	150φ	3
	300φ	7
G2V	300φ	1
G4	150φ	1
	300φ	2

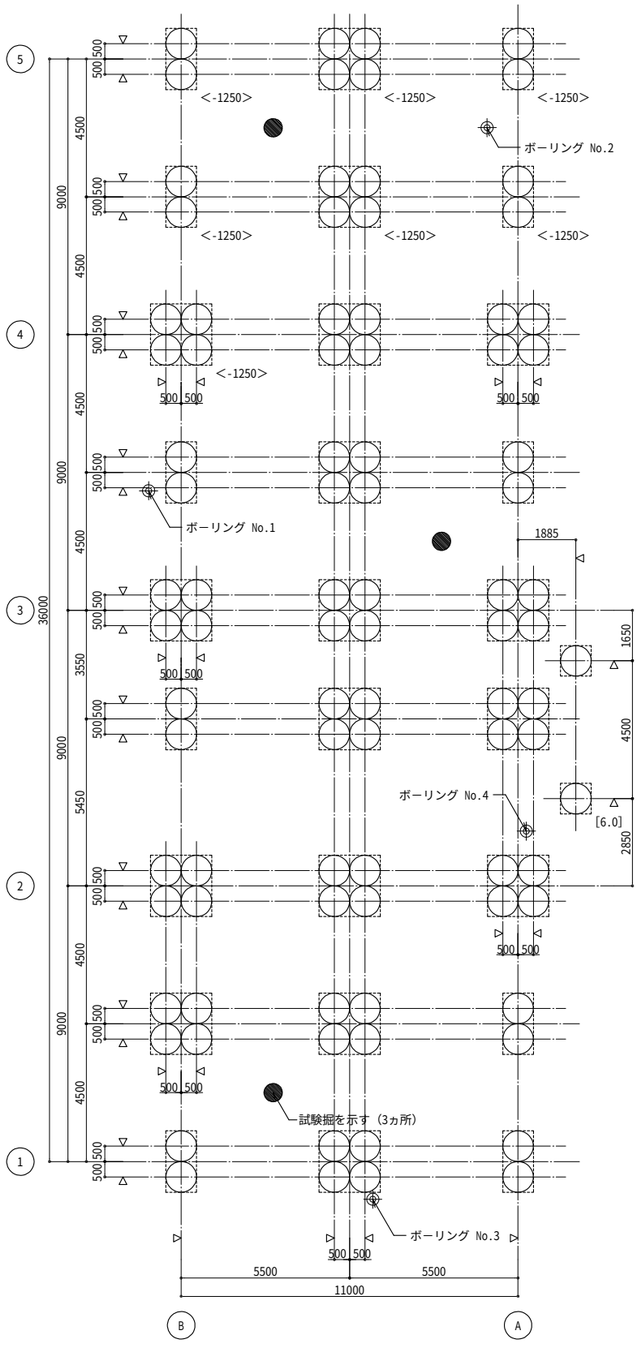
梁符号	スリーブ径	数量
G11	150φ	5
	300φ	9
	350φ	19
G11V	150φ	1
	300φ	9
G12	300φ	13
G12A	350φ	1
	400φ	2
G13	300φ	4
G15V	150φ	8
	200φ	1

梁符号	スリーブ径	数量
B396	150φ	16
	200φ	9
B496	150φ	1

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SA
図面名 庁舎棟　スリーブ伏図 (2)	縮尺 A1 1:200 A3 1:400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3

番号 202



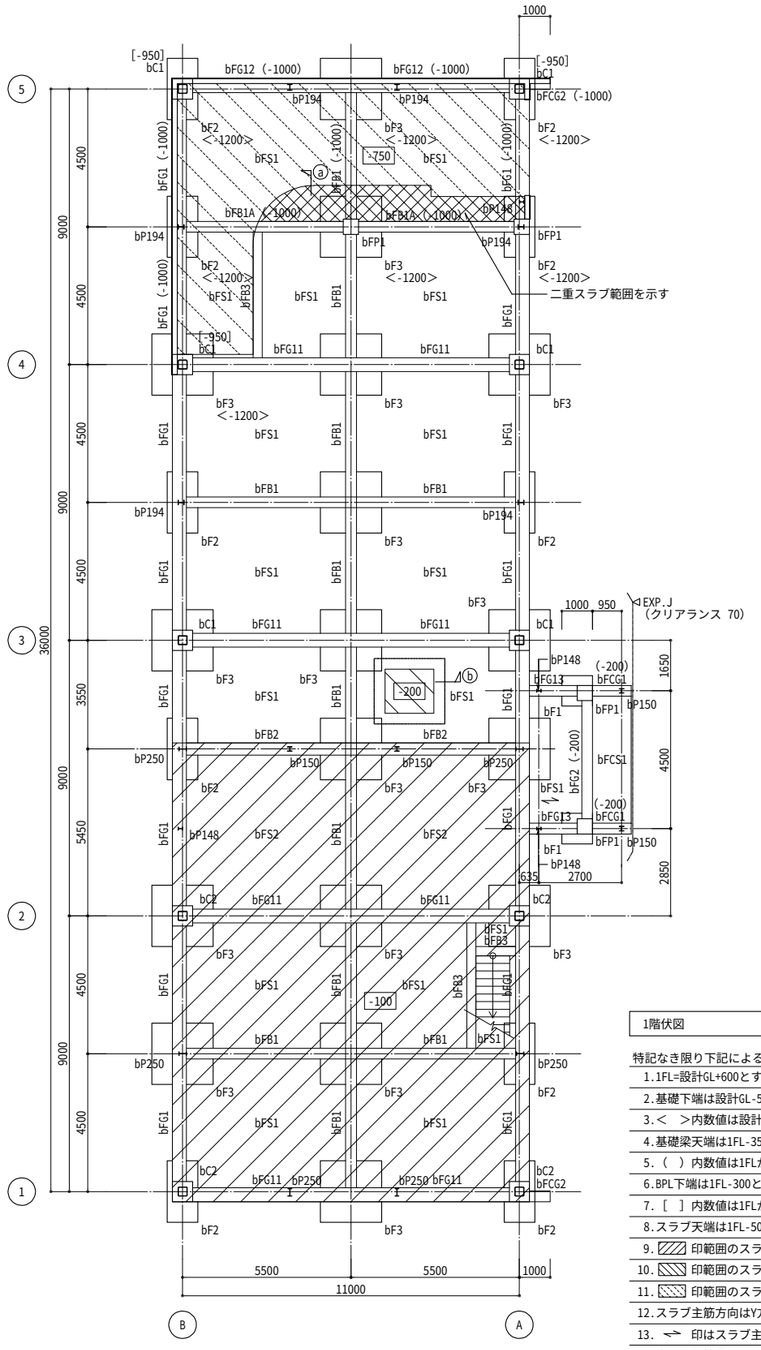
地盤改良伏図　1/100

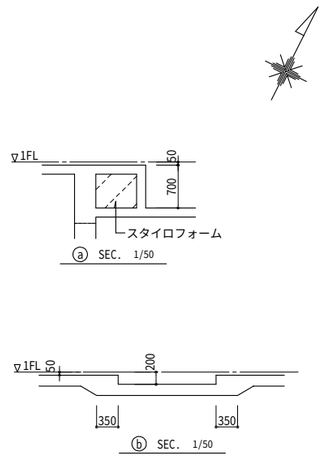
特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+600とする。
2. ◁ 印はコラム芯示す。
3. 地盤改良体天端は設計GL-600とする。
4. ＜　＞内数値は設計GLからの地盤改良天端を示す。
5. 支持層は風化頁岩とする。
6. 施工に先立ち試験掘を行うこと。
   その際、必ず土質サンプルを採取すること。
   （採取が困難な場合は無水掘とする。）
7. 改良コラム先端深さは先行コラムにて基準トルク値を決定し、基準トルク値程度となる深さを標準とする。

地盤改良仕様　工法：ソイルセメントコラム工法

設計基準強度　Fc=800kN/m²			
コラム径	地盤改良天端	地盤改良想定先端深さ	本数
1000φ	設計GL-0.6～-1.25m	設計GL-4.0m	90





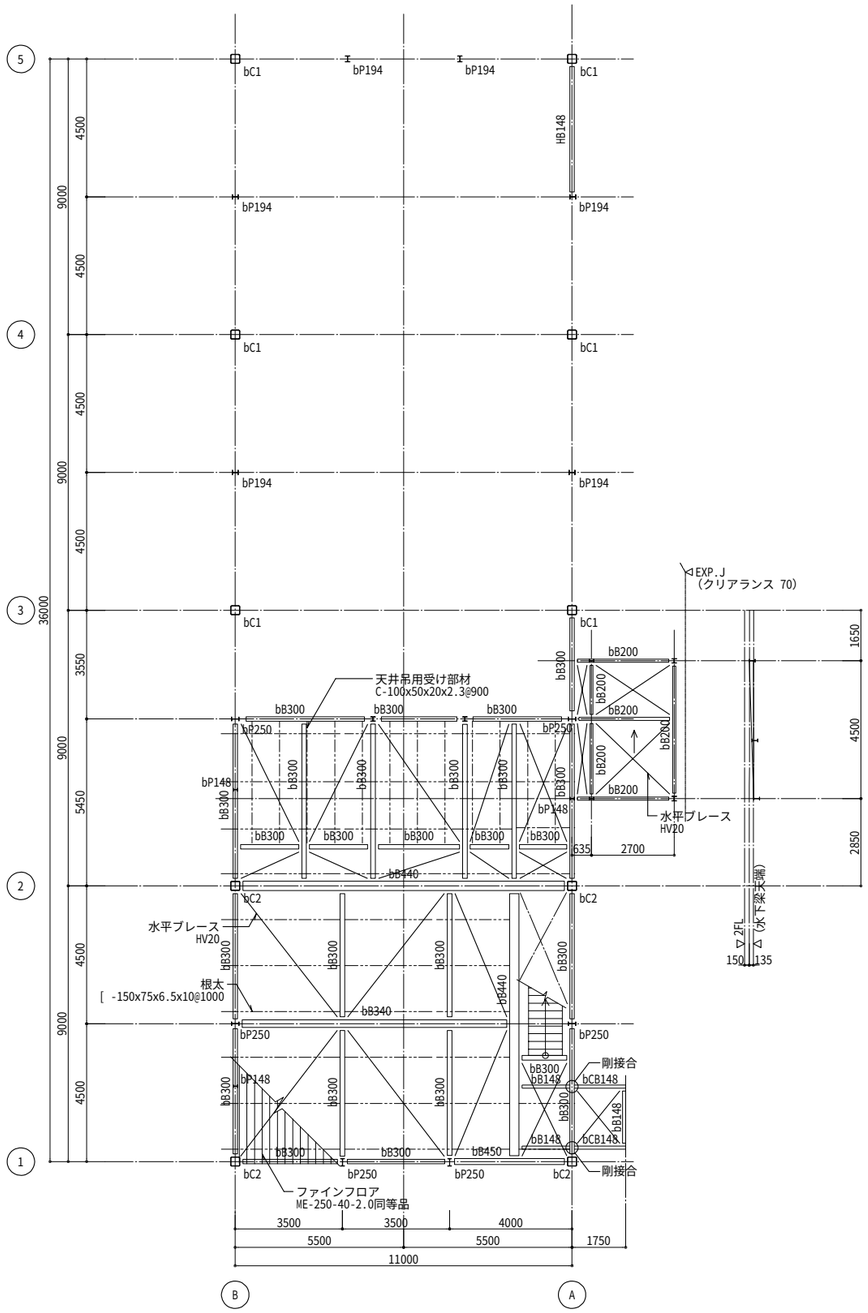
1階伏図　1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+600とする。
2. 基礎下端は設計GL-550とする。
3. ＜　＞内数値は設計GLからの基礎下端を示す。
4. 基礎梁天端は1FL-350とする。
5. （　）内数値は1FLからの基礎梁天端を示す。
6. BPL下端は1FL-300とする。
7. ［　］内数値は1FLからのBPL下端を示す。
8. スラブ天端は1FL-50とし、上端増打50㎜（仕上天1FL±0）とする。
9. ▨ 印範囲のスラブ天端は1FL-100を示す。
10. ▧ 印範囲のスラブ天端は1FL-200を示す。
11. ▩ 印範囲のスラブ天端は1FL-750とし、上端増打50㎜（仕上天1FL-700）とする。
12. スラブ主筋方向はY方向（　）とする。
13. ⌒ 印はスラブ主筋方向を示す。
14. 立上り壁符号はbW18とする。

株式会社 極東総合計画

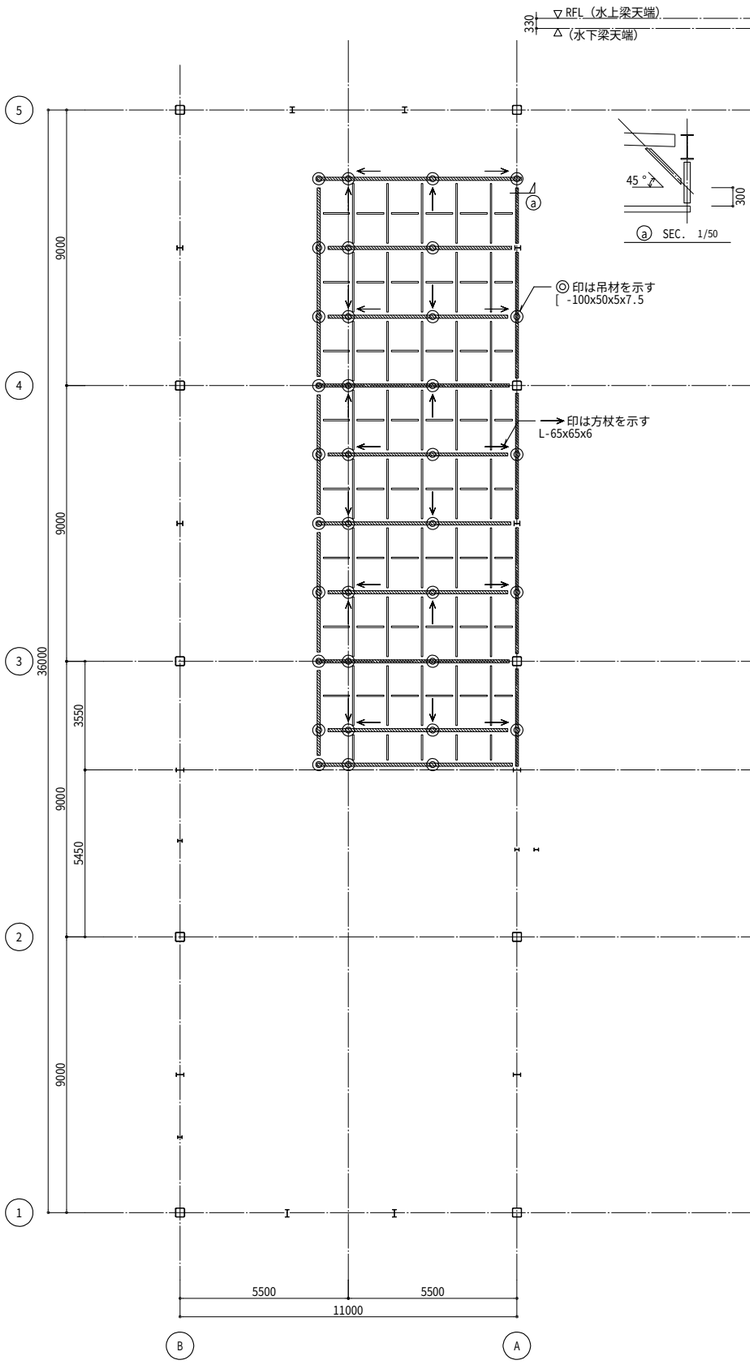
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館　地盤改良・1階伏図		縮尺 A1 1:100 A3 1:200	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 001
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



2階伏図　1/100

特記なき限り下記による

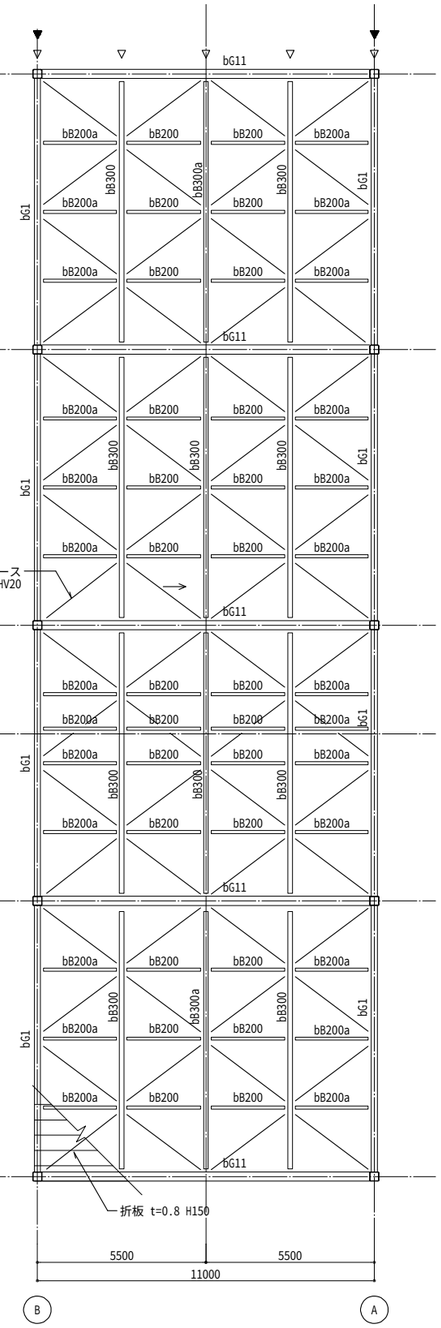
1. 鉄骨梁天端は2FL-40とする。
2. ファインフロア天端は2FL±0とする。
3. （ ）内は2FLからの鉄骨梁天端を示す。



すのこ伏図　1/100

特記なき限り下記による

1. 鉄骨梁下端は1FL+4000とする。
2. ▭ 印は2C-100x50x20x2.3（背合せ）
   ═ 印はC-100x50x20x2.3



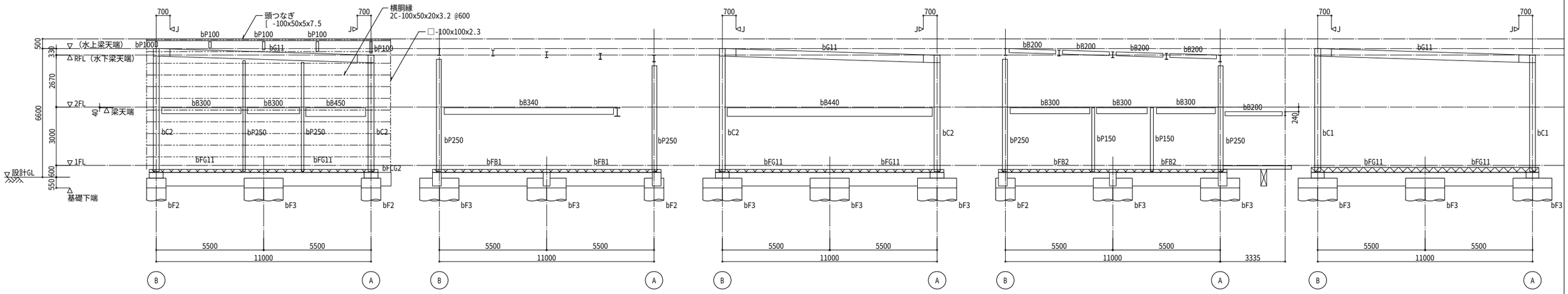
R階伏図　1/100

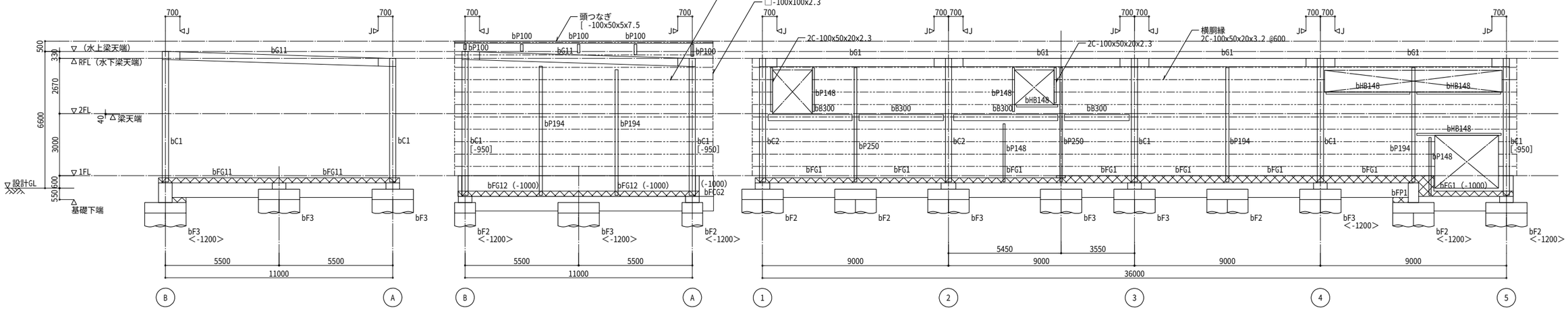
特記なき限り下記による

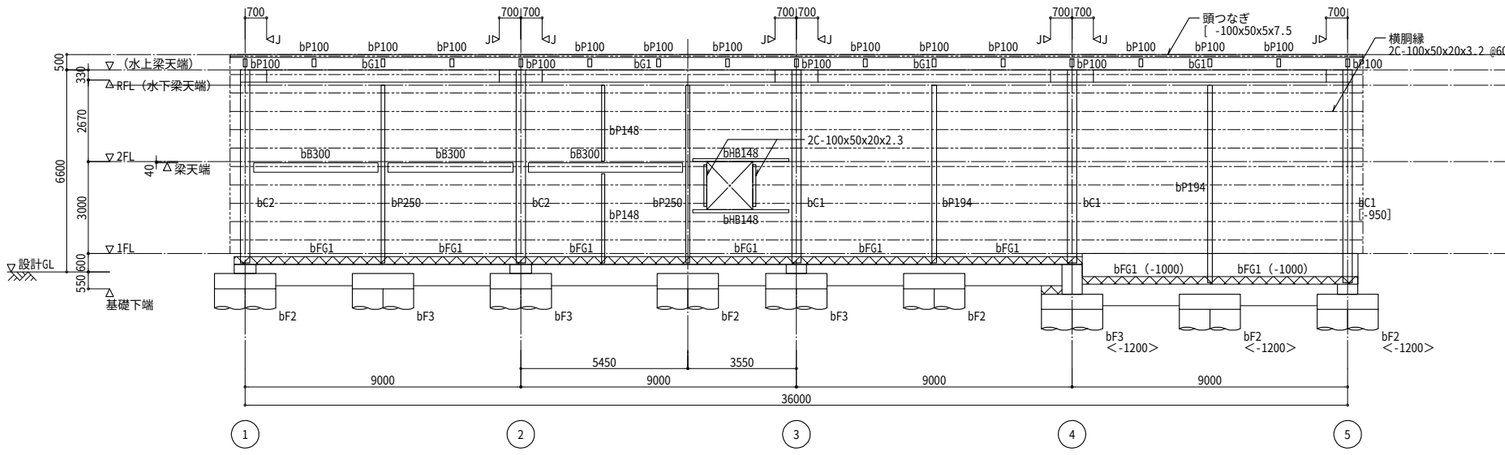
1. 梁天端は水勾配とする。
2. ←― 印は水勾配を示す。
3. 大梁継手位置は柱芯（取付く部材芯）より700とする。
4. ◁ 印はタイトフレーム設置位置を示し、鉄骨小梁天端は鉄骨大梁天端+50とする。
   ◀ 印は折板受けC-100x50x20x3.2の設置位置を示す。

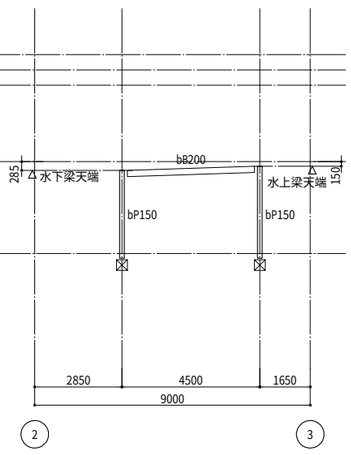
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館 2階・すのこ・R階伏図		縮尺 A1 1:100 A3 1:200	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当	番号 002
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	









特記なき限り下記による

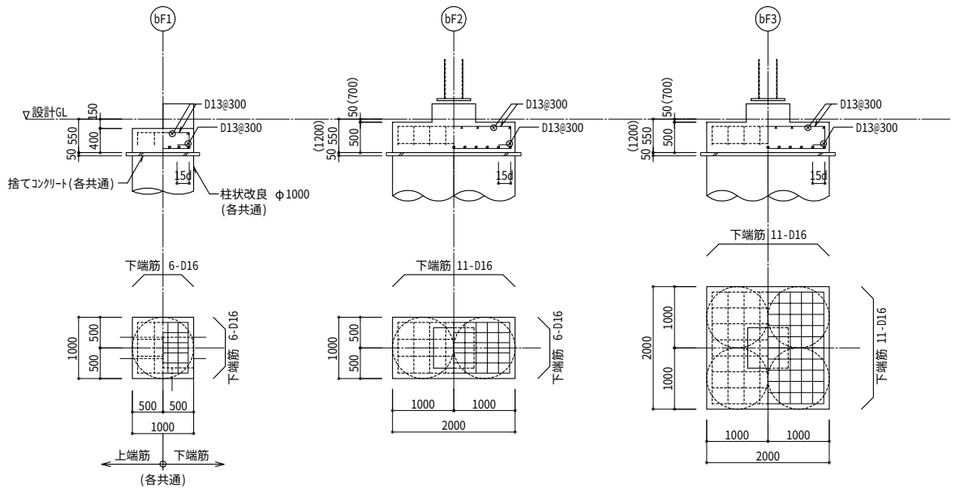
1. 1FL=設計GL+600とする。
2. 基礎下端は設計GL-550とする。
3. < >内数値は設計GLからの基礎下端を示す。
4. B.PL下端は1FL-300とする。
5. [ ] 内数値は1FLからのBPL下端を示す。
6. 基礎梁天端は1FL-350とする。
7. ( ) 内数値は1FLからの基礎梁天端を示す。
8. ⊦J 印はJoint位置を示す。
9. ▨ 印は増打を示す。
10. 立上り壁符号はbW18とする。

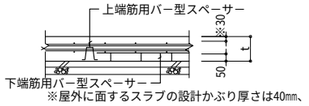
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館 軸組図		縮尺 A1 1:100 A3 1:200	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 003
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	

基礎リスト　1/50

特記なき限り　・（ ）内はスラブ天1FL-750エリアを示す。



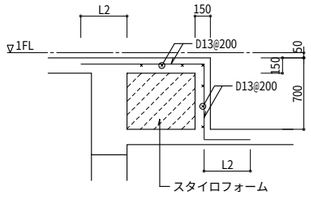


耐圧版リスト

特記なき限り　・地業　捨てコンｔ=50、砕石ｔ=60とする。

符　号	版　厚	位　置	短辺方向		長辺方向		備　考
			端　部	中　央	端　部	中　央	
bFS1	180	上端筋	D13@150		D13@200		
		下端筋	D13@150		D13@200		
bFS2	220	上端筋	D13@150		D13@150		
		下端筋	D13@150		D13@150		
bFCS1	180	上端筋	D13@200		D10@200		
		下端筋	D10@200		D10@200		

二重スラブ部配筋図　1/30



基礎梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⊢⊤ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295規格品、D22：SD345規格品とする。
2. （ ）内はスラブ天1FL-750エリアを示す。

符　号	bFG1	bFG2	bFG11			bFG12	bFG13	bFCG1	bFCG2
位　置	全断面	全断面	A・B 端	中　央	A+5000 端	全断面	全断面	全断面	全断面
断　面									
上端筋	4-D22	3-D22	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	3-D22	3-D19	2-D22
下端筋	4-D22	3-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D19	2-D22
スターラップ	□ -D13@200	□ -D13@200	◫ -D13@200			□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@150	□ -D13@200
腹　筋	2-D13	2-D13	2-D13			2-D13	2-D13	-	2-D13
備　考									

基礎小梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⊢⊤ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295規格品、D22：SD345規格品とする。

符　号	bFB1（bFB1A）			bFB2			bFB3
位　置	終　端	中　央	連続端	A・B 端	中　央	A+5500 端	全断面
断　面							
上端筋	4-D22	4-D22	6-D22	5-D22	5-D22	7-D22	3-D22
下端筋	4-D22	6-D22	4-D22	5-D22	7-D22	5-D22	3-D22
スターラップ	□ -D10@200（□ -D10@150）			□ -D10@150			□ -D10@200
腹　筋	2-D13			2-D13			2-D13
備　考	（ ）内はbFB1Aを示す						

礎柱リスト　1/50

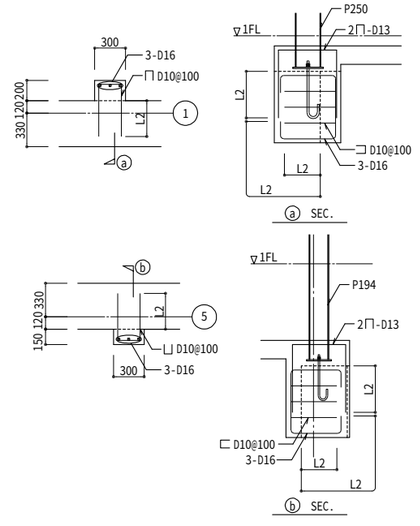
符　号	bFP1
断　面	
主 筋	8-D19
HOOP	□ -D10@100
備　考	頂部キャップ筋　⊓-D13@200　両方向

壁リスト　1/30

特記外. 1.断面は水平断面とする。

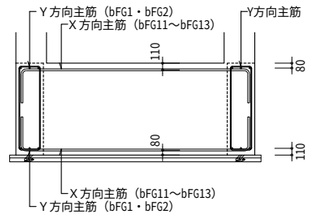
符　号		bW18	
位　置		全断面	
断　面			
壁　厚		180	
縦　筋		D10@200（ダブル）	
横　筋		D10@200（ダブル）	
幅止め		D10@1000	
開　口 補強筋	縦　筋	-	
	横　筋	-	
	斜　筋	-	

間柱受け基礎梁側面増打要領　1/30



基礎梁主筋の上下関係

寸法は主筋芯位置を示す

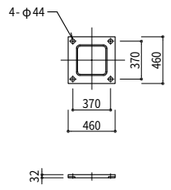
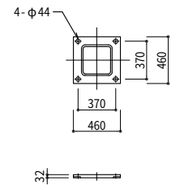
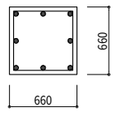
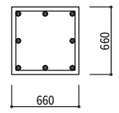


株式会社 極端総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館　基礎・基礎梁リスト		縮尺 A1 1:50 A3 1:100	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道典	担当	番号 004
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

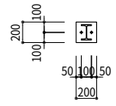
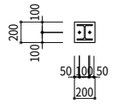
鉄骨柱リスト　1/30

特記なき限り
1．使用鋼材はBCR295規格品とする。
2．通しダイアフラム：集合する梁フランジ最大厚の2サイズ（6mm）アップ以上かつ
　　接合する柱材の1サイズ（3mm）アップ以上でSN490Cとする。
3．内ダイアフラム　：集合する梁フランジ最大厚の1サイズ（3mm）アップ以上でSN490Cとする。

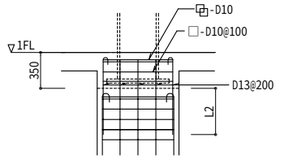
符 号	bC1	bC2
2 階	□-300x300x12	□-300x300x16
1 階	□-300x300x12	□-300x300x16
柱 脚		
B.PL	ハイベースNEO　EB300-4-30	ハイベースNEO　EB300-4-30
A.BOLT	4-M30	4-M30
備 考	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50
柱 型		
主 筋	8-D19	8-D19
HOOP	□-D13@150	□-D13@150
備 考		

鉄骨間柱リスト　1/30

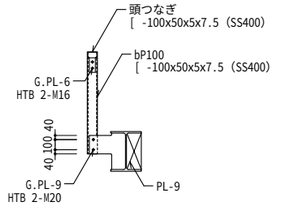
特記なき限り
1．使用鋼材はSS400規格品とする。

符 号	bP148	bP150
断 面	H-148x100x6x9	H-150x150x7x10
接合部	G.PL-9　HTB 2-M16	G.PL-9　HTB 2-M20
柱 脚		
B.PL	B.PL-12x200x200	B.PL-12x200x200
A.BOLT	2-M16（L=320） フック付ダブルナット締め	2-M20（L=400） フック付ダブルナット締め
備 考	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50
符 号	bP194	bP250
断 面	H-194x150x6x9	H-250x125x6x9
接合部	G.PL-9　HTB 2-M20	G.PL-9　HTB 2-M20
柱 脚		
B.PL	B.PL-12x200x245	B.PL-12x200x300
A.BOLT	2-M16（L=320） フック付ダブルナット締め	2-M20（L=400） フック付ダブルナット締め
備 考	無収縮モルタルt=50	無収縮モルタルt=50

露出柱脚保護コンクリート要領図　1/30



bP100要領図　1/30



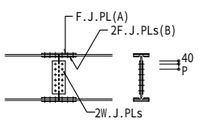
鉄骨大梁リスト

特記なき限り
1．使用鋼材はSN400B規格品とする。

階 ＼ 符 号	bG1		bG11	
R 階	全断面	H -400x200x 8x13	全断面	H -390x300x10x16

大梁継手表

特記なき限り　使用鋼材はSN400B規格品とする。
使用H.T.BはS10T認定品とする。
下表のF.H.T.Bの本数は、JOINTする片側の梁の１フランジに必要な本数とする。
下表のW.H.T.Bの本数は、JOINTする片側の梁のウェブに必要な本数とする。
継手はSCSS-H97に準拠する。

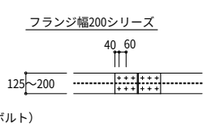


高力ボルトの諸規定は、下表による

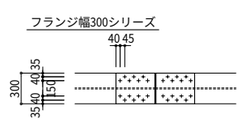
種別		ピッチ	エッジ	孔径
F8T	M22	60	40	23.5Φ
	M20	60	40	21.5Φ
	M16	60	40	17.5Φ

（JSS Ⅱ 09 規格品・トルシア形特殊高力ボルト）

フランジ幅200シリーズ



フランジ幅300シリーズ



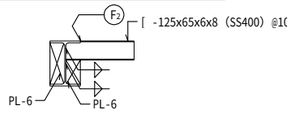
部 材	フランジ			ウェブ			備 考
	F.J.PL(A)	2F.J.PLs(B)	F.HTB	2W.J.PLs	P	W.HTB	
H -400x200x 8x13	9x200x410	9x 80x410	6-M20	9x260x170	60	4x1-M20	
H -390x300x10x16	12x300x440	12x110x440	8-M20	9x260x170	60	4x1-M20	

鉄骨部材リスト

特記なき限り　1．使用鋼材は SS400規格品とする。
2．使用H.T.BはS10T認定品とする。

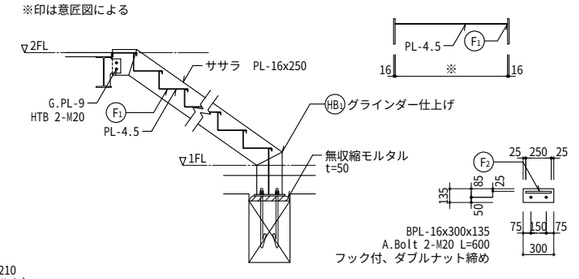
	符 号	部 材	仕 口	備 考
小 梁	bB148,bCB148	H-148x100x 6x9	G.PL- 9　HTB 2-M16	
	bB200	H-200x100x5.5x8	G.PL- 6　HTB 2-M20	
	bB200a	H-200x100x5.5x8	G.PL- 9　HTB 2x2-M20	
	bB300	H-300x150x6.5x 9	G.PL- 9　HTB 3-M20	
	bB300a	H-300x150x6.5x 9	G.PL- 9　HTB 3x2-M20	
	bB340	H-340x250x 9x14	G.PL-12　HTB 3-M20	
	bB440	H-440x300x 11x18	G.PL-12　HTB 5-M22	
	bB450	H-446x199x 8x12	G.PL-12　HTB 5-M20	
耐風梁	bHB148	H-148x100x6x9（横使い）	G.PL- 9　HTB 2-M16	
水平ブレース	bHV20	1-M20（ターンバックル付）	G.PL- 9　HTB 1-M20	
根太		[-150x75x6.5x10 @1000	G.PL- 9　HTB 2-M16	
横胴縁		2C-100x50x20x3.2 @600	G.PL-4.5　2-M12（普通ボルト）	SSC400
すのこ		C-100x50x20x2.3	G.PL-4.5　2-M12（普通ボルト）	SSC400
		□-100x100x2.3	G.PL-6（両側）　2-M12（普通ボルト）	STKR400

2F跳ね出し部支持材要領図　1/20

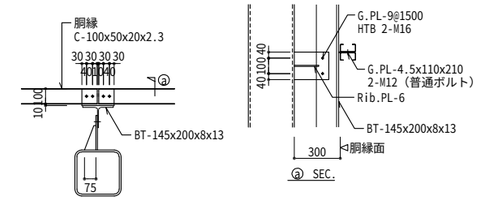


鉄骨階段詳細図　1/30

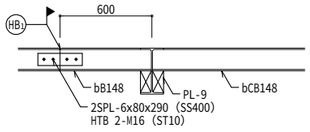
※印は意匠図による



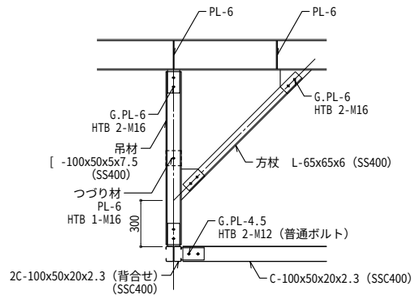
柱・胴縁取合要領図　1/20



bB148・bCB148剛接要領図　1/20

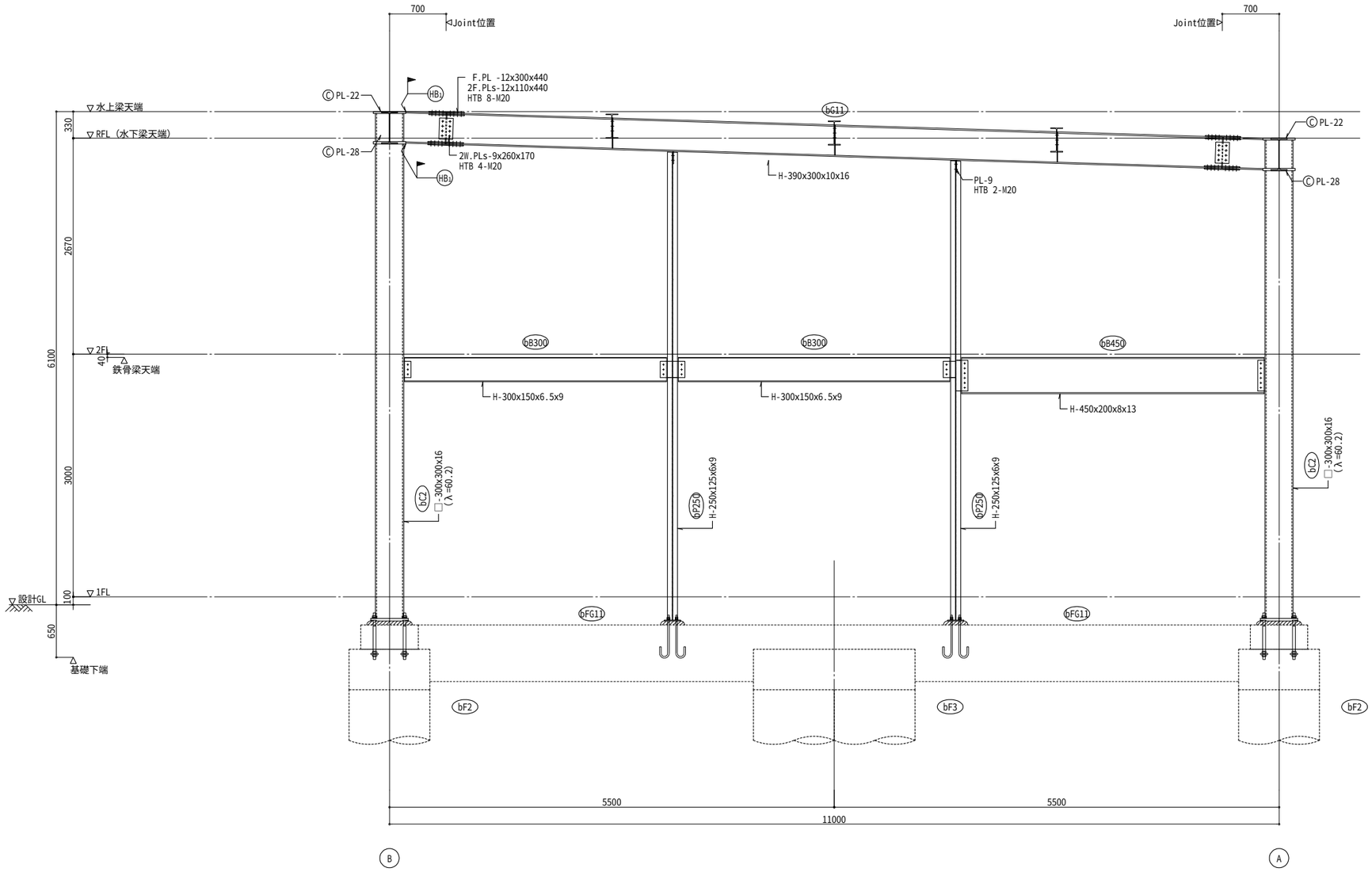


すのこ詳細図　1/20



株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館　鉄骨部材リスト		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　福原 正樹 構造設計者 一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 005
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



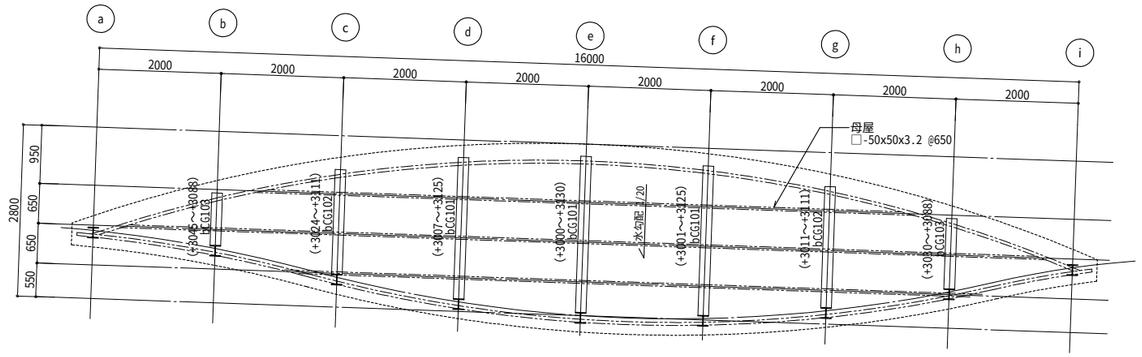
1通り架構詳細図	1/30

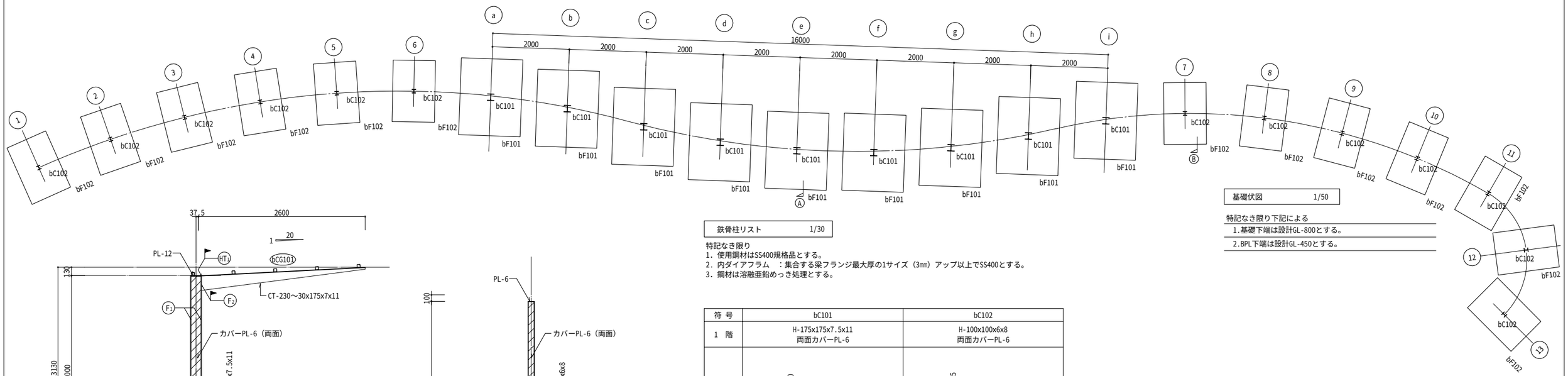
特記外. 1. 鋼材材質: 無印 ：SN400B
○ 印表示：SN490B
Ⓒ 印表示：SN490C

2. 通しダイアフラムは、集合する梁における最大フランジ厚の2サイズアップ(6mm)以上、
集合する柱における最大板厚の1サイズアップ(3mm)以上、且つ目違いが生じないこと。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館 1通り鉄骨架構詳細図		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道興	担当	番号 006
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	





屋根伏図　1/50

特記なき限り下記による
1.梁天端は水勾配とする。
2. ⟵ 印は水勾配を示す。
3.（ ）内は設計GLからの梁天端レベルを示す。
4.片持ち梁と柱の接合部は、現場溶接とする。

基礎伏図　1/50

特記なき限り下記による
1.基礎下端は設計GL-800とする。
2.BPL下端は設計GL-450とする。

Ⓐ 断面図　1/30

Ⓑ 断面図　1/30

鉄骨柱リスト　1/30

特記なき限り
1. 使用鋼材はSS400規格品とする。
2. 内ダイアフラム　：集合する梁フランジ最大厚の1サイズ（3㎜）アップ以上でSS400とする。
3. 鋼材は溶融亜鉛めっき処理とする。

符 号	bC101	bC102
1 階	H-175x175x7.5x11 両面カバーPL-6	H-100x100x6x8 両面カバーPL-6
柱 脚		
B.PL	B.PL-16x220x220	B.PL-16x160x150
A.BOLT	2-M20 L=400 フック付、ダブルナット締め	2-M16 L=320 フック付、ダブルナット締め
備 考	無収縮モルタル t=50	無収縮モルタル t=50
根巻き部		
主 筋	16-D16	12-D16
HOOP	□-D13@100	□-D10@100
備 考	頂部HOOP ⧉ -D13	頂部HOOP ⧉ -D10

鉄骨部材リスト

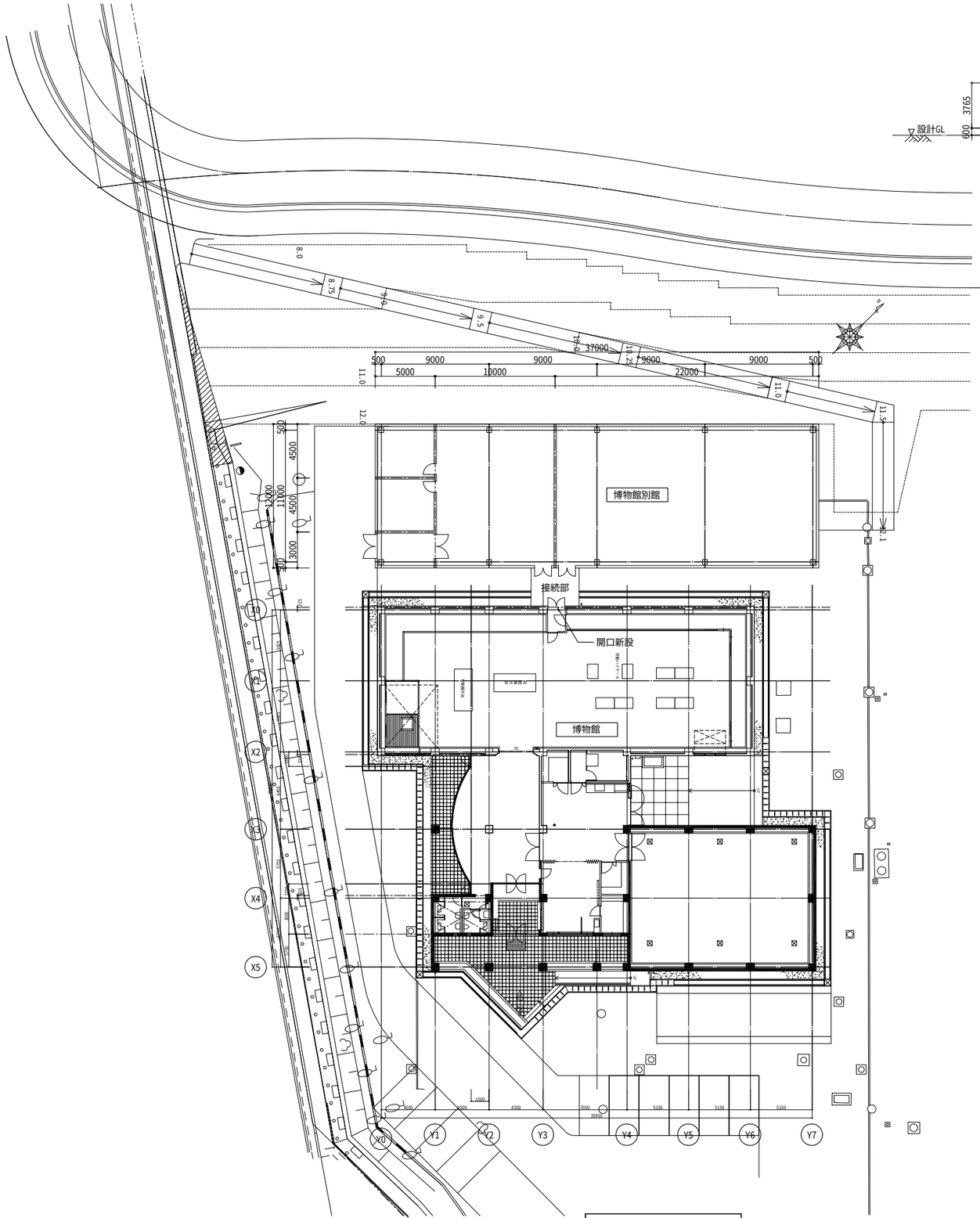
特記なき限り　1. 使用鋼材は SS400規格品とする。
2. 鋼材は溶融亜鉛めっき処理とする。

	符 号	部 材	仕 口	備 考
片持ち梁	bCG101	CT-230～30x175x7x11	溶接接合	
	bCG102	CT-180～30x175x7x11	溶接接合	
	bCG103	CT- 90～30x175x7x11	溶接接合	
母屋		□-50x50x3.2 @650	G.PL-4.5　2-M12（中ボルト）	STKR400

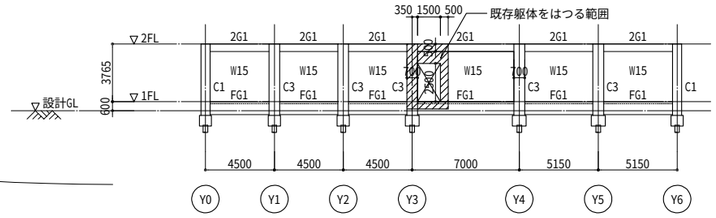
構造仕様	
コンクリート	Fc 21 スランプ 基礎15㎝ 地上18㎝ セメントN
鉄 筋	SD295　D13～D16
長期設計地耐力	30 kN/m²

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館　目隠し壁詳細図		縮尺 A1 1:50 A3 1:100	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当	番号 007
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



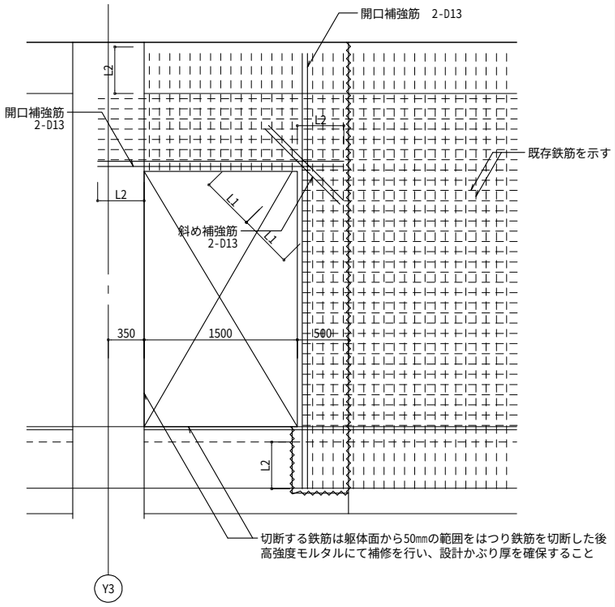
1階RC壁改修キープラン　1/200

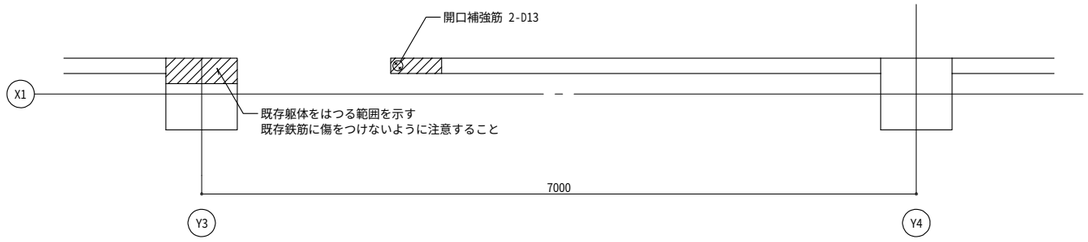


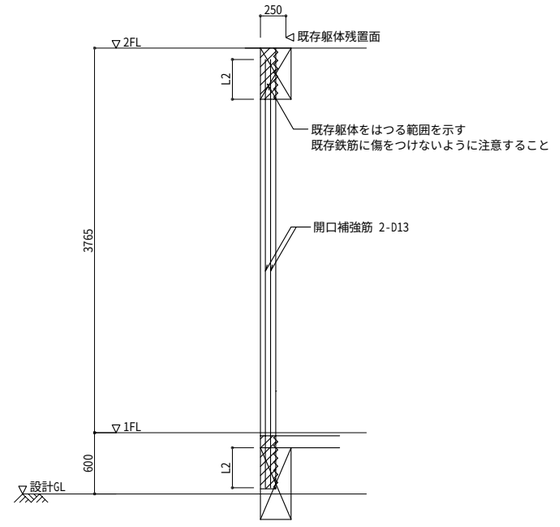
X0通り軸組図　1/200

既存壁リスト

符　号	W15
水平断面	150
縦　筋	D10@200（ダブルチドリ）
横　筋	D10@200（ダブルチドリ）
備　考	



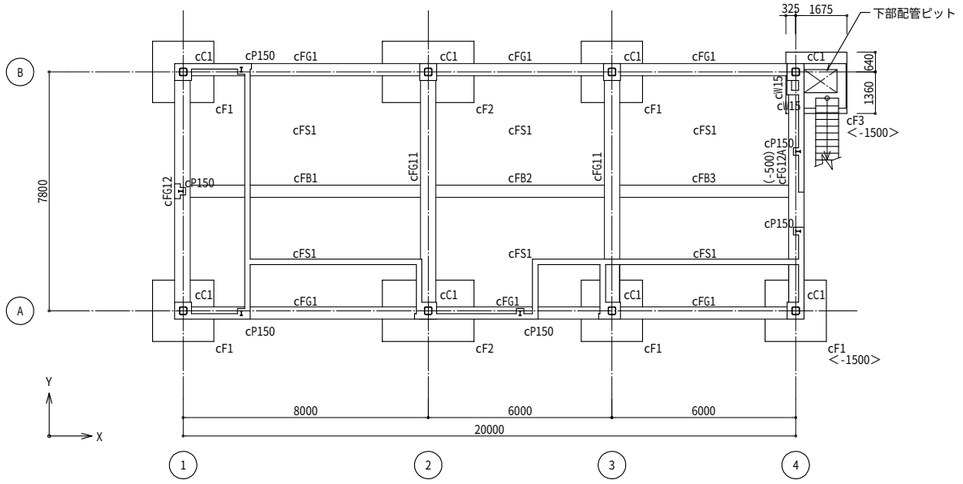




構造仕様	
コンクリート	Fc24、スランプ15、セメントN
鉄　筋	D10～D16：SD295

株式会社 佐藤総合計画

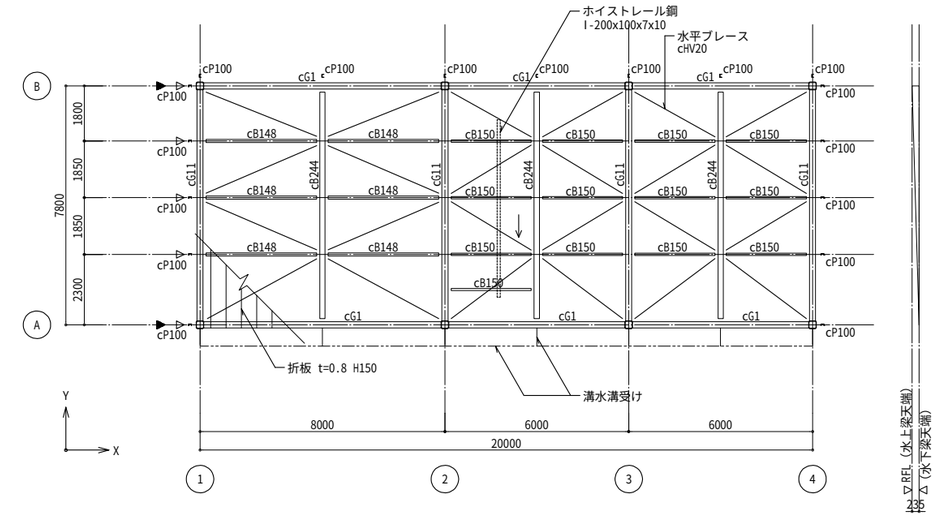
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SB
図面名 博物館別館　既存RC壁改修図		縮尺 A1 1:30, 200 A3 1:80, 400	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道眞	担当	番号 008
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	



1階伏図　1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 基礎下端は設計GL-1300とする。
3. ＜　＞内は設計GLからの基礎下端レベルを示す。
4. 基礎梁天端は1FL-300とする。
5. （　）内は1FLからの梁天端レベルを示す。
6. BPL下端は1FL-250とする。
7. スラブ天端は1FL-10とする。
8. スラブ主筋方向はY方向（ ↕ ）とする。
9. 立上り壁符号はcW18とする。

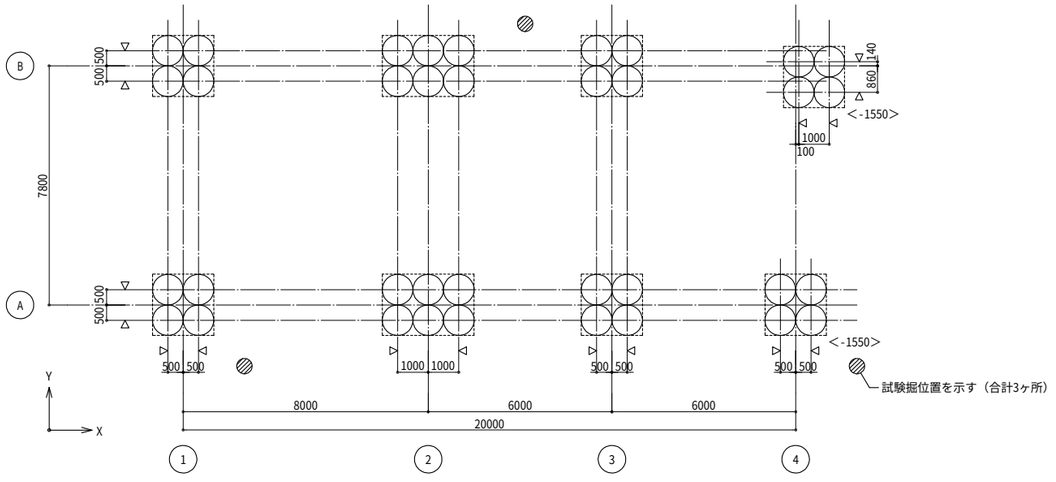


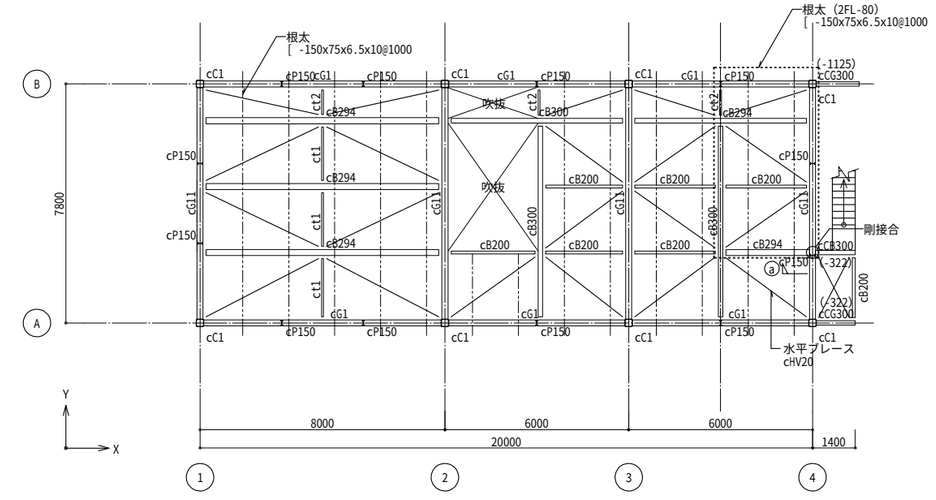
R階伏図　1/100

特記なき限り下記による

1. 梁天端は水勾配とする。
2. ←― 印は水勾配を示す。
3. 大梁継手位置は柱芯（取付く部材芯）より700とする。
4. ◁ 印はタイトフレーム設置位置を示し、鉄骨小梁天端は鉄骨大梁天端+50とする。
◀ 印は折板受けC-100x50x20x3.2の設置位置を示す。

ボーリング No.6





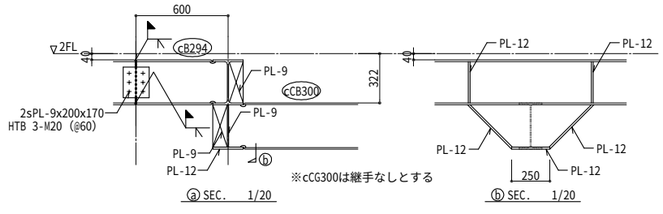
地盤改良仕様　工法：ソイルセメントコラム工法

設計基準強度　Fc=800kN/m²			
コラム径	地盤改良天端	地盤改良想定先端深さ	本数
1000φ	設計GL-1.35～1.55m	設計GL-8.0m	36

地盤改良伏図　1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. ◁ 印はコラム芯示す。
3. 地盤改良天端は設計GL-1350とする。
4. ＜　＞内数値は設計GLからの地盤改良天端を示す。
5. 支持層は頁岩とする。
6. 施工に先立ち試験掘を行うこと。
その際、必ず土質サンプルを採取すること。
（採取が困難な場合は無水掘とする。）
7. 改良コラム先端深さは先行コラムにて基準トルク値を決定し、基準トルク値程度となる深さを標準とする。
8. ⊕ 印は、ボーリング位置を示す。

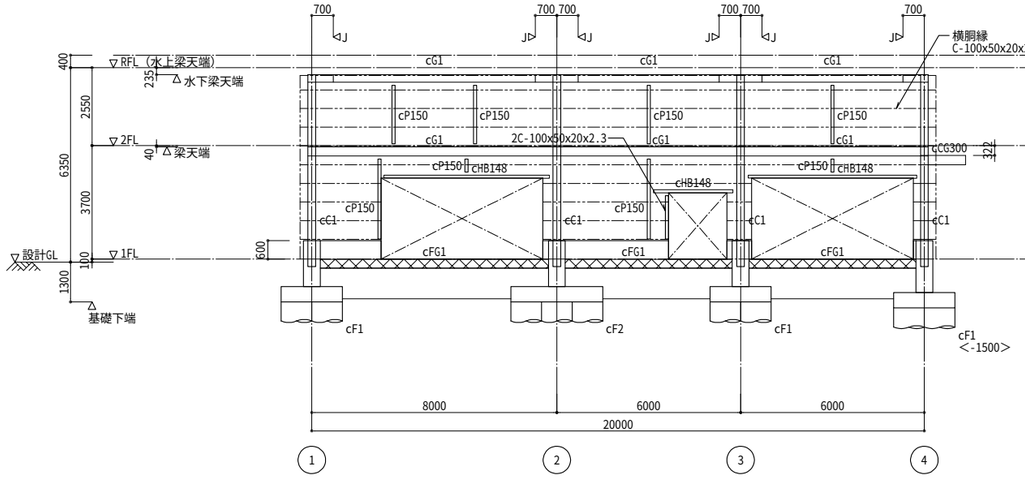


2階伏図　1/100

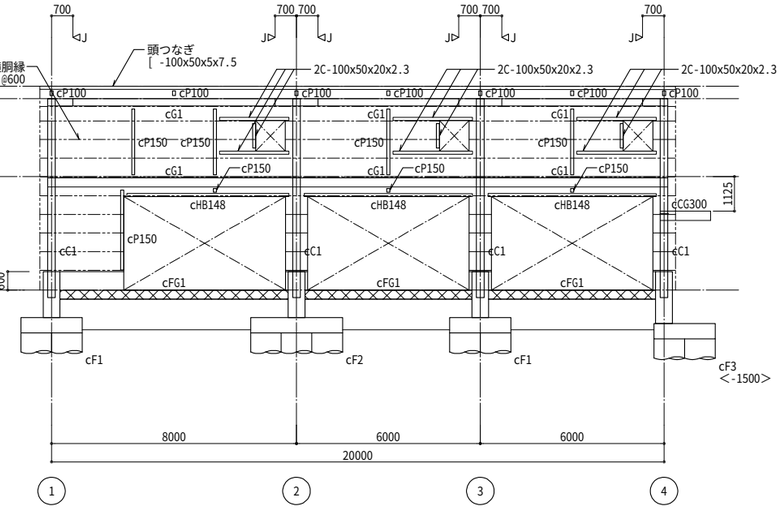
特記なき限り下記による

1. 鉄骨梁天端は2FL-40とする。
2. （　）内は2FLからの梁天端レベルを示す。
3. 大梁はノンブラケット工法とする。

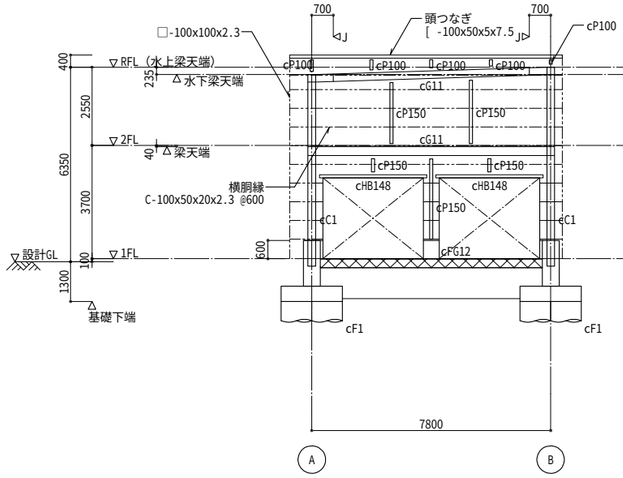
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SC
	図面名 車庫棟　伏図	縮尺 A1 1:100 A3 1:200	
	一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　福ケ迫 道興	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 道司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 001



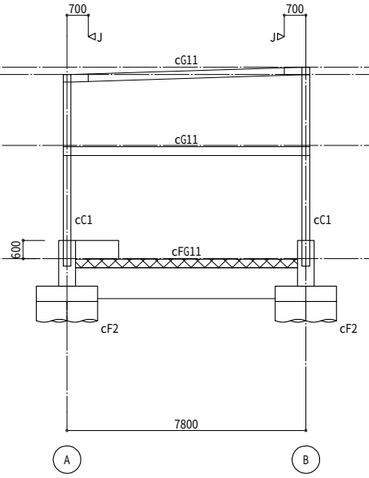
A通り軸組図　1/100



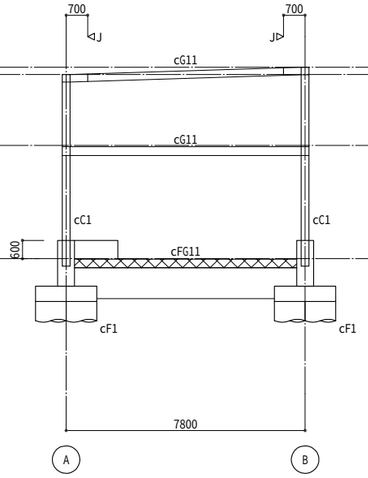
B通り軸組図　1/100



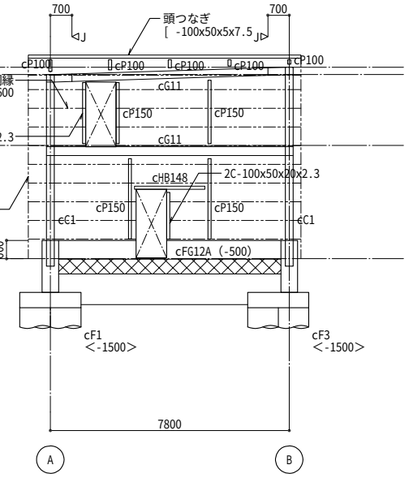
1通り軸組図　1/100



2通り軸組図　1/100



3通り軸組図　1/100



4通り軸組図　1/100

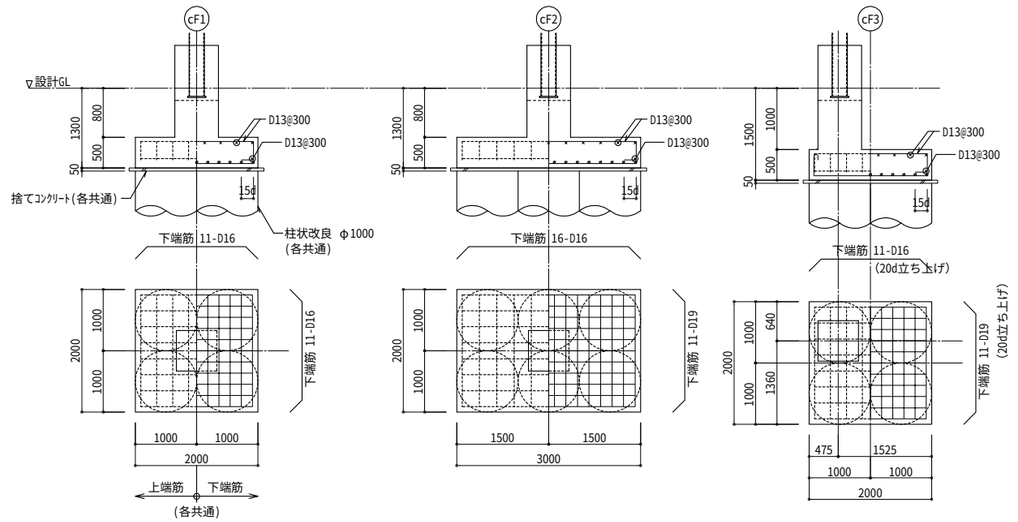
特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 基礎下端は設計GL-1300とする。
3. ＜　＞内は設計GLからの基礎下端レベルを示す。
4. B.PL下端は1FL-250とする。
5. 基礎梁天端は1FL-300とする。
6. （　）内は1FLからの梁天端レベルを示す。
7. ⊦◁J　印はJoint位置を示す。
8. ▨ 印は増打を示す。
9. 立上り壁はcW18とする。
10. ═, ▯ は開口補強材2C-100x50x20x2.3を示す。

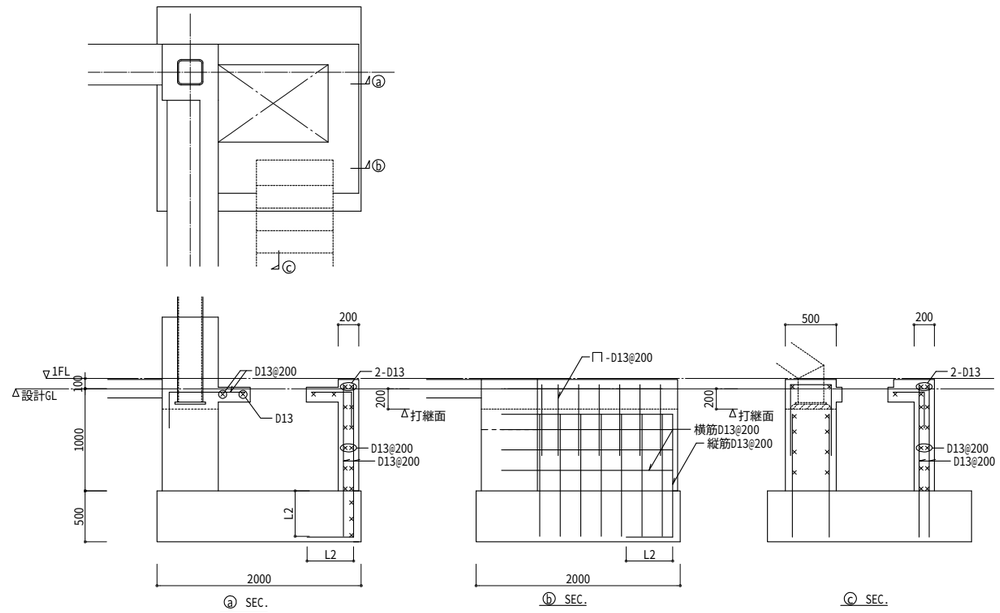
株式会社 極端総合計画

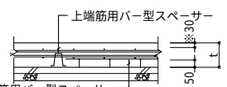
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SC
図面名 車庫棟　軸組図		縮尺 A1 1:100 A3 1:200	
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1-11146号 建設コンサルタント　登録番号　建01第843号	総括 統括　一級建築士　第336340号　篠原 正樹 構造設計者　一級建築士　第339064号　笹ケ迫 遥眞	担当	番号 002
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号　檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号　脇田 隆雅	作成日 2022.3	

基礎リスト　1/50



配管ピット配筋図　1/30



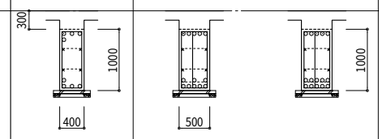


スラブリスト　特記なき限り　・地業　捨てコンｔ=50、砕石ｔ=60とする。

符　号	版　厚	位　置	短辺方向		長辺方向		備　考
			端　部	中　央	端　部	中　央	
cFS1	180	上端筋	D13@150		D13@200		
		下端筋	D13@150		D13@200		

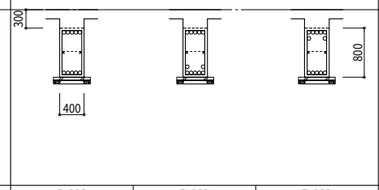
基礎梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⌐¬ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295規格品、D22：SD345規格品とする。

符　号	cFG1	cFG11		cFG12		cFG12A	
位　置	全断面	端　部	中　央	端　部	中　央	端　部	中　央
断　面							
上端筋	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25
下端筋	4-D25	8-D25	10-D25	5-D25	7-D25	5-D25	7-D25
スターラップ	□ -D13@200	◫ -D13@200		□ -D13@200		◫ -D13@100	
腹　筋	4-D13	4-D13		4-D13		8-D19（L2定着）	
備　考							

基礎小梁リスト　1/50

特記外. 1. 幅止め筋 ⌐¬ D10@1000以内とする。
2. 使用鉄筋は、D16以下：SD295規格品、D22：SD345規格品とする。

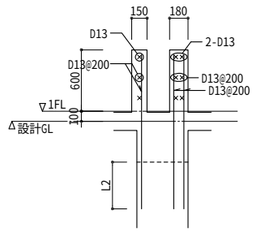
符　号	cFB1			cFB2			cFB3
位　置	1 端	中　央	2 端	2 端	中　央	3 端	全断面
断　面							
上端筋	5-D22	5-D22	7-D22	7-D22	5-D22	5-D22	5-D22
下端筋	5-D22	7-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22
スターラップ	□ -D10@150			□ -D10@150			□ -D10@150
腹　筋	2-D13			2-D13			2-D13
備　考							

壁リスト　1/30

特記外. 1.断面は水平断面とする。

符　号	cW18	
位　置	全断面	
断　面		
壁　厚	180	
縦　筋	D10@200（ダブル）	
横　筋	D10@200（ダブル）	
幅止め	D10@1000	
開口補強筋 縦　筋	-	
開口補強筋 横　筋	-	
開口補強筋 斜　筋	-	

立上り壁配筋図　1/30

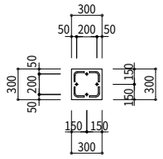
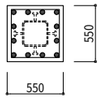


株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SC
図面名 車庫棟　基礎・基礎梁リスト		縮尺 A1 1:50 A3 1:100
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道真	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3
		番号 003

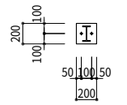
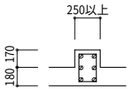
鉄骨柱リスト 1/30

特記なき限り
1．使用鋼材はBCR295規格品とする。
2．通しダイアフラム：集合する梁フランジ最大厚の2サイズ（6mm）アップ以上かつ
　　接合する柱材の1サイズ（3mm）アップ以上でSN490Cとする。
3．内ダイアフラム　：集合する梁フランジ最大厚の1サイズ（3mm）アップ以上でSN490Cとする。

符 号	cC1	
2 階	□-250x250x12	
1 階	□-250x250x12	
柱 脚		
B.PL	B.PL-16x300x300（SN490B）	
A.BOLT	4-M20（ABR400） L=400	
定着板	PL-12x60x60（SS400）	
備 考	無収縮モルタル t=50	
根巻き		
主 筋	12-D19	
HOOP	□-D13@100	
備 考	頂部HOOP ⊡-D13	

鉄骨間柱リスト 1/30

特記なき限り
1．使用鋼材はSS400規格品とする。

符 号	cP150
断 面	H-150x75x5x7
接合部	G.PL-9 HTB 2-M16
柱 脚	
B.PL	B.PL-12x200x200
A.BOLT	2-M16（L=320） フック付ダブルナット締め
備 考	無収縮モルタルt=50
根巻き	
主 筋	D16@200
HOOP	□-D10@150
備 考	主筋は基礎梁内にL2定着とする

鉄骨大梁リスト

特記なき限り　1．使用鋼材は SN400B規格品とする。

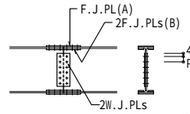
階＼符 号	cG1		cG11		cCG300	
R 階	全断面	H -244x175x 7x11	全断面	H -244x175x 7x11		
2 階	全断面	H -294x200x 8x12	全断面	H -294x200x 8x12	全断面	H -300x150x6.5x9

大梁継手表

使用鋼材　無印：SN400B規格品

ブラケットタイプ

・使用鋼材は、SN400B規格品とする。
・使用H.T.BはS10T認定品とする。外部鉄骨は溶融亜鉛メッキとし、
　H.T.BはF8Tメッキボルト認定品とする。
・下表のF.H.T.Bの本数は、JOINTする片側の梁の１フランジに必要な本数とする。
・下表のW.H.T.Bの本数は、JOINTする片側の梁のウェブに必要な本数とする。
・継手はSCSS-H97に準拠する。
・スプライスプレートの材質は母材材質に同等とする。

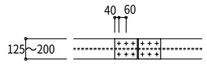


高力ボルトの諸規定は、下表による

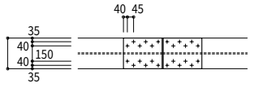
種別		ピッチ	エッジ	孔径
F10T	M22	60	40	23.5φ
	M20	60	40	21.5φ
	M16	60	40	17.5φ

（JSS Ⅱ 09 規格品・トルシア形特殊高力ボルト）

フランジ幅200シリーズ

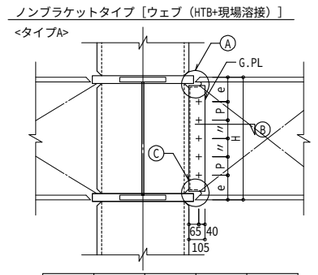


フランジ幅300シリーズ

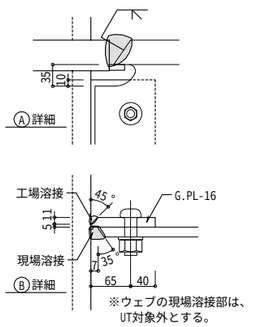


ノンブラケットタイプ

ノンブラケットタイプ［ウェブ（HTB+現場溶接）］

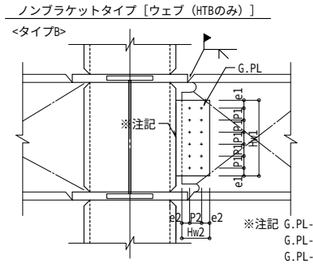


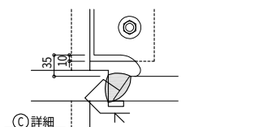
H	GPL	H.T.B.	P	e
244	9	2-M20	90	77
294	9	2-M20	120	87



※ウェブの現場溶接部は、
UT対象外とする。

ノンブラケットタイプ［ウェブ（HTBのみ）］





※ガセットの角部を
溶接で欠損しないこと。

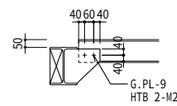
※注記 G.PL-16以下は隅肉溶接
G.PL-19は部分溶込み溶接
G.PL-22以上は完全溶込み突合せ溶接

・タイプAを標準とする。タイプBを採用する場合は継手耐力検討を行い、監理者の確認を得ること。

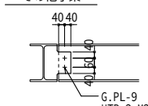
梁中央部主材	ブラケットタイプ						備 考
	フランジ			ウェブ			
	F.J.PL(A)	2F.J.PLs(B)	F.HTB	2W.J.PLs	P	W.HTB	
H -244x175x 7x11	9x175x290	9x 70x290	4-M20	9x140x170	60	2x1-M20	

鉄骨小梁接合部要領図 1/20

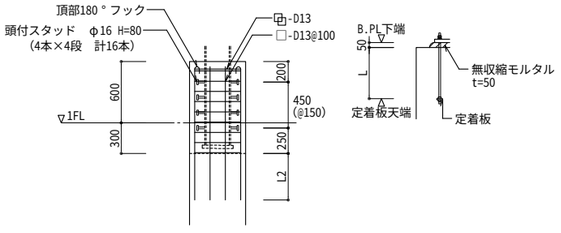
cB148・cB150



その他小梁

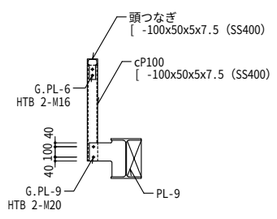


根巻き柱脚要領図 1/30

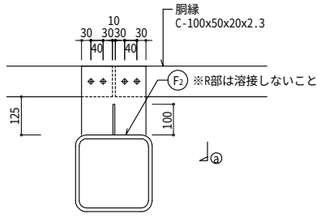


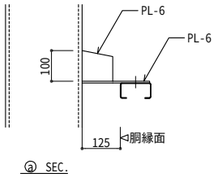
アンカーボルト詳細図 1/30

cP100要領図 1/30

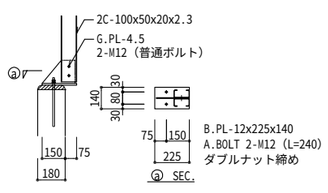


柱・胴縁取合要領図 1/10

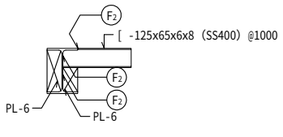




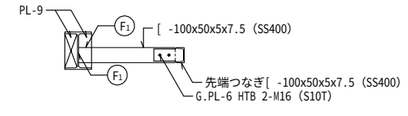
開口補強脚部要領 1/20



2F跳ね出し部支持材要領図 1/20



屋根溝水溝受け 1/20

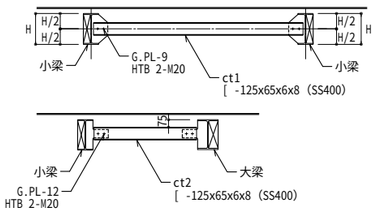


鉄骨部材リスト

特記なき限り　1．使用鋼材は SS400規格品とする。
　　2．使用H.T.BはS10T認定品とする。

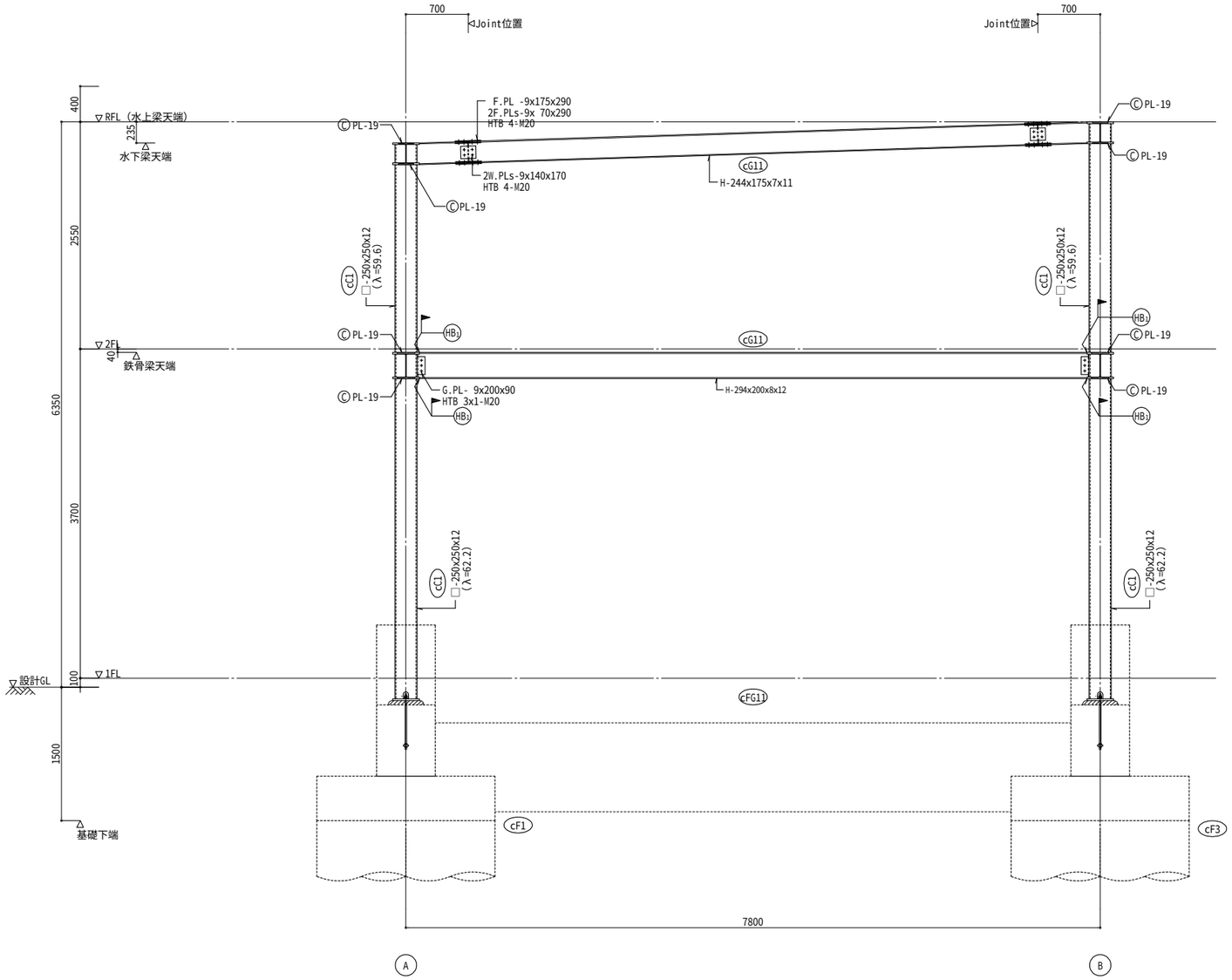
＼	符 号	部 材	仕 口	備 考
小 梁	cB150	H-150x 75x 5x 7	G.PL- 9 HTB 2-M20	
	cB148	H-148x100x 6x 9	G.PL- 9 HTB 2-M20	
	cB200	H-200x100x5.5x 8	G.PL- 9 HTB 2-M20	
	cB244	H-244x175x 7x11	G.PL- 9 HTB 2-M20	
	cB300	H-300x150x6.5x 9	G.PL- 9 HTB 3-M20	
	cB294	H-294x200x 8x12	G.PL- 9 HTB 3-M20	
開口補強材		2C-100x50x20x2.3	G.PL-4.5 2-M12（普通ボルト）	SSC400
水平ブレース	cHV20	1-M20（ターンバックル付）	G.PL- 9 HTB 1-M20	
根太		[-150x75x6.5x10 @1000	G.PL- 9 HTB 2-M16	
座屈止め	ct1	[-125x65x6x8	G.PL- 9 HTB 2-M20	
	ct2	[-125x65x6x8	G.PL-12 HTB 2-M20	
				SSC400
横胴縁		C-100x50x20x2.3 @600	G.PL-6 2-M12（普通ボルト）	
耐風梁	cHB148	H-148x100x 6x 9（横使い）	G.PL-9 2-M16	

座屈止め要領図



株式会社 佐藤総合計画

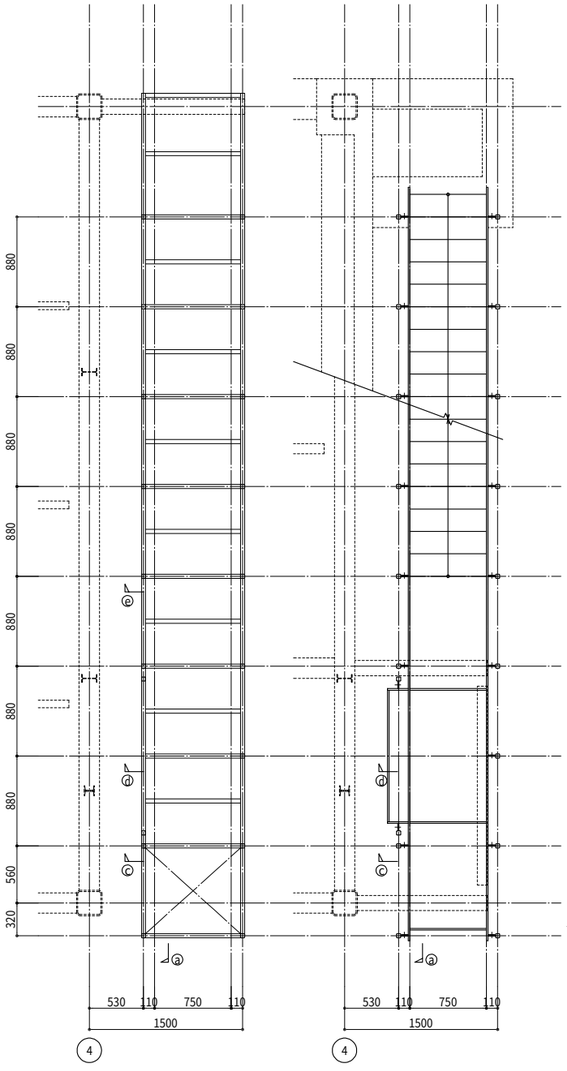
設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事		種別 SC
図面名 車庫棟 鉄骨部材リスト		縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当	番号 004
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3	



4通り架構詳細図	1/30

特記外. 1. 鋼材材質: 無印　　：SN400B
Ⓒ 印表示：SN490C
2. 通しダイアフラムは、集合する梁における最大フランジ厚の2サイズアップ(6mm)以上、
集合する柱における最大板厚の1サイズアップ(3mm)以上、且つ目違いが生じないこと。

株式会社 佐藤総合計画	設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SC
	図面名 車庫棟 4通り鉄骨架構詳細図	縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道眞	担当
	法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3
			番号 005

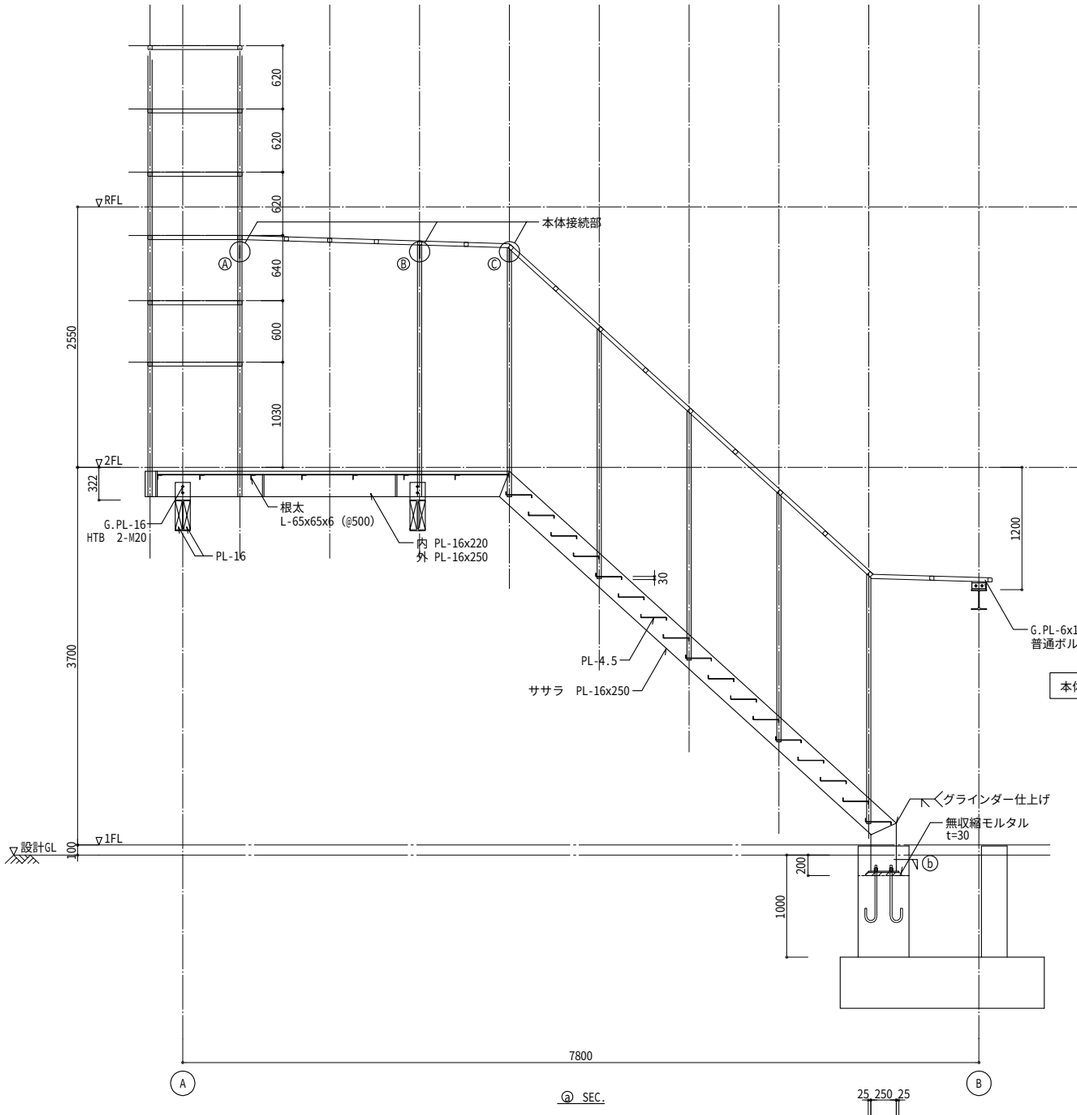


屋根伏図　1/30

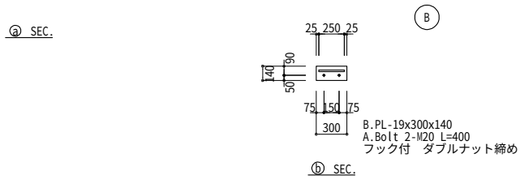
特記なき限り下記による
1. ▭ 印は□-40x40x2.3を示す。

階段伏図　1/30

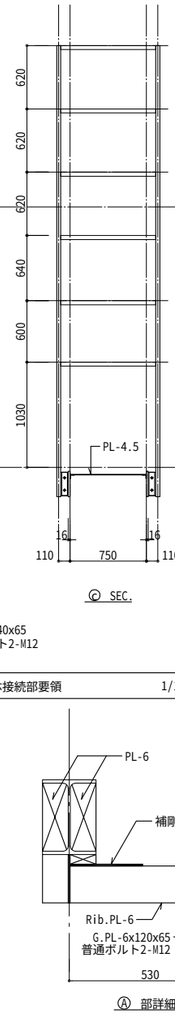
特記なき限り下記による
1. ═ 印はPL-16x250を示す。
2. ▫ 印は□-40x40x2.3を示す。



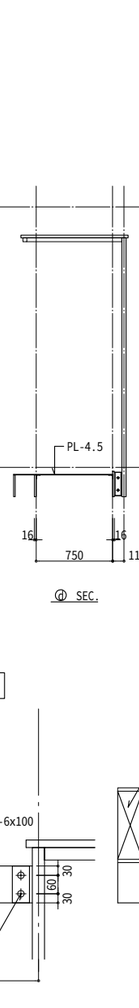
ⓐ SEC.



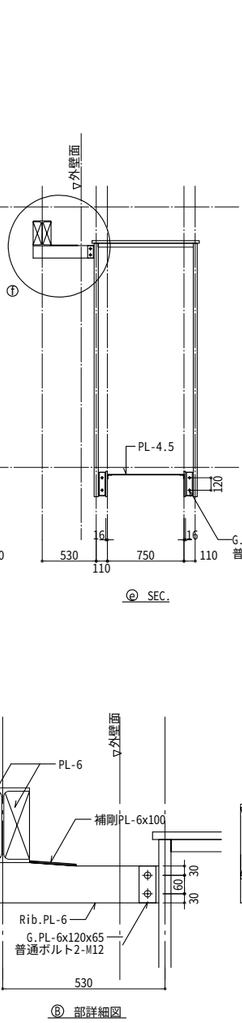
ⓑ SEC.



ⓒ SEC.

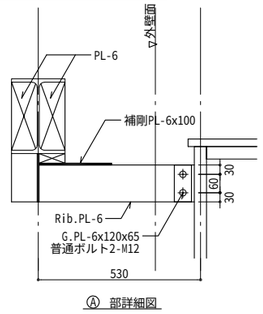


ⓓ SEC.

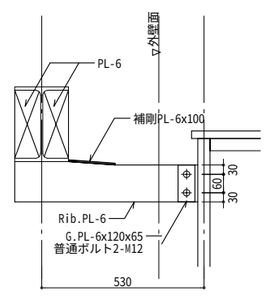


ⓔ SEC.

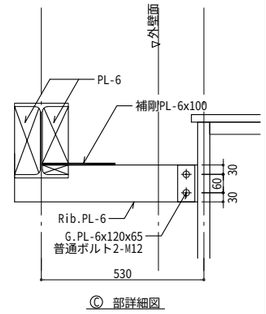
本体接続部要領　1/10



Ⓐ 部詳細図



Ⓑ 部詳細図



Ⓒ 部詳細図

構造仕様

材質	PL、型鋼・・・SS400
	角形鋼管・・・STKR400
	HTB・・・F8T溶融亜鉛めっきボルト
	アンカーボルト・・・SS400
鋼材は溶融亜鉛めっき処理とする	

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 04453-010	工事名称 鞍手町庁舎等建設工事	種別 SC
図面名 車庫棟 鉄骨階段詳細図	縮尺 A1 1:30 A3 1:60	
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11146号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総括 統括 一級建築士 第336340号 篠原 正樹 構造設計者 一級建築士 第339064号 福ケ迫 道典	担当
法適合確認結果等：構造関係規定に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5334号 檜垣 進司	法適合確認結果等：設備関係規定に適合することを確認した 設備設計一級建築士第5468号 脇田 隆雅	作成日 2022.3
		番号 006